the GazettE　シド　ナイトメア　Alice Nine　Plastic Tree　ViViD　AYABIE

SHOXX

1月号 Vol.215
平成9年…日第…物認可 平成23年1月1日発行 第215号 毎月1回…日発行

創刊20周年記念特別号

特別付録 特大ポスター3枚付き
the GazettE / AYABIE
Over The Edge スペシャルセッショ…

3大特典

特別付録:ViViDブック封入

応募者全員サービス
ご希望のフォトカードをサービス

the GazettE

Special Front 18Pages Edition

シド　ナイトメア　Alice Nine　Plastic Tree
ViViD　AYABIE　THE KIDDIE　ムック　葵 from 彩冷え…
Lc5　Kra　Sadie　D　ギルガメッシュ

SHOXX Start 20th Anniversary

Zasshiko
蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com
Zasshiko

0年11月30日(火) 高田馬場AREA	2010年12月24日(金) 名古屋E.L.L
0年12月1日(水) 横浜F.A.D	2010年12月25日(土) 大阪AKASO
0年12月3日(金) 札幌KRAPS HALL	2010年12月27日(月) 博多DRUM Be-1
0年12月5日(日) 仙台darwin	2010年12月29日(水) 高松DIME
0年12月22日(水) 金沢AZ	2010年12月30日(木) 岡山IMAGE

011年1月6日(木) 赤坂BLITZ

AYABIE OFFICIAL WEBSITE http://www.D-N-L.jp/

TOTAL INFORMATION：DNLco.,ltd. 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-3-8-604/E-MAIL：ayabie@D-N-L.jp

Zasshiko

2010.12.1(wed) New Album Release Virgin Snow Color-2nd seas

【通常盤】

【限定盤 Type-A】

【限定盤 Type-B】

蝴蝶网
hudie.com

【通常盤 付属 28P フォトブック】
撮りおろし＋ライブフォト
HMCH-1020/3,150円(税込)

【限定盤 Type-A 付属 DVD】
「パレード」ミュージッククリップ
ミュージッククリップ メイキング
HMCH-1021/3,500円(税込)

【限定盤 Type-B 付属 DVD】
10/22 O-EAST ワンマンライブから3曲
バックステージ映像
HMCH-1022/3,500円(税込)

収録曲
1. Virgin Snow Color -2
2. スモーク・スマイル・
3. Hi-Fi
4. 善悪の彼岸
5. 雪降る夜、君想う
6. temptation
7. 蜃気楼
8. ピエロ
9. 冷たい手
10. パレード
11. STAR PLAYER

全曲視聴開始!! 詳細は、AYABIE オフィシャルホームペー

蝴蝶网
hudie.com
Zasshiko
Sadie
Sadie 5th Anniversary
www.sadie-web.com
ニューシングル3タイトル連続リリース!!
第三弾!!
「Juggernaut」
2010.12.15 in store
初回限定盤:LACM-34769 CD(2曲+Inst.)+DVD(MUSIC CLIP) ¥1,800(tax in) 通常盤:LACM-4769 CD(2曲+Inst.) ¥1, 200(tax in)
発売元:株式会社ランティス 販売元:バンダイビジュアル株式会社
2010年11月27日公開劇場版「マジンカイザーSKL」エンディング主題歌
マジンカイザーSKL公式HP http://www.mazinkaizer.com/
第一弾!!
09.29「クライモア」／
第二弾!!
11.03「棘-toge-」
通常盤:XQGM-1007 ¥1, 575
発売元:株式会社フェイスミュージック
テレビ朝日「セレクションX」エンディング曲
初回限定盤:LACM-34747
発売元:株式会社ランティス 販売元:バンダイビジュアル株式会社
TVアニメ「咎狗の血」第四話エンディング曲 咎狗の血公式HP http://www.togainu.tv/
Lantis Lord Camelot. ARIA FERNANDES FACE MUSIC FACE MUSIC Co.,Ltd 〒550-0015 大阪市西区南堀江1-18-27-506 http://www.facemusic.jp

Zasshiko

30カ所32公演ツアー決定!!

シングル3タイトル発売記念 tour2010

「Deep.impact」

10月01日(金) 京都MUSE Open 18:30 / Start 19:00
10月02日(土) 神戸VARIT. Open 18:00 / Start 18:30
10月08日(金) HEAVEN'S ROCK 熊谷VJ-1 Open 18:30 / Start 19:00
10月09日(土) 横浜BAYSIS Open 18:00 / Start 18:30
10月11日(月) HEAVEN'S ROCK さいたま新都心VJ-3 Open 17:30 / Start 18:00
10月16日(土) 滋賀U★STONE Open 17:30 / Start 18:00
10月23日(土) 札幌KRAPS HALL Open 18:00 / Start 18:30
10月24日(日) 札幌KRAPS HALL Open 17:30 / Start 18:00
10月27日(水) 青森QUARTER Open 18:30 / Start 19:00
10月28日(木) 盛岡club Change WAVE Open 18:30 / Start 19:00
10月29日(金) 山形ミュージック昭和セッション Open 18:30 / Start 19:00
10月31日(日) 仙台CLUB JUNK BOX Open 17:30 / Start 18:00
11月03日(水) 柏PALOOZA Open 17:30 / Start 18:00
11月04日(木) 新横浜サンフォニックスホール Open 18:30 / Start 19:00
11月06日(土) 浜松FORCE Open 18:00 / Start 18:30
11月07日(日) 岐阜club-G Open 17:30 / Start 18:00
11月10日(水) 広島ナミキジャンクション Open 18:30 / Start 19:00
11月12日(金) 岡山IMAGE Open 18:30 / Start 19:00
11月13日(土) 米子AZTiC laughs 旧 米子ベリエ Open 18:00 / Start 18:30
11月20日(土) 長野CLUB JUNK BOX Open 18:00 / Start 18:30
11月21日(日) 金沢AZ Open 17:30 / Start 18:00
11月23日(火) 新潟CLUB JUNK BOX Open 17:30 / Start 18:00
11月27日(土) 沖縄 桜坂セントラル Open 17:30 / Start 18:00
12月03日(金) 高知X-pt. Open 18:30 / Start 19:00
12月04日(土) 松山サロンキティ Open 18:00 / Start 18:30
12月08日(水) 鹿児島SR HALL Open 18:30 / Start 19:00
12月09日(木) 熊本DRUM Be-9 V2 Open 18:30 / Start 19:00
12月11日(土) 福岡DRUM SON Open 18:00 / Start 18:30
12月12日(日) 福岡DRUM SON Open 17:30 / Start 18:00
12月22日(水) 大阪BIG CAT Open 18:00 / Start 19:00
12月25日(土) 名古屋E.L.L Open 17:30 / Start 18:30

前売¥3,800 (D別)
※11月27日(土) 沖縄 桜坂セントラルの詳細はオフィシャルH.Pまで。

Tour Final

12月29日(水) 新木場STUDIO COAST

Open 16:00 / Start 17:00前売¥4,300 (D別)

(赤はワンマン公演となります。それ以外の公演は2マン公演になります。)

蝴蝶网
hudie.com

Zasshiko
http://www.awoi.jp
NEW SINGLE 11.24 ON SALE
abelcain
初回限定盤:BRA-008 CD(3曲+Inst.)+DVD(MUSIC CLIP) ¥2,310(tax in)
通常盤:BRA-009 CD(4曲) ¥1, 680(tax in)
蝴蝶网
hudie.com
アヲイ
the ending of abelcain
11月26日(金) OSAKA MUSE
開場 17:00 / 開演 17:30前売¥3,000- / 当日¥3,500-(共にD別)
ゲスト:BORN / Lycaon
11月27日(土) OSAKA MUSE
開場 17:00 / 開演 17:30前売¥3,000- / 当日¥3,500-(共にD別)
ゲスト:アンド / spiv states
チケット発売:大阪ZEALLINK / ローソンチケット(Lコード:55566) /チケットぴあ(Pコード:122-951) / OSAKA MUSEにて絶賛発売中。
12月2日(木) 博多DRUM SON 2011年1月6日(木) 名古屋ell.FITS ALL
1月14日(金) 広島ナミキジャンクション 1月16日(日) 松山 SALONKITTY 1月17日(月) 徳島 club GRINDHOUSE
1月21日(金) HooK SENDAI 1月22日(土) Live Hall GOLDEN PIGS RED STAGE
TOUR FINAL
2011年1月29日(土)目黒鹿鳴館
詳細近日発表
Information : FACE MUSIC 06-6543-3338
FACE MUSIC PRESENTS「大忘年会SP!!!」12月17日(金)～12月18日(土) OSAKA MUSE
Over The Edge'10 出演決定!!! 12月31日(金) 渋谷C.C.Lemonホール
BRAND'S RECORDS FACE MUSIC FACE MUSIC Co.,Ltd 〒550-0015 大阪市西区南堀江1-18-27-506 http://www.facemusic.jp

HERO
NEW FULL ALBUM
2011.1.12「Life」
NEXT ONEMAN
2011.4.29 TOKYO
Photography:TAKEHIRO SUGANUMA
Art Direction:MICHIRU
Hair&Make-up:A.DO(Tritt für Tritt)
Styling:SAWAKO SATO(ID JAPAN)
Costume:ID JAPAN
◆Information 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目7番9号 株式会社 PCI MUSIC内 HERO係
KnowledgeAlliance
PCI MUSIC INC
http://hero-izm.com/
蝴蝶网
hudie.com
Zasshiko

Zasshiko
蝴蝶网
hudie.com

SPEED DISK PRESENTS

Shinrabanshow

New Year Circuit 2011

1月7日(金) 名古屋E.L.L
Cast:UnsraW/Moran
Guest:ケミカルピクチャーズ
SCREW/DuelJewel/BORN

1月8日(土) 江坂MUSE
Cast:UnsraW/Moran
Guest:ケミカルピクチャーズ
SCREW/DuelJewel/BORN

1月9日(日) 江坂MUSE
Cast:R指定
Guest:愛狂います。/アンド
ZUCK/V【NEU】/HERO

1月10日(月・祝) 名古屋E.L.L
Cast:R指定
Guest:愛狂います。/アンド
ZUCK/V【NEU】/HERO

http://xxxrecords.jp/speeddisk

PIECElang
2010年PIECElangが最後に贈るギラギラの♡MUSIC.
「PIECEmaker.」
2010.12.31ON SALE！！
3songs/BMPL-003/¥1575(tax in)　発売元：PIECElang　販売元：ライカロリーポップ
そして！！
「PIECEmaker.」発売を記念し2010年LASTワンマンパーティ→
『"STAY=GOLD"』
12.28(火)新宿MARZにて開催決定！！
当日、重大発表アリ
チケット：2800円（ドリンク代込み3300円）※一枚のチケットで二名様まで入場可能なペアチケットとなります。
No.51〜70⇒MARZ店頭：No.71〜100⇒ローソンチケット：No.101〜(Lコード 79050)
「PIECEmaker.」先行発売&来場者全員に未発表音源をプレゼント！！さらにペアでご来場頂いたお客様にはメモリアルDVDをプレゼント！！
info@piecelan
http://www.piece
蝴蝶网
hudie.com
Zasshiko

Zasshiko

CONTENTS

080 ヴィドール
082 ギルガメッシュ
084 ゾロ
086 少女-ロリヰタ-23区 ロリータニジュウサンク
088 DaizyStripper ディジーストリッパー
090 TOON-FACTORY トゥーン・ファクトリー
098 spiv states スピッヴ・ステイツ
100 人格ラヂオ ジンカクラヂオ
146 jealkb ジュアルケービー
148 HERO ヒーロー
150 ダウト
152 摩天楼オペラ マテンロウオペラ
104 Dolly ドリィ
106 ケミカルピクチャーズ
108 Moran モラン
110 PERESTROÏKA ペロストロイカ
112 -OZ- オズ
114 SHOCK WAVE アポロ
116 SHOXX MODE
厳選してお届けする最新情報!!
【_Vani;lla】 ヴァニラ
アヲイ
amber gris アンバーグリス
R指定 アールシテイ
Administrator アドミニストレーター
SCAPEGOAT スケープゴート
Annie's Black
RED universe レッド・ユニバース

Book in Book

050
★スペシャル綴じ込み付録
ViViD ヴィヴィット
"The 萌え撮"!?
眼鏡男子はいかがですか?

連載

124 ぽっくんの早耳情報
128 エクスペクトラッシュ BALLY バリー
133 台風の目からこんにちは
134 アーティストBOX
140 プレコンWORLD
142 ぽっくんの主張
143 大島暁美のロックンロール日記
144 ミッション イン ぽっくん
033 応募者全員プレゼント

>> マークの説明 <<

●マークがついているアーティストは
携帯サイト「音楽せんか?」とリンクしています。

■アクセス方法

>>i-mode「メニューリスト」→「音楽/映画/芸能」→「音楽情報」→「音楽せんか?」
>>EZweb「トップメニュー」→「カテゴリーで探す」→「エンターテイメント」→「音楽」→「音楽せんか?」
>>vodafone「メニューリスト」→「芸能・映画・音楽」→「映画・音楽」→「音楽」→「音楽せんか?」

Editorial in chief／Kuniaki"B"Suzuki
Editors／Misako Shida, Junko Arasawa

Art Director／Noriyuki Ishimatsu
Design Stuff／Yoichirou Fujii,
Maki Yoshikawa, Hitomi Ikeuchi(Bakery37.1),
Nakane(amulet label),
Yukako Takayama, Noriaki Ishimatsu,
Youki Maenohama,
T.O.MAMMOTH graphics,
Asaka Yamamoto(glitter glow)

VISUAL & HARD SHOCK MAGAZINE
Vol.216は2011年1月21日(金)発売
http://www.ongakusenkasha.co.jp

発行所／株式会社音楽専科社
104-8228 東京都中央区銀座6-2-3Daiwa銀座アネックス5F
TEL／03-3574-0201(代表)
発行人／荒井敏行
編集人／鈴木邦昭
製版・印刷／株式会社プロスト/凸版印刷株式会社
発行日／2011年1月1日
特別定価／1,200円本体1,142円

蝴蝶网
hudie.com

Zasshiko

SHOXX

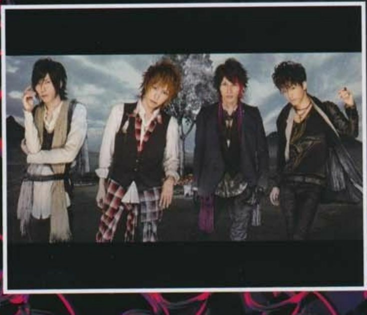
2011
1月号
Jan Vol.215
Cover Model : the GazettE
Photo : Susumu Miyawaki (PROGRESS-M)
Design : Noriaki Ishimatsu

蝴蝶网
hudie.com

012 **the GazettE**
ガゼット
Part 1 : 最新コスチューム・フォトセッション
Part 2 : 極上バラードここに完成！パーソナルインタビュー5連発

035 **シド**
絶好調4人をキャッチ!!ロングインタビュー!!

040 **Over The Edge**
スペシャル・セッション
Aiji (LM.C)、万作 (boogieman)、玲央 (lynch.)、逹瑯 (ムック) の
首脳会談開催！



045 **ナイトメア**
6年前の"あの日"の雪辱を…。
11月5日中野サンプラザホール速報!!

048 **ムック**
ツアー"Chemical Parade"スタート!

052 **Plastic Tree**
プラスティック トゥリー

055 **Alice Nine**
アリスナイン
10月17日 Zepp Sendai レポート

058 **AYABIE**
アヤビエ

062 **THE KIDDIE**
キディー

066 **Lc5**
エル・シー・ファイブ

068 **kanon×kanon**
カノン×カノン

070 **葵 from 彩冷える**
アオイ・フロム・アヤビエ

072 **D**
ディー

074 **Kra**
ケラ

077 いきなり連載スタート！
イガグリ千葉 の
どこでもいってミルク！

078 **Sadie**
サディ

Zasshiko

普遍の心を胸に、
終わる事のない深い夢の中へ…

12月26日の東京ドーム公演を目前にした12月15日。2010年。彼らの今年最後のシングル『PLEDGE』がリリースされる。同チューンは『紅蓮』以来の久々のシングルバラード作品。ルキ曰く「愛以上の“何か”を表現したかった」というように、単なるラヴソングではない、5人がこれまで歩んできた道のりで感じてきた数々の“想いを”踏まえつつ、これからのバンドにとっての決意表明でもあるに受け取れるこのチューン。今じっくり噛みしめたい。

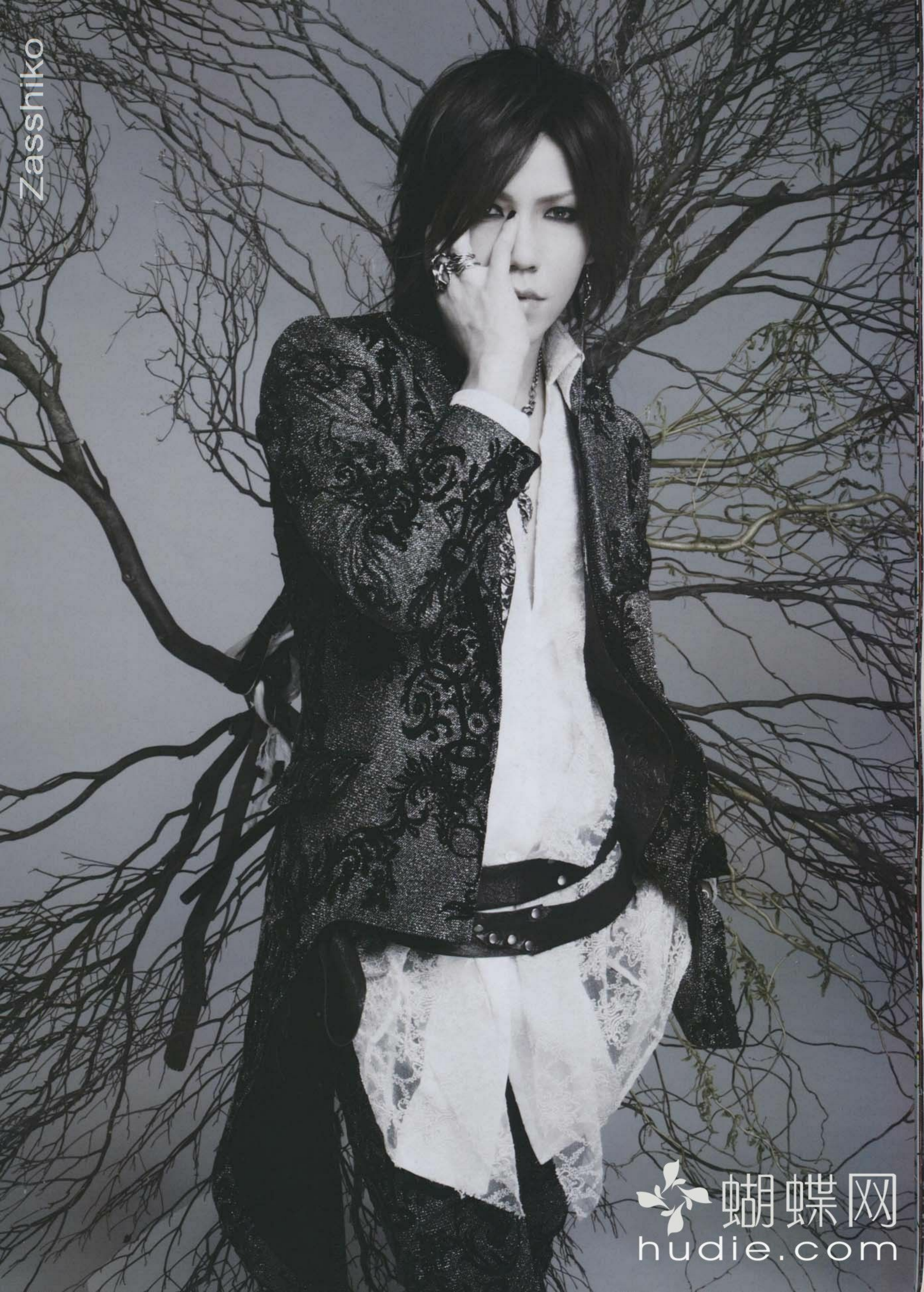
Photography:SUSUMU MIYAWAKI(PROGRESS-M)
Hair & Make-up:ASAMI YAMADA(FG COMPANY),
[illegible] ASANO [illegible](Deep-End Co.,Ltd.),
N[illegible]UKI KOJIMA
Interview:YUKI SUGIE

蝴蝶网
hudie.com

Zasshiko
蝴蝶网
hudie.com

Zasshiko
蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com


Zasshiko
蝴蝶网
hudie.com

Zasshiko
蝴蝶网
hudie.com

Zasshiko
蝴蝶网
hudie.com

Zasshiko

蝴蝶网
hudie.com

Zasshiko
蝴蝶网
hudie.com

胡蝶网 hudie.com

愛以上の何かを表現したかった。そういう意味ではこの曲はラヴソング以上に深い。

愛よりも深い誓いが、今ここに。12月26日に東京ドーム公演[NAMELESS LIBERTY SIX BULLETS FINAL THE NAMELESS LIBERTY]を控えたthe GazettEが、12月15日に発表する『PLEDGE』は美しく劇的な旋律によって描かれる、希代のロックバラード。
自らの人間的成長もそこには反映されたと語るルキの言葉は、なんとも静かで確かな自信に満ちていた。

Latest Interview
ルキ

——『PLEDGE』は、久し振りのバラード・シングルになりますね。なんでも、今年の早い段階から年内最後の音源はバラードにすると決めていたそうですが、その背景にはどんな思いがあったのでしょうか。

「ここまで『SHIVER』、『Red』と出して来て、展開的に今年の最後はバラードにしたいっていうのは前から考えてたんですよ。ただ、この完成形になるまでにはけっこう大変でした」

——そこには何か試行錯誤が？

「自分でも感動出来るような曲にしたいじゃないっすか。実は、この曲の前に作ってた別のバラードっていうのがあったんですけど、それだと何かまだちょっと物足りない感じだったんですよ。そこから、これは違う！と思って別に新しく作り出したのが、『PLEDGE』なんです」

——頑固な陶芸職人のごとく、一度出来たものを壊して新しく作ったと（笑）

「そうそう。具体的な切っ掛けっていうことで言うと、俺の中では再結成後に安全地帯が新しく出した『オレンジ』っていう曲を聴いて感動したっていうのも、意外と大きかったかもしれない。前の曲を作ってた時に、それ聴いたら全然そっちの方が良かったんですよ（苦笑）」

——いやはや。ルキくんから、安全地帯という言葉が出て来るとは！（笑）

「まぁ、リアルに誰かに向かって歌ってんだろうな、っていうのは相当ありましたけどね（笑）。でも、これは負けてらんねーなって思ったのも事実で、俺の中では『Cassis』とはまた別の方向でバラードを極めたい、って思ったんです」

——やはり、今思ってみてもあの『Cassis』はthe GazettEとルキくんにとって、ひとつの大きなターニングポイントだったようですね。

「なんつーか、あんまヴィジュアル系のことを良く知らない人たちでも、あの曲を良いっていう人って多いんっすよね。その後、バラードっていうことで言えば『紅蓮』も出しましたけど、あれも多分いわゆる一般の人たちの耳にはきっと馴染みやすかったんだろうし」

——そう考えると、the GazettEにとってのバラードというのは、実に大きな武器であると言えそうです。

「the GazettE＝濃くてヘヴィな曲しか似合わない、みたいな発想はもともと俺の中には無いんですよ。ハードな音だろうが、バラードだろうが、俺らは常にこれが最高に良いんだって思えるものを世に出してくだけで、その気持ち自体は『Cassis』の時も、今回も変わんないです」

——しかし、その一方でルキくんは『Cassis』が持て囃されるようになって以降、その事実に対してある種の懸念も表明していませんでしたか？

「そこに関しては、もうあれからかなり時間も経ったし、今はそんなどうこうっていうのは無いですけどね。まぁでも、当時はそこばっか求められてもな、っていう気持ちは実際ありました（苦笑）。バラードはバンドの中の一部であって、全てじゃないっていう風に」

——だとすると、そう考えていたはずのルキくん、そしてthe GazettEが、ここに来て『PLEDGE』のような究極のバラードを世に提示することになったというのは、とても意味深く意義深いことではありませんか。

「うん。あれから何年かを経て、バンドとしての大事な部分がちゃんと固まって来た中、こういう曲を出せるっていうのはほんと意味のあることだと思います。『SHIVER』と『Red』で、今迄になかったくらいバンドとしてストレートなとこを出せた後にこれが来る、っていう流れも良かったなと。歌詞の面でも、『DIM』（09年夏発表のアルバム）の時は意図的に恋愛的な要素は避けてたとこがあったけど、おそらくそういう時期を越えた今だからこそ書けた詞がこれだったんじゃないですかね」

——葵くんいわく、「初めての悲劇的ではないラヴバラードなんじゃないか」と、この詞を評していましたよ？

「そうかもしれない。最後の方まで悲しい雰囲気は漂ってるんだけど、最後は希望を持てるようになってるっていうか。何となくハッピーエンド、みたいな」

——そんなこの曲に、『PLEDGE』と冠した経緯はどんなものでしたか。

「約束より堅い言葉って思った時に、出て来たのがこれだったんですよ。愛以上の何か、っていうのを表したくって。そういう意味じゃ、この曲ってラヴソングっていう以上に深いんです」

——なにしろ、〈「愛してる」なんてもういらない〉という一節があるくらいですものね。これはなかなかのインパクトがありました。

「どうなんだろう？ 自分の恋愛観が多少変わったっていうのも、あったのかな」

——おや。それはちょっと気になる発言ですが（笑）

「いや、別にそんな大したことではないですよ。ほらだって、俺も、もうイイ大人だし（笑）。そこは、『Cassis』の頃の書き方とは違って来て当然でしょ」

——確かに、比べると自我のありようそのものが今と昔では違う気がします。当時は、あくまで相手に対して主観的で、言うなれば〝僕が、僕が〟という部分が先に立っていましたよね。

「うん、そうだと思います」

——対して、この『PLEDGE』では視野も広がっていますし、何より相手を深く慮っている包容力を感じます。

「俺もそれだけ人として成長しました、ってことですね（笑）」

——そうした背景にも裏打ちされるかたちで、この曲は実にドラマティックで美しい1曲に仕上がりましたね。

「単なるバラードじゃなく、聴き応えのあるロックバラードとして作り上げることが出来たな、っていう実感は凄いあります。J-Popとは違うっていう意味でギターソロも長くしてあるし」

——あくまで独断と偏見ではありますが、いくら他がカッコ良くても、バラードで聴き手を感動させられないロックバンドは所詮その程度のバンドだと思うのですよね。『PLEDGE』のような曲は、やはりthe GazettEに必要です。

「そこは俺も思います。バラードが良いバンドって、やっぱ良いですもん。いかに良い曲をやってるかっていうバロメーターにもなるし、今回はそこを皆にもじっくり聴いてもらいたいっすね」

——さて。このシングルには、カップリングが2曲入っていますので、これらについてもここで少し解説を頂けますか。

「まず、『THE TRUE MURDEROUS INTENT』に関しては『LEECH』、『VERMIN』に続いての続編っすね。」

——うわ、ロックですねぇ！（苦笑）

「全然、そんな俺が個人的に悪口書いてるとかじゃないですから（笑）。これはウチのメンバー皆の総意ですよ。曲的にもなかなか気に入ってて、今後のライヴでまた良い感じになってくんじゃないかと思ってます」

——それから、『VOICELESS FEAR』の方ですけれども。これはもしや…

「喉やっちゃった時の話です。曲自体は前からあったんだけど、詞はあの最中に書いてたんで」

——故に、なんとも痛々しく感じてしまうところはありますね。

「でも、そこまで悲観的になってる歌でもないですしね。事実は事実として受け止めつつ、それなりに前向きな感じ」

——とはいえ、その立場になって初めて分かることが多々刻まれていますよね。

「まぁ、それはやっぱどうしてもね。結局、点滴とか打ってるとじっとしてるしかないし、つい考え事しちゃうんですよ。また、その点滴がステロイドの強いヤツで、副作用も酷くってねぇ。アタマもグワングワンだし、精神的にも妙に鬱っぽくなって来ちゃって、アレはヤバかったっす。勝手に涙とか出て来て、喉を壊したこと自体より、そっちの方が辛かったですもん」

——その後、お加減は如何ですか。

「今はもう大丈夫です。薬をなるべく使わずに、鍼治療に切り替えたのも良かったみたいだし。今後は、モニター環境の改善なんかも、さらにやって行こうと思ってます」

——ツアー[NAMELESS ～-02-]、そして12月26日のドーム公演が、無事成功することをお祈りしております。

「今は家でもマスクしてますからね、俺（笑）。このまま行けば問題ないと思いますよ。完全体で気持ちよくやる。ドームに関しては、それが何よりの望みです」

249574

蝴蝶网 hudie.com

ギターソロは自分自身が“グッと来る”ものにはしています。

完璧主義揃いのthe GazettEの中にあって、特にその傾向が強いのは麗なのではなかろうか。自らの中で描く理想が明確であるからこそ、彼はそこに向かって丹念にやるべきことを遂行し、途中で困難と遭遇すればたとえ足掻きながらでも、結局は解決策を導き出す。そこには、志を高く持つが故の悩みも伴うかもしれないが、麗はそれでもきっと全力で前進・上昇をし続けるのだ。

Latest Interview

麗

——今回の『PLEDGE』は、the GazettEにとって久々のバラードシングルとなりました。麗くんがギタリストとして最もこだわったのは、どんな部分だったのでしょうか。

「いやぁ、それがですね。他のシングルと比べても、これはかなり時間をかけて作ったんですよ。流れを説明すると、当初は「again」っていう別の曲として作ってたものを、一旦バラして構成もメロディも全て変えて作り直した上で、この表題曲の「PLEDGE」が出来たっていう。結局、2曲分の手間と労力をかけての曲作りとレコーディングだったんですけど、やっぱりこっちの曲の場合はスケール感とか、厚みとか、そういう部分を特に意識してました」

——バンドの音とともに、ピアノやストリングスも入っていますものね。

「そうやって音数が増えて来ると、ギターって全体の中で〝間〟をとる必要が心を高揚させるような音にするっていう意味で、ドラマティックな要素を1曲の中でどう繋げてくかとか、どこに最大のドッカン！ってなるポイントを持ってくるかとか、そのへんもけっこう考えてます」

——聴き手を高揚させるポイントとしては、秀逸で印象的なサビはもちろん、あのギターソロも、かなり〝泣ける〟感じに仕上がっていると感じます。

「あ、だったら良かった。やってる側としては、最低でも自分自身が〝グッと来る〟ものにはしてるつもりなんで（笑）」

——あのギターは尺もわりと長いのですが、何でもそこはルキくんたっての希望だったのだとか。

「最初は、あの1／3くらいしか無かったですからね。まぁ、普通のギターソロみたいな感じで。でも、それだとありがちっちゃありがちだったっていうのもあって、ルキとしてはもっと大胆な要素が欲しいっていうところから、「長くしちゃえば？」って言われたんです」

——彼いわく、この曲をロックバラードとして成立させるには、どうしても長尺のギターソロが不可欠だったそうです。

「ロックバラードねぇ。そう言われちゃうと、確実に良いソロを弾かなきゃいけない！っていうプレッシャーはありましたけど（苦笑）、でもこれに関しては思ってたよりすんなり出て来たんで良かったです。曲作りの時間と比べたら、進行的にソロを練る時間は殆ど無いような状態だったのに。それでもちゃんと、歌メロに負けないような存在感のあるソロになりました」

——と同時に、この曲でのギターパートはバッキング部分も、アンサンブルとして緻密なつくりになっていませんか。

「そこは時間を掛けたっていうことだけじゃなく、今迄の経験とか今持ってるスキルを全部活かせたのが大きかったかもしれないです。the GazettEのバラードはこうだっていう、ひとつの集大成がこの曲で提示出来ましたね」

——ちなみに、麗くんが考えるthe GazettEにとってのバラードとは、どんな定義のもとで作られているものなのですか？

とって必要不可欠なものですよね。でも、だからって数をガンガン出すものではないと思うんですよ。たまに出すことに意味があるし、出すからには完成度の高いキャッチーなメロディを持ってて、とにかく良い歌であるっていうことが絶対条件じゃないですか。今迄作って来た曲も、この曲も、そこについてはほんと凄い自信を持ってます。実は、こう見えてウチのバンドは皆バラード好きな人間ばっかなんですよ（笑）。だから、バラードは凄く大事にしてるんです」

——麗くんは、バラードを聴くのも好きですか？

「好きっすね。しかも、歳を重ねれば重ねるほど好きになって行きます（苦笑）。中2くらいの時だったら、バラードなんて「かったりー、つまんねー。眠くね？こんなの」ってよく思ってたのに、バンド始めて自分たちで作るようになってから、バラードの良さとか面白さがどんどん分かって来てるんですよ」

——そんな一方で、このシングルにはまたそれぞれに違うテイストのカップリング曲たちも収録されています。まず、「THE TRUE MURDEROUS INTENT」については、葵くんが「Filth in the beauty」の延長線上にある楽曲として作ったものだったそうですが、それに対して麗くんはどうアプローチして行ったのでしょう。

「あー。俺からすると、この曲と「Filth～」はまた完全に別物ていう感じでしたけどね。だって、やっぱこの曲には葵のクセとか色が強く出てますもん。まさに、葵ワールドっていうか。俺はそこが良いなと思ったんで、その〝らしさ〟を最大限に活かしてくようにやっていきました」

——ちなみに、その葵くんっぽさは主にどんなところに対して感じていました？

「そうだな。多分、俺だったらこういう曲ってパワーコードをバーン！って鳴らすと思うんです。でも、葵の場合は、そこで単音で攻めてくんですよね。そういう、微妙に〝行きたいとこに行かせてくれない、もどかしい感〟が、独特なニュアンスを生んでるんじゃないですかね。まぁ、その分Aメロは好きにさせてもらってますけど（笑）」

——あはは（笑）。それから、もう1曲の「VOICELESS FEAR」は麗くんの作ったものになるそうですが、こちらはどんなコンセプトのもと作られたのです？

「音には疾走感があって、歌メロも突き刺さって来るようなイメージ。当初考えてたのはそんな感じでした」

——この曲は、構成にギミックがあるところも面白いところですよね。ゆるやかに始まると見せかけて、実は！という展開にはニヤリとさせられました。

「これ、もともとはもっとシンプルでストレートな曲だったんですよ。ただ、時期的に言えば『SHIVER』の選曲会の頃から既にあった曲なんで、作ってくうちに何か途中で飽きて来ちゃったんでしょうね（笑）。もうちょっと深みと、もうひとひねりが欲しくなって来て、それで結果的にこういうかたちになってるんです。おそらく比べると、前のパターンよりこっちの方が洗練されたかたちになりましたよ」

——なお、こちらの詞の内容は非常にシリアスなものだったりもするのですが、作曲者としてはこの詞が返って来た時に、どんなことを感じましたか。

すよ。音そのものは幻想的な感じになってるんで、逆に詞がこれだけ現実的なものになったっていうのは、ちょっとインパクトありました。これって実際の出来事というか、（ルキが）喉をやった時の話じゃないですか。なんかすげーリアルです」

——かくして、これら3曲の詰まったシングル『PLEDGE』が、the GazettEにとっては今年最後の音源となるわけですが、今回もまた密度の濃い作品になりましたね。

「はい。今年は『SHIVER』も、『Red』も、この『PLEDGE』も、出したものは3枚とも全く悔いが残ってないです。これは珍しいことですよ（笑）」

——あとは、年末の東京ドーム公演［NAMELESS LIBERTY SIX BULLETS FINAL THE NAMELESS LIBERTY］の方も、悔いのないかたちで終わらせて頂ければ完璧ですね。

「今年は始まった時点から、皆でthe GazettEにとって今迄で最も大事な年になるだろうし、して行こうっていう話をしてましたしね。ここまで来たら、ドームに関してはもう出来るだけ落ち着いて臨むしかないです。それは、今年またツアーをやって来て、あらためて感じたことなんですよ」

——なるほど。

「もちろん、ライヴなんで演奏どうこう、パフォーマンスどうこうっていうのも大事ですけど、それ以前に気持ちの面で空回りしちゃったり、負けたりしないことが何より大切っていうか。そこ、俺は昔っから弱いんだよなぁ（苦笑）」

——そんなわけはないと思いますよ？ ライヴバンドとして、the GazettEはこれ迄に数々の死線や試練を乗り越えて来ているはずです。

「別にね、ミスが怖いとかそういうんではないんですよ。一番恐れてるのは、何か緊張感の方なんです。リハではちゃんと出来てたはずのことが、何故か出来ないとかねぇ」

——大丈夫、ここは自分を信じましょう。自信が麗くんを助けてくれますよ。

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

大事にしたのは生々しさ。
音の中に息遣いや体温まで込めて行きたい。

燦然とした輝きを放ち続ける、ということ。
それはきっと、我々が思うよりも実は難しく、
外からは目に見えぬ苦労をも伴う、大変なことなのだろう。
時にシニカルな軽口を叩きながらも、
率直で素直な本音も垣間見せる葵は、
今とても冷静なスタンスで次に向かう先を見つめている。
ギタリストとして、アーティストとして、
そしてロックスターとして。彼の輝きは、より増して行くに違いない。

蝴蝶网

Latest Interview

葵

めくくるシングル『PLEDGE』は、ひさしぶりの大バラードかつ、キラーチューンに仕上がったようですね。

「でしょ？この『PLEDGE』って、正直かなり良くないですか⁉」

——確かに。じっくり聴かせながら、じんわり泣かせるような展開が素敵です。

「うちのバンドで、ここまでのラヴバラードって多分初めてになるんだと思うんですよ。悲劇でも不幸でもない、この感じ、俺はこれ好きです。最初ルキからデモを聴かされた時点で、単に曲として良い出来だねっていう次元を越えて、「これぞ日本の夜明けぜよ！」くらいに感じましたもん（笑）」

——そのくらい思い入れを持てた楽曲に対して、葵くんはギタリストとしてどのように向き合って行ったのでしょう。

「大事にしたのは、生々しさですかね。いとか体温みたいなものまで込めて行きたいなって思ってたんです」

——要するに、機微の部分まで深く感じさせる音にしたかったわけですね。

「っていうことになるのかな。もちろん、キッチリ正確に弾く部分っていうのも大事にしてたけど、この曲に関しては ちょっとしたピッキングの加減とか、ふとした音の揺れとか、そういう繊細な要素も凄い重要でした」

——では、その為の特別なアプローチもこの曲ではされたということですか。

「普段だったら、ドンカマ（クリック）を聴きながらズバズバそこに音を入れてくんですよ。でも、この曲の場合はドンカマはあくまでガイドとして捉えながらのレコーディングでしたね。リズムをキッチリ合わせることよりも、感情的な表現の方を優先させてったんです」

——それでいて、アンサンブル自体はかなり緻密なつくりですからね。どおりで、隙のない音に仕上がるはずですよ。

「うん、そこは事前に練りました。って言っても、別に麗と細かく話を詰めるとかじゃなくて、お互い必要最低限の部分だけ確認しあったくらいですけど。あとは、個々の判断でそれぞれ弾いてった感じですよ」

——途中には、アコギが効果的に使われているくだりもあり、あれも実に良いアクセントになっていますよね。

「なんだろう？あの感じ。何とも言えない、優しい雰囲気がしますよね。あれは、この曲の中でまさに欠かせない大事なシーンですよ。強いインパクトがある音っていうわけじゃないんだけど、さりげない音で聴き手のイメージを拡げてるみたいな。柔らかく、温かい音でラフに素直に弾きました」

——先ほど、この曲はラヴバラードであるというお話が出ていましたが…プレイする際に感情移入の度合いが強くなればなるほど、たとえば自分自身の恋愛経験的なものや、人を思う気持ちのようなものが、そこに反映されたりもするのでしょうか？

「それはね、ありますよ。ただ、それはプライベートの恋愛どうこうっていうのとは、違うな。言うなれば、この曲に恋してる気持ちが音に反映されてく、ってことでしょうね」

——曲に恋をする…素晴らしい。名言、頂きました（笑）！

「いやでも、ほんとに曲と向き合ってる時ってそんな感じですよ。俺と曲の間に、誰も入れたくないというか。あ、正確には俺じゃなくて俺たちね（笑）。1曲、1曲、心を込めて作ってくってことは、それぞれの曲たちを愛してやるっていう過程無しには有り得ないです」

——美しくドラマティックであるという以上に、いろいろな意味で愛に溢れる曲となったこの『PLEDGE』ですから、リリース以降は聴き手の皆さんにも愛されて行くと良いですね。

「あのね。俺、一昨年出した『紅蓮』が相当好きだったんですよ」

——なにしろ、あの曲の為だけにWネックギターを作ったくらいでしたものね。

「うん。だから、当初はバラードっていっても、さすがにあの『紅蓮』は越えられないかもなって、俺個人は勝手に思ってたんですよ。でも、『PLEDGE』は完全にブチ抜けちゃいました（笑）。心底そう思えるものに出来たからこそ、この曲は誰からも愛される曲になってってくれると良いなって思います」

——それから、このシングルには葵くん

こからは「THE TRUE MURDEROUS INTENT」についても伺っていきましょう。こちらは、どんなヴィジョンのもとに出来て行った曲だったのですか。

「このタイミングで出す曲っていう意味で、これはライヴで使える曲にしたかったんですよね」

——つまり、それはドーム公演を意識してのことだったたと。

「結局、初めてそこでやることになる曲だから『PLEDGE』とはまた別の意味で取っ付きやすいのが良いなと思ってて。だってこれ、分かりやすくないです？『Filth in the beauty』みたいで」

——R&B系の女性ヴォーカルが取り入れられているせいもあって、近い匂いはありますよね。

「俺としては、『Filth in the beauty』のその先に位置する曲が欲しかったんですよ。当時、あの曲でtheGazettEって確実に新しい側面を開拓出来たわけじゃないですか。その部分を、ただ放っとくのも勿体ないですからね（笑）」

——と同時に、葵くんが「その先」というだけあって、この曲は「Filth～」の単なる焼き直しにはなっていませんね。

「簡単に言うと、『Filth～』がわりとカッコ良い系だってとすると、こっちはもっとライヴで皆と楽しめる感じにしたかった、っていうことかな」

——テイストとしては、女性ヴォーカル・パートがより大胆にフィーチャリングされているせいもあって、よりファンキーな方向にハジけている印象です。

「あぁ、そうっすね。より、音全体にカラんで来てる感じで、その濃さが俺は好きです。ウチの社長も、「これイイわね！」って言ってました」（笑）」

——もう1曲の「VOICELESS FEAR」の方は、麗くんの作曲によるそうですが、こちらについてはギタリストとしてどのように対峙されて行きましたか。

「この曲は、いかにも麗らしいっすよね。凄い変化球な感じがあるから、そこはそのまんま俺も活かすように弾いてってたんですけど、これに関しては今回も教官がうるさくって、もうほんっっと大変でした（苦笑）」

——鬼教官状態だったのですね（笑）

が弾いてるんですよ。でも、それをスタジオで弾いてると、後ろから容赦なく注意されるんですよね。「そこ、リズムはそうじゃない！」って。「なんだよ、こまけーなコイツ…」って思いながらも、一応ちゃんと従う俺、みたいな（笑）」

——いやでも、その甲斐はありましたよ。この曲もまた、クオリティの高い仕上がりになっているではないですか。

「マジっすか。まぁ、曲の展開も一癖あるし、ヘヴィ過ぎず、綺麗な響きもあって、面白い曲になったなっていうのはありますね。っていうか、そもそも今年は『SHIVER』から始まって、『Red』で、『PLEDGE』と来て、この3枚のシングルがどれもなかなかのもんだと思うんですよ。全部が全部、大変美味しゅうございますっていう感じじゃないです？」

——もちろん、同感です。むしろ、若干心配なくらいですよ。後々アルバムを出して行くとなった場合、ネタ切れしないのかな？という面で（笑）

「ですよねー。思ってた以上にシングルがどれも良い出来になりましたから、アルバムは一体どうすんだろ？って、それは俺も思ってます（笑）」

——そこは、この波に乗った勢いを保ったまま、さらに良いものを作って行って頂ければなと。そして、こうなって来るとがぜん東京ドーム公演【NAMELESS LIBERTY SIX BULLETS FINAL THE NAMELESS LIBERTY】の方にも、大きな期待がかかります。

「俺ね、今年は凄い楽しかったんですよ。時間的な部分とか、スケジュール的な部分では辛い部分もあったっすけど、その分密度も濃かったし、ちゃんとモノ作ってんなっていう充実感もあったし、ツアーはツアーでいろいろありつつも、バンドとして一丸となってる感覚があって面白かったし。だからもう、あとはそういう年の最後を締めくくるライヴでどうなるか、っていうとこなんですよねぇ」

——当日、葵くんはどんな姿でその場に立っているのでしょうね。

「そりゃあやっぱり、スーパースターであるべきってことでしょ。しっかりと輝いていたいですよ。いやー、良いこと言うな。俺、今日かなり冴えてる（笑）」

「PLEDGE」をレコーディングしているとつい感情的になってしまった。

責任感とプライド。そして、強い意志。れいたという人が、
どれだけこれらのものを備えているかということは、
きっとこのインタビュー記事を読んでもらえれば、
良く分かって頂けることであろう。
それらのものを備えていればいるほど、
きっとその肩にのしかかってくる重圧も大きくなる。
けれど、彼はそれさえも自分のバネに換えてしまおうというのだ。
その強さには、驚かされるしかない。

Latest Interview
れいた

——今年3枚目のシングル『PLEDGE』は、『紅蓮』以来のバラード作となりました。ドーム公演を前に、これはなかなか心憎い展開になりましたね。

「7月の『SHIVER』、9月の『Red』と、敢えてここ2枚は近い線で攻めてきてたのもあって、さすがに今回は違うアプローチが必要だろう、っていう意識は俺らもありましたからね。選択肢としては、真っ向からのどバラードか、死ぬほど激しい曲か、そのどっちかしか無いと思ってたんですよ」

——結果、そこで前者を選択した理由は何だったのでしょうか。

「そこはねぇ、リリース時期が12月っていうのもひとつには大きかったと思います。イメージ的に、冬はやっぱバラードでしょう！みたいな」

——夏のバラードも決して悪くないと思うのですが、圧倒的に冬の方がバラー

スとかイヴェントなんかもあったりするせいか、なんか感傷的になったり、気分的にロマンティックになったりしやすいのは、冬っていう気がする（笑）」

——いわゆるバラードにあたる楽曲自体は、これまでにも幾つかありました。その中で、この『PLEDGE』を作って行くにあたり、れいたくんが特にこだわった部分、この曲ならではという観点で大切にした部分はどんなところでしたか。

「まず、この曲に限ってはヘヴィさは要らないなって思ってました。だから、これは音作りも聴きやすさっていうのを最も重視してます。アレンジ的には、メロディ的な流れも大切にしてったんで、簡単に言うと歌メロがなくても成立するフレーズっていうんですかね。ベースのラインだけをたどってった時にも、そこにドラマを感じるような音っていうのを目指しました。もちろん、だからって歌メロ自体は邪魔しないように」

——絶妙なラインを狙ったと。

「そうそう。ほんとのこと言えば、一番ラクなのは普通にルート弾きすることなんですよ。アレって、絶対どんな曲にも合うし、他のパートの音を邪魔をすることもなく、非常に便利なんでね（笑）。ただ、だからってまるっきりそれに終始しちゃうと、今度は音としてあまりに無難過ぎるし、つまんなくなっちゃうわけです。だから、今回は音に存在感を持たせるっていう意味でも、ベースにもちょっと〝歌わせて〟みました」

——なるほど。どおりで、深い響きが音に加味されているわけです。

「曲調が曲調なのもあって、これはレコーディングで弾いてく時にも、つい感情的になっちゃいましたしね。というか、感情的に弾きたい曲だったって言った方が正しいかな？あと、ルキから「これはただのバラードじゃなくて、ロックバラードにしたい」っていうことも言われてたんで、そのへんは最初のサビが終わって以降、ストリングスが入ってくるあたりから刻み方を8分から16分に変えて弾いたりすることで、ニュアンスを変えながら表現してあります」

「とにかくね、薄っぺらな安っいバラードにだけは絶対したく無かったんです。時々、存在してるじゃないですか。そういうのって（苦笑）」

——さらっと毒を吐きましたね（笑）

「まぁ、最終的に安いか安くないかを判断するのは聴き手の人たちだとは思うんですけどね。でも、少なくとも自分たち自身で自信のある音を出すのは当然のことだし、これだけのクオリティのバラードであれば、するっと聴き流されるとかではなく、聴いてる側もきっと感情的になったり、じっくり聴き入ったり出来るんじゃないかと思うんですよ。おそらく、この曲だったらライヴでも凄く良い場面を描けるんじゃないかなぁ」

——でしょうね。今度の東京ドーム公演でも、間違いなくあの大空間で映えてくれると思いますよ。

「もしかしたら、この曲をやってどうなるかっていうのは、今度のドームでの大っきいポイントになってくかもしれないですしね。タイミング的にドームで初めて生でやるって言うのもあるし、流れ的にルキの歌だけになるパートがあったり、途中でアコギの入ってくるパートがあったり、この曲は演奏中に緊張しそうなところが、けっこう幾つも出て来るんですよ。そういうところでも硬くならずに、余裕をもってやれるかどうか？っていうのが、ライヴそのものを成功させられるかどうか、っていうところとも繋がってく気がする。この曲をビシッと決められれば、俺らもなかなか成長したな！ってことになるはずですよ」

——なお、今回のシングルには他にもカップリング曲たちが収録されていますので、ここからはそちらについてもお話を伺えればと。2曲目に入っている「THE TRUE MURDEROUS INTENT」については、こちらはどんなヴィジョンのもと作っていったのでしょうか。

「これはもう、凄いシンプルですよ。難しいことはなーんもしてないです。Aメロなんかも、最初はちょっと動こうかな？って考えてたんですけどね。でも、「いや、それってどうもヴィジュアル系の悪いとこな気がする！」って思っちゃったから（苦笑）、一切ヤメました」

——では、もう1曲の「VOICELESS FEAR」については、どんな風に曲と向き合って行かれました？

「こっちは逆に、難しかったなぁ。リズム的に独特なノリというか、クセのある曲なんで、そこを上手く消化しながら弾いてくのがわりと大変でした」

——音そのものも、このベースの音はかなり個性的ではありませんか。

「ローを強調して出しまくって、真ん中をゴッソリ削りつつ、さらに上もガーンと出して、っていう音なんですよ」

——俗にいう、ドンシャリ系の音というやつですね。

「エンジニアさんからは、「もうちょっと、真ん中を出して聴こえやすい音にしてもらった方が助かるんだけどなぁ」っていろいろ言われながらも（苦笑）、そのままやっちゃいました。確かに、ちょっとした挑戦ではありましたけど、俺としては全体的なバランスも別に悪くなんなかったし、インパクトはあるんだけど意外とスッキリした音にもなってるんで、この仕上がりは気に入ってますよ」

——『SHIVER』、『Red』、『PLEDGE』と計3枚のシングルを作りながら、さらにツアーも行って、という今年下半期の

はないですか？

「そうっすね。もとはと言えば、今年は明けたと同時に5人で年末ドームをやるって決めて、そこからは全て自分たちでツアーにしても、リリースのプランにしても決めてやって来たことだし、多少の無理はしながらでも、何とかここまでやって来られて良かったなっていうのはあります。ただ、思ってた以上に実際やってみたら辛いっていうのも事実ですけどね（苦笑）」

——れいたくんは、今のところ体調関係は如何です？

「ツアー中は平気でした。だけど、9月に1回倒れちゃったんっすよね。あれを機に俺、タバコやめたんですよ」

——何とまぁ。れいたくんも、倒れていたのですか??

「倒れるっていうか、突然ほんと意識を失っちゃったんです。家の中で」

——えーっ!?

「多分、気絶してたのはそんな長い間じゃなかったし、俺は寝たら治るかなと思ったんですけど、一応マネージャーに報告したら「病院行きましょう」ってなって、診断を受けたら迷走神経の不調っていう風に診断されました。もともと俺、その迷走神経っていうのが人より弱いらしくて、疲れとかがそういうとこに少し出ちゃったみたいです」

——そういうことでしたか。

「だから、直接的にはタバコとか別に何も関係は無いんですけど、少しでも健康を害する要素は排除して行こうって思って、その時以来タバコはヤメたんです。あれからは、俺マジで1本も吸ってないですよ。吸いたいとも思わないし」

——素晴らしい！それだけの意志の強さがあれば、ドーム公演もきっと成功させられるに違いありません。

「まぁ、それでもプレッシャーは正直ありますよ（笑）。でも、そう感じること自体は悪いことじゃないと思うし、適度かつ周りが不安にならないようなものであれば、それを良い緊張感に変えて、自分の持ってる力をその場でしっかり発揮出来れば良いかな、と思ってるんです。

hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

神経質に音を詰めていくのではなく、もっと自然なやり方で表現して行く必要があった。

彼の視線は、既にその先へと向けられている。
今年、the GazettEは度重なるリリースとツアーによって、
バンドとしての体幹をより頑強なものとして来たわけだが、
その中でもストイックなスタンスで自己改革と自己鍛練を行って
きたのが、ドラマー・戒だ。運命の東京ドーム公演を起点として、
あらたに始まってゆく世界。そこにはきっと、
美しくまばゆい光が溢れているに違いない。

Latest Interview

戒

ラード作となる『PLEDGE』が、いよいよ完成しました。10年の終わりに来て、これはある種のとどめを刺すようなかたちになりましたね。

「そうですね、凄く良い流れを作れたと思います。これはメンバーとも事前に話してたことなんですけど、今年はやっぱり『SHIVER』と『Red』で俺らのことを知ってくれた方たちもいたと思うんで、まずはそこで畳みかけるようにバンドとしてのイメージを定着させつつ、3枚目の『PLEDGE』でバラードっていうのは、またガラッと雰囲気が変わって新鮮なんじゃないかなと。the GazettEは、こういう曲も出来るんだっていうことが、きっとこのシングルでは伝わるんじゃないかなぁ」

——これまでにも、バラードシングルといえる作品自体は幾つかありましたけ

と考えていたのはどんな要素でしたか。

「オトナな感じ？（笑）」

——なるほど（笑）

「とにかく、フレーズを詰め込み過ぎず、音と音の間隔や余韻を楽しむ1曲にして行くように意識してました。今だったら、こういう曲をより気持ちよく叩けるんじゃないかっていう、自信もそこにはありましたね。クリックに対して神経質に音を詰めてくみたいなのとは違う、もっと自然なやり方でこの曲は表現して行く必要があったんです」

——ヴィジョンがそれだけ明確だったわけですね。

「あと、音に関しては今回ちょっとした発見もありましたね。スネアのリリース（音の伸び）の稼ぎ方に関して、今迄だとアンビ（アンビエント＝残響・反射音）だったり、コンプ（コンプレッサー＝音圧感を出すエフェクト）に頼ってた部分があったんですけど、今回はアンビのみ若干入れるだけで、コンプはかけずにやるっていう方法にトライしてみました」

——より、ドラムの素の音を活かすようなアプローチをとったわけですね。

「そこがまた、フレーズを詰め過ぎないで済んだ大きなポイントになったんです。まぁ、ドラマー的には手の内をみせちゃうような話なんで、あんま詳しくは言わないでおきますけど（笑）」

——そのような音の出し方をしたというのは、後々この曲をドームのような大空間で演奏する、ということも考慮した上でのことだったわけですか。

「それはもちろん。そこは俺だけじゃなく、他のメンバーも考えてたはずです。ドームの件に限らず、曲を作った以上はそれが全てライヴっていうものに繋がってくっていうことは当然だし、バンドとしてそれは大前提のことですから」

——では、感情移入という点ではスタンス的にどのような温度感だったのでしょうね。やはり、思い入れはかなり入れてのレコーディングでした？

「ううん、そこは基本無機質にやってます。レコーディングのプレイそのものに限っては、ドラムって感情出しちゃうとダメなんですよ」

——そういうものですか。弦楽器隊、ヴォーカリストとは全く違うのですね。

「そういう感情とか色合いの部分は、ドラムが出しちゃいけない領域だと俺は思ってるんですよ。あぁ、それはベースもかな。アイツの性格を考えても、リズム隊は土台をきっちり支えるっていうとこに行き着く気がする」

——そうかもしれません。

「もちろん、ライヴの場合は感情表現も凄い重要ですけど、ことレコーディングに限ってはね。そこを思い切って排除した方が、むしろ曲をもっと引き立たせることが出来るみたいな。これは、今迄の経験から得たことでもあるんです」

——なんだか、戒くんは昨今ドラム職人的な度合いが増しているようですね。

「まぁ、昔から〝俺が、俺が〟っていうタイプじゃないですしね（笑）。最近は特に、陰で頑丈な骨組みを作るのに徹するっていう方が、俺は精神的にもやりやすいんだよなぁ」

——冒頭で戒くんの言っていた〝オトナ〟なニュアンスは、きっとそうした姿勢からも生まれているものなのでしょう。

「だとしたら、良かったです。季節感からいっても、これからの時期聴くのに良いバラードに仕上がったと思うんですよ。なんか、ウチはこれまでにも冬にバラー

て来ちゃうんですよね。なんでだろ？秋とか冬って、無性に人恋しくなるからなぁ!?」

——ふと切ない気分になったり、という経験は誰しもあると思いますよ。

「ルキは、間違いなくそういう季節が凄い好きなんでしょうね（笑）。そして、それをこれだけの作品に出して来るっていうのが、アイツの凄いとこです」

——確かに（笑）。それから、ここで話題は変わりますが、このシングルには他にもカップリング曲が収録されています。まず、「THE TRUE MURDEROUS INTENT」については、どんなプレイを心掛けられましたか。

「これは、やってて楽しい曲でした。実を言うと、音的には「PLEDGE」のスネアの音とかかなり近くて、若干こっちの方が太くなってる感じなのかな？」

——曲調が全く違うのに、近い音を使っているというのは面白いですね。

「うん、そうなんですよ。でも、それがこの曲に合ってたんです。あと、アクセントっていう意味ではシンバルの響きも大事な曲でしたね。ハイハットよりも大分ふんだんに使ってます」

——この曲は、ライヴでも勢い良く行けそうですよね。

「今回の3曲の中でいったら、俺的に一番ライヴの光景が見えてるのはこの曲ですもん。ドームでやるかどうかは、まだちょっとハッキリしたことは言えないですけど（笑）、これは早くライヴでやりたいっすね。皆にも、きっと楽しんでもらえるだろうし」

——では、3曲目の「VOICELESS FEAR」についてはいかがだったでしょうか。こちらはまた、独特の空気感を持った楽曲ですよね。

「作曲者である麗からの注文もあって、こっちのスネアはタイトに作りました。これはさっきの話と繋がるんですけど、何時も大体シングルを出す時には、1枚を通してわりと近い音の出し方をすることが多いんですね。でも、今回この3曲目に関しては、また別の考え方をして行ったんです」

——聴いた印象としては、全編から心

醸し出してる部分でしょうね。でも、こっちの曲はレコーディング難しかったです。仕上がりが心地良くなったのは[illegible]でしたけど、やっててけっこうキツかったなぁ。ぶっちゃけ、進行的に[illegible]時間がメチャメチャ少なかったんですよ（苦笑）」

——お察し致しますよ。そもそも、今年のthe GazettEは何時にも増して、働き通しでしたものね。3曲入りのシングルを3枚立て続けに出して、合間にはツアーもびっちり[illegible]て、[illegible]なんてそうそう出来ることではないです。

「大体こうなってくだろうっていうことは、あらかじめ皆も分かってはいましたけどねぇ。全ては、ドームに向けて何をすべきかっていうのを前提に、メンバー5人の意志で決めたことだったし。まぁでも、何やるにしても時間が足りないのは事実ですよ」

——でも、そこは心配していませんよ。the GazettEは、不可能を可能にするバンドだと思っていますので。

「いやでも、これからのこと考えたら俺もっと怖いですけどね。ドームまでだって大変なんだけど、さらに年明けて来年の方が実はスケジュール的にとんでもないことになってるんじゃないか、っていう予感があって。マジでこれは、けっこう痺れます（苦笑）」

——東京ドーム公演［NAMELESS LIBERTY SIX BULLETS FINAL THE NAMELESS LIBERTY］に向けては、今どんな気持ちでいらっしゃいますか？

「ライヴ全体としてどうなるかっていう部分は、まだ模索中なところもあるんですよ。だけど、自分がその日どうしたいかっていうことは、かなり見えて来ました。日本人なら誰もが知ってるであろう、東京ドームっていう場所でやるってことは、今後ことあるごとに「ドームでやったことあるバンドのドラマーなんでしょ」っていう目で見られることになるわけじゃないですか。しかも、一番最初っていうのは肝心ですからね。後々、「あのライヴがあったからこそ、今があるよね」っていう風になれるように、全力でやりたいと思います」

hudie.com

the GazettEデザインのジュエリーが発売決定!!

「the GazettE」×「Gemcerey」

『2010.12.26 THE NAMELESS LIBERTY』東京ドーム公演記念モデル発売!

the GazettEと人気ジュエリーブランド「Gemcerey(ジェムケリー)」とのコラボ企画が再び実現した!
2008年のコラボ企画に引き続き、今回もthe GazettEデザインのジュエリーが発売される。
本誌では早速、今回のコラボ企画についてルキ本人に語ってもらった。

Interview:YUKI SUGIE

今回のデザインコンセプトは、簡単に言うと"俺が欲しいヤツ"ですね。作ったのはピアスとブレスとネックレスの3点で、全部22のイエローゴールドっていう素材と、石はダイヤと一部ブラックダイヤも使ってます。

それぞれ、ピアスは靴、ブレスはハート、ネックレスはトルソーをモチーフにして、こういう一見女性っぽい雰囲[illegible]造形[illegible]ちをテーマにしたのにも、ちゃん[illegible]味があるんですよ。普通に女性に似合うのはもちろんだけど、敢えてこういうデザインのものを男がする、っていうのもひとつの大きなポイントっていうかね。何故なら、そういのってちょっとヤらしくて良いでしょ(笑)

多分、皆の持ってるイメージとしては、俺がアクセサリーやジュエリーを作るってなると、多分シルバーで髑髏とかでゴッツイのやりそうって予想すると思うんですよ。でも、違うんです。逆に、この華奢でエレガントな感じを大事にしたかったんで、そこにはこだわりました。実際、俺が普段プライベートでつけてるアクセサリーも、殆ど華奢な感じのものばっかですからね。ほんと、髑髏とかイカツイ系のってまずしない(苦笑)

GeMCEREYとのコラボはこれで2回目なんですけど、今回も他にはちょっと無いものが作れたんじゃないかと思います。我ながら、すげー可愛いの出来たなと(笑)。もともとが、"俺がしたいヤツ"っていうとこから始まってるし、かなりワガマというか、「こうしてくれ、ああしてくれ」っていう希望も通させてもらっちゃいました。

当然、ただの見た目的なデザインだけじゃなくって、着け心地にも気は配ってるんで、ネックレスの後ろにあるチェーン通すとこの形状なんかも、動いた時にクルってトップが裏返らないようにしてありますしね。ゴールドっていう素材は、ヘタに使うと下品な感じになりかねないとこもあるんで、意外と使い方が難しいんだけど、こういう繊細なデザインの場合は上手く取り入れると、コーディネイト全体の高級感とか、質感が凄い増すと思うんですよ。今回は、そのへんを

蝴蝶网
hudie.com

GEMCEREY COLLABORATION JEWELRY × the GazettE
罪深き閃光は3年の時を経て再びthe GazettEを纏(まと)わせる。
GEMCEREY NEW COLLABORATION JEWELRY DEBUT
Necklace
Pierce
Bracelet
ruki produce
TOKYO DOME Commemorative Model
東京ドーム公演記念モデル
近日登場
TOUR FINAL
THE NAMELESS LIBERTY
12.26 TOKYO DOME
Jewelry Select Present
ジュエリーセレクトプレゼント
the GazettE 東京ドーム公演記念モデルジュエリーを各10名様にプレゼン
応募手順
応募締切：2011年5月末日
1. ケータイまたはパソコンからc263@camg.jpに空メールを送信!
2. 応募URLの記載された返信メールが届いたらそのURLへアクセス!
3. 必要事項を記入したら応募完了
※ご応募はお一人様1回限りとさせていただきます。※こちらのURLからでもご応募できます。http://camg.jp/c111/263 にご応募される際、携帯メールのドメイン指定受信設定をされているお客様はcamg.jpを指定していただき、メールを受信できるように設定してください。
ご応募は今スグこちらから!
下記のアドレスに空メールを送信!
c263@camg.jp
LADIES
応募者全員プレゼント!!
ご応募された方にもれなくオリジナルアクセサリーをプ
SHOPPING Gemart http://gemart.jp
the GazettE JEWELRYはジェムケリー公式通販サイトジェマートで近日発売予定
GemCEREY 公式通販サイトジェマート▶http://www.gemart.jp
【個人情報の取り扱いについて】●お客様よりお預かりした個人情報については、株式会社ジェムケリーより賞品の発送・電話・メール配信・ダイレクトメールにより、商品・展示会・サービス提供のご案内のため利用いたします。お客様の個人情報は、厳正なるシステム下で
いただきますので、外部へ流出することはございません。【応募規約】●応募が完了された方へは、全員プレゼントの引き換えメールをご登録アドレスへお送りいたします。●ご登録後、メールアドレスの変更、ドメイン指定受信設定をされると、メールをお送りするこ
のでご注意下さい。●全員プレゼントの賞品につきましては、在庫の都合上デザインや色が予告無く変更される場合がございますので予めご了承下さい。●全員プレゼントの賞品はお1人様1点限りとさせていただきます。●全員プレゼントの賞品はジェムケリー
の上ご応募下さい。●必要事項(お名前、ご住所など)に不備がある場合は、応募が無効になる場合があるほか、プレゼント賞品の発送ができない場合がございますのでご注意下さい。●プレゼントの
下さい。
〒600-8170 京都市下京区諏訪町通五条下る上諏訪町294-5
http://gc55.jp/
キャンペーンサポートセンター ご質問・ご意見はこちら 0120-554-323 (平日10：00〜18：30) support@as
蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

オールカラー
400ページ
A4ワイド版
(228×297mm)
定価:7,000円
(税込/送料1冊につき600円)

賛一般受付中!!

10年、結成10周年を迎えたKagrra,10周年YEARを彩る
agrra,FiLE』ここに堂々完成!!

00年9月号(Vol.91)での初登場より現在までに
OXXに掲載された全記事をファイル。
別企画として、SHOXX掲載のメンバーコラム
志『徒然日記』、女雅『女雅ッス!』)を一挙掲載。さらに、
刊『SHOXX bis』『SHOCK WAVE』に掲載された記事も同時掲載。
ちろん、新規撮り下ろし美麗フォトも掲載!!

込み方法】
振替でのお申し込み:お近くの郵便局に備え付けの郵便振替用紙に
項を記入の上、定価に送料を加えた代金
定価7,000円+送料600円=7,600円)をお振込み下さい。

座番号:00180-6-549493
㈱音楽専科社
agrra,FiLE」
氏名:あなたの住所(マンション/アパート名、部屋番号を正確に。
る方は現住所の他に移転先の住所も記入して下さい)、氏名、電話番号を忘れずにご記入下さい。

制作/発行:㈱音楽専科社
〒104-8228 東京都中央区銀座6-2-3
Daiwa銀座アネックス5F
TEL:03-3574-0201 FAX:03-3574-8548
http://www.ongakusenkasha.co.jp

ト、携帯電話でのお申し込み:PC(パソコン)、携帯電話(一部対応できない機種もあります)からもお申し込みできます。
は、お近くのセブンイレブン・ローソン・ファミリーマート各店でできます。商品は宅配便にてご自宅に届きます。
のお申し込み>音楽専科社オフィシャルHP→http://www.ongakusenkasha.co.jp/
アドレス→http://www.ongakusenkasha.co.jp/shoxx/kagrra/index.html
からのお申し込み>専用アドレス→http://www.ongakusenkasha.co.jp/shoxx/kagrra/index_mob.html
QRコードにアクセスの上、お申し込み下さい。

振込取扱票
口座番号 00180-6-549493
金額 7600
加入者名 ㈱音楽専科社
通信欄 「Kagrra, FiLE」 1部
支払人住所氏名 (郵便番号) あなたの住所、氏名、電話番号 (電話番号 - -)

SHOXX創刊20周年記念

オリジナル・フォトカード 応募者全員サービス!!

ご希望のフォトカードを1枚、
応募者全員にサービスしちゃいます。
全部で20パターン。
応募券1枚でご希望のフォトカードを
1枚あなたのお手元に!!

the GazettE

A-1:ルキ

A-2:麗

A-3:葵

A-4:れいた

A-5:戒

AYABIE

B-1:夢人

B-2:タケヒト

B-3:インテツ

B-4:KENZO

シュン×テロ（ヴィドール）

C

ViViD

E-1:シン

E-2:零乃

E-3:怜我

E-4:イヴ

E-5:Ko-ki

THE KIDDIE

D-1:揺紗

D-2:佑聖

D-3:淳

D-4:そらお

D-5:ユウダイ

●応募に必要なもの

- 80円切手2枚（申し込み用の封筒に貼るものと返信用の封筒に貼るもの）
- 20円分の切手（手数料用）
- 定型封筒2枚
- 応募券（このページの左下にあり）

【応募方法】

①フォトカード（9cm×13cm）が入る大きさの定型封筒（定形外の大きな封筒での応募は無効になります。ご注意下さい）2通と、80円切手を2枚、手数料の20円分の切手を用意します。
②1通の封筒に80円切手を貼り、表にあなたの住所、氏名を記入。封筒の裏には希望のフォトカードのナンバー（例えばthe GazettEのルキであればA-1）のいずれか1つを大きく書いてください。この封筒は、編集部から応募者に写真をお送りする返信用封筒になります。
③②の返信用封筒と手数料の20円分の切手をもう一通の封筒に入れ、あて先のヨコに応募券がはがれないようにしっかり貼って、右記の住所まで送ってください。

【あて先】

〒104-8228 東京都中央区銀座6-2-3 Daiwa銀座アネックス5F 株式会社 音楽専科社 SHOXX編集部 冬のフォトコーナー●係（●の中には返信用封筒に書いた希望写真フォトカードナンバーを必ず書いてください。例えばthe GazettEのルキであればA-1）

【締め切り】

2010年12月21日（当日消印有効）

【発送】

2011年2月下旬からになります。3月10日になっても届かない場合はご連絡ください。（03-3574-0205／月～金 11:00～18:00）。

【お願い】

- 希望のフォトカードナンバーが未記入の場合はこちらで選んだパターンを送らせていただきます。
- 応募券のコピーは不可です。コピーの場合は無効になります。
- 応募券1枚につき一通のご応募でお願いします。複数お申し込みのお客様はその数分の応募でお願いします。
- 発送は日本国内のみになります。海外への発送は出来ません。

SHOXX VOL.215 冬のフォト 応募券

hudie.com

L.M.C

OXX撮影メイキング『撮影秘話』
ング・ムービー／アザーカット待受画像
期間限定無料配信
月30日まで無料配信中!!

新江ノ島水族館で撮影したLM.Cの SHOXX Vol.214ブックinブック、フォトセッション。クラゲにエイと、目の前を泳ぐ生物たちに目を奪われつつ撮影してまいりました！
そんな撮影の模様をお届けいたします。そして、本誌未掲載のアザーカット待ち受け画像も期間限定で無料配信中ですので、チェックお願いいたします！

蝴蝶网
hudie.com

HE KIDDIE
YABIE

最新フォトセッションの模様をムービーにて配信。本誌掲載の撮り下ろし現場の模様をお届けします！

音楽せんか?

A37℃ SHOXX

ARENA37℃とSHOXXに掲載された記事と連動した企画が盛りだくさん！ ここでしか観ることが出来ない撮影メイキング・ムービーや、ここでしか手に入らない待ち受け画像、着ボイスなど、絶賛配信中!! 今すぐアクセス!!
音楽専科社公認公式携帯サイト http://mobile.ongakusenka.com/

企画、制作：(株) エンドレスコミュニケーションズ

Vの流儀

ヴィジュアル専門音楽番組！テレビ東京にて絶賛オンエア中♪
毎週火曜日深夜 2：30～3：00

twitter http://twitter.com/v_ryugi
おふぃしゃるつぶやき始めました (^^)v フォローしてね♪

月、12月のプログラムは ....
貨物の新コーナースタート！！年末の大イベント『Over The Edge』出演バンドによる企画スタート！！
ttE、Plastic Tree、ピコ、少女-ロリヰタ-23区などなど、シーンの話題のバンドを大特集♪

くは、オフィシャル WEB SITE でチェック♪：http://www.tv-tokyo.co.jp/v-ryugi/

ettE、Lc5、Angelo、LM.C、Versailles、Alice Nine、ViViD、MUCC、Plastic Tree、Mix Speaker' s,Inc. 、少女 - ロリヰタ -23 区
die、アンド、ドレミ團、花少年バディーズ、愛狂います。アヲイ、HERO、heidi. 、lynch.、ADAPTER。、摩天楼オペラ、仙台貨物
ルデンボンバー、ピコ 、人格ラヂオ、カッコー、AYABIE、メガマソ、葵、rice、イロクイ、NoGoD、ケミカルピクチャーズ and..more

蝴蝶网
hudie.com

SID

未知なる世界へと邁進する
4人の新たなスタンダード完成!!
ニューシングル『乱舞のメロディ』リリース!!

高田馬場エリア、目黒鹿鳴館から
始まって次は東京ドームだ。

対峙すべきは、目の前の敵。あらたな時代を刻んでゆく為に、彼らは今その敵を討とうとしている。
12月1日に発表されるシドの『乱舞のメロディ』は、彼らの確固たる意志を力強いバンドサウンドに託した秀逸なシングルに仕上がった。
12月11日の東京ドーム公演［YEAR END CLIMAX 2010 〜全てのシドへ〜］と、
今作品で彼らは遂に大舞台へと躍り出す。その日はすぐそこだ。

Interview:YUKI SUGIE

蝴蝶网
hudie.com

——前回のシングル『cosmetic』は、ファンク要素をはらんだ大胆かつ斬新なアプローチによる楽曲でしたが、今回の『乱舞のメロディ』は、シドが本来的に持つ力強いバンドサウンドが、率直に打ち出された作品となったようですね。

明希：確かに、前の『cosmetic』の時は皆で「ちょっとアバンギャルドな方向っていうのも良いよね」っていうことを意識しながら作ってった曲だったんですけど、この『乱舞のメロディ』に関しては特にテーマとかコンセプトは設けてなくて、純粋に自分がもともと好きなテイストを曲に入れて行ったら自然と出来た曲、っていう感じに近かったです。

——原曲作曲者として明希さんが大事にした、その〝好きなテイスト〟とは具体的に言うとどのようなものでしたか。

明希：まずはサビの展開、あとはその部分のテンション感とかですかね。そういうところを中心に、全体的に自分の好みの雰囲気になっていると思います。

——では、その後アレンジについてはどのような方向性で？

明希：やっぱり、こういう曲なんでギターを前面にっていうのは大前提としてありましたね。そこに、ドラムとベースも荒々しく絡んで行くっていうイメージで。ざっくりした言い方すると、そういう方向でした。

——となると、Ｓｈｉｎｊｉさんの音が今回は軸になっていったのですね。

Ｓｈｉｎｊｉ：明希が言ったとおり、ギターの音もこの曲の場合は荒々しくしたいと思ってたんで、これはまず弾き方からして違いましたよ。普段より手元の動きも断然大きくなってたし、ピッキング自体もかなり強めにしてったんで、何なら他の弦まで巻き込んじゃうくらいの荒い弾き方をしてます。でも、それがまたカッコ良いよね！みたいな。ほんとザクザクな感じ。どっか、少年の頃に戻ったような気持ちで弾いてます（笑）

——ある種、思い切り本領を発揮されたかたちなのでしょうね。

Ｓｈｉｎｊｉ：ギターソロにしても、全く同じテイクは二度と弾けないんじゃないか!?っていうくらいの勢いで行ってますからねぇ。

——つまり、この曲についてはあまり事前には練り込まず、ファーストインプレッションを大事にされたと。

Ｓｈｉｎｊｉ：とは言っても、録る前の音づくりには時間をかけてますよ。結局、ギターのサウンドっていうのがけっこう重要な曲なんで、そういう意味で、そこはこだわりたかったんです。本来だと俺はおんなじギター1本で1曲全部通したい方なんですけど、今回は1曲の中で何本か使い分けてたりとか。全部で3本使ったのかな？

——ちなみに、今回はどんなタイプのギターたちをお使いに？

Ｓｈｉｎｊｉ：たとえば、Ａメロのミュートした刻みはフライングV使ってたりとか。その分、サビはひたすらジャカジャカやってるんで、そっちにはそれに合うギターを使ってるんです。

——ただ、そうなって来ると後々のライヴ展開が大変そうですよね。曲中にギターを持ち替えるというのは、なかなか難しいわけですから。

Ｓｈｉｎｊｉ：でも、そこについては完全に別物だと思ってるんで。もちろん、ライヴでも音源の雰囲気を再現する必要性はありますけど、ライヴにはライヴのアレンジなり、音の使い方っていうのがちゃんとありますからね。そこは割り切って考えてるんで問題ないです。

——次に、ドラムパートについても伺って行きましょう。荒々しい質感を醸し出すべく、今回ゆうやさんはどんなプレイを心掛けられましたか。

ゆうや：一番考えてたのは、サウンド面での広さをいかに出すか？っていうところかな。音を聴いた時に、ちっちゃいスタジオで叩いているっていう感じじゃなく、デカいスタジオでドラムを鳴らしてるような、そういうワイドな感覚っていうのが欲しかったんですよ。

——ということは、ドラム自体の調整はもちろん、スタジオでのマイキングなども重要なポイントだったり？

ゆうや：そうですね。そこまで色濃くは出してないですけど、ちょっとしたライヴ感みたいなものは音に含ませたかったんで、生っぽい質感っていうのは音を作ってく上で大切にしてます。

——と同時に、プレイ自体については、ドライヴ感を感じさせる流れになってい

るあたりも非常に印象的です。

ゆうや：でもですね、実は凄く得意ではないんです（苦笑）。こういうスピード感のあるロックテイストな曲って。

――えっ。そうなんですか!?これ以前にも、ロックテイストな楽曲自体はあれこれ沢山ありましたよね??

ゆうや：あります、あります（笑）。なんでしょう?これだけやって来てるからこそ、っていう部分もあるのかなぁ。なんか、ドライヴ感を出す為にどうこうっていう以前に、今回の場合はアレンジの段階で気の利いたフレーズがなかなか浮かんで来なかったっていう。

――そういうことでしたか。

ゆうや：要は、なんも考えずに普通にやれって言われれば、そのまま普通にやれちゃうタイプの曲ではあるんですよ。そこでじゃあ、どういう手で行けば一線を画すものに出来るのかな?と考えた時、良いアイディアを固めるまでがねぇ…。こういうテンポ感の曲は、まさにやればやるほど奥が深いです。

――そうした中、良きアイディアは何時どのように湧いて来たわけですか。

ゆうや：この曲に限らずではあるんですが、最近はドラムパートを練って行く時に〝ツカミ〟を大事にしようと心掛けてるんですよ。多分、マオくんが曲タイトルを考える時なんかもそういう感覚はあるんだろうし、第一印象で「おっ！」って思わせるインパクトって、有ると分かりやすいじゃないですか。ってことで、この曲ではドラムの〝入り〟の部分をまず完璧に構築してくことで、そこからどんどん拡げていったかたちでしたね。

――対して、この曲のコンポーザーであると共に、いちベーシストでもある明希さんとしては、サウンドの中でどんな役割を果たしたいとお考えでしたか。

明希：さっきも話に出てたドライヴ感っていうのは、僕も凄く重視はしてましたね。音的に、下の方でうねってる質感を出したかったので、その為にこの曲では5弦ベースを使ってます。まぁ、そこまで低い音ばっかりっていうわけではないし、5弦の特性を強く前面に押し出してるっていうわけでもないんですけど、8ビートの中で経過音までちゃんと聴かせたいと思ったら、やっぱり5弦ならではの重厚感が必要だったんです。

――この曲の音のレンジが広いのは、その効果によるものでもあったのですね。

明希：だからって、これがギターまで7弦とかになっちゃうと、どうしてもハードコアとかそっちの方向みたいな感じになっちゃいそうで、それはちょっと違うと思ってたんですよ（笑）。むしろ、ギターはノーマルでベースだけ下の方に行くことで、音的な〝かぶり〟も少なくなった分、サウンドの輪郭もはっきりしたんじゃないかと思います。

――とあるベーシストの方がおっしゃるには、4弦と5弦では同じベースというカテゴライズではあっても、ほぼ別楽器に近いのだそうですね。明希さんの場合、この曲で5弦をプレイするにあたり、留意されたのはどんなことでした?

明希：僕が使おうと思う時って、大抵が音に重圧感を与えたいケースなんですけど、音って重くなればなるほどスピード感が削がれていってしまうことが多いんですよ。その点、この曲の場合は重さも欲しいけど、それ以上にスピード感とドライヴ感はしっかり感じさせる音にしたかったんで、なるべく起ち上がりの速い音、聴き取りやすい音になるように作ってます。

――弦楽器隊同士という部分で、明希さんが5弦を使ったことにより、Shinjiさんがアンサンブル面で何か考慮をした点というのもあったのでしょうか?

Shinji：無かったです、それは。というか、5弦使ってたことそのものを今ここで初めて知りました（笑）

――あら。そんなこともあるのですね。

Shinji：明希も言ってたみたいに、いかにも5弦押し！な音じゃないせいだとは思いますけどね。言われるまで気付かなかったです。すいません、マイペースで（笑）

――あはは（笑）

明希：でも、そのくらいの感覚でほんと良いんですよ。部分的に、ちょっとだけ1オクターブ下の音が使いたいなっていうことだったんで、全体的には自然な感じで聴いてもらえるのが一番です。

――ここに来て、ドーム公演を前にこれだけバンド然とした力強い音がシングルとして堪能出来る、というのは実に意味

蝴蝶网
hudie.com

深いことなのではないでしょうか。
Shinji：うちのバンドは、スタイリッシュな曲もわりと多いですからね。そういう中で、こういう男らしいんだぞ！みたいなところも出せた曲をシングルとして皆に聴いてもらえるっていうのは、俺たちもすげー嬉しいです。バンドとか楽器やってるコたちにも、是非聴いて欲しいっすね。
――かくして、これだけ躍動感のある音に仕上がって行ったこの曲なのですが、ここに付いているタイトルがまたとても刺激的ですよね。『乱舞のメロディ』とは、一体どんなところから浮かんだものだったのです??
マオ：これは詞を書き終わって、一番最後に決めました。まずは詞から書いてったんですけど、今回はアニメのタイアップがついてるんですよ。
――TV東京系アニメ『BLEACH』のことですね。
マオ：その原作を読んだり、アニメを観たりしつつ、その世界観も意識しながらっていうのと、それとは別に今回は東京ドームの前っていうのもあって、そこへ向かう自分たちの気持ちっていうのも、この詞には込めて行ったんです。その上で出て来たのが、このタイトルだったっていうことです。
――『BLEACH』という作品については、不勉強な為あまり良く知らないせいもあるのか、そのドームに向かう気持ちというものを何よりも強くこの詞からは感じました。一方で、アニメの世界観を意識して入れた要素というのは、どのあたりになるのですか？
マオ：具体的に、そのままストーリーの内容を歌ってる的なとこは無いんですよ。でも、作品から力強さとか戦いのイメージっていうものは感じていたので、今回はその部分を詞に反映させてったかたちですね。番組のオープニングとして流れた時にも違和感がないように、っていうのはもちろん考えてました。この曲タイトルも、アニメの内容に刺激を受けて出て来た言葉だとも言えるし。ただ、どちらかといえば詞の内容そのものは、ドームでのライヴの方に終始した内容になってるのも事実です。今しか書けない詞、っていうものを書いておきたいなと思って。
――どうやら、この詞を読むとマオさんは当日どんな情景をその空間の中に描き出したいか、ということまで明確に見えているようですね。
マオ：いや、そんなこともないですよ。なかなか実感が無かったっていうのもあって、この詞を書いてた時にはまだ、具体的にどんなライヴをやるかっていうのは、そこまではっきりとは決まってなかったですから。逆に、そういう中で自分自身に実感を持たせる為の歌詞だったというか、書くことで気持ちを整理してったところもあったくらいです。
――この詞の最初の方には、〝蒼い炎〟というフレーズが出て来ますが…ドームを前に熱意を赤く燃えたぎらせている！という雰囲気ではなく、内に秘めたような情熱をこの言葉で表しているあたりが、何とも意味深です。
マオ：そのへんは、シドを象徴した表現だったりもするんですよね。昔から、このバンドって良い意味で熱くなかったし。汗臭くないっていうか。今のテンション的にも「行くぞ!!」って激しく意気込んでるわけじゃなく、わりと冷静に「頑張ろうよ」っていうモードだし。
――ただし、この詞の中には〝目の前の敵を〟という一節も出て来ます。蒼く静かな炎をもって、シドが制圧しようとしている敵とは何なのでしょうね。
マオ：これは凄く大きい意味で行くと、シドそのもののことだったりするんですよ。でも、ここでは東京ドームそのもののことをそう指してもいますね。
Shinji：カッコいい表現。ドームが目の前の敵って。
マオ：なんかやっぱ、ここまで1コずつやっつけてきた感覚があるんですよ。たとえば、高田馬場AREAから目黒鹿鳴館から始まって、次は東京ドームだっていう。
――〈「守りたいあなた」〉は、そうなるとファンの皆さんを意味するのですね？
マオ：もちろん、それもあります。でも、ここでのそれはもっと広い意味かな。家族だったり、スタッフだったり、今の自分たちに関わってくれてる全ての人たちを指しての言葉です。
――きっとそれは、今度のライヴに冠せられている、〝～全てのシドへ～〟とい

蝴蝶网 hudie.com

う言葉とも、繋がるものなのでしょうね。
マオ：うん、そうですね。きっとそうなると思います。

――それから、これは若干余談的なお話になりますが、この詞には〈魔がさした〉というフレーズもございます。ここで皆さんの、〝魔がさした〟エピソードについてもお訊かせ頂けると嬉しいです。
Shinji：毎日ですね。大体、酒呑んで朝方とかよく魔がさしがちです（笑）
ゆうや：俺は…あんま思いつかないな。いらんものとか、いらんことには基本的に手を出さないタイプなので、幸いそういう経験ってないです。
マオ：夜中につい、なんか食っちゃった時。朝になって「やっちゃった…」とはたまに思う（笑）
明希：買い物してて、レジに行く時に瞬間的にパッと目に入ったものを衝動買いする時でしょうね。家に帰ってよくよく見ると「いや、要らなかったか」ってなることが時々というか、多々あります。特に、消臭スプレー系は妙に欲しくなりがちで（笑）、1コ有れば充分なはずなのに、新しい香りのが出たりすると気になっちゃって、家には常に使い掛けのが何コも溜まってます（笑）

――さらに話はガラリと変わりますが、今回のカップリング曲「暖炉」についても少しコメントを頂けますでしょうか。こちらはジャジーで大人っぽくて、心地よく素敵な1曲ですよね。
Shinji：これは2年くらい前に作った曲で、家から月をみている時にふと思い浮かんだんですよ。このシチュエーションで、こんな曲が流れてたら良いなっていうイメージで出来ました。

――満を持しての音源化なのですね。
Shinji：組み合わせとして、表題曲とのマッチング的にこれが良いかなっていうのもあったし、今までもジャズっぽい曲は幾つかあったけど、これに関しては完全にそっち方向に皆で振り切りたかったんですよ。それはバンドとして初めての試みを含むことでもあったので、このタイミングで出すシングルに入れる曲として凄く相応しいんじゃないかと思ってます。

――こちらの詞の内容は、完全なるフィクションのように見えますが…これはどんなことがテーマだったのですか？
マオ：この詞はきっと、いろんな受け取り方があると思うんですよ。書いた側としては、そこは聴き手の判断にそのまま委ねたいですね。そうじゃない詞っていうのもあるんだけど、これに関してはそれぞれで自由に感じてみて欲しいです。

――なお、このシングルにはもう1曲ライヴテイクでの「ホソイ[illegible] Live from『SID Summer Festa [illegible]』」も収録されていますが、ライヴといえば何と言っても12月11日に控えている、東京ドーム公演［YEAR END CLIMAX 2010 ～全てのシドへ～］が気になります。あらためて、その日に向けての[illegible]をお願いしたいです。
明希：少し前からリハーサルや準備も着々と進み始めているので、ようやく頭の中でも具体的なイメージが浮かぶようになって来ましたけど、でもあんまり頭の中で想像を膨らませ過ぎるのは良くないなと思ってるんですよ。当日、ヘンに空回りしたくないし、その日はあくまで自然な自分でいたいと思ってます。
ゆうや：素直に、今のシドっていうものをそのまま見せて行く場にしたいですよね。それがちゃんと出来れば、きっと良いライヴになるんじゃないかなぁと。今度のライヴで、また一段目の前にある階段を上がれるようにしたいです。
Shinji：何より似合っていたいですよね、その場所が。広いっていう点では、見え方だけじゃなく最後は音っていう部分が一番伝えられるはずなので、音もより改善させて全てを込めながら後ろの方の人まで皆に届けるつもりです。
マオ：ライヴハウスでも、ドームでも、ライヴって楽しめなきゃウソだと思うんですよ。まぁ、初ドームっていうことで、何かとご祝儀的な見方をされることもあるかもしれないですけど、自分ら的にはそういうのは一切無しでやりたいです。リラックスして思いっきり、あのクラスでやれるバンドだっていうことを証明したいですからね。不安は無いですよ。だって、俺らにはずっと見守り続けてくれてる皆が着いてるから。何処だろうと、安心して楽しくやれちゃう自信があります。

蝴蝶网
hudie.com

Over The Edge × SHOXX

Special Session #002

The Other Side of The Stage

或る もう一つの場所…

華やかなる4者会談、ここに実現！　今年も開催が決定した[Over The Edge'10]を前に、本誌ではムックから逹瑯、LM.CからAiji、lynch.から玲央、boogiemanから万作を召喚し、討議を行ってもらった（一部、Mix Speaker's,Inc.のseekも飛入り参加）。なお、この日の模様はTV東京系の音楽プログラム『Vの流儀』でも放送予定アリだ！

Photography:YOSUKE KOMATSU(ODD JOB)
Interview:YUKI SUGIE
Hair & Make-up:DAISUKE TANAKA(JET SPEEDeR),MINAKO IINO,KAOLU ASANUMA(Deep-End Co.,Ltd.)

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Over The Edge 2010
Special Talk Session

G4首脳会議　明日はどっちの風が吹く!?

Aiji(LM.C)　万作(boogieman)　玲央(lynch.)　達瑯(ムック)

OTEとは…
一言でいうと雑なイベント(Aiji談)。

—今年もまた行われることになった『Over The Edge '10』を前に、今回は首脳会談形式で4人のツワモノにお集まり頂きました。まずは、めでたく第4回を迎えるこのイベントについて、もともとの発起人である達瑯くんから一言頂いておきたいところです。

達瑯:いや、俺は発起人なんてそんな大したもんじゃなくって、単に言い出しっぺだったっていうだけの話ですよ?

—最初は、「大晦日にライヴが無いのはさびしい」という理由が大きかったんでしたっけ。

達瑯:そうそう。前までは、大晦日って
びしくて、「東京にたまり場みたいなものが欲しいです」っていうことをポロッと事務所の人に言ったら、そこから周りがグワーッと動いてくれたっていう。

—そこはある意味、達瑯くんの人徳パワーが為せるワザだったのでしょう。

達瑯:あざーっす(笑)

—年の瀬の無礼講イベントということもあり、[OTE]では毎年いろいろな出来事が起きますから、今年も一体どんな展開になって行くかが楽しみです。

達瑯:去年はとりあえず、玲央さんがガン切れしてたのが凄かったっすよね(笑)

Aiji:何? そんなことあったの!?

達瑯:なんか、機材系のトラブルだったんですよね。そしたら、玲央さんがPA卓の方に歩み寄ってって凄い勢いで怒鳴り込んでました(笑)

玲央:いや、違うんですよ。単にあれはスタッフ側と僕らの間での誤解なんかもあったので…。仕方なく演奏中に一旦ギターを置いて、「どうなってるんですか?このままだと困るんですが」って訊きに行っただけですって(笑)

seek:あはは(笑)。そんな言い方とちゃいましたやん!

達瑯:うん、あれは完全に覇王色の覇気が出てましたよ(笑)。っていう、そん

じゃないかと思ってます!

玲央:…参ったな(苦笑)。今年は、怒んないようにして楽しくやれるようにしたいです(笑)

—2回目の参加という点では、LM.Cも今年は一昨年以来の出演となりますよね。Aijiくんから見て[OTE]とは、どんな特徴を持ったイベントだと感じていますか。

Aiji:あー。一言でいうと、雑だなって(笑)

一同:(爆笑)

—何しろ、無礼講という大前提があるだけに、いろいろな面で〝ゆるい〟イベントであるのは確かです(笑)

Aiji:でも、そのゆるさが良いなっていう気はしましたよ。なんか皆酔っぱらってるし(笑)、ワケ分かんないけど、楽しいんならいいか!みたいな。

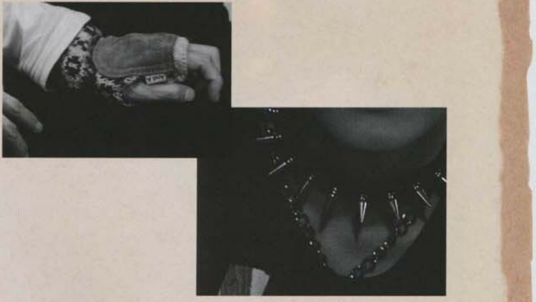
達瑯:持ち時間だけ守ってればOK、くらいのもんですからね。[OTE]は。

Aiji:そういうイベントってちょっと他には無いし、そこはほんと面白いと思うよ。

seek:またね、これまでの中でも一昨年が一番ヒドかったというか(笑)、無法地帯だったんですよ。去年は、そこまでじゃなかったですもんね。

Aiji:へぇー、そうだったんだ?

達瑯:そう言えば、去年はなんか全体的に大人しかったんっすよね。なんでだろ?…そっか、D'ERLANGERがいたんだ!



玲央:大先輩の前で、粗相をしちゃいけないっていうんで、皆ちょっとピリッとしてたっていうのはありましたよね。

達瑯:ってことは、今年はまた雑な雰囲気に逆戻りかー。

Aiji:やっぱりそうなるんだ(笑)

—そうした中、万作さんのいらっしゃるboogiemanも、今回で2回目の参加となりますが、このバンドと[OTE]も本当に切っても切れない関係にあると言えますよね。

万作:そうなんです。07年の時に参加させてもらった時は、ちょうどバンド自体の起ち上げっていうタイミングだったし、今回は新しいヴォーカリストを迎えて1発目のライヴになります。

達瑯:御披露目ライヴだ。

Aiji:なんか、それぞれ大きな節目に当たってるっていうのは、きっと縁があるんだろうね。

玲央:そうですね、不思議な縁が。

Aiji:いや、雑な縁かもよ(笑)

万作:あはは(笑)

達瑯:前の時は、あれって幕越しでしたよね。

万作:うん。前回の時は、ずっと目の前に薄い幕がある状態でのライヴだったんで、何も見えないままでそのまま終わっちゃった(笑)

ではステージングとかしてたんですか?

万作：いや、特には（苦笑）。あれはboogiemanっていうバンドをやりましょう、ってなって1週間後のライヴだったんで、曲も1曲しか無い状態でしたからね。今回も新たな一歩っていう感じのライヴだし、ここは綱渡り的なアプローチが出来たら良いなと思ってます。

――昨年はセッションのみでムックとしての出演は無かった達郷くんは、今年はまたバンド本体とセッションで大活躍になりそうな予感です。これまでの経験も活かしつつ、今年はどんなライヴにして行きたいと思っています?

達郷：思うも何も、今年は既に2デイズになったっていう時点で、既にやりたいことは実現してますからね。あとはもう、両日やりたいようにやるだけですよ。

――そもそも、達郷くんは何故2デイズにしたかったのでしょう?

達郷：要は、もっとはっちゃけたかったんですよ。31日に。だけど、自分たちのステージもあって、その後にはセッションもあって、ってなると意外と思いっ切りははっちゃけきれないのね。特に、ムックで出る場合は出番がいくら遅くても、それが終わるまでは呑めないじゃないですか。その点、去年はムックとして出なかった分、わりとはっちゃけられたっていうのもあって、だったら今年は2デイズにすればいいんじゃないかな?って思ったんです。

――つまり、バンドとして出る日とセッションの日に分けようと?

達郷：うん。それもあるし、なんだかんだイベント自体が育ってきたっていうのもあるから、今回はいつもレギュラー的に出てるバンドたちだけじゃなくって、もっといろんなバンドや、若いバンドにも出てもらいたいし、セッションもいっぱいやって欲しいってなったら、どうしても1日じゃ収まり切らなくなっちゃったんです。ってことで、今年はいつも出てくれてるバンドが30日、若いバンドや新しいバンドさん、それとセッションを31日、っていう風に分けました。

玲央：31日は、うちの葉月が普段から仲良くしている方々と面白い組み合わせでセッションするらしいんで、普段一緒にライヴやってるメンバーを客席から観てみる、っていうそれも今から凄い楽しみなんですよ。

――いやはや、濃い2日間になりそうですねぇ。

達郷：ウチら的には、30日にキッチリ仕事納めした後、31日はもうひたすら呑んで遊ぶだけで良いんじゃないっすかね。

願ったり、叶ったり!

――いずれにしても、呑む気まんまんですね（笑）

達郷：玲央さんも、今年はちょっと呑んだ方が良いですよ。多分、その方が細かいこととか気にならなくなるはず。

玲央：いやでも、僕らその後また移動するのに運転とかあるんで…

Aiji：それ、凄いリアル（笑）

達郷：だったら、名古屋まで代行とかどうっすか?

万作：うわー、それちょっと実験してみて欲しい（笑）

玲央：340kmですよ!?（苦笑）ただまぁ、せっかくの場ですしね。今年はちょっと、その為だけにトランポ入れるなり、どうにかして皆さんと楽しいお酒が呑めるように考えてみます。

――Aijiくんも、呑みの場はわりと好きな方なんですよね?

Aiji：そうっすね、これが残念ながら（笑）。ただ、前回の時は良い感じの距離感で参加させてもらってたんで、そこまで本格的に呑む!って感じじゃなかったかな。多分、大晦日に[illegible]たんじゃないっすか（苦笑）

――ある種の危機感を感じていたと（笑）

達郷：なんか、Aijiさんの周りだけ肉眼で見えるような線が引かれてるんですよね、どういうわけか。

Aiji：ホント?　そんなんなってた??

達郷：それでも俺は、「1杯置いちゃおうかな」って差し出しましたけど。

Aiji：置かれたら、俺も呑んじゃうしね（笑）。経験無いから分かんないけど、泥酔でライヴってやったらどうなるんだろう。皆、やったことある?

達郷：さすがに泥酔はないっす（笑）

万作：呑んでやったこと自体無いです。

玲央：（無言で頷く）

Aiji：俺は唯一、前回のセッションの時にちょっと呑んでたくらいかなぁ。

達郷：ですよね。大晦日のそのへんだけは、それが許される気がするって、俺は勝手に信じてるんですよ。

Aiji：確かに、[OTE]はそういうイベントなんだろうね。だって、ほんと雑っすもん。良い意味で（笑）

――出ました、またその殺し文句が（笑）

達郷：そういえば、3年前かな?　万作くんが大佑（蜉蝣～the studs）と打ち上げでマジ喧嘩したこともありましたよね!?

万作：うん。あの時は、どっちもまさに泥酔状態で、今となっては何で喧嘩したのかも全く覚えてないっていう。ただ、お互いクダを巻きあってただけ（笑）

seek：その後、翌年は大佑さんと宮脇さん（12012）が喧嘩してたこともありましたよね?

達郷：やってた、やってた。大佑ちゃん、喧嘩してばっかだな（笑）

――喧嘩するほど仲が良い、というやつではないですかね。

達郷：この分だと、今年は万作くんと宮脇じゃないですか（笑）

万作：ウチの事務所、終わっとる（笑）

――もっとも、それだけ参加者がハジける側面がある一方で、[OTE]には今のシーンの空気感を率直に感じられる場である、という面も確実にあると思うのですよね。出演者同士が舞台上で切磋琢磨している様子も、是非オーディエンスの方々に堪能して頂きたいところです。

達郷：今年はバンド数も凄いしね。2日間で20バンドとかだっけ?

万作：いろんな意味で、最高のイベントだなぁ。

Aiji：当然、出るからには負けたくないっていう気持ちは俺たちもあるし、皆もそれぞれあるだろうしね。そこはしっかり、頑張らせてもらいます。

――期待しております。

達郷：結局さ、音楽業界全体が停滞してるの何の言ってる中では、多分それなりに俺らは頑張ってる方だと思うんですよ。そのへんも、このイベントからは感じられるんじゃないですかね。

Aiji：うん。他のシーンなんかと比べたら、全然この界隈ってまだ元気ある方だよね。っていうか、そりゃ元気あるでしょ。この人（達郷）見てたら（笑）

達郷：元気があれば何でも出来る!（と、唐突に猪木のモノマネをしだす）

万作：どうすんの、これ（笑）

――アルコールを一滴も呑まずに、お茶だけで今からこのテンションとは（笑）

玲央：どうも僕、さっきから達郷くんと一緒にいると、全身にヤケドを負いそうで怖いんですけど（苦笑）

達郷：今迄作ってきたlynch.のイメージが、ってこと?（笑）

玲央：いや、まぁねぇ（苦笑）

達郷：いいじゃん!　このイベントなんて基本的に出てんの皆バカばっかかなんだからさー（笑）

Aiji：さすが、結論まで雑（笑）

――さて。素晴らしいオチがついたところで（笑）、今回は最後に[Over The Edge'10]が無事に開催されることを祈りつつ、これに向けた共同声明を提示して頂けると嬉しいです。

達郷：いやもう、ここまで動き出せば始まることは確かなんで、無事に終わらせる気はあんまり無いです（笑）。無事に終わんなかったとしても、別にいいっちゃいいっていうか。俺、個人的にはね!

Aiji：そう来るか（笑）

万作：とことん雑だなー（笑）

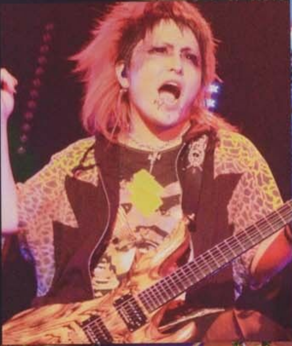
玲央：何をもって〝無事〟なのか、っていうところもありますもんね。

達郷：でしょ?　[OTE]は、とにかく懐の深～いイベントなんですから。観る方もやる方も、ここは細かいことは気にすんな、っていうことじゃないのかなぁ。雑でもカオスでも（笑）、皆にとって最高に楽しい忘年会になればそれでいいっていう、今年もそこに尽きます!

Over The Edge Special Session #002 SHOXX

蝴蝶网 hudie.com

Over The Edge
Special Session #002
SHOXX
The Other Side of The Stage
hudie.com



蝴蝶网
hudie.com

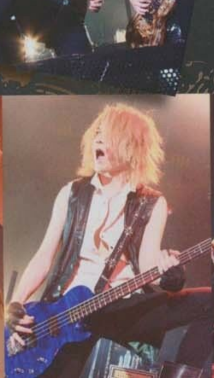
NIGHTMARE

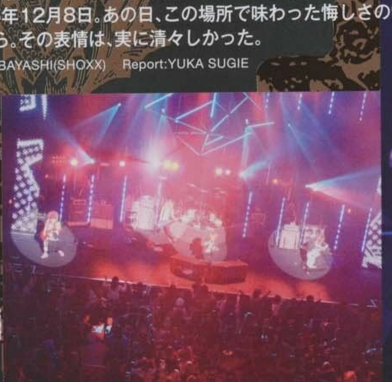
NIGHTMARE 10th ANNIVERSARY SPECIAL ACT VOL.3
HISTORICAL -The highest NIGHTMARE-

Live at 中野サンプラザホール 2010.11.5

現在、【NIGHTMARE 10th　ANNIVERSARY SPECIAL ACT VOL.3『HISTORICAL～The highest NIGHTMARE～』】と銘打ったツアーの真っ最中であるナイト今回はそのツアーの5本目にあたる、因縁の場所・中野サンプラザホール（11月5日）の模様をレポートしたい。2004年12月8日。あの日、この場所で味わった悔しさの雪辱を、しっかりと果たした彼ら。その表情は、実に清々しかった。

Photography:MASAKAZU KOBAYASHI(SHOXX)　Report:YUKA SUGIE





12月まで続くツアーの中で、他の会場とは別メニューで臨んだとい[illegible]ある意味〝特別枠〟だが、それ[illegible]がある。

２００４年、〝TOUR CPU[illegible]の最終日。中野サンプラザを埋[illegible]かったことで、メンバーは相当の悔しさを味わった。それから6年、集客[illegible]にもセールス的にも飛躍的に成長を[illegible]げた彼らだが、因縁の場所・中野サ[illegible]ザを満杯にできたことには、格別の達[illegible]感を噛みしめていたのではないだろうか。しかも、〝HISTORICAL ～The highest NIGHTMARE～〟というタイトルに相応しく、10周年の余裕と貫録をもって、実にテンポよく、最高のナイトメアを見せつけられたわけだから、申し分なく借りを倍返しにできたと言える。

まず意表を突いたのは、これまで終盤に位置することの多かった「ジャイアニズム天」による幕開け。不穏で歪んだギター、どっしりとしたリズムの上でYOMIが〝いけえ！〟とアオれば、フロアではオイオイコールに加えいきなりの大合唱も巻き起こって、その昂ぶり方は目を見張るほど。続く「東京傷年」では、RUKAがスリリングな疾走感を生み、Ni～yaが一気にステージ前方へと進んだかと思えば、YOMIの暴れぶりもタガが外れたよう。一転、激することなく、弛むことなく波に漂うことができたのは「蛹」。それぞれの場所で音と歌声を紡ぐ、ただそれだけで、十二分に成立するのだ。

懐かしの「Varuna」「dogma」では、柩と咲人がステップでジャレたり、メンバー紹介で盛り上がったりと、力みすぎることなく、メンバーとオーディエンスが一丸となって〝楽しい〟を増長させていく。

最初のMCでは、〝6年前に埋めることのできなかった中野サンプラザをソールドアウトさせることができて、嬉しいです！〟と、途中まで滞りなく流れに乗っていたYOMIだが、「-Believe-」につなげるべきところでまさかのアクシデン

蝴蝶网 hudie.com

【セットリスト】
1.ジャイアニズム天　2.東京傷年　3.蛹
4.Varuna　5.dogma　6.Believe
7.D線上のトラジェディ　8.HATE
9.the LAST SHOW　10.アルミナ
11.月の光、うつつの夢　12.シアン　13.茜
14.Яaven Loud speeeaker　15.レゾンデ[illegible]
16.DIRTY　17.LivEVIL　18.Can you do it?
19.a:FANTASIA　20.時分ノ花
EN1.the WORLD　EN2.惰性ブギー
EN3.極東乱心天国　EN4.ジャイアニズム[illegible]

RUKAはすかさず強烈なバスドラキックで怒りを表現。YOMIはその後アンコールに至るまで心理的ダ[illegible]ずったらしいが、結果的に[illegible]の流れに悪影響は与えなかったわ[illegible]イシイ失敗と言えなくもない[illegible]。そして、「アルミナ」から[illegible]そこではさらに集中力高く[illegible]よく、ステージへと惹き込ん[illegible]ように思う。「月の光、うつつの夢」[illegible]スケール感と叙情、咲人のア[illegible]KAのビートが心地よく絡んだ「シアン」、ノスタルジックな色で彩った「茜」…そして、極めつけは「Яaven Loud speeeaker」。咲人の愁い色を帯びたギターからの導入には、いつになく[illegible]して魅入られてしまった。「livEVIL」もライヴアレンジでますますアッパーに強化されていたが、咲人、柩、Ni~yaがドラム台の前で円になってジャレたかと思えば、柩と咲人が一緒にステップを踏んだりして、それを観ているオーディエンスも楽しいが止まらないといった様子だ。その上で、本編最後は「時分ノ花」。あらためて大サビの底力を見せつけられて、個人的にはこの日のライヴになんとも似合うエンディングだなと感じた。

アンコールでは、YOMIが中野でいかに知れ渡っているかも明かされつつ（笑）、「惰性ブギー」では座席おかまいなしのモッシュも起こって騒乱状態に。挙句、「極東乱心天国」ではYOMIが度々Tシャツを半脱ぎ、そのマトリョーシカ人形のようなシルエットにオーディエンスも柩も呆れ笑いさせられる一幕も。だが、タダでは終わらせないのがナイトメア。ラストは気迫たっぷりな「ジャイアニズム惨」で、ガツンと締め括った。

と、清々しく雪辱を果たしたわけだが、アニバーサリーイヤーのクライマックス・12月25日の幕張メッセも、いよいよ間近。今の彼らなら、悔しい想いをすることはないだろう。最高のナイトメアとしてのもっとも度肝抜かれるステージを、期待している。

蝴蝶网
hudie.com

ムック TOUR 2010 "CHEMICAL PARADE"

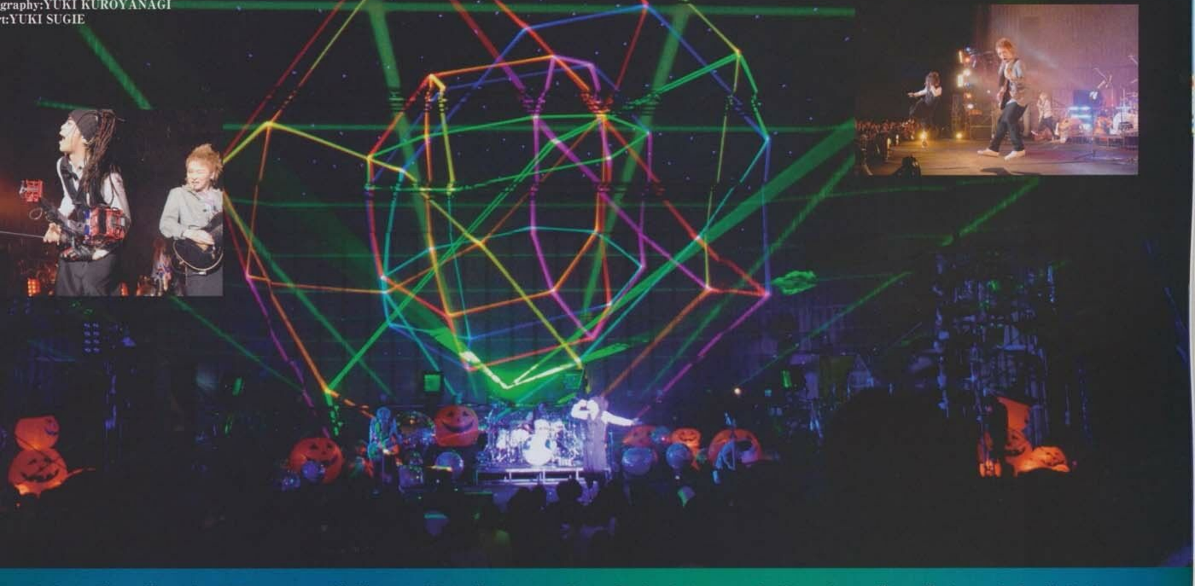
蝴蝶网
hudie.com

2010.10.31 HIBIYA Open-Air Concert Hall

ンドの存在意義を改めて提示した、野外の夜

れから、早6年。かつてムックはアルバム『朽木の灯』を世に提示することで、
ンドとしてのあらたな主体性を確立した。その後、度重なるメタモルフォーゼを繰り返しながら、
らはここに来て革新的要素の詰まったアルバム『カルマ』を完成させるに至った。
こから始まって行くツアー[Chemical Parade]は、
ックにとってまた大事な修練の場となっていくことだろう。

graphy:YUKI KUROYANAGI
t:YUKI SUGIE



そぼ降る小雨と、冷たい空気に覆われた秋の日比谷は、おおよそ野外ライヴ日和とは言い難い天候に見舞われていた。だが、そんなことくらいではまるでびくともしないのが、ムックとムッカーである。頼もしく逞しい彼ら/彼女らは、厚い雲で閉ざされた空を下から突き上げるかのような勢いのライヴを、この夜その場で展開してみせたのだ。

ミヤいわく、"これを出すことによって、賛否両論が沸き起こったとしても構わない"というほどの自信と確信が込められた最新アルバム『カルマ』で、ムックがバンドとしてのボキャブラリーを今まで以上に増大させたことは、読者の方々もきっとご存知のことだろう。

今回彼らは、そのアルバムを携えてのツアー[Chemical Parade]を、なんと日比谷野音2デイズ公演からスタートさせた。ちなみに、彼らがワンマンで日比谷野音のステージに立つのは、2004年以来のこと。そう、彼らにとって間違いなく分岐点となったアルバム『朽木の灯』が発表された頃の話となる。

というわけで、久々の野音ともなれば、ここはしっかり晴れ上がってほしかったところだが…現実はそう甘くもない。猛暑以降の天候異常もあいまって、まず1日目の10月30日はやや季節外れの台風が関東をかすめる中、ライヴは雨天どころか荒天の中での決行に。

さらに、本来台風の翌日というのは大抵良い天気となるものだが、気まぐれな低気圧のおかげで、明くる31日もまさかの霧雨模様。しかし、このシチュエーションは意外にもムックの味方となった。

なぜなら。ダンサブルでアッパーなライヴは、10月31日＝ハロウィンという日取りを考慮してか、ジャック・オー・ランタンのオブジェがいくつもステージ上に置かれる中、レーザーライトをふんだんに使った幻想的なライティングで彩られ、溢れる光が細かな雨粒をキラキラと反射させながら、煌めくダイヤモンドダストとなって日比谷野音いっぱいに降り注いだのだ。こうなって来ると、もはや雨サマサマと言えなくもない。

「フォーリングダウン」で始まったライたちはもちろん、この場でやることにこそ意味がある「濁空」(『朽木の灯』収録!)が奏でられる一場面もあった。

また、本編中盤にてSATOちのジャジーなドラミングが小粋に響いた「月の夜」を手始めに、YUKKEのアップライトベースが映えた「堕落」、達瑯の憂いを含んだ歌がオーディエンスを魅了した「ポラリス」と、じっくり聴かせる3曲が続いたくだりも、雨という調味料が添えられることで、より情緒的な雰囲気を増していたような気がする。

『2日目です。Happy Halloween! ここ野音でやるのは、『朽木の灯』のツアーでやった時以来で、ちょうどおんなじ日ですね。そん時も来た人いる?(ちらほらと手が挙がる)あの時もちょいちょい雨が降ったんだけど、今回はちょいちょいどころじゃなくついに降られましたよ。でも、昨日のあれはあれで凄い楽しかったし、今日は何とか今んとこギリギリもってくれてるみたいなんで(笑)、こんな感じのまま押し進めて行こうと思います。野音2デイズから始まったツアー[Chemical Parade]、みんなで踊りちらして行きましょう!』

本編も大詰めとなって来たところで入れられたMCをキッカケに、ここからは「ファズ」を筆頭としたキラーチューン連打による総攻撃が始まり、最後はこれまた『朽木~』に収録されていた「名も無き夢」で、野音はみごと熱くカオスな空間へと変貌したのだった。

『いやぁ、『朽木の灯』の頃からするとずいぶんこのバンドも変わったよね(笑)。あれからずっとバンドが続いてて、こうして満員のお客さんの前でライヴ出来てるのが嬉しいです!』

アンコールにて、ミヤが感慨深げにこう発言したのもある意味当然な話で、今回の日比谷野音公演は、改めてムックというバンドの存在意義を証明する場となったように感じた。

だが、何といってもツアーはまだまだ始まったばかり。1月末のEUツアー、さらに5月には日本武道館にて"Chemical Parade"のFINALを控える中、ムックの描く世界がここからより深

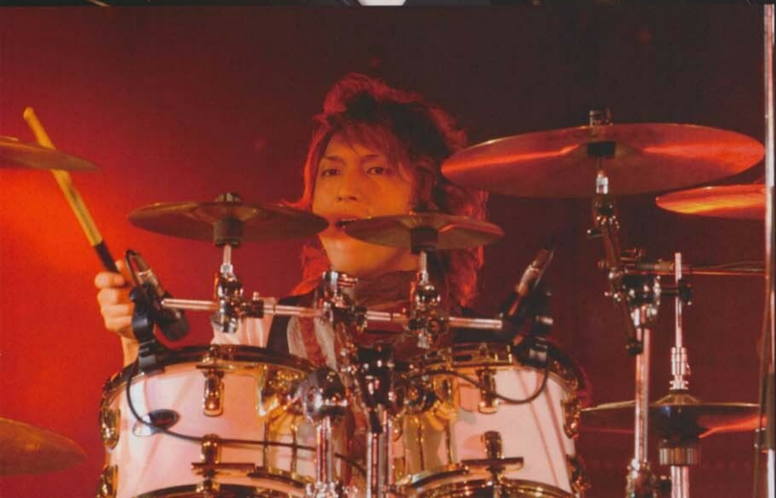
蝴蝶网
hudie.com

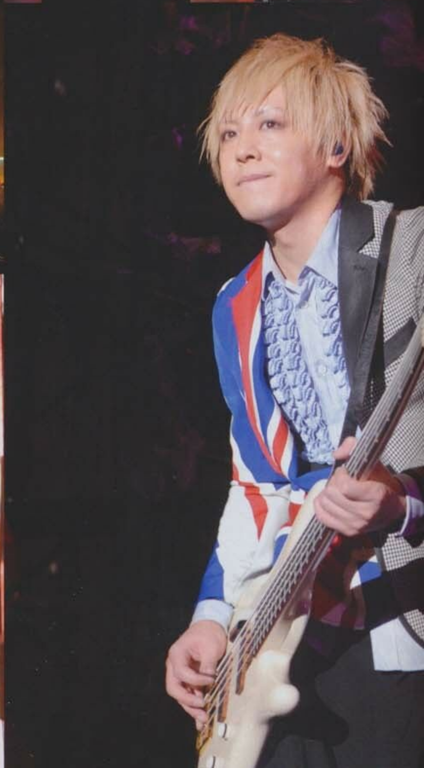
【set list】

1.フォーリングダウン
2.零色
3.ケミカルパレード
4.オズ
5.A.
6.濁空
7.アイアムコンピュータ
8.蛍
9.月の夜
10. 堕落
11. ポラリス
12. ファズ
13. 咆哮
14. ライオン
15. 名も無き夢

＜encore＞

16. オルゴォル
17. 蘭鋳
18. フリージア
19. 業





蝴蝶网
hudie.com

ViViD Natural

"素"の自分って…?

Interview: YUKA SUGIE

大好評だった、先月号の【ViViD・Gothic Ver.】に続き、今月も"いつもとは違った側面から ViViDの魅力を探ろう"企画(?)第二弾をお届けいたします！　先月号の様な、バッチリメイクの彼らも素敵でしたが、今回は、より彼らの素(ナチュラル)の魅力に迫るべく、なんと！　各自私服を着用しての撮影を行いました。+α、女子の"キュン"とくるアイテムとして、全員に"眼鏡"を着用して貰いました！　眼鏡男子・ViViDいかがですか!?　インタビューでは、"ナチュラル"をキーワードに語って貰っています。特別付録のBook in Bookとあわせて、ご覧ください！

――今回も新鮮なスタイリングで登場してもらいましたが、今回のBook in Bookでの知的なメガネ姿も素敵だなと。

シン：個人ではメガネをかけることあったけど…全員では初だよね。

Ko-ki：そうだね。普段は全員メガネをかけるけど、5人がかぶったときはないし。新鮮ですよ。

――ちなみに、メガネって【萌え】アイテムでもあると思うんですが、女の子に対してのみなさんの萌えポイントは？

Ko-ki：俺、最近女の子の髪型はボブが好きなんですよ。あと、甘えてくる姿はカワイイと思います。もし"ごーたん？"って首に手を回されたら、"は？"っていいながら嬉しいですよ、多分。

イヴ：俺は、料理を作ってる姿ですかね。盛り付けもカワいくしてくれたりしたら、かなりポイントは高いと思います。

シン：俺は、最近気付いたことがあって。女の人のスーツ姿、良いんですよ。タイト・スカートで色はグレー、ですかね。

イヴ：『ワンピース』に出てくる、CP9(暗躍諜報機関)のカリファみたいな？

シン：あれはベスト！　あれだけスタイル良くて、タイトなスーツを着ていただけたら…最高ですね。

怜我：俺は、オシャレな人が好きです。

Ko-ki：知ってるよ、渋原系の人が好きなんでしょ？

怜我：うん、けっこう渋谷寄りかな。でも、いいなと思った人の行動なら、どんな行動でも萌えますよ。たとえばドアのカギを開けるときとか、何かに熱中しているときの顔は好きです、ハイ。

零乃：俺は、髪の毛を耳にかける瞬間ですね。あと服装は、俺もオシャレな人が好きで。毎回違う雰囲気の服を着ている人とか、スゴイと思います。

Ko-ki：チャレンジ精神旺盛な人ね。

零乃：そうそう。毎回違う表情が見えたら、すごく惹かれちゃうと思います。

――では、女の子のメガネは？

零乃：俺、好きですね。細めで、赤ブチ系がいいな。で、ちょっと下げてかける人っていますけど、俺はそういうのが好きじゃなくて。ダテメガネじゃなくて、ちゃんとメガネの役割を果たしている感じがいいんですよ。普段カワイイ系の人がそういうのをかけてると急にオトナに見えて、そのギャップがまたいいなって。

Ko-ki：俺も好きですよ。ただ、限定されますけどね。俺がかけているみたいな、アラレちゃんめがね（昔のアニメキャラ、アラレちゃんがかけていた大ぶりな黒ブチメガネ）に。ま、女性の顔はそのままで十分美しいんですけどね。

イヴ：俺は、メガネかけてないほうが好きですね。メガネかけてると、顔がよくわからないじゃないですか。

Ko-ki：あ、わかる。"ありのままが好きだよ"ってことでしょ？

イヴ：そうそう。そのままが一番です。

シン：俺は、フチのないレンズだけのメガネとか好きなんですよ。

――スーツを着た上でそういうメガネをかけていたら、シンさん的に完璧だと。

シン：あぁ…ですね！　理想です！

怜我：俺は逆に、メガネをかけてる人が外したときの顔が好きです。

Ko-ki：やっぱギャップでしょ？　ギャップはいいよね。

怜我：そうそう。たまに違う面を見せてくれるのがいいと思います。

――それから、今日はナチュラルなシチュエーションでの撮影でもありましたので…"ナチュラル"というキーワードから、インスピレーションで語っていただこうかなと思うわけです。

Ko-ki：やっぱり、"すっぴん"っていう言葉が浮かびますね。

零乃：じゃあ、まずは"女性のすっぴん"でいこうか。

Ko-ki：基本的には好きですよ。ただ…学生時代、カワイイなと思ってたコのすっぴんをたまたま見て、驚いたことがあって。メイク後とすっぴんでギャップがあり過ぎたら、ちょっと驚くかなぁ(笑)。

怜我：俺も、ダンナさんが起きる前にメイクをしている女性が理想なので…素顔はあんまり見たくないかもしれないです。

零乃：スッピンも飾らない良さがあるけど、女の人には常にキレイでいてほしいよね、確かに。

――イヴさん、シンさんも同意見だったりしますか。

イヴ：俺は、メイク濃い人が好きじゃないんですよ。だから、ファンデーション薄く塗ったぐらいな、スッピンに近い顔が好きなんですよね。

シン：俺も、スッピンいいと思いますよ。もし付き合ったとしたら、どうせそのうち見るわけだし。受け止めますよ。

――それぞれの見解、勉強になりますっ。"ナチュラル"という言葉で、他に思い浮かぶものはあります？

イヴ：…ナチュラルといえば、自分の普段の仕草とか、素の性格とかかな。

――じゃあ、自己申告でお願いしますっ。

Ko-ki：俺は、普段は気を遣う人なんですけど…ホントはめっちゃ短気です。

――人前では、そういう自分を抑えているわけですか。

Ko-ki：そうですね。"人に気を遣って生きなさい"って育てられたので、ホントに怒ることがない限り、周りに気を遣って、文句を言わないようにしてます。

イヴ：俺は、何事に於いても理屈から入るんですよ。理不尽なこととか、真っ直ぐしていないことがイヤなんです。

――世の中、理不尽なことって多々ありますけど…そういうときはどう対処を？

イヴ：しょうがないって呑み込んだりして(苦笑)。それが素の自分ですね。

シン：俺は、面倒くさがりで引きこもりなんですよ。

――それでいてよくバンドを始めましたなと、今思っちゃいました。

シン：始めたときは、勉強のほうがもっと面倒くさかったですからね、はは。でも、バンドは楽しかったんですよ。

Ko-ki：始めてみたら、それこそ大変なことや辛いことはあるけどね。

――成長するためには、努力も求められますしね。ホントに怠惰な人には、バンドってできないと思います。

シン：ま、これしかないって思ったから頑張れたんでしょうね。だから、普段はただの引きこもりなんですけど(笑)。1週間ぐらい前に出かける日を決めておかないと、その日に向かって気持ちを高められないですからね。

Ko-ki："今から呑もうぜ"って誘われたら？

シン：絶っ対行かないなぁ。

Ko-ki：そっか。じゃ、今度から誘わない(笑)。

シン：はは、Ko-kiはよく誘ってくれるけど…大体行かないもんね。

Ko-ki：一緒にいて、そのままどっか行くときは来るけどね。俺はむしろ、前々から予約されるのは嫌いなんですよ。まず手帳を確認するのが面倒くさいし、"明日ヒマ？"とか"今から呑みに行かない？"っていうほうが断然いい。

零乃：それは俺も一緒だな。

Ko-ki：日にち決めておくと、なんか縛られてる感じがしちゃって、よっぽど楽しいことじゃないとダメですね。

怜我：俺、どっちにも対応してるかも。予定を決めて遊ぶこともするし、Ko-kiに急に誘われても、用事が重なってない限り絶対に行くし。素の自分は、テンションが高いんですよ。

Ko-ki：怜我、身内に対してはよくしゃべるよね。

――取材をし始めた当初は、すごく口数の少ない方かと思っていましたけどね。

怜我：最初は、どう切り込んでいったらいいか迷うんですよ。そこさえ突破したら、一気にいけるんですけど。

シン：最初のころ、インタヴューでしゃべり出すだけで場が沸いてたもんね。

零乃：はは、そうだった。俺は…実は、スーパー面倒くさがりだったりしますね。

――いつも見ているしっかり者の零乃さんからすると、意外です。

零乃：リーダーやってるから、外では常に気を張ってしっかりするようにしてますからね。でも、家に帰ると完全にシャットダウンしますよ。あと、何か悩みを抱えていても、仲の良い人に弱いところは絶対見せたくないから、そういうときは1人でお酒を呑んで、自分の中で解決したり、気持ちを切り替えたりして。お酒は自分にとって大事なツールですよ。みんなで楽しく呑むのも好きだけど、1人で呑むことでリセットできるんで。

――さて、1月にリリースされるシングル、ちらっと聴かせていただきましたが…メジャーデビュータイミングにして、めちゃくちゃロックしてますね！

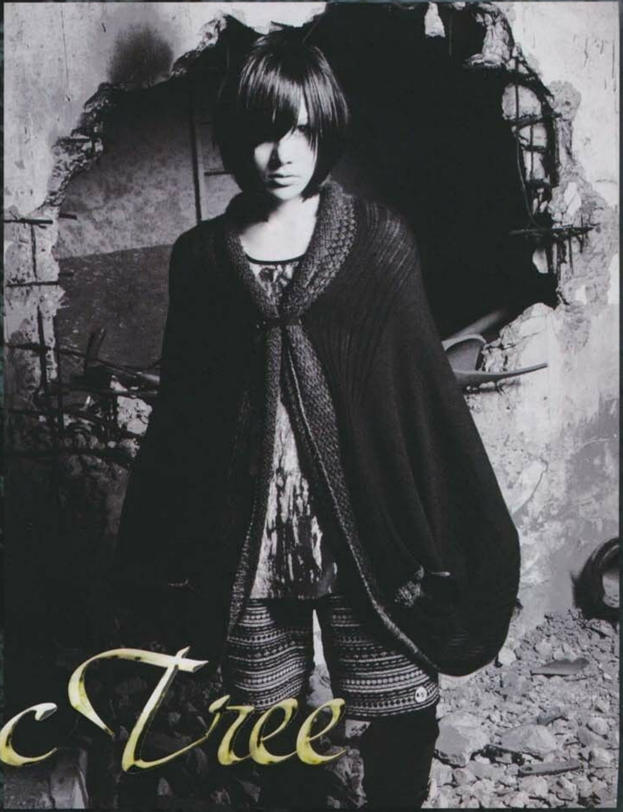
イヴ：ありがとうございますっ。

シン：ミクスチャーロックな感じでね。

Ko-ki：V-i-V-i-Dらしい曲だよね。

怜我：カップリングも全部良いし。

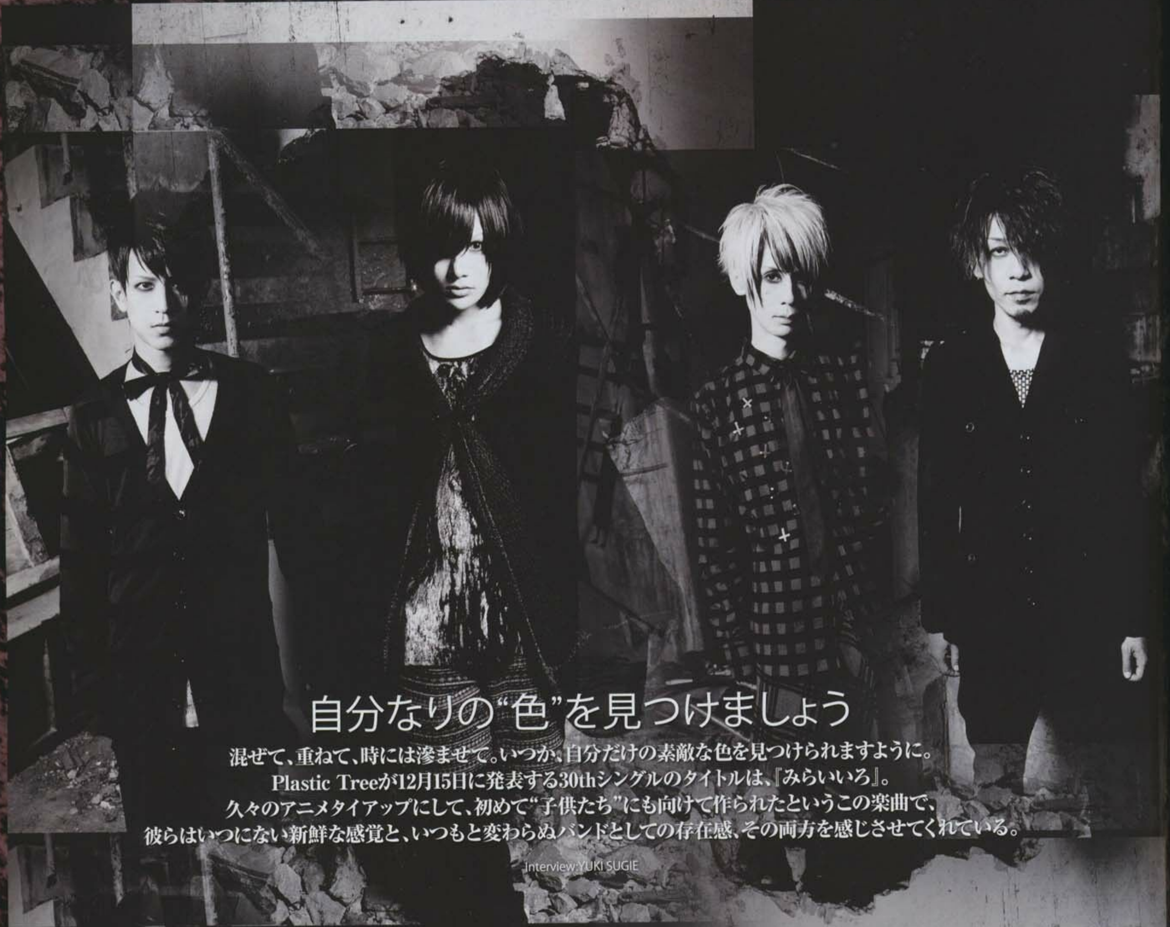
零乃：そうだね。自分たち自身、納得できるシングルでデビューできるのは、とても嬉しいことなので。詳しいことはまた次号、たっぷり語りたいと思いますので、楽しみに待っててください！



Plastic Tree

ちょっと無理しても“みらい”を見よう——

蝴蝶网
hudie.com



自分なりの“色”を見つけましょう

混ぜて、重ねて、時には滲ませて。いつか、自分だけの素敵な色を見つけられますように。
Plastic Treeが12月15日に発表する30thシングルのタイトルは、『みらいいろ』。
久々のアニメタイアップにして、初めて“子供たち”にも向けて作られたというこの楽曲で、
彼らはいつにない新鮮な感覚と、いつもと変わらぬバンドとしての存在感、その両方を感じさせてくれている。

Interview:YUKI SUGIE

――おめでとうございます。今回の音源『みらいいろ』は、何とPlastic Treeにとって30枚目のシングルになるんだとか。

長谷川正：ありがとうございます、ついに大台へと突入しました（笑）。

有村竜太朗：そっか、もうそんなになるんですねぇ。

――ちなみに、12月のリリースではあるものの、TV東京系アニメ『遊☆戯☆王5D's』のエンディングテーマとして、地上波ではすでに曲の一部がオンエアされているそうで。

正：ってことで、今回はそのへんのタイアップも多少イメージしつつの制作でもありました。

――アニメとのタイアップと言いますと、過去にも『Sink』や『ナミダドロップ』などのシングルがありましたが、あの2枚はいずれも“後付け”的でアニメのイメージを考慮してのものではなかったですものね。

正：まぁ、もちろんバンドとして次に何が出したいかっていう部分のほうが軸にはなってましたけど、テンポ感とかに関しては映像と一緒に流れる時のこととかを、ある程度意識してましたね。でも、逆に言うとそのくらいかなぁ。あとは、純粋にプラの次のシングルっていうところで、“らしく”なればいいやっていう風にしか考えなかったです。

――確かに、表題曲「みらいいろ」は俗に言うアニソンとは違う傾向の曲ですからね。音の質感としては極めてバンド然としていて、エッジ感たっぷりです。

ナカヤマアキラ：要はね、曲なんてカッコ良けりゃそれでいいんですよ。あ、なんかごめんね。中学生レベルのすげー単純な物言いで（笑）。

――いえいえ、それはロックバンドにとってひとつの真理だと思います。

アキラ：でしょ？　だから、取り組み方はタイアップがあろうがなかろうが、いつも通りっちゃいつも通りだよ。ちゃんとした良い音っていう以上の、“聴き手がそこから何かを感じられるようなもの”っていうのを、音源としてうまくパッケージしてったつもり。

――バンドらしい音とひとくちに言っても、プラトゥリの場合はかねてからいくつかのスタイルを曲によって巧妙に使い分けていますよね。こちらの場合、圧迫感のある轟音系とは逆の、ドライで立体感を漂わせた音像が印象的です。

アキラ：たぶんそれは、分離が良いっていうことなんじゃない？　こういうギターロックっぽい曲にはそのほうが合うだろうなと思って、そこは最後にミックスする時に調整したんだよね。

――作曲者である正くんからすると、バンドで演奏していく際、特に大事にしていったのはどんなところでしたか。

正：メロディとこのテンポ感を、いかに噛み合わせていくかっていうのがポイントでしたね。普段だと、大抵メロディが先に浮かび上がって、そこからアレンジを考えていくことも多いですね。だけど、この曲はメロとアレンジがほぼ同時に決まってっちゃったんで、その感覚をなるべく録りでも活かしたかったんです。

――となると、テンポ感の舵取り役であるケンケンくんはどんなアプローチを？

佐藤ケンケン：大事にしたのは、生っぽさです。疾走感を出すためにも、ちょっとリズムが揺れてるくらいのほうがいいんじゃないかと思ったので、今回は特にノリ重視で叩きました。

――どうりで、心地良くダイナミズムが強調されているはずです。

ケンケン：今、まさにツアー（「月世界旅行」）でもこの曲をやっていて、そのレコーディングの時の判断は間違ってなかったなっていうことを凄い感じてます。いやー、良かったです（笑）。

正：何だかんだ、今回は初日から毎回この曲やってるもんね。

竜太朗：うん、珍しく（笑）。ツアー始まる前は、“いきなり新曲入れるのはどうだろう”っていう話も出てたんですけど。でも、みんなで合わせてみたら凄い良かったんで、そのままずっとやり続けてます。

――この「みらいいろ」は、当初からメロも出来上がっていたそうですが、竜太朗くんは曲を受け取った時にどんな感触を得たのでしょうか。

竜太朗：それが、実は受け取ったっていう感じでもなかったんですよね。曲作りをウチでやってたから、出来たの自体が目の前

蝴蝶网
hudie.com

だったんです（笑）。しかも、その後すぐアレンジってなって、そこでもメンバー全員揃ってたんで。だから、詞のイメージもその中で自然と〝あぁ、こんなこと書こうかな〟って頭の中に浮かんでましたね。

――そこから詞をまとめていく際に、竜太朗くんも今回のタイアップの件は何かしら考慮していたのですか？

竜太朗：そうですね、ありました。もちろん、こういう内容の番組かは知ってましたし、『ジャンプ』大好きなんで原作も読んだことありましたから。でも、何かこういうのって面白い。ウチみたいにこんなヘンテコなバンドの歌を、子供の人たちに聴いてもらえるなんて（笑）。

――貴重な機会であるのは確かです。

竜太朗：今回の場合は、番組側からも〝こういう要素は入れてほしい〟っていう話はされてたし、そういう中で詞を書くっていうのも初めてのことだったんですけど、でもやってみたら面白かったです。自分なりに、子供に見せたい世界って何だろう?って考えながら言葉を見つけていきました。

――実際に出来上がった詞を見ると、竜太朗くんの思う子供に見せたい世界とは、曲タイトルにもある通り未来を感じさせるものになったようですね。ただ、そこはいかにも竜太朗くんらしいというか、単純に明るく素晴らしい未来！的な表現ではなくて、もうちょっと機微のある書き方にもなっていますけれど。

竜太朗：あのー、子供の人に見せたい世界とは?って考え出したはいいものの、周りにほとんど子供がいないんであんまりよく分かんなかったんですよ（苦笑）。それもあって、結局行き着いたのは自分がちっちゃい頃に思ってたこと、になっちゃったんですけど。

――と同時に、この詞の中には〝名前のない花〟ですとか、見覚えのある言葉も織り込まれていたりしますよね。

竜太朗：うん、入ってます。でもそれは、何か計算があってのものとかではなくて、単純にそこにいちばんしっくりくる言葉だったから、前に使ったことはあっても入れてるっていうだけ。たぶんこの曲は色合い的に、「名前のない花」とどっか通じて

「みらいいろ」PVシューティング！

最後に全員で記念撮影！

正先生も懸命に教えている様子。

撮影場所は、イイ感じの廃墟です。

手取り足取り教える竜太朗先生。…の後ろにはケンケン先生の姿も。

アキラ先生の迫力に、少年、緊張気味か!?（笑）

理しても前を見るっていう姿勢が。

――あぁ、なるほど。

竜太朗：子供の頃って、未来とか将来っていうものに対して希望を持つものじゃないですか。それが、すぐ目の前の明日のことだったとしても。その分、ちょっとしたことで傷ついたり、ナーバスになったりするんだけど、やっぱり大人と違って解決方法をすぐ見つけるのも難しいし、それだけの力をまだ持ってなかったりもしますからね。それでも、子供って無邪気でしょ。なんか、そういうとこを詞でも表せればいいなと思ってたんです。僕ら自身はもう、そんな子供時代には戻れないけど。

――うわー、キツい一言ですね（苦笑）。

竜太朗：だって、ホントこればっかりはしょうがないじゃないですか。戻れないんですよ、永遠にね（笑）。でもまぁ、子供の頃に思ってたこととか、その頃の感覚を詞にするっていうのも凄い久し振りのことだったし、いろんな意味で今回は良い機会になったなと思います。

――そうした中、この曲に「みらいいろ」なるタイトルをつけた理由についても、少し解説をいただけると嬉しいです。

竜太朗：分かりやすく言うと、色ってたくさんあるけど自分なりの色を見つけましょうね、っていうことかなぁ。俺、幼稚園の頃にお絵書きで色一色しか使わないっていうんで、〝これはヤバい〟って親とか先生に、絵画教室に通わされてたことがあって。それで、描いてくうちにだんだんと複数の色を使えるようになってって、周りからも褒められるようになった。当時、〝そうか、色をいっぱい使うのはいいことなんだ〟って子供心に思ったのが嬉しかった。

――それはなかなか興味深い話です。

竜太朗：俺、色がいっぱい並んだパレットが好きだったんだよなー。色の混ざり具合で自分なりの色が出来て、俺の夕焼け色とか俺の葉っぱの色とか。洗っちゃうとなくなっちゃうから、いつももったいなくてグチャグチャのまんまのパレットをずっと使ってましたもん。もっとも、最後はいつも真っ黒になっちゃうんですけど（笑）。

――混濁すると、ドス黒い色になってし

竜太朗：そうそう。なんか、そのへんが原風景としてこの詞の根底には入ってるのかな。だから、自分の色っていうのは何も決まった一色じゃなくていいんじゃないかな、っていう意味での「みらいいろ」なんです。

――分かりました。このシングルにはリーダーの作詞作曲による「Paper plane」という楽曲も収録されていますが、こちらは表題曲とはまた別のベクトルを持った、浮遊感のある音に仕上がっていますよね。

正：ざっくり言ってしまうと、これは自分の中でのんびりしたUKロック、みたいなものをかたちにした曲になってます。ウェールズあたりのバンドがやってそうな感じ、といいますか（笑）。

――ギターのエフェクティヴで空間系な音作りも、実に〝それっぽい〟ですよね。

アキラ：手法は凄い凝ってんのよ、これ。でも、作り方は全然凝ってない。そこが特徴。「みらいいろ」とは、ある意味全く逆のタイプの曲だよね。

――曲の最後で、ドラムだけが残るところも面白い展開だと思いました。

ケンケン：あれ、僕は後々ああなるって思わないで叩いてたんですよ。構成も決めないでフリーで録ってたんで、後で聴いてビックリしちゃいました。脱ぐつもりじゃなかったのに、いきなり裸にされちゃったみたいな（苦笑）。

竜太朗：あははは（笑）。

――さてさて。この号が出る頃には、ツアー【月世界旅行～アジア編～】も終わって、ワンマンは年末の2デイズ・ライヴ【年末公演～ゆくプラ くるプラ～】を残すのみとなっているはずですので、そろそろ今年も終わりですね。

竜太朗：っていうか、1年過ぎるのメチャクチャ早くないですか？

正：まぁねぇ。でも、今年は【追懐公演】なんかもやれたし、その中で新しい発見もありつつ、今回のシングルでまた初めてのことにも挑戦できたし、目まぐるしかったけど充実はしてたんじゃない？

竜太朗：それにしたって、早すぎるよ。どうしよう？　これじゃ子供の頃に戻れないどころか、気が付いたらあっという間に

Alice Nine

Live Tour 10 "FLASH LIGHT from the past"

Live at Zepp Sendai 2010.10.17

7月5日のshibuya O-EAST（club ALICE only）を皮切りにスタートしたツアー『FLASH LIGHT from the past』。
このツアーは、7月から10月という3ヶ月で行なわれたロングツアーだった。途中、2010年初となる
シングル「閃光」のリリースもあったことから、ツアー後半では、前半とはまた違った景色が描かれていたという。
ファイナルに日本武道館という目標地点を置いたこのツアーで、彼らは何を掴み取ったのだろう？

Interview:NAOKO TAKEICHI

た。7月5日のO-EASTを皮切りにスタートしたツアー『FLASH LIGHT from the past』も、あっという間に地方ラストであるZepp Sendaiまで辿りついてしまった。残すはファイナルの『"FLASH LIGHT from the past" FINAL "TOKYO GALAXY"』のみである。

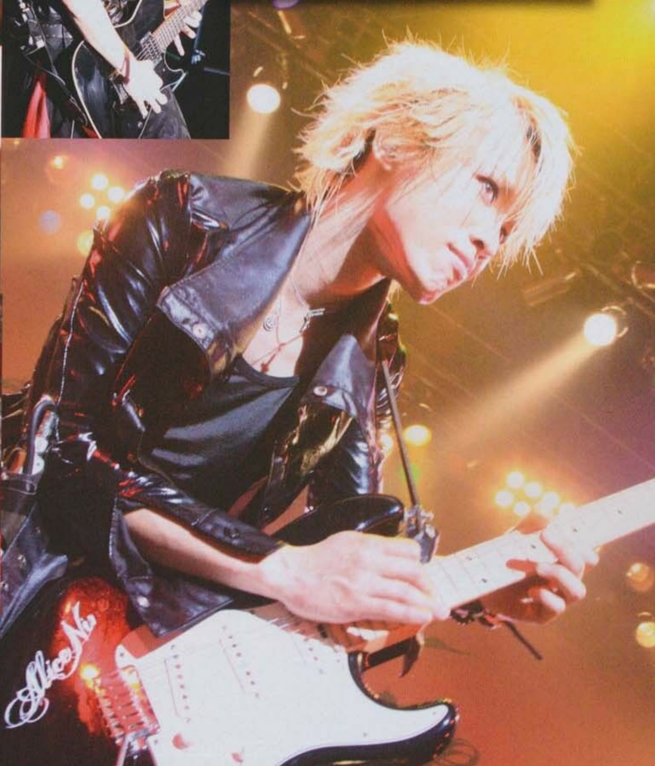
14時半から集合のリハーサルが始まるというので、少し早めに楽屋を覗いてみることにした。メイク中の将と虎、ビュッフェスタイルのケイタリングから、スパゲッティーとハンバーグと焼き鮭という和洋折衷なメニューを選び食す沙我、同じくケイタリングメニューの中からハンバーグを選び、わざわざご飯をよそった丼の上に乗せ、〃ヒロト流晩バーグ丼〃だと自慢して見せるヒロト、ステージ上でのドラムのサウンドチェックから戻り、別室で自らのiPodで今日のセットリストを予習するNao、と、徐々に準備を進め、穏やかな時間を過ごしていた。

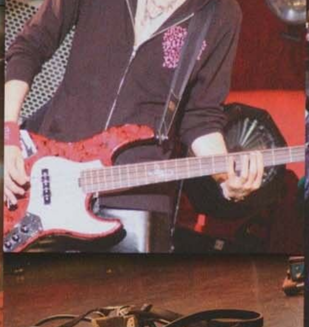
〃いや、早かったですね、ここまで。今回ツアーの途中で「閃光」のリリースがあり、収録曲の4曲の新曲をセットリスト[illegible]に盛り込んだんで、随分セットリスト[illegible]体の趣が変わったんですよ。そのあ[illegible]からセットリストが同じでも、何故か毎回違うライヴが出来るようになったんです。本当のロックバンドって、セッ[illegible]ストが同じでも、毎回生っぽいライ[illegible]出来るバンドのことを言うと思うんですよ。俺、ずっとそうなりたいって思ったんです。それが今回のツアーの後[illegible]掴めた気がするんです〃（沙我）

たしかにこの日、「Cradle to［Alpha］」をSEにステージに登場した5人は、ドラム前で手を重ね合わすと、楽器隊のジャムりから「閃光」へのイントロへと繋げ、ライヴの幕を開けたのだが、そこに、グッと胸を吸い寄せられる吸引力を感じたのだ。一瞬たりとも目を離すのが惜しいと感じさせる、強い吸引力と、聴かせるだけではない、自らから放たれる〃見せるライヴ〃を、ライヴがスタートして間もないこの瞬間に感じたのである。彼らには、もう武道館のステージが見えているのかもしれない。そう思った。

〃今回のツアーは、【Alice Nineってどういうバンドなんだろう?】ということを自分たちが、もう一度見つめ

蝴蝶网
hudie.com





直したいという気持ちからスタートしたんです。今までの曲を全部出して聴き返して、60曲くらいに絞り込んだ中でセットリストを組んでツアー後半戦からだんだん、その答えが見えて来たように思うんです。このツアーのファイナルの武道館のステージで、みんなにどういうAlice Nineを見せていくべきか、Alice Nineとはなんぞや？というところが、見つけられたツアーでもあったんです〟（将）

将は、武道館というひとつの目標が、メンバーや、集まってくれるファンたちや、スタッフたちの気持ちをひとつにしてくれたのも大きいと思うと言う。ライヴのMCでも、普段の性格からも解るように、将は決してグイグイと自らの我を通し、突進むヤツではない。どちらかと言うと、そっとフォローにまわるような、裏リーダー的なヤツである。しかし。この日は、そんな将のヴォーカルにも変化を感じた。ここ最近、目を見張るようなスキルアップを果たした楽器隊の演奏の中で、安定したヴォーカルでリアルな景色を描き出し、MCでも積極的にオーディエンスを盛り上げていたのである。

〝今回のツアーがいつもと違うなって思うところは、やっぱ武道館を意識したツアーになってるっていうとこかな。でも、武道館は来年だからね。ツアーという括りでは、今日から武道館まで結構空いちゃう訳で。このツアーで学べたことが冷めないうちに武道館のステー[illegible]たらいいなって思ってますね。[illegible]ね、このツアーの流れを止めずに[illegible]まで突っ走れたら良かったんだけど。でも、逆に、単発でもしっかり、揺[illegible]Alice Nineを見せられ[illegible]本物だと思うから。今日はちょっと風邪ぎみだったりもするけど頑張[illegible]（虎）

風邪で体調が悪いなどと感じら[illegible]ステージだった。いつものように自由な虎らしく、彼らしいパフォーマンス[illegible]テージを盛り上げた。この日届[illegible]「昴」での虎のアコギに感じた今ま[illegible]上の深みも、きっとこのツアーで彼[illegible]にした成長のひとつだったに違いない。

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

【セットリスト】Cradle to〔Alpha〕 1.閃光 2.百花繚乱 3.華 4.九龍-NINE HEADS RODEO SHOW- 5.Solar Eclipse 6.ハイカラなる輪舞曲 7.FOLLOW ME 8.昴 9.涙の在る場所 10.9th Revolver 11.Drella 12.闇ニ散ル桜 13.Le Grand Bleu 14.RAINBOWS 15.RED CARPET GOING ON EN1.Stargazer: EN2.TUSBASA. EN3.極彩極色極道歌〈G3〉 EN4.春夏秋冬 EN5.Waterfall EN6.the beautiful name

の今。彼らは、そんないくつかの壁を乗り越える度に大きな成長を見せてくれてきた。Naoが大きな壁を乗り越えたのは、2007年の9月に挑んだ初の国際フォーラム以降だったように思う。彼はあのステージ以降、Alice Nineの音の中心をしっかりと守るべくリズムを、確実なテクニックと絶妙な空気感で守っている。Naoのカウントから幕を開けた「9th Revolver」では、Naoのドラムの元に5人の音の粒が集まっている景色を見た気がした。

〝(ライヴ終演後)いやぁ〜。やりきった。武道館までの間、練習しまくりますよ! やりたいことがたくさんあるんで! (でも、今日、一個残念だったのは、「TUBASA.」のいい所でスティック落としてたよね〜/笑)あ、そこ見えてた!? そうなんだよね〜、スティック上に高く投げてキャッチして次のフレーズに行くはずだったのに、ポロンって(笑)。武道館ではそういうことのないように、頑張りたいと思います! タイトなドラムプレイとタイトな体目指して頑張ります! ま、人生がツアーみたいなもんなんで、まだまだ俺のツアーは終わらないんで(笑)!〟(Nao)

この日の「Solar Eclipse」のライトハンドや「FOLLOW ME」での鮮やかなギターソロは、ヒロトという人間の生き様すら感じる感情が見えるギタープレイだ。彼はこの日、アンコールのラストに届けた「the beautiful name」の最後の音を発した後、ステージに仰向けになって動かなくなった。将の差し伸べた手に気づき、ステージを後にしたのだが、彼はその瞬間、気を失っていたと言う。

〝初めてステージの上で気を失った。自分でもびっくりしたもん。気づいたら倒れてて。意味が分かんなかった。出し切ったんだと思う。30本。バンドにとっては最多のツアーだったからね。でも早かった。でも、これで武道館に行ける自信がついたかなって思う。今まであったブレもあんまりなくなってきたと思うし、すごくいいツアーだったと思います。次は武道館で〟(ヒロト)

2011年1月6日日本武道館。

彼らは、私たちにどんなステージを見せてくれることになるのだろうか。

http://www.pscompany.co.jp/alicenine/

夢人

蝴蝶网
hudie.com

Virgin Snow Color
-2nd season-
もう一度、あの頃に戻って…

前号のインタビューで、4人でAYABIEを続けていくというところに至った経緯を話してくれた4人。しかし、まだ、その段階では発表出来ないことがあり、"10月22日にはもっと詳しいことが話せるし、見せられると思う"という言葉だけを残していた。そして、彼らはこの4人でのAYABIEのスタートとなった10月22日の渋谷O-EASTでの初ステージで、夢人をヴォーカリストとした新体制でライヴを届けたのだった。

――まずは。AYABIEとしての初ライヴでもあった10月22日の渋谷O-EASTでのライヴの感想から聞いてもいい?っていうか。泣くなよぉ～。(この日のライヴのラストで、タケヒト、インテツが号泣したのでありました)
タケヒト：インテツが泣くからぁ(笑)。
夢人：いやいや、確実にタケちゃんのが最初に泣いてたよ!
インテツ：そうだよ! 僕はタケヒトの涙につられて泣いちゃったんですから。

――え? ただのもらい涙?
KENZO：それはそれで安いな(笑)。
インテツ：いや。心からの涙でしたよ!

――大の大人の男が、あまりにも無防備に号泣するから、思わず笑っちゃったよ! 子供か!って突っ込み入れちゃったからね(笑)。いや、でも、冗談抜きで、それくらいの想いがあったんだろうなとは思ったけれども。
タケヒト：そうなんですよね。俺も泣くつもりなかったんですけど、夢人とKE

AYABIE

Photography:TAKEHIRO SUGANUMA
Interview:NAOKO TAKEICHI
Hair&Make-up:SHUKO OODAIRA
(問) http://www.d-n-l.jp/

NZOは、バンド活動が止まっている間、KYでステージに立っていたけど、俺とインテツはまったく人前に出てなかったですからね。本当に、〃ああ、戻ってこれたんだ……〃って思ったら、みんなの声が温かくて、泣かずにいられなくて。
インテツ：インテツも、あの日は、本当に久々にみんなの前でライヴ出来ることがとにかく嬉しかったんで、涙なんて全然って思ってたんですけど、タケヒトが泣いてるのみたら、グッときちゃって。
KENZO：結局もらい涙かよ（笑）！
インテツ：違うよ！ ま、きっかけはそうだけど（笑）。本当に待っててくれてありがとうって言いたいです。
KENZO：なんかあの日はね、変な緊張っていうか、あんまり味わったことのない言葉にしがたい感情があったんだよね。でも、やっぱ嬉しかった。純粋にね。いろんな感情が渦巻きながらのライヴだったこともあって、すごくいいライヴが出来たなと思う。
――あの日まで、夢人がヴォーカルになるってことはふせられていたけど。
夢人：うん。でも、なんとなくみんな想像してたみたいでしたけどね。僕は緊張しかなかった。あんなに緊張したの人生で初めてかも。
――ライヴの最後に、夢人がギターを高く掲げたのには、ファンへの心遣いを感じたよ。やっぱりギタリストとしての夢人を好きだった人もいただろうから。
夢人：うん。あの日のMCでも言ったんだけど、ヴォーカルをやることになったけど、必要なときはギター持って唄う事も出来る訳だし、ギターをもう弾きませんってことではないからね。そこは悲しまないでほしいなって気持ちで。でも、本当にあの日、あそこに集まってくれた人達には感謝してるし、あの日あそこに来れなかった人でも、応援してくれてる人達には本当に感謝してますね。そんな人達の期待を裏切らないためにも、頑張っていかなくちゃなって思ってます。
――あの日のセットリストは、12月1日にリリースする『Virgin Snow Color-2nd season-』とニュー・シングルのみで構成されていたんだよね。
夢人：そう。今回、このアルバムを作ろうっていう話になって選曲会やったときには、40曲くらい集まったんですよ。そこからみんなで出来上がりを想像しながら決めて作っていったんで、理想どうりのアルバムになりましたね。
――「Hi-Fi」「蜃気楼」「ピエロ」っていうのは、インディーズ時代の彩冷えるの色を色濃く感じる曲だよね。メジャーに行ってから封印されちゃった感のあった曲調だったなって感じた。
夢人：まさに、その3曲は僕の曲ですか

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

らね（笑）。わかってらっしゃる（笑）。まさしくそうなんですよね、メジャーに行ってから、こういうデジタル系の曲調ってあんまり選曲会でも通らなくなっちゃってて。だから、今回はおもいっきりそういう色を前面に出していこうってことになって、みんなで選んだんです。

――「temptation」は新しい。すごくいいと思う。こういうリズミックな曲が増えていったらいいのになって思った。

インテツ：嬉しいです！　これは僕の曲なんですけど、実はこの曲の原曲も一度メジャーの選曲会に出したんですけど、やっぱ、当時はプレゼンにもいきつけなかったんです……。でも、どうしてもやりたかったんですよね、こういう曲。

――歌モノの「冷たい手」がKENZO曲だってのにもびっくりしたけど。

KENZO：あははは。そう？　どうして？　俺っぽくない？

――今回のカラスのシングル「free」のカップリング「Mr.Shadow」がKENZO曲で、インダストリアルなロックでもあったから、それはそれでそういうKENZO曲を聴くのが初めてだったこともあり驚いたんだけど、KENZOのルーツから言えば、そっち系の音を作る方が自然だなって思ったから、また一変してこういうバラード作ってくると驚きで。

KENZO：まぁね（笑）。たしかに。真逆だからね。でも、これはAYABIEの曲っていうのをすごく意識して書いた曲でもあったからね。この曲、ギターとかめちゃめちゃシブくない（笑）？

――びっくりした。タケヒト顔で弾いてるよね。

タケヒト：あははは。そうそう、顔で弾きましたもん（笑）。泣きのギターソロ。オッサンになって弾きましたね。

KENZO：ブルース色全開！　相当いいよ。泣ける。歌もいいしね。

夢人：めっちゃ入って歌った（笑）。

――(笑)。インストは誰がつくったの？　すごく光を感じる曲だよね。

インテツ：インストはインテツが作りました。前の「Virgin Snow Color」の時も、インストはインテツが作ったので、今回も、幕開けの曲が欲しいなと思いまして、アルバムの曲が全部決まって、タイトルも決まった段階で、全体をイメージしてピアノで作ってみたんです。もう一度、あの頃の気持ちになって、新たに一歩を踏み出そうという意味も込められた1曲になっています。

――「Virgin Snow Color」といえば、夢人が加入する前のギタリストの涼平が脱退した後、新たなスタートを切るために新曲ばかりで作った、まさに再スタートアルバムでもあったもんね。

蝴蝶网
hudie.com

タケヒト：そう。前の方が必死だった（笑）。とにかく、僕もインテツも曲作ったことなかったですからね（笑）。今回みたいに選べる余裕すらなくて。作ったモノを入れるので精一杯だったんですよ。でも、それきっかけで、みんなそれぞれが曲作るようになったこともあって、今回は、それぞれの個性が本当に出た曲になってると思いますね。

KENZO：人生に無駄はないってことだね、ようするに。

——そうだね。個性ももちろんのこと、それぞれの性格が出てるよね、曲に。

インテツ：あ、その言い方的確かも！ ホントそうですよね！ タケヒトは、ラスト曲の「STAR PLAYER」を作ってくれたんですけど、みんなで曲出しして、〝こういう曲も欲しいね〟っていう話になって、タケヒトが作ってきてくれたんです。すごくタケヒトっぽい曲だと思う。

タケヒト：KENZOがバラード作るって言ってたし、夢人はおもいっきり夢人らしい曲を持ってきてたし、インテツはインテツでとにかくやりたいことを形にした曲を作ってたことも見えてたんで、みんなが作りそうにない曲をあえて作ってったんですよ。

——そういう役割りを買って出るところもタケヒトっぽいもんね（笑）。

インテツ：そうなんですよ（笑）。

KENZO：そんなとこも含め、この4人らしさが思いっきり出せた1枚になったんじゃないかなって思うんで、早くみんなに聴かせたいね。

——そうだね。今までの彩冷えるの曲は、今後もやっていくの？

夢人：それはもうやらないです。否定してる訳じゃないんですよ、今までを。でも、彩冷えるでありながらも、やはり、ここからは新しいAYABIEとして頑張ってやっていこうと思っているので、いろんな意味で、いろんなことを大事に考える上で、そういう方向で進んでいくことにしたんです。1からやっていきたいなっていう考えで。

インテツ：これからの自分たちの楽曲でやっていけたらなって思うんです。昔の曲を聴きたいっていう子も居るとは思うけど、やっぱり、いろんな想いが蘇ってきちゃうと思うので。今までの曲は音源で大事に聴いてもらえたら嬉しいなって思いますね。

KENZO：このアルバムを引っさげたツアーも12月から控えてることだし、まずはそこをしっかりと届けることかな。待っててくれてる人もいると思うし、心配かけちゃったからね。

タケヒト：とにかく今は、早くライヴしたいかな。なので、アルバム聴いて、待っててほしいですね。

蝴蝶网
hudie.com

THE KIDDIE

BRAVE NEW WORLD

蝴蝶网
hudie.com

広がる世界

7月14日に「smile.」で、念願のメジャー・デビューを果たしたTHE KIDDIE。彼らは、その2ヶ月後、2ndシングル「Calling」を放った。すぐにでも口ずさめるようなキャッチーな歌メロが持ち味の彼ら。その個性が、存分に活かされたシングルたちのリリースは、THE KIDDIEというバンドの色を、多くの人に印象づけることとなっただろう。そして、11月24日。彼らは待望の1stアルバム『BRAVE NEW WORLD』をリリースする。

Photography:TAKEHIRO SUGANUMA
Interview:NAOKO TAKEICHI
Hair&Make-up:SHUKO OODAIRA

——完成しましたね、1stアルバム。

揺紗：しましたよ！ やっとですよ！ ウチら、アルバムって初なんで。

ユウダイ：音源自体は、けっこうたくさん出してるから、そんな印象ないかもしれないんですけど、フル・アルバムって初なんです。3月24日にリリースした『SINGLE COLLECTION』しか出してないんですよ、アルバムという形の音源は。だから、今回凄く新鮮で。バンドやり始め的な感覚で挑めたんですよね。

佑聖：最初、やりたいことをそれぞれが持ち寄った感じだったんで、"これ、1枚にちゃんとまとまるかな？"って思うほど、いろんな曲調があって、心配になったくらいだったんですよ。でも、不思議と、こうして完成してみたら、すごく流れのいい1枚になりましたね。

——この13曲（ボーナストラックを含む）に絞り込んでいったポイントは？

佑聖：アルバムなんで、今までシングルではやってこなかったような新しいTHE KIDDIEも見せていけたらなっていうことと、やっぱりTHE KIDDIEらしいねっていうところの両方を意識して選んでいった感じですね。

そらお：最初は、まったく最終形が見えてなかったんですよ。本当にまっさらな状態だったんです。とにかくいい曲って思ってもらえる曲をどんどん録っていこうってことになって。最初に、絶対にこの曲は入れようってみんなの意見が一致したのは、このアルバムのリード曲でもある「STEADY」だったんです。後半になって、バラード欲しいねってことになり、ツアーを挟んで、佑聖くんが持ってきてレコーディングしたモノもあったり。それが、11曲目の「LOVE」です。

蝴蝶网
hudie.com

――「LOVE」は、アコギから始まる究極のバラードだよね。ありそうでなかったよね、こういう曲。
そらお：そうなんですよ！ 自分たち的にも、今までやっていなかったことが嘘みたいに、しっくりとハマりましたね。
佑聖：「LOVE」は自分的にも冒険曲になりましたね。ここまでアコギを弾き倒したことがなかったんで、新境地でした。これをライヴでやるのも冒険だな～。
淳：本当に、アルバムが初めてだったこともあって、いろんなことに挑戦出来たんで、すごく新鮮でしたね。僕は、アルバムの全体像が見えて、客観的に見れるようになったのはミックスの時でしたもん（笑）。それまでは、1曲1曲を、最大限にいい曲にしようっ

なくて。でも、それもあったおかげで、アルバムとしてももちろん、1曲1曲を大事に聴いてもらえる1枚になったんじゃないかなと。
揺紗：この3年間やってきたことを、この1枚に収めたいっていう想いで向き合ったから、こういうアルバムが出来たのかなって思うんですよね。最初から決め込んでやってたら、もっとちっちゃくまとまっちゃってたと思うから。そういう意味では、すごく自由に出来ましたね。自分たちも改めてTHE KIDDIEっていうバンドの出来ることを知れたというか。ゴールを決めずに突進んだ結果、いいモノが生み出せたって感じでしたね。
――私が新しいと感じたのは、ユウダイ作曲の「白鯨」。すごい世界観が好きだったな。ゆったりの流れる空気を感じた。揺紗の歌もゆっくり流れる感じだったし。
ユウダイ：ずっとこういう曲やりたかったんですよ。原曲は、結成してすぐくらいに作ったんです。その頃から、4割りくらいは出来てたんですけど、シングル曲に収める曲でもないかなって、思ってて。で、やっと、今回アルバムの中に入れられたって感じだったんです。
そらお：僕もこの曲好きです。佑聖くんが、鯨の鳴き声みたいな音を差し込んできたときには、相当きましたね。あの音はこの曲の肝になってると思います。
佑聖：ちなみに、あの音はギターでやりました。結構景色が見える効果が出せたと思います。ちなみに、あの音は、すり減ったピックを使うと出やすいです。
――ギターソロの丸みのある音色もいいよね。最近、佑聖のギター深みがある。
佑聖：まさに、そこ目指してます！ そこ、今年の収穫でもあるんですよ。ギタリストだったエンジニアさんがついてくれたときに、"佑聖くんは、もっとエモーショナルなギターを弾いた方がいいよ"って言われたこともあり、すごく頑張ったんです！ 今回のアルバムでは、そんな空気感を演出するようなギターを弾けたとこも、自分的には満足してます。
揺紗：歌詞と歌では、デッカイものがゆっくり進んでいく感じにしたかったんです。白鯨って、男のロマンって感じするし、そんなイメージを歌詞に詰

BRAVE NEW WORLD

THE KIDDIE

いく姿勢こそが、大事なんだってことを描いてますね。

――ゆったりと流れる「白鯨」の前に、ハードな曲調が置かれていることも意外だった。「嵐の夜」は淳くん作曲だけど。

淳：はい。テンポが速い曲でもあるから、何処に置くか迷ったんですよ。でも、アルバムの中でのメリハリになればいいなって思った曲なんで、「白鯨」の前にこの曲を置いたことで、より速さが際立ったんじゃないかと思います。

――この曲は歌詞も淳くんなんだよね?

淳：はい。歌詞は苦労しましたね。夢や目標を手にするには、自分から飛び込んでいかないと手に入らないよっていうことを、普段はあまり使わないような言葉を使って組み立ててみました。ちょっと歪んでる視点が特徴的かなって思います。

揺紗：淳くんから歌詞に込めた想いを聞いて、そこに気持ちを沿わせて歌ったんです。歌詞が曲の雰囲気に合ってたんで、入り込めましたね。

そらお：この曲は本当に速かったですね。サビは結構フレーズ詰め込んでるんで、レコーディングがかなり大変でした。でも、この曲を最初に聴いたときから、とにかくフレーズを入れまくりたいと思った曲だったんで、その思いを貫きました。ライヴで楽しめそうな曲ですね。

ユウダイ：ちょっと雲行きが怪しい感じの独特な空気感や、シンセベースが入ってる音色が肝になった曲だと思いますね。この曲も、キャッチーな歌メロのシングル曲とかとも、いい対比になってて面白いんじゃないかなと思います。

佑聖：ソリッドな印象なんですけど、軽くしたくなくて、バッキングのギターでちょっとゴリッと感を出しました。リフをバックにギターソロがあるっていう、贅沢なギターソロが聴き所です! ソロバックのリフが相当カッコイイんで、是非、じっくり聴いてほしいです!

――揺紗曲の「プラズマ」も新たな一面を感じた骨太なロックだったなと。

揺紗：うん。この曲は自分的にも冒険出来た気がする。こういう曲って、今まで自分の中であえて避けて来た曲でもあったんですよ。やりたかった曲なんだけど、THE KIDDIEの曲としてシングルとしてリリースするのは違うんじゃないかなって思ってた1曲でもあったんですよ。アルバムだからこそ入れられた1曲だったと思います。

佑聖：この曲のギターはTHE KIDDIEの曲の中で一番男らしいギターだと思いますね。ユニゾンのリフがすごく気持ちいいし、テンポ感も好きです。

淳：単音の音選びとか、フレーズ作りにこだわった1曲でもありました。サビのコーラスが熱い1曲かなと。新しいTHE KIDDIEだと思います。

ユウダイ：恩田さんから、"LAメタルっぽい音色にしてみたら?"っていうアドバイスをもらったことで、さらにイメージが変化した1曲でもありましたね。

そらお：個人的に、イントロのドラムがすごいカッコイイと思います。僕的に発見があったのは、「エス・オー・エス」。歌詞と曲のハマりが最高に好きだったのもあったんですが、レコーディングをしたときは、収録されている完成型よりも半音高かったんですよ。でも、全部オケを録り終わってから、恩田さんが、"この曲は半音下げた方が、曲の雰囲気がもっとよくなるよ"っていうアドバイスをくれて、半音下げたんです。そうしたら本当にすごく良くなって。感動しました。

――すごいミラクルがあったんだね。

淳：僕は、初回盤の8曲目に入るボーナストラックの「マイガール」が気に入ってますね。好きな曲調だったこともあって、自分がやってみたかったノリを出せたんで、一押し曲ですね。ちょっと可愛い感じの歌詞も気に入ってます。

揺紗：歌詞は、ちっちゃい女の子がモジモジしてる感じが出したかったんです。どうしてもアルバム本編のラストは「Flash」でしめたかったので、8曲目にあえて差し込んだんですけど、シャッフルの曲なので、ノリも含め、ここに入れて特別感出すのも良かったと思います。12月11日から初のアルバムを引っさげてのツアーが始まるので楽しみです。きっと今までとは違ったライヴになると思うので、ぜひ遊びに来て下さい!

(問)〒162-0831東京都新宿区横寺町32 TR[illegible]Bld
☎03-3268-8804(平日12～18時) http://kiddie.jp

蝴蝶网
hudie.com

Lc5

TORY 本音を吐き出しています

年9月15日。Lc5は「Loveless」でデビューした。
だけのバンドには絶対したくない"というのが
ド作りの軸にあったという「Loveless」は、
言葉どおり、実にドラマティックな楽曲であった。
シングルで全てを語ろうとするのは実に困難なことである。
れる2枚目のシングル。
2枚目のシングルに、「STORY」を選んだ意味を訊いた。

:NAOKO TAKEICHI

―デビュー曲「Loveless」は、女性目線で描かれた、実にドラマティックなロストラブソングだったけど、今回も、男性目線で描かれたロストラブソングっていう共通点があったりするよね？

miku：ですね。前作との繋がりを意識して書いた訳じゃないんだけど、恋愛カテゴリーの曲の中で、女性目線の歌詞と男性目線の歌詞があっても面白いんじゃないかなって思って書いた歌詞ですね。男の人って、弱みを人にあんまり見せないと思うんですよ。でも、この歌詞では本音を吐き出してるんです。本当はこんなふうに思っているんだよっていうことが伝わってくれたらいいかなと。

―なるほどね。すごく赤裸裸だもんね。

miku：そう。「Loveless」もそうだったんですけど、Lc5の楽曲の軸となるところに、〝切ないメロディー〟というのもあるので、今回も、そんな切ないメロに引き出された感はありましたね。

―ドラマティックな楽曲だからね。

miku：今回はバラードってこともあって、「Loveless」以上に切なさが入ってくるメロディーなんで。まだシングルも2枚目だし、バラードは早いんじゃないかって思ったんだけど、Lc5的には早くみんなに見せていきたかった一面でもあるので、今回、この曲を2枚目のシングルにすることにしたんです。

―「STORY」も「Loveless」と同じく、

あったモノが出てきたと思います。原曲は随分昔に作ったモノなんですけど、作ったときは、とにかくドバラードで、自分でも泣けちゃうくらいのモノを作ろうって思って作ったんです。とにかく切ない曲を作りたくて、鍵盤で作ったんですよ。

―低音がメロを支えてて、ギターが泣いてる感じがすごくいいよね。アウトロの長めの泣きのギターもすごくいい。

Aki：そうですね。極端なこと言ったら、ピアノとヴォーカルだけでも成立しちゃうくらいのアレンジでも良かったんですけど、そこはやっぱバンドである以上、バンドで表現したいなと思い、いろいろと試行錯誤しましたね。

Sato：導入部のAメロは静かな水面に水滴をポチャッて落とすようなイメージでそっと入ってきて、Bメロからだんだんと心情が高まっていくっていう雰囲気を出すように演奏しました。〝ここのフレーズがどうこう〟とかっていうんじゃなく、全体の曲の流れをイメージしながら、全員で音を重ねていきましたね。

Reo：サウンド面ではそんなに難しいことはやっていないんですが、音ひとつひとつの響きだったりを考えましたね。音色にもすごくこだわりましたね。

夢時：この曲は、フレーズよりも音色作りに時間をかけましたね。ライヴではアウトロの後半に行くにつれ、だんだん音が厚みを増して熱を持っていく感じでやっているんですけど、音源では泣き全開になりましたね。

Aki：アウトロでは、ぜひとも余韻に浸ってほしいよね。

夢時：そう。俺の勝手な解釈でもあるんですけど、mikuの描いたこの曲の主人公って、ちょっと不器用なヤツだと思うんですよ。そんな彼の心情を、アウトロで表現したかったんです。だから、そこの音色はナチュラルにしたんです。

miku：歌い方も、ライヴとはちょっと違いますね。ステージだと後ろのめりで歌う癖があるんですけど、レコーディングでは、もっと強く、前に出る感じで歌いました。だから、結構音源とライヴ

蝴蝶网
hudie.com

では印象が違うと思いますね。

——「Deeper Than Fate」は、mikuのファルセットが自然に入る曲だね。

miku：そこは後からアレンジで入れたんですよ。全体的には、最初っから最後まで全力疾走する感じで歌いましたね。

——この曲は、夢時作曲ですが。

夢時：原曲は今から5年前に作ったモノなんですよ。自分でストックしてあるデモ集の中にあった曲で、こんなのどうかなってみんなに聴かせたんですよ。ドライブしてる感じがLc5っぽいなって思ったんで、持っていって、みんなに聴いてもらったんです。

——展開の多い曲だよね。

夢時：ですね。1つのシーンだけで進んでいってしまうと、つまらない曲になっちゃうんで、ギターのコード展開でシーンを切り換えていこうって考えて作った曲でもありましたからね。

Reo：自分的には、この曲ではとにかく疾走感を大事にしようって意識しました。ギターソロは夢時くんが弾いてくれているんですが、俺もバッキングでいい厚みを加えられるようにアプローチして。バッキングが1本なのもこの曲の特徴かなって思いますね。

Sato：これもライヴでは定番曲なので、とにかく勢い重視でライヴそのものな感じをぶつけたって感じでしたね。個人的にはすごく得意な感じです。

Aki：まさに、ストレートロックな感じなんで、あえて、なるべく抑揚を付けない感じで叩きましたね。とにかく疾走感が命の曲なので、そこを意識しましたね。シンプルに一直線に突っ走るドラムを感じてもらえたら嬉しいです。

——でも、「Deeper～」そんなに昔からあった曲だったのは意外かも。逆に、Lc5を意識して作られた楽曲なのかと思ったくらいLc5っぽさを感じた1曲だったんで。3曲目の「DIRTY STAR」の方が、夢時の音楽ルーツを感じたから夢時のストック曲なのかと。

夢時：おぉ～、なるほど！　たしかに、「Deeper Than Fate」は、みんなで原曲を揉んだんですよ。それもあって、Lc5っぽさが濃くなったんだと思いますね。たしかに、「DIRTY STAR」の方は、俺のルーツが色濃く出てるのかも（笑）。

——だよね（笑）。ギターのフレーズとか音色とか、アームの使い方とか、至る所に、ストレイ・キャッツをルーツとする夢時の、ロカビリーを感じるんだよね。

夢時：あはは（笑）。でも、すっごい嬉しいですね、そう感じてもらえたのって。原曲は、もっと泥臭い感じなんで、これはないかな～って思ってたんですけど、みんながやろうって言ってくれて。けど、どこまでシブさを残すかを悩みましたね。

Aki：結構テンポ感を考えましたね。

たんで、フレーズがすごくたくさん浮かんできて、何パターンも考えて持っていったくらいだったんですよ。その中から一番オイシイとこをピックアップして使いましたね。

——イントロのルーズな感じから、ドラムが畳み掛けていって本編に流れ込んでいく感じがすごくいいよね。

miku：そう！　こういう曲やりたかったの！って感じの曲でしたね。メロディーラインもすごく好きだったし。自分的にはそこまでアンダーグラウンドな世界だとは思わないんだけど、ちょっとそっちの臭いもしつつ、ちゃんとポピュラリティーもあるとこが気に入ってます。

Sato：個人的にはオールドのオルガンの音が気に入ってますね。ベース的には、ライヴとは違ったフレーズでレコーディングしたんです。こういう曲ってベースが肝になると思ったので、必死で、終始オヤジを自分に憑依させながら頑張って艶っぽいベースを弾きました（笑）。曲の持ってる臭いを、俺のフィルターを通して表現したって感じですね。

Aki：俺の中にこういうアダルトな感じがなかったんで、いろいろと考えて叩きましたね。自分らしさを貫くというより、曲に自分のドラムを合わせるように叩いたので、新しい挑戦曲でもありましたね。

——「DIRTY STAR」は歌詞も夢時なんだよね？

夢時：そうなんですよ。10代の頃に作った曲でもあるんで、歌詞も10代の頃に書いたモノなんです。だから、今見ると、若いなって思うところもあるんですけど、そこもあえて活かしたんです。

miku：自分以外の人が書いた歌詞を歌ったことがあんまりないから、言葉使いとかがすごく新鮮で楽しかった。絶対に自分じゃ使わない言葉が出て来るから、歌ってても楽しいんですよね。歌詞を伝えるというより、自分も楽器になったつもりで粘っこく歌いましたね（笑）。

夢時：mikuくん、こんな歌い方も出来るんだなぁ～って思っちゃったんですよね。すごく自分の歌にしてくれているんで。この曲をやったことで、Lc5の振り幅が広がったんじゃないかなって思いますね。ライヴで聴いてもらえるとまた違うと思うので、ぜひ、ライヴにも足を運んでくれたらなと思います。

(問)株式会社 ソニー・ミュージック アーティスツ
〒150-8518 東京都渋谷区神宮前3-1-30 コンセプト青山4F
http://www.lc5.jp/

蝴蝶网 hudie.com

7日に「カレンデュラ レクイエム」ビューした謎のユニットkanon×、デビュー曲は10月14日からフジビにてオンエアされているアニメ组のオープニングテーマとなっていたから、もう耳にしている人も多いだろう。しかし、その存在を目にして人は少ないだろう。
はそんなkanon×kanonのインタに成功した！ 果たして、kanon×の正体とは!?

:NAOKO TAKEICHI

kanon×kanon

カレンデュラ レクイエム

——今日はkanon×kanonに会えるというので楽しみにしてきましたよ。実在する人物だったんですね！

kanon♂：えぇ、今日はちょっと2.5次元から遊びに来てたんで。ちょうど取材があるんっていうんで、覗いてみようかなと思ってやってきたんです。

kanon♀：よろしくお願いします。

——こちらこそ。どこかでお会いしたような……。

kanon♂：気のせいですよ（笑）。

——あ、そうです？ チェロを弾きながら歌う分島花音ちゃんと、アンティック-珈琲店-のベーシストのカノンに果てしなく似てるんですよね。

kanon♀：花音ちゃんとは知り合いですよ（笑）。限りなく近い別人です（笑）。

kanon♂：僕もアンカフェのカノンさんとは知り合いですよ（笑）。今回の企画も、カノンさんが手掛けている『STUDIO blue・3』（アンカフェのカノンによって作られたプロジェクト）に関わってもらっているんですよ。カノンさんが、〝2人ともカノンとカノンなら、kanon×kanonでいいんじゃない？ デビューしてみたら〟って。飲み屋的なノリで、今回kanon×kanonという形で活動することになったんです。僕たち、2.5次元の住人なんで。2.5次元で結成されて、2.5次元で活動してるユニットなんですよ。で、たまに3次元に来るって感じなんです。

——そういうていか……。

kanon♂：いやいやいや、〝てい〟じゃなくて、そうなんです（笑）。

——あ、なるほど、失礼（笑）。

kanon♂：アンカフェのカノンさんとは2.5次元で会ってて。kanon♀ちゃんと出逢う前から、kanon♀ちゃんとは2.5次元で会ってて。〝あ、なんかこの子、同じ波形を感じるぞ！〟と思って話してみたところ、やっぱオタクで（笑）。で、意気投合して一緒に音楽やってみようってことになったんです。

kanon♀：時々3次元に来るので、カノンさんとはその時に初めて出逢ったんです。存在とお名前は存じ上げていたんですが、直接お会いする機会が今までなかったので。でも、分島花音ちゃんとカノンさんは、あるイベントでご一緒する機会がありまして…。

kanon♂：kanon♀ちゃんは意識的にオタクっていうよりは、聴いてきたモノの中にアニメの楽曲が自然と多く……感じなんですよね。

蝴蝶网
hudie.com

もあり、子供が生まれたらチェロを習わそうって思っていたらしく、3歳の頃からチェロをやっているんです。だから、ずっとクラシックで育ってきて。

――だから自然とクラシック要素のある楽曲が生まれてくるんですね。

kanon♀：そうかもしれないですね。

kanon♂：チェロの音色ってロックサウンドとすごく相性がいいんですよ。

――そうだよね。アポカリプティカっていう北欧のメタルバンドは、チェロ3本とドラムっていう構成みたいだからね。

kanon♂：へぇ～、それカッコ良さそう！

kanon♀：寒い地方のメタルって、弦とロックサウンドの融合が多いですよね。あれって、なんでなんでしょうね？

kanon♂：なんででしょうね？

――なんででしょうね？　ところで。

ように作られていったの？

kanon♂：アニメ『屍鬼』のオープニングテーマ曲を探しているというのを耳にし、コンペに出してみることにしたんです。

kanon：曲はkanon♂さんが書いて下さったんですが、そこからいろいろと世界観を広げていく感じで作り上げていったんです。

kanon♂：kanon♀さんには主に歌詞を担当してもらったんです。

――曲歌詞共に才能を感じましたよ。

kanon♂：どうもどうも。でも、ぶっちゃけ、絞り出しちゃったかなって感じなんですけどね、すでに（笑）。

編集担当者：え!?　まだ一作目なのに！　一発屋!?

一同：（爆笑）。

kanon♂：そうならないように頑張って絞り出してみますよ、今後も（笑）。

――短めのゴシック色満載なイントロの印象だと、洋楽的なゴシック曲なの

イストが入ってくる面白い構成だよね。

kanon♀：はい。アニメの内容に沿って、和っぽい要素を入れて作ったんです。

kanon♂：和っぽい要素は、編曲の段階で出していった感じでしたね。元々のデモは、昔に作ったモノだったんですけど、結果、デモの原型はまったくなくなって別の曲になっていったっていう経緯があるんですけどね（笑）。でも、結果的に、思い描いた通りの世界観が描けたと思ってますね。何かのタイアップを元に曲を作るというのは、そうそうない経験だったんで、すごく楽しかったですね。オケは基本、打込みで作っていきました。

kanon♀：歌詞も同じく、このアニメのためだけに書くという書き方は初めてだったので新鮮でした。漢字を多めに使うことを意識したり、『屍鬼』には主人公がいないストーリーなので、一人称の言葉は使わず、全体をイメージして書いていったんです。

kanon♂：歌詞に関しては、まったく直す必要がなかったですね。思い描いていた通りの世界を描いてくれたので。

――生弦の優美な印象の中、ギターの荒っぽいフレーズが目立っていたりもして。

kanon♂：そこの部分が、楽曲の中で一番暗い部分だし、作品の旋律が引き立てられているところかなと思いますね。

――ギターはkanon♂さんが担当していらっしゃいますが。ギター弾けたんですね。

kanon♂：ええ一応、コードくらいは。

――そんなkanon♂さんのギタープレイはPVでも見れる訳ですが、PVも独特な世界観ですよね。

kanon♂：ですね。PV監督に楽曲を聴いてもらって、イメージを膨らませてもらったんです。やっぱり2.5次元なので、途中、絵だけになるところもあったりして、なかなか不思議な世界観が描けたんじゃないかなと。CGを使った変な世界を体感してもらえると思いますね。

――PVの始まりだけ3次元っぽいけど。あれはkanon♀ちゃん？

kanon♀：あ、あれは花音ちゃんです（笑）。あそこの部分だけ友情出演してもらったんです。

――2曲目の「ザ・ドールハウス」は？

kanon♀：この曲は作詞作曲が私なので、kanon♂さんには監修と

2.5次元から現れた、新生ユニット

いう形で参加して頂きました。「カレンデュラ～」の方が和テイストだったので、こっちは洋風なポップなホラーにしたかったので、テンポもリズミカルにしたんです。

kanon♂：この曲聴いたとき、すっごい上がりましたね。〝そうそう、俺もこういう曲作りたいって思ってた！〟って（笑）。でも、自分では作れない曲調だったんで、すごく羨ましかったですね。

kanon♀：本当は、kanon♂さんにコーラスで参加してほしかったんですが、放送事故が起こってしまって（笑）。

――放送事故!?

kanon♀：はい（笑）。録るには録ったんですが、使えないといいますか……。

kanon♂：それ自体が放送事故だったんです（笑）。監修という立場として入れる訳にはいかないかったですね（笑）。

kanon♀：あははは。この曲は洋風のお化け屋敷的なイメージを曲にしたかったんです。明るいホラー観が伝わってくれたら嬉しいですね。

――なるほど。そして。「ウミガメスープ」は、カヴァー曲なんだって？

kanon♀：はい。私が個人的に大好きで尊敬している歌手の方で、谷山浩子さんっていう方の曲のカヴァーなんです。

――アニメ『屍鬼』とは関係ないの？

kanon♂：そ・れ・が！　あるんですよ！

kanon♀：そうなんです。すごい偶然が重なったんです。原作の『屍鬼』の中でスープを作るシーンがあるんですけど、その場面で、この曲が歌われていたんです。で、〝あ、これ、谷山さんの歌だ！〟と思って、ダメ元で、カヴァーしたいってお願いしたんです。そしたらOKして下さって。今回歌わせて頂けることになったんです。

kanon♂：3曲のバランスがとても素敵になったんじゃないかなって思います。

kanon♂：今後は、3次元に遊びに来る機会を多くして、曲が溜まったらライヴもしていけたらいいなと思いますね。

kanon♀：私もライヴとか出来ればいいなと思っています。じゃないと……。

――じゃないと!?

kanon♀：SHOXXさんには、綺麗な男の方がたくさん載っているので、私……男の人だって思われるんじゃないかって不安で……。

――（笑）。じゃぁ、そんな誤解を解くためにも、早くライヴを見せて下さいね。

kanon♂：一発屋にならないためにもね（笑）。

kanon♀：よろしくお願いします！

葵 from 彩冷える
Surrender Love

が“葵 from 彩冷える”として、ソロプロジェクトを開始したのは今
06月のこと。9月に1stシングル「MI DA RA」をリリースし、その
プリングは『ジェムケリー』のCMソングにもなり、多くの人が彼
存在を知ることとなった。11月24日にリリースされるシングル曲
rrender Love」も、『ジェムケリー』のCMソングでありながら、テ
東京系ドラマ『嬢王3～Special Edition～』の主題歌となっている。

iew:NAOKO TAKEICHI

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

“葵”という人間の個性が色濃く出ていると思う。

なる訳だよね？

「そうですね。今回で2枚目です」

——葵 from 彩冷えるとしてのコンセプトってあったりするの？

「最初にリリースしたのは9月だったので、バンドありきのソロ・ワークだったんですよね。その頃は、バンドでは出来ないことをチャレンジする場所にしようと思っていたんです。出来るだけ自分の中に無いモノにチャレンジして、バンドに還元しようと思ってて。でも、今回はバンドありきのソロ・ワークというところではなくなってしまったので、少し、1枚目とは自分の中の気持ちが違っているんです。彩冷えるという、現状僕1人になっている彩冷えると、葵 from. 彩冷えるというソロ・ワークとがあるので、見え方的に、そこの差別化はどうなっているんだろう？って思われると思うんですが、やはり、今の状況的には、自分にはない新しいところにチャレンジするというよりも、逆に、自分らしいところを見せていけたらいいなっていうところだったりするんです。

「そうです、そうです。そもそも、最初から、ソロだけでやろうとは思っていなかったので、バンドありきでのソロ・ワークというスタイルしか考えていなかったから、正直、ソロでこういうことをやっていこうとかっていうヴィジョンはまったく見えてないんです。変な話なんですけど、これからそれを見つけていくっていう感じっていうんですかね。もちろん、ずっと歌っていきたいと思っているので、この先、こういう曲が歌っていけたらいいなっていうのを強く思うようになるのかもしれないんですけど、今は、お芝居や声優など、いろんな経験をさせて頂いている中で、自分らしくありながらも、もっと自分らしい歌に出逢えていけたらいいなと思っているんです」

——なるほどね。でも、純粋に2枚のシングルを聴いて思うのは、懐かしいメロというか、昔の歌謡曲っぽい艶っぽさを葵 from 彩冷えるの歌には感じるんだよね。もはや、葵 from 彩冷えるの個性のひとつであるように感じたというか。

「あ、そう感じてもらえたのは嬉しかっ

は、やはり作曲者の想いも考えて歌詞を書いていたし、彩冷えるというバンドらしさも常に考えて歌詞を書いてきていたんですけど、ソロで歌う場では、自分が思った曲が来ても、何も考えず、どんなままに歌詞を乗せているのもあるのかもしれないですね。曲も、自分で作るモノもあれば、作曲家さんに作ってもらったモノを選ばせてもらう時もあるんですが、選ぶ時も、何も考えず、タイアップにあった曲調を選んで歌詞を乗せたり、歌いたい曲に自分の思ったままの言葉を乗せて歌詞を書いていたりするので、そこで自然と葵という人間の個性が出てるのかもしれないですね」

——なるほど。今回の楽曲たちはどういう基準で選曲したの？

「今の自分が歌いたい曲っていう感じで選びましたね。内1曲は僕の作曲なので、それを除いては。「Surrender Love」は最初、原曲はもっとスパニッシュ系の曲調だったんですけど、メロがすごく良くて気に入ったので、そこから、変化させていったんです。『嬢王3～Special Edition～』の主題歌になるっていうことも決まっていたこともあって、そのドラマの雰囲気に合うように編曲してもらって、艶っぽく、キラキラしてる感じに仕上げていったんです。そこから歌詞を乗せていったんです。歌詞はそこまでドラマのストーリーに沿わせてはいないんですが、男女の色恋沙汰なイメージだけは取り入れてみたんです。」

——だいたい男子が浮気をするモノだと女子は思っているんだけど（笑）、この歌詞では逆だよね。切ない男心を描いてて。あ、男の子もこんなふうに思うんだ！って思うっていう。

「そうです、そうです（笑）。そういうふうに女子に思ってもらえたら嬉しいですね。男の子も、ちゃんと見てるんだよ、切なくなってるんだよってところを、感じ取ってもらえたら嬉しいですね」

——この曲では土屋昌巳さんがギターを弾いてくれているんだって？

「そうなんですよ。すごい先輩でもある偉大な方なんですが、ゲスト・ミュージシャンとして弾いて頂きたいなと思い、お願いしたところ、とても快く引き受け

たね。もちろん、ギターもすごく個性的で、深みがあるんですよね。この曲にピッタリのシブさもある艶っぽいギターを弾いて頂けて感謝してますね。」

——カップリングの「恋文」は葵くん作詞作曲だけど。

「はい。この曲は、実は「Surrender Love」と繋がっていたりするんです。「Surrender Love」の方は言いたいことを、言おうと思えば言える距離にいながら言えない関係を歌っているのに対し、「恋文」の方では、少し昔の時代の恋を描いているんです。イメージとしては、大奥のイメージだったんですよね。自由な恋が許されていない時代の切なさを描いたんです」

——だから「恋文」は和っぽいメロであり、琴の音が入っているんだね。

「はい。置かれる時代背景によって、恋も全く違うという。この曲はBS11で放送している、僕も声優をやらせてもらってる『月刊コミックTV「あやはとり召喚帖」』のテーマ曲でもあるので、そのアニメが和だったこともあって、ジャパネスクなテイストを盛り込んで作った1曲でしたね。」

——「願い」は、すごく歌詞に深い意味を感じたというか。葵くんが今、一番伝えたいことが詰まった1曲なんじゃないかなって。

「はい。完全にそうですね。ファンの人に向けてのメッセージ・ソングになってます。僕的に、ちゃんと筋を通した活動をしていきたいと思っていて、今、ファン・ミーティングという形で、出来るかぎり全国を廻って、みんなに会いに行っているんです（取材は、10月下旬に行われました）。全国10カ所でやったんですけど、とにかく、今までの〝ありがとう〟と〝ごめんね〟を直接伝えたくて。それと、〝これからもよろしくね〟も直接伝えたくて。ソロ曲はもちろんなんですけど、彩冷えるの曲も一人で歌って届けてきたんです。本当は、彩冷えるの方は、5人で最後一緒に音と歌を届けられたら良かったんですけど、それが叶わなかったので、4人の音をバックに流しながら、一人で歌って届けるっていう、すごい寂しい絵図らなんですけど、でも、やっぱ

んで。やっぱり直接伝えるのが一番だなって思ったんですよね。それで、この曲を作ったんです。

——普通に恋愛の曲にも聴こえるんだけれど、ファンの人への気持ちなんだろうなって思った。あと、4人に対しての気持ちでもあるのかなってね。それと、5人であった彩冷えるへの想い…というかね。

「そのとおりですね。僕の中ではとても大切な1曲になってます」

——歌で届けるのが一番伝わるんだと思う。話すよりも、書くよりもね。

「そうなんですよね。でも、もちろん、こうやってインタビューをしてもらって、原稿にしてもらうのも、まっすぐに伝えられる場所であって、すごく感謝しているんですけど、やっぱり、ミュージシャンである以上、歌い手である以上は、歌で届けたいなっていう想いは強いんですよね」

——そうだろうね。アンプラグドで始まっていく感じとかも、すごくシンプルで、そのままの感情が歌から伝わってきた1曲だと思うよ。「youth」は？

「「youth」は、ライヴ感を意識した1曲ですね。歌詞に込めたメッセージは、自分に対しても言えることなんですが、20代を過ぎると、現実と夢を天秤にかけてしまう瞬間ってあると思うんです。現実を見るあまり、夢を諦めてしまう人も少なくないと思うんです。でも、夢を掴むのも自分だし、自分をしっかりと持っていれば、現実の中だって夢は掴めるんだよっていうことと、10代で夢を見つけられずに立ち止まっている人にも、自分が動きさえすれば、夢は絶対に見つかるってことを伝えたかったんです。それもあって、自分も、この先、夢を掴めるように、歌い続けるよって、この曲の中で何度も繰り返して歌っているんです。自分へのメッセージとして。ちなみに、「youth」と「願い」はCS放送 日テレG『ハシホン！スポーツ秘話』のテーマ曲にもなっているので、チェックしてもらえると嬉しいです。そして、12月24日には渋谷O-EASTでワンマン・ライヴもあるので、是非、遊びに来てもらえたら嬉しいです」

D

Keep The Majesty

蝴蝶网 hudie.com

とりひとりの気持ちを大事にしないと、奮い立たせることはできない

バンド結成以来、Dが描き続けている“ヴァンパイア”のストーリーを軸にしたコンセプト・シングル『In the name of justice』が11月17日にリリースされた。これまでの楽曲の中で明かされていなかった事柄があらわになると同時に、バンドとバンドを取り巻く環境への想いなども込められた、Dの今後を示す作品に仕上がっている。“バンドとして絆を深めたい”と語る5人の想いをここに。

Interview : KYOSUKE TSUCHIYA

の本流とも言えるヴァンパイア・ストーリーを軸にしたコンセプト・シングルと銘打たれていますが、タイトル・トラックは王の息子である〈ジャスティス〉が登場するという明確な設定がありますね。

ASAGI：はい。実は前回のアルバム『7th Rose』に収録された「鬨の声」の世界観を考えている時に、「In the name of justice」のイメージはすでにあったんですよ。実際には「赤き羊による晩餐会」のリリース後に形にしたんですけど、この曲に限らず、頭の中には常に他のたくさんのイメージがあって、様々なものが重なった時に、今、打ち出すべきだという決断をするんですよ。「In the name of justice」に関して言えば、たとえば現実ともリンクしている要素が多かったということだと思うんですね。

――それは現実社会ということですか？

ASAGI：現実社会というか、バンドとしてもっと絆を深めたい、ファン、そしてスタッフともより力を合わせていきたいという想いだったりですね。これも普段から思っていることではあるんですけど、原点回帰をテーマに掲げていった『7th Rose』ツアーを廻ってから、さらにDに対する思いがどんどん強まってきましたし、さらにそのテーマを引き継いだ東京・高田馬場エリア5デイズをそれぞれのプロデュースでやってみたりして、もっと5人の個性を出していくにはどうしたらいいのか。その個性がまとまって生まれるDならではの世界観みたいなものを、もっと追究していきたいなと強く思うようになったんですね。

――「In the name of justice」を聴いた時のみなさんの印象などは？

HIDE-ZOU：ASAGIさんからは王の息子が主人公になって、四騎士と共に最終決戦に向かうという話は聞いていたんですけど、現実でいえば、バンドとして絆を深めていくことなんだという想いもすごく伝わってきてたんですね。それはデモ段階の曲を聴いても分かったんですよ。重厚だし、僕たちらしいキャッチーな部分も、心に残るような歌のメロディもある。歌詞も群衆というか、たくさんの人に対して伝えるうえで、どういう言葉を遣うのかといったこだわりも見

したね。達成感はこのうえないものがありましたし、出来上がった時に、素直にカッコいいって誰もが思うだろうなって自信がこみ上げてきましたね。

Ruiza：僕もカッコいいなという第一印象だったんですね。重厚な感じだったり、力強さだったり、疾走感が見事に融合されてるなと思って。

――前面に出てくるのはヘヴィなリフの部分ではありますが、細かなギター・フレーズを随所に入れていますよね。

Ruiza：そうかもしれないですね。でも、やっぱり2本で一つのギターというものにしたかったんですよ。基本的な役割としては、僕はハイ・ポジションのほうを弾いて、HIDE-ZOUくんに下を支えてもらってという割り振りで、ここは上手く出来てたので、あとはギターを動かすタイミングはどうすべきかといった、細かな部分を考えましたね。

Tsunehito：さっきASAGIさんが言ってたように、ここに至る流れがあったうえで、今回のストーリーを読んだり、曲を聴いたり……もちろん、その前からも続いているんだろうと思うんですけど、『7th Rose』に伴うライヴも本気で臨んでいたからこそ、見つめ直すこともあったし、メンバー間の絆や周りのスタッフの方々とのつながりも、すごく意識できたツアーになったと思うんですね。この曲の中には、そういったことを改めて思わせるいろんなキーワードもあって……すべてつながってる、リンクしてるんだなぁと思いましたね。

――レコーディングはどうでした？ 後半のCメロに登場する動くフレーズは、楽曲盛り上がりや歌詞のクライマックスにも同調する効果を生んでますよね。

Tsunehito：ありがとうございます。たとえば、その最後のセクションに関して言えば、他のパートのイメージがあって、メロディも決まってくる。そこでベースのフレーズは山を作ってとかイメージがすごく沸いて……まぁ、そこまでは早かったりするんですけど、1小節だけが納得いかないとか、それぱっかり悩むこともあるんですよね。

――こだわりがあるからこそ出てくる産みの苦しみなんでしょうね。

ろんな展開がありつつ……ホントにいろんなことが出来るバンドなんだなって改めて思いましたね（笑）。その分、ホントに〝すぐ出来る！〟っていうような曲ではない。やっぱり、各々の熟練の技が合わさって、こういう曲に仕上がっているんですよね。ホントに一筋縄ではいかないですよ。すぐにコピーできるようなレベルではないですね（笑）。

――でも、このぐらいの曲っていうと語弊はありますが、DのメンバーならパパッとやってしまうようなImpressionはありますけどね（笑）。歌も興味深いポイントがいくつも出てきますよね。ストーリーが明確であることのみならず、これが単独で存在しているわけでもない。きちんとした流れの中にあるものだから、ナレーターとしての役割を担う一方で、Dというバンドとしての在り方といった、人間的な観念も込めなければいけない。そういった意味では、バランスの取り方が難しい歌でもあるのかなと思うんですよ。

ASAGI：そうですね。毎回のことではありますけど、すごくバランスは考えますね。今回、特に意識したのは、たくさんの人の前で口に出す言葉を歌詞にしたいなということと、1stミニ・アルバム『NEW BLOOD』（2003年）に収録されている「弾丸」の時点で王の息子の存在は明らかになっているんですね。そこから7年半経ってるんですけど、ストーリー的には1ヶ月しか経っていない。その1ヶ月の中での成長みたいなものを、どういう風に表現すればいいのか。そこはすごく考えました。

曲としてはまずサビのメロディから考えて、その次にイントロを考えたんですけど、そこで力強さや逞しさ、男らしさをすごく意識して。結果、ヘヴィなリフになったんですね。それから、この曲はもちろんなんですが、このシングルを作ってみて、よりたくさんの人の前で歌いたいという気持ちはすごく強まりましたね。今までも持っていなかったわけではないんですけど、楽曲を作っている中で浮かんできていたのも、やはりそういったイメージだったんですよ。「夜の眼の吟遊詩人」も大勢の前で歌っている光景を思い描いてましたし。その意味で

やはりバンドにとってはライヴですよね。

――なるほど。その理想像のようなものも興味深いですが、主人公の描かれ方にもポイントがありそうですね。

ASAGI：そうですね。これに関しては、この先もパズルのピースが埋まるような楽曲はまだまだ生まれてくるでしょうし、じっくり表現していければなと思っているんですが、7年半の間、実は名前が決まってなかったんですよね。だけど、この「In the name of justice」で、その王の息子の名前を〈ジャスティス〉と決定づけることが出来た。急いでつけるものでもないと思ってたし、一生ものだと思ってたので、これだと決まった時は、自分の子供に名前がついたかのように嬉しかったですね。「鬨の声」にある〝我が名の下に集え〟というフレーズのように、「In the name of justice」というタイトルを先につけたんですけど、そこで今までのことがすべてリンクした。その瞬間にこれは〈ジャスティス〉しかない、なるべくしてそうなったんだなとも思いましたね。やっぱり、歌詞を書いている時にも言えるんですけど、絶対にこれしかないなって感覚があるんですね。そうじゃないと、自分の中でアートとして成立しないんですよ。

Ruiza：名前はなかったから、ASAGIくんもずっと〝王の息子〟と言ってたんですよね。「鬨の声」からは〈白狼〉という呼び名もありましたけど、それは名前とは違うじゃないですか。でも、すごく楽しみにしてたんですよね。「弾丸」の時から、王の息子の曲だということは知ってたし。何か感動の場面でしたね、名前がついた時は。

――しかし見事なつながりですね。この曲名自体が「鬨の声」の一節から引き出された、掛詞のような位置づけだったことも含めて。物語の中では、闇の主の征伐に向かう前提がありますが、それは現実社会においては何なんでしょう？

ASAGI：物語においては、謎はまだ謎で、これから解き明かしていくことになると思うんですけど、現実社会においては、やはり世の中の悪ですよね。それを象徴したものを、物語の中では闇の主として描いていると思うんですよ。

起こすことを暗示したものなんですか？

ASAGI：音楽を通じて、少しでも悪を減らしたい気持ちは常々[illegible]し、この楽曲がいろんな人たちの心に響いて、本来あるべき姿といったものに訴えかけることが出来たらなとも思うんですよ。それが今回はよりダイレクトに表現されてはいるんですよね。

――Bメロの冒頭に〈尊厳〉という言葉がありますが、いくつも声が[illegible]も[illegible]います。ことさらこの箇所を[illegible]のはどういった意味合いだった[illegible]？

ASAGI：群衆が声を上げているイメージがあったんですね。もちろん、自分も発している言葉なんで[illegible]現実においても、Dを表現してい[illegible]バー、支えてくれるスタッフやファン[illegible]誰一人として必要のない者はいない。それぞれの気持ちが一つになっているのを表現したくて、たくさん声を重ねたりしたんですが、一人一人を尊重してあげなければ、一つになることは絶対に出来ないと思うんです。実際のイメージとして、どういった言葉を発すれば、その人たちを奮い立たせて、自分自身をも大切にするようなものになるのか。そう考えた時に、〈尊厳〉や〈意味ある生命〉といったフレーズは、やっぱり強く表現したいことではありましたね。単に何かを発するライヴで盛り上がるといったものではなくて、ホントに魂から叫ぶことって何なんだろうなって、常々考えるんですよ。そこはライヴでも大きな声で叫んでほしいですね。

――オーディエンスが一斉にこの部分をコーラスする光景は凄まじいものになりそうですね。〈尊厳〉などと大きな声で叫ぶ機会はなかなかないでしょうから。

ASAGI：そうですね（笑）。でも、そこで何か感じて欲しいものもあるんですよね。ライヴで思いっきり叫んで、自分自身に自信を持つことにもつながってくれればいいと思うし。今回の東名阪ツアーでは「Nightly Knights」「夜の眼と吟遊詩人」「Grand Master」も演奏しようと思っているんですが、ファンも参加して現実とリンクさせた世界観を表現することが、僕たちもすごく楽しみなんですよ。ライヴでしか感じられないことも伝えたいなと思ってるんで、ぜひ期待して来てほしいですね。

蝴蝶网 hudie.com

—『GURICO』と言えば思い出すのはアレだと思うんですが（笑）、このタイトルがアルバムの全体像を表してるんですか。

景夕：人によっては違うかもしれないですよ（笑）。チョコレートみたいな、お菓子っぽい名前はないかな?って思ってマネージャーと話をしてる時に、（事務所の）社長が〝グリコってどう?〟って。グリコだけだったら納得はしなかったんですけど、初回特典でオマケをつけて…っていう話も出たんで、そういうのならアリかなって。イメージ的には、おもちゃ箱的なアルバムにしたかったんです。

—曲調もサウンドの方向性も幅広いですが、作曲ではその辺りは考えました？

ると、次はそうじゃないのを作ろうっていう風にもなるんで。自然にそうなった感じです。

—アレンジャーさんが入っている曲と入ってない曲では、違いが出ている部分もあるようですね。

景夕：アレンジャーさんがデジタルに強い方だったし、今回デジタルな要素を入れたいっていうのもあって。「デンノヲ空想理論」を出した時に、〝電脳〟っていうわりにデジタルさのないストレートな曲だったので、今回「電脳I♡YOU」っていう曲を入れて、〝電脳〟シリーズを作りたいなと思った時に、もっとデジタルでノリのいい、ちょっとコミカルなものを出したかったんです。そこから、アレンジャーさんを入れるっていう話こ

Kra

NEW REVOLUTION!!

いよいよ2011年には結成10周年を迎えるKraが、アルバム『GURICO』を11月24日にリリースする。新たな"ファンシー＆メルヘンロック"を提示し、彼らならではのサウンド／世界を作り上げた力作を引っさげ、12月28日・渋谷C.C.Lemonホールでのライヴで今年を締め括る。10周年のアニバーサリーイヤーとなる来年は、そんなこれまでの集大成となる活動を見せてくれることだろう。彼ららしいこだわりに満ちた"ロック"に期待したい。

Interview:MIYUKI MURAYAMA

—アレンジャーさんが加わった曲は、いろんな音が入ってる印象が強いです。

靖乃：音数、めちゃめちゃ多いですよね。今回は、最終的にTDギリギリまで、景夕が歌詞とリンクさせながらどんどんイメージを突き詰めていった感じなんです。

—特に、歌詞の世界観と音をリンクさせるかどうか考えた曲は？

景夕：「赤い靴の少女と玩具の機関銃」とか「A bientot」とか「電脳I♡YOU」は、ここはこうしたいですすっていうのを強く言いましたね。

—「電脳I♡YOU」は、〝電脳〟という言葉からイメージする世界観を明確に打ち出していますよね。

景夕：「デンノヲ空想理論」を出す前ぐらいからやりたいなと思ってたんで、ヴィジョンは明確に見えてましたね。

靖乃：タイトルも前からあったんで。

景夕：ダンサブルと言うか、俺の中のイメージと合ったんで、この舞ちょの曲にそのタイトルをつけました。

—舞さんは、曲を作る時に〝電脳〟というイメージは意識してたんですか。

舞：その言葉は意識してないですけど、ダンステクノとかエレクトロニカとかの要素を入れて作りました。たぶんそれで、景夕の中で〝電脳〟っていうワードと合ったんじゃないかなと思います。

—「A bientot」は、アルバム最後に相応しい賑やかな曲ですね。パーカッションがたくさん入ったサンバのリズムで。

景夕：自分的にはそんなにサンバって感じではなかったんですけど、アレンジャーさんと話してる時に、パレードっぽい感じも入れたくて、どんどん突き詰めていった曲ですね。歌詞もイメージ通り、メルヘンな感じにしてます。

—サンバっぽいノリは[illegible]

靖乃：デモは、もうちょっと大人でオシャレな感じでしたね。選曲会とか制作の過程で、この曲は最後に来て大団円になるよねってポジション決め[illegible]たりして、曲の色合いが明確にな[illegible]ったと思います。これは、ドラム録りをしてるより、パーカッションもの[illegible]た時間のほうが長いですね。[illegible]あった機材を使って、ティン[illegible]ぽい音とか、カウベルっぽい音[illegible]試行錯誤しながら録っていったん[illegible]

結良：このリズムは馴染んで[illegible]はありましたけど、逆に勉強になってよかったですね。リハで皆で合わ[illegible]るのに相当時間かかったけど、世に[illegible]を出しちゃえば、やらざるをえな[illegible]から。

舞：今までありそうでなかった[illegible]たったんで、新鮮で、結構いろいろ試せたかなっ

蝴蝶网
hudie.com

ね。

靖乃：そこでまた頭に戻りたくなる感じの哀愁もあるのかなって。

景夕：タイトルも〝また近いうちに〟っていう意味なんです。

――対して、アルバムの最初は意外なSEで始まりますよね。

靖乃：SEについては、オリジナルのものが欲しいねっていう話はしてて。モチーフの段階から景夕の中でヴィジョンが見えてたんです。

景夕：クラシックの要素を入れたくて、「革命のエチュード」で何か出来ないかなって思ってて。

――アルバムのタイトルからは、意外なぐらいシリアスな選曲ですが。

景夕：確かにイメージは違うかもしれないんですけど、このアルバムは〝ファンシー&メルヘンロック〟をもう一回考え直してみようっていう作品で、それの1革命を起こして、その先で今まで見てこなかった〝ファンシー&メルヘンロック〟を出していきたいと思ってるので、〝革命の朝〟という意味のこのSEを1曲目にしました。ここから10周年に向けて、新しいKraを出していこうっていうタイトルになってます。

――そして、「ツバメ」へと続きます。

景夕：イントロのイメージが夜明けっぽいんで、これがいいかって。

――元々どういうイメージから曲を作ったんですか。

結良：ギター・リフがカッコいい曲を作ろうと思って。最初はロックな感じでしたね。自分が持ってきてみんなに聴いてもらって、リハ入ろうって言った時点で、すでに違ってたんですけど（苦笑）、それはそれでありかなと思って。

――その後、「五月雨」「林檎と蜂蜜」「月下美人」と、ロックな曲が続きます。セ

今まで自分たちが見てこなかった部分を考える

ルフ・アレンジの曲だからこそ、ストレートなバンド・サウンドになったという面はあるんでしょうか。

景夕：それも強いかもしれないですけど、原曲の段階でそういう色が強かったです。

――「五月雨」も結良さんの曲ですね。

結良：自分たちでいい感じに出来たと思うんですけど、この曲の立ち位置がまだ分かってなくて。ロックな曲で、もうちょっと荒っぽくなるかと思ってたんですけど、綺麗にまとまったなって。それでライヴでの使いどころが難しくなっちゃいました。もっと勢いと荒さが欲しかったけれど、逆にそうなってたらこのアルバムの中で浮いてたかもしれないし。あとは、ライヴでやってみて分かってくると思います。

――「林檎と蜂蜜」は可愛らしいタイトルですけど、林檎を意味するのが禁断の実で、実は重いシリアスな話です。

景夕：もとを正していくとアダムとイブの話ですね。欲望から生まれるものが幸せなのかっていうアダルティな内容になったんですけど、この曲が荒々しさがいちばん出てる感じかなと思いますね。

――「月下美人」は、靖乃さんの曲ですね。

靖乃：ボトムへヴィな感じにしときたいと言うか、そういうピースもあったほうがいいのかなって。結果論ですけど、この曲順に決まった時に、ライヴの時の起伏感にも似てるのかなって。

――ここで[illegible]と出して、次の[illegible]の日」で明るい世界が[illegible]ります

結良：明るいですか？ [illegible]バラードが嫌いで。演奏してて[illegible]世界にれる、ロックっぽいバラ[illegible]きなです。って考えながら作ってたら出来ました。明るい曲が好きじゃ[illegible]。僕ないものを作りたいんで[illegible]作った記憶はないんですけどね。

――ピアノの音とか歌詞が、冬の虫の

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

陽だまりみたいな感じを受けましたけど。
結良：それで明るくなったんじゃないですかね。
靖乃：明るいというより、温かい雰囲気[illegible]ってことかもしれないですね。
結良：歌詞を深く見ない人なんで分からないんですけど、泣けるロックバラードっていうイメージなんですよ。
景夕：…？…？（笑）
結良：ギターをかき鳴らしながら、サビのメロディーだけを思い浮かべていただくと分かるかなと。
――そのイメージを聞くと、ちょっと意外なような[illegible]
景夕：俺もそんなイメージなかったかも。
――ちょっと心が温まるような歌詞な[illegible]ほっと一息つくような感じ
景夕：はい、そんな感じです。間違ってないです（笑）。
――そして次の「赤い靴の少女と玩具の機関銃」が舞さんの曲ですね。
舞：これも電子音を入れて、ポップで疾走感がある感じの曲を作ろうと思って。
景夕：歌詞は可愛らしい感じにしようと思ったんですよ。でも、内容的にはグロいんです。この歌詞が自分的には好きで。そのままの表現で言うと、〝羨ましいから殺しに行くよ〟っていうだけですけど、可愛らしい少女と銃とのギャップ感がうまく出て、可愛らしく出来たからお気に入りですね。
――歌詞に関しては、ラヴソングを多く入れようという考えは当初からあったんですか？
景夕：意識したわけではなくて、その曲

の2曲以外は恋愛のものになりましたけど。「A bientot」は、戦争で民間人が巻き込まれて、次はもっと平和な世界に生まれ変われるようにっていう願いを込めていて、〝また生まれ変わってみんなが出会う時までそんなに時間はかからないよ、だから「また近いうちに」、悲しまずに旅立とう〟っていう曲なんです。
――アルバムが完成して、全体を振り返ってみていかがですか。
景夕：自分的に感じるのは、10周年に向けて楽しい第一歩だったかなって。次の作品をどんな感じにしようかなって前向きになれる作品でしたね。
靖乃：このアルバム自体が、コントラストで出来上がってるのかなっていう気がしますね。半数はセルフ・アレンジで、半数はアレンジャーがいて。初回盤と通常盤が見た目からして全く違うものに見えるし。いろいろ振り分けることによって、よりその項目を突き詰めることが出来たのかなって。今まではそこに迷ってた部分もあったような気がするんですね。今思うと。一個一個のことに素直に行き切ることによって、今まで以上に俺らがやりたかったことをダイレクトに出せてるから、より色の濃いものになってるのかなって思います。
――そんなアルバムの内容を見せるライヴが、12月28日の渋谷C.C.Lemonホールですね。
景夕：セットとか曲目とかも合わせて、〝ファンシー&メルヘンロック〟を表現できたらいいなと思ってます。僕の中ではいろいろ考えてることがあるんで、それを実現したいと思います。

SHOXX × Vの流儀コラボ企画

いきなり連載。Ver.0

イガグリ千葉のどこでも行ってミルク!!

この模様は11月30日深夜26時30分よりテレビ東京系放送「Vの流儀」にて放映します。

JWP女子プロレス入門の巻

本日も元気いっぱいの千葉。

蝴蝶网 hudie.com

関節をキメられ

準備万端。V系アーティストの身だしなみに抜かりはない。

間髪入れず、ぺちゃんこに畳まれる千葉。

軽々かいされて

千葉絶体絶命!!

余裕の準備運動。まずは受身から。

反逆の狼煙を上げるも…

今日お世話になったJWPのみなさん。

そして裁は投げられた！

このつ…
テレビ…

いきなりきめられる千葉。

倒産という憂き目を見ながらも見事復活を遂げた仙台貨物・イガグリ千葉が体を張って
あらゆる苦行に挑戦し修行を積んでいくというこのコーナー、記念すべき第1回目は、ふらりと迷い込んだ
女子プロレス道場から始まります。格式高い道場での厳しいしごきに耐えられるのか?
そしてこの苦行を新たな糧へと変えていけるのか ?!
必死の形相で修行に励む千葉の姿を、今回は密着レポートでお届けします!

Photography：EMI NAITOH　Report: REIMI MATSUNAGA

……い自信をのぞかせ、千葉が門を叩いたのは…『JWP女子プロレス』！ 無理矢理頼み込んだ結果、現役選手指導の下、プロレス修行を始める事に…。

修行の始めはストレッチから。これが出来なきゃ始まらない…はずなのだが、股関節を押さえて悶え苦しむ姿は前途多難の4文字…。続いてスクワット連続70回、更にそのまま新日本プロレススタイルという特殊なフォームでの腕立て伏せと、修行はなかなかハードなメニュー。今回千葉を指導してくださるコマンドボリショイ選手が喝を入れる中、苦悶の叫びを上げつつも何とかこなした千葉だが、これは流石に苦しかった模様。なんと自分から押し掛けた修行にも関わらず、逃走を図るという暴挙に！ …が、そこは流石の選手達、あっさり捕獲すると何事も無かったかの様にトレーニングは再開。悲しげな千葉の声が道場に響く…。

ストレッチを終えると修行の舞台はやっとリングの上へと移動。受け身やコーナーポストに素早く登ったり、なかなか様になっている。この頃になると少し体もほぐれてきたのか、初心者とは思えない動きで余裕の表情さえ見せる程に。

しかし気持ちはいつでも逃げだしたい千葉、この期に及んで仙台名物のお土産で選手達の気を逸らせては相変わらず逃走を企てる。…が、ここからがやっとプロレス本番。逃走が許される訳も無く、修行はついにクライマックス、リングでの練習試合へとなだれ込む!!

試合は2対2のタッグ戦、隙あらばリング外に逃げ出そうとしつつも、ＪＷＰ現役選手相手に必死で挑んでいく千葉！

投げ飛ばされても押さえ込まれても怯まず向かっていく姿に、これまでの辛い修行の日々（数時間）が甦る…。勝敗の結果は放送をその目で確認して頂きたいのだが、敢えて一言伝えるならば、この修行を通して学んだ様々な事を存分に発揮出来た試合になったとだけ言っておこう。

試合後は選手の皆さんと仲良く記念撮影。コマンドボリショイ選手とも固い握手を交わし「プロレス最高！」と笑顔をみせた千葉。しかし修行の旅はまだ始まったばかり！ これからも更なる苦行を求め、千葉の旅は続くのであった…。

蝴蝶网
hudie.com

Sadie

Juggernaut

勢い、重厚感、スピード

10月からスタートした、Ｓａｄｉｅ史上、最長のツアー「Deep impact」。今回は、シングル３タイトル連続リリースを控えている中でのツアーということもあり、どのようなライヴ展開をしてくれるのか非常に興味深かったのだが、メンバー自身、確かな手応えを感じているようだ。そこで、11月３日までの前半戦を振り返ってもらいつつ、最新シングル「juggernaut」について語ってもらった。

Interview:ERI MIZUTANI

えのほどはいかがでしょう？

真緒：今回のツアーでは、行ったことのない所もあるので、期待と不安があったのですが、ありがたいことに、どの会場も盛り上がっていますし、オーディエンスが期待以上のものを返してくれているので嬉しいですね。俺たちのことを日本中で待っていてくれている奴らがいるんだというのを実感しています。

——ちなみに、ツアータイトルを『Deep impact』にした理由というのは？

真緒：Ｓａｄｉｅに対して興味を持っている人たちに、驚きや衝撃を与えたいという想いから、『Deep impact』というタイトルを付けました。

——今回、ワンマンはもちろん、刺激的なバンドとの対バンもありますからね。

真緒：かっこいいと思えるバンドと一緒に廻っているだけに、充分な刺激をもらっています。僕らはどちらかというと、ライバルがいる方が燃えるバンドなので。

——良いことです。さて、今日は新横浜サンフォニックスホールでのライヴがありますが（取材は、11月4日に行われました）、ここまでの段階で印象に残っているライヴをあげてもらいたいなと。

真緒：どこも印象に残っているんですけど、初日の京都は、新曲が１曲しかリリースされていない状態でのライヴだったんですね。普通なら１曲だけの披露とかもありうるのでしょうが、今回のツアーは３タイトルあってこそのもの。なので、初日から新曲を３曲とも演奏したんです。オーディエンスが全く聴いたことのない中でやるライヴというのは、面白くもあり、また、とてつもない衝撃を与えられたのではないかなと思います。

——てっきり、第一弾作として発売された「クライモア」しか披露していないものだと思っていましたよ。けれども、そうやって発売されていない曲がライヴで一早く聴けるというのは、ライヴに来た甲斐があるというものです。そして、京都に続く滋賀でのワンマンは、地元組がいるだけに、さぞかし盛り上がったのでは？

剣：滋賀は、俺と美月と景の地元なんですけど、Ｓａｄｉｅとしては初のワンマン公演だったんです。それをオーディエンスも察してくれたのか、すごく盛り上がってくれて。おかげで、故郷に錦を飾ることができました。ちなみに、当日は俺の家族も見に来てくれたんです（笑）。こういう姿になりましたよっていうのを間近で見せられることができて、良い思い出になりました。

——非常に価値のあるライヴとなりましたね。

剣：ソールドアウトしたというのもこの上ない喜びでした。これを機に、また地元でワンマンができたらなと思います。

美月：僕は、行ったことのない土地が印象に残ってますね。何か、ステージに出ていったときの歓声がすごいんですよ。トーンが違うっていうか、初めてＳａｄｉｅのことを見る人が多い分、"キャー"っていう声が返ってきたんですよね。

——あら、いつもは太い声が返ってくるだけに、新鮮じゃないですか（笑）。

美月：そうなんですよ（笑）。そういう初めての人に対して、どうやって見せればいいだろうというのは考えたところではありますね。だからこそ、あのとき受けた歓声っていうのは大事にしていかないといけないなって。

景：それだけに、昨日までを振り返ってみると、どの場所も印象に残っているんですよね。どれが１番、と言うより、どこも１番っていうか。

——景さんとしては、新曲をリリースするのと、した後では、ライヴ中の感触は違ってくるものですか？

景：昨日はちょうど第二弾「棘-toge-」の発売日だったんですけど、気持ち的にはいつもと一緒でしたね。伝えたいことというのは、僕らは常にオーディエンスに提示しているつもりなので、何回も聴いてくれている子にも、初めて聴く子にも、きちんと伝わっていると思います。

——亜季さんはいかがですか、今ツアー。

亜季：音源を出してツアーをやって、というのは、バンドをやる上で当たり前になってくることだけど、初めてライヴしたときっていうのは、音源なんか出してもいなかった。その感覚に近いものがあるんです、今回のツアーは。

——なるほど。いわゆる、原点回帰的な。

亜季：本来のバンドの形を提示できている、そんな気がします。なので、この日はＣＤのリリース日だから特別なことをしようとか一切考えていなくて。

——それ、見ている側からすると、とても嬉しいことです。計算されていないライヴこそ、本物だと思うので。

亜季：そこで生まれた一体感というのもありますからね。メンバー５人がオーディエンスと一体になれている、そういう手応えのあるライヴができたのは、計算してないから。きっと、これが、ワンマンだけのツアーだったら、そういった一体感は生まれていないかもしれない。それに、対バン相手のバンドが最高にかっこいいライヴをしてくれて、そこに負けられないという俺たちの気持ちがオーディエンスに伝わったからこそ、向こうもテンションを上げてかかってきてくれたんじゃないかな。全てがうまく作用したからこそ、自分自身、手応えを感じられるものになっているのではないかなと思いますね。

——通常、対バンともなると、どちらかのバンドに意識が傾きがちですが。

亜季：自分たちさえ良ければいいっていう考えは俺たちにはないんです。それは、相手のバンドだって同じこと。もちろん、勝負というところでは譲れませんけど、良いライヴを作るには、お互いが力を出しきることが大事。まず、成功させないと勝負にもならないんで。

——納得です。そうやって、隔たりがないライヴだったからこそ、一体感が生まれたんでしょうね。

亜季：そういう意味では、前半はすごく良い形で締めくくれたと思います。とは言え、それでもまだ半分。ここから２つ３つ、何か見つけて帰ってこないとダメだなと。

——相変わらず、自分に厳しい（苦笑）。さて、ツアーはここから後半戦に突入します。12月に入れば、３タイトル連続リリースの最終作「Juggernaut」が発売されるわけですが、この曲、３タイトルの中でも特に勢いがあって。

真緒：勢い、重厚感、スピード、その３点を大事にして作りましたから。この公開される劇場版『マシンカイザーSKL』のエンディング主題歌にもなっているんです。アニメを主体にして作ったということもあり、自分の中ではアニメを連想できる仕上りにしたくて。さらには、Ｓａｄｉｅの色を失うことない楽曲にしたいという想いがありました。

——見事に両立できていると思います。

真緒：今までのところから離れるわけではなしに、幅を広げたというか。

——まさに。タイアップにも関わらず、Ｓａｄｉｅの色が全面に出ていますよね。

景：アニメの情報は全員持っていたんですけど、そこにＳａｄｉｅの色を加えるとなるとどうなるか、というのは面白い試みではありましたね。

亜季：アニメを見させていただいたとき、俺は暴力的なイメージの方が強かったんですね。けれど、そこに孤独も感じたというか。だから、綺麗なだけではなく、毒気のある音を出していったんです。

——するっとした音ではないからこそ、真緒さんが言った３点が活きてくるのではないかなと。

美月：僕は、わかりやすくてパッと耳に入ってくる音にしようって思ったんです。それを念頭に置いてフレーズを考えつつ、ツインギターの特性を活かすような音を目指しました。

剣：そこはもちろん、音数が多い中で自分の居場所を作るというのが自分の課題でしたね。後は、コードの整理。様々な要素を入れている分、展開の激しさに埋もれない音にしていこうと。

——複雑な展開を、単純明快に聴かせているなと思いました。

剣：音数が多いと寸胴に聴こえがちなんですよね。後は、そこでどういったアクセントを付ければいいか、その為に、ありとあらゆることをしていきました。結果、良い展開が作れたと思うし、飽きのこない楽曲になったのではないかなと。

——この楽曲がツアーでこなれてきた頃、Ｓａｄｉｅは成長できているのかもしれませんね。では最後に、ツアー後半戦の意気込みをお願いします。

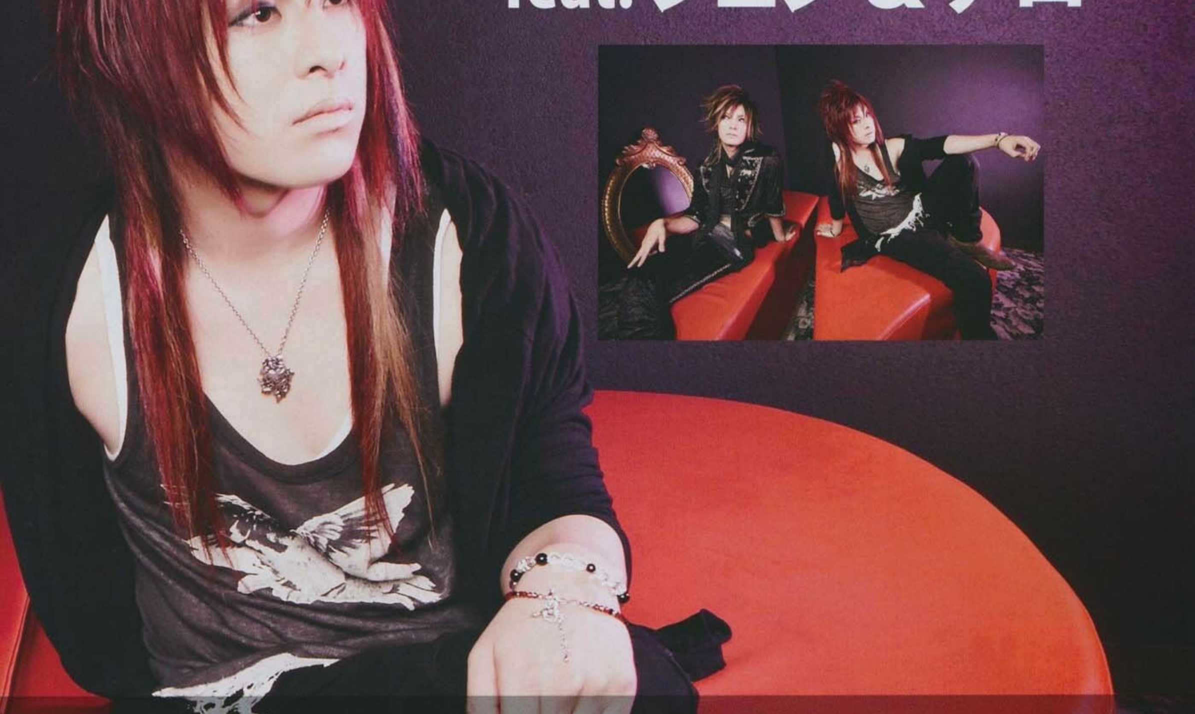
真緒：Ｓａｄｉｅ史上、最長のツアー『Deep impact』。各地で得たものを忘れずに後半戦に挑みたいなと。まだまだ長いツアーですけど、オーディエンスの顔や声、その全てを忘れずに持っていき、ファイナルの新木場ＳＴＵＤＩＯ ＣＯＡＳＴにぶつけたいと思います。

http://www.Sadie-web.com/

蝴蝶网 hudie.com

ヴィドール

feat. シュン＆テロ



――9月18日の新木場スタジオコーストのライヴでは、これで活動休止だという特別な感覚はありました？

テロ：やる前まではそんなに寂しくなることもなさそうだなと思ってたんですけど、1曲1曲やっていくにつれて、寂しい部分はあったりしました。

シュン：僕は逆にあんまりなかったですね。活動休止が決まった時がいちばん寂しい感じがあったんですけど、あの日は今はこのライヴに集中しようっていう感じだったんで、逆に楽しかったですね。しばらくライヴ出来なくなるんだから、思いきり楽しもうと思ってやってました。

――感慨深くなることもなく？

シュン：もう、現実を受け止めてライヴに臨んだんで、終わった後も落ち込んだりはなかったですね。

――テロさんは、ライヴの後はどうでした？

テロ：活動休止中に何をやろうかなとか考えたりしてましたね。自分でやりたいこともあるんで、そっちのほうに切り替えていきました。

――この取材時点で、ライヴから1ヶ月ぐらい経ちましたが、具体的にはどんな風に過ごしてきたんですか。

シュン：僕はすごくあるんですけど…テロくんは？

テロ：サポートで一度ライヴをやりました。Kayaさんのバックで。それの練習したり、いろんな音楽を聴いたりしてましたね。やりたいこと、好きな音楽をやろうかなって思ってるんで。

――ライヴはどうでした？

テロ：ドラムとキーボードをやったんですけど、新鮮でした。初めてやったハコでもあったし、ショルダーキーボードを使ったのも初めてだったんで。いろんな曲を渡されてピアノでアレンジしてほしいって言われて、曲に色をつけたりするのも面白かったたし。今やってるジャンルとは違う曲だったんで、すごく勉強になりました。

――シュンさんは何をしていたんですか。

シュン：僕は活動休止してからのほうが忙しいぐらい、いろいろしてました。10月、11月とセッションがあるんですけど、

合いの楽器屋さんで楽器フェアをやらせてもらってて、ラメくんとギルくんと自分のモデルの楽器と衣装を展示させてもらってるんです。そこの1日店員みたいな感じで顔を出したりもしてるし、それに、お店をやるんです。

――お店？

シュン：ダーツバーみたいな店を出すんです。自分でテナントを借りて、会社をちゃんとやろうと。11月半ばには開店しますね。

――それの準備で忙しいと。

シュン：行政書士事務所に行ったり、不動産屋を回ったり、会社の登記とか。事務的なこともいろいろあるし、人を雇うにあたって面接したり。プライベートでフットサルもしてるし。毎日忙しいです（笑）。

――セッションも自分から声をかけてるんですか。

シュン：自分でやりたい人とやろうと思ってたから、一から全部呼びましたね。

――セッションはこれからもやる予定？

シュン：自分のバースデーライヴだったり、クリスマスとかも、やれそうな形であればやっていきたいですね。

――テロさんは、セッションはこれからもやるんですか。

テロ：今はそこまでは考えてないです。とりあえず練習したいんです。譜面書いたり、コピーしたり、アレンジしたりとかがすごく好きなので、今はそういうのを勉強したいですね。プロのレコーディングを見たり…。いつ復活するかも分かんないんで、その間に練習しておかないと、復活した時に何やってたんだろうって思われるのもイヤなんで。そういう風にならないようにしたいなと思ってます。

――他のメンバーさんとは会ったりしてます？

シュン：僕、最近は毎日ギルくんと会ってますね。楽器フェアで店員さんをしに行ったり、セッションも一緒にやるし、たまにお店も手伝ってくれるって言ってて。だからいろんな打ち合わせとか、普通にご飯食べながら話したり。ラメくんともちょいちょい会ってますけどね。

テロ：俺は、ほとんど連絡してないです

蝴蝶网
hudie.com

MORE STIMULATION!!!

自分自身を見つめ直す時期だから——

活動休止期間に入っているヴィドール。現在、メンバーはどんな風に過ごしているのだろう。
9月18日の新木場STUDIO COASTから約1ヶ月経ったところで会ったシュンとテロは、各々のやり方で、各々の時間を前向きに過ごしていた。
その中には、意外と思われる活動も？　気になる他のメンバーも含め、ヴィドール５人は元気な様子だ。
活動再開まで、このまま充実した時間を重ねていってほしい。

Photography : TAKEHIRO SUGANUMA　Hair & Make-up : A.DO(Tritt fur Tritt)　Interview : MIYUKI MURAYAMA

テロ：でも、普段から別にそんなに会わないんで。だから今までと変わらないですよ。

シュン：ちょいちょい電話とかはしてるんですけどね。

——ジュイさんの手術は終わっているんですよね。

テロ：僕はお見舞いに行きました。全然元気そうでした。普通すぎて、手術した感じがしなかったですね。もう普通に喋ってたんで、変わりなかったです。

——それは一安心ですね。他のみなさんはどんな風に過ごしてるんですか。

シュン：ギルくんは、ギターで生活したいって言ってたんで、講師としてギターのレッスンをすると思います。ヴィドールの曲の譜面とかを作って。

——ラメさんは？

テロ：ラメさん…何やってんですかね？（笑）

シュン：元気にオフを満喫してるみたいですよ（笑）。

——とりあえずお二人は、充実してるみたいですね。

テロ：僕は刺激を求めていろんなところに行ったりしてます。最近、美術館に初めて行って。そういう刺激を求めて、いろんなところに行ってみたいし、いろんなことをしてスキルアップできればいいかなって。ライヴに行ってミュージシャンの人を見ると、すごく練習してるんで、それも刺激になりますね。練習はちゃんとしなくちゃいけないんだなって。だからドラムも叩いてますし、スタジオは結構個人的に入ってます。

——そういうものの中で、最近何か印象に残ってるものは何かあります？

テロ：ゴッホの絵。

シュン：え？　ゴッホの絵を見に行ったの？　うっそぉ！（笑）

テロ：ゴッホの名前はずっと聞いてたけど、そんなにいいのかなって思ってて。でも、やっぱり生で見たら違いました。その人の生き方みたいな、そこに感動というか、共感するところもあったし。新たな発見をしました。

——時間があるから、今までやらなかったこともやれたりするわけですね。

テロ：そうですね。（美術館が）行ってあって（笑）、あ、ちょっと行ってみようかな。ってノリで行ってみたんですよ。人もすっごい多かったんで、これは見たほうがいいなと思って。そしたら意外にいいなと。久しぶりに感動しました。

——そういう、今までにない方向でも刺激を求めたいと。

テロ：やっぱり刺激がないとつまんないんで。だから、とりあえず動けば何かあるかなっていうのは思いますね。人と話すのも好きだし。

——シュンさんは今までやってないことをやっている分、新しい発見もかなりあるんじゃないです？

シュン：僕の周り、起業して社長やって成功してる人もいっぱいいて、今まで話も聞いてたりしたんで、そんなには…ですかね。逆にセッションとかで、本気でB'zやろうぜって話になったりすると、家で一生懸命コピーしてます（苦笑）。それがすごい大変ですね。同期とかも全部作って、結構本気でやってるんです。今までヴィドールでは同期とかあんまり作ってなかったんで、そこで勉強しながらっていう感じはあるんですけど。そういうところではスキルになってますね。

——意外なぐらいの充実ぶりで、何だか安心しました。

シュン：新木場のライヴが終わって、最初の1週間ぐらいは飲みに[illegible]、ボーっとしてたりしたんですけど、毎日休みだと頭おかしくなりそうで。ずっと家にいると、不安にもなるし[illegible]不安から、逆に今はいろいろやろうと[illegible]ます。

——各々の自主性に任される部分があるから、自分から積極的に動かな[illegible]でしょうしね。

テロ：そうですね、自分で決めないと。確かに不安になってきたりするんで、目標を持たないとダメかなと思いますね。メンバー個人個人、[illegible]は違うかもしれないですけど、そうだと思いますよ。でも、いろんな意味で休めてよかったんじゃないかと思います。今までそういうのはなかったし、自分自身を見つめ直すような時期でもあると思うんで。そうやって、活動再開がいつになってもいいように、準備しておきたいですね。

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

【set list】
now (intro)
1.bit crash
2.NO MUSIC NO REASON
3.Endless wing
4.ROCKER'S
5.BEAST
6.睡蓮
7.crime-罪-
8.CRAZY-FLAG
9.Dance Rock Night
-INST.-
10.puzzle
11.イシュタル
12.Vision
13.driving time
14.DIRTY STORY
15.Break Down
<encore>
16.イノチノキ
17.shining
18.arrow

FALL TOUR 2010

2010.10.23 YOKOHAMA BAY HALL

10月23日・横浜Bay Hallで、今年3回目となる全国ツアーのファイナルを迎えたギルガメッシュ。その躍動感溢れるサウンドでオーディエンスの身体を楽しませるのと同時に、ギルガメッシュとして聴き手に何かを伝えることに真摯に向き合う姿勢が印象に残るライヴだった。極めて生真面目に、それでいて楽しみながらバンド活動に取り組む彼ららしく、このままもっともっと成長を続けてほしい。来年の活動がただただ楽しみだ。

Photography:SHINJI TAMAKA (Luz-p.o.)　Report:MIYUKI [illegible]

テンションが一気に急上昇。それをオーディエンスの手拍子が拍車をかけていく。歓声の中、始まったのは「bit crash」。メンバーと一緒になってオーディエンスも声を上げ、共に熱くなる。1曲目にして熱い一体感が会場に広がる。ステージにいるメンバー、フロアを埋め尽くすオーディエンス、全員がこの空間を楽しんでいるのが伝わってくる。これぞライヴの醍醐味。楽しさを噛みしめる愁からは、身体に直接響いてくるような心地良いビートが繰り出され、「Endless wing」では弐がサウンドをぐいぐいと引っ張る。サビのリズミカルなノリを小気味よく愁が弾き出し、左迅も自ら信じるメッセージを吐き出していく。言うまでもなくЯyoは全身を使ってノリノリだ。

最初のMCを挟んで、〝俺たちとロックしようぜ〟と始まったのは、「ROCKER'S」。弐のかき鳴らすリフはキレよく、その音が興奮を高め、そのまま手拍子に導かれ「BEAST」が続く。身体は気持ちよく動きっぱなしだ。隅々まで行き届いたプレイと、説得力が増し丁寧に表現しようと心を傾けた歌が、「睡蓮」をじっくりと聴かせる。熱心に耳を傾けたくなる、歌うようなギター・ソロのフレーズ、訴えかけるサウンドは、彼らならでは。さらにシリアスに幕を開けた「crime-罪-」では、叫んでいるうちにオーディエンスがどんどん夢中になっていくさまが手に取るように伝わってくる。「CRAZY-FLAG」が始まれば、Яyoも立ち上がって笑顔全開。弐と愁も笑顔を見合わせ、自由に動き回る。サウンドも躍動感でいっぱい。荒々しい空気が吹き荒れながらも、会場内はそれを前のめりに楽しむ姿勢が満ち、そのまま「Dance Rock Night」で踊り出す。

静まり返る中、幻想的なサウンドが広がり、その中から「puzzle」が流れ出す。歌声に想いを託そうとする左迅の姿勢には、ヴォーカリストとしての自覚を深めた感があった。そんな彼は、そのまま曲の持つ世界にさらに浸りながら、「イシュタル」を歌い上げる。バンドから放たれる空気も、これまでとはガラッと変わり、バンドの表現の幅を堪能できた。

俺らはこのライヴという空間にずっといるから

のツアーで、〝感動とか悲しいとか苦しいとか楽しいとかじゃない、すげえもの〟を得たと語る姿は自信に満ちている。ライヴならではの何かが提供できるバンドになった証が感じられた。少し真面目な愁に対し、〝わっしょ〜い!〟と元気いっぱいなЯyo、やたらテンション高めの弐とMCは続き、そのまま楽器隊によるインストへ。これが文句なしにカッコよく、3人のプレイヤーとしての実力を改めて感じた。このシーンの同世代のバンドで、楽器隊だけでここまで魅せられるバンドはそうそういないだろう。

左迅が加わって、「Vision」から後は最後まで突っ走っていく。「Break Down」で光に照らされる無数の手。〝強くなれるさ!〟と一緒に叫べる心強さ。ギルガメッシュは、歌詞に綴られた前向きなメッセージが薄っぺらなものではなく、さらに力強いパワーを帯びたものとしてライヴで直接伝えることが出来る、数少ないバンドのひとつだと思う。本編が終わって、まず沸き起こったのは大きな拍手。彼らがライヴで届けたかった想いがしっかり伝わっている証拠だっただろう。

アンコールでは、左迅から、ギルガメッシュの音楽で人を救えている嬉しさが語られた。〝4人でジジイになるまで、カッコいい曲、カッコいいライヴをやっていく〟という言葉が頼もしい。様々な事情でライヴに足を運べず、このライヴ・レポートを読んでいるそこのあなたも、安心していい。彼らはずっと待っていてくれるはずだから。「shining」の歌詞の《ここにいるから》という言葉はホンモノだ。「arrow」の後、左迅が叫んだ〝今日のこと忘れずに強く生きていって下さい〟という言葉には、ただ歌うだけではなく、自分が聴き手に対してやるべき使命を強く感じている責任感がにじんでいたように思う。

ライヴ終了後は、笑いを交えた映像で2011年のアルバム発売を皮切りに、ますます大きく展開する活動予定が壮大に発表された。これからまた活動の幅が広がるだけではなく、その大きくなった内面を武器に、そのひとつひとつを成功させていくに違いない。

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

新たな世界を開いたアルバム『KIGA』完成

ZORO

ゾロのニュー・アルバム『KIGA』が12月1日にリリースされる。これまでの彼らの持ち味であるデジタル・サウンドを基軸にしつつも、それまでの世界をあっさりと凌駕してみせた今作は、新たなゾロの第一歩となったと言っていい。これを携えて、12月29日には彼ら初のホール・ワンマンである渋谷C.C.Lemonホール公演も控えている。彼らが爆発させる世界は、果たしていかに!?

Photography:TAKEHIRO SUGANUMA
Interview:YUKA SUGIE

――アルバム『KIGA』には、これまでを凌駕する斬新な試みが多く見られるんですが…それぞれ、もっとも達成感を感じているポイントというと?

龍寺：俺に関しては、歌い方に関しても新しい引き出しを開けられたかなと思うし、歌詞の面でも新しい試みをしていて。それこそ、愛とか書いちゃってますからね。自分でも新鮮だったし、達成感は感じていますよ。

――個人的には、「連弾_pianoduet」の日常的な風景に見える愛が、あまりにリアルで驚きました。

龍寺：作曲者の裕哉に最初見せた時、彼もすごく驚いていましたからね。

裕哉：そうなんですよ。でも、すごく気に入っていたのに、途中で龍寺が全部書き替えるって言い出して、それがショックで寝込みまして（笑）。どうしても元の歌詞にしてほしいって、何回もお願いしましたからね。戻してくれて、ホント良かったと思いますよ。

タイゾ：俺は、今年出したシングルよりもバンド・サウンドを押し出したくて。自分のエゴのギター・フレーズと曲の雰囲気…そのバランスは、今までの作品の中ではいちばん取れたと思います。

――自分の書いた曲は別として、そのバランスについて作曲者と相談したりもしました?

タイゾ：1曲目の「猿愛」のイントロ、裕哉に〝ハウリングをそのまま入れてくれ〟って言われて。俺的には〝待ってました!〟って感じでした（笑）。

たつひ：僕はですね、今回は、今までみたいな曲は作りたくなくて。激しい感じの曲を作ろうと思っていたんですけど、それが実現できたことにはすごく達成感を感じているんですよ。

――通常盤では中盤に位置する「kuga-宗派右編-」「vega-教派左編-」、確かにスゴいことになっていますよね。

たつひ：特に「kuga-宗派右編-」のほうはとんでもないですよね。イントロとか呪われちゃいそうだし、洗脳ソングだと思っています。

裕哉：僕は、「HOUSE・OF・MADPEAK」というシングルを出した時に、ゾロがどういう音楽をやっているのか客観的に見ることが出来たんですね。で、今回のアルバムには自分たちの音楽を12曲詰め込めたと思っているので、すごく手応えは大きいです。

――その上で、作曲者それぞれとして、自分の書いた曲に対しての作詞者・龍寺さんのアプローチをどう評価しますか。

タイゾ：前々から、恋愛系の歌詞を書いてほしかったんですけど、ずっと苦手だと言われていまして。でも今回、「roulette」で曲にピッタリな恋愛の歌詞を書いてくれたっていうのは、すごく嬉しかったですね。

――まるでピュアな10代の告白前夜の気持ち、見事描いていますもんね。

龍寺：こういう恋愛系の歌詞、書くのはホント大変でしたけどね（苦笑）。特にこの歌詞は、男の子目線なのか、女の子目線なのか、年齢はどれくらいなのか…いろいろ悩みまして。でも、言ってもらったように10代の、しかも女の子のイメージで書こうと。ホント、ピュアですよ。

たつひ：僕の曲は、ピュアなラヴでは全くないんですけど…やっぱり「kuga-宗派右編-」の満足度はめちゃくちゃ高いんですよ。《憎の顔／青冷める》とか、スゴいですよね。

――戦慄しましたよ、ホントに。開けちゃいけない扉を開けちゃったというか。

たつひ：〝どんな強い言葉を入れようか〟っていう話もしてこういう歌詞になったんですけど…龍寺の得意分野だ

レードですし。でもこういった系統の歌詞を書く時、どんな心理状況なんでしょう。

龍寺：まず、書くと決めた日の朝、起きた時から〝今日は最悪だ〟って1時間ぐらい思い込んでテンションを下げるんですよ。で、哀しみか憎しみかどちらかを高めてバーっと書くんですけど…この歌詞、すぐ書けましたからね。

──ちなみに、気になる「kuga-宗派右編-」と「vega-教派左編-」の関係、解説してもらえますか？

龍寺：たつひの書いたこの2曲、そんなハッピーな雰囲気の曲でもなかったし、姉妹曲みたいな感じにしたら面白いのかなと。結果、実は「kuga-宗派右編-」を違う表現で書いたのが「vega-教派左編-」なんです。

たつひ：あと、僕は〝宗教〟っていう言葉をずっと使ってほしいなと思っていて。

──それで、〝宗派〟と〝教派〟に分けたんですか。

龍寺：そうです。そのまんま使うのはいろいろと難しいですからね。でも、ウマく落とし込めたかなとは思っています。

裕哉：僕はやっぱり、「連弾_pianoduet」が衝撃的だったんですよね。初めて恋愛の歌詞を書いたにもかかわらず、完成度が高いと思ったし、僕自身、読んでいてときめいたので。デモを聴いた時、〝ホントにゾロの曲なの!?〟って思いつつ、ニヤけを抑えるのが大変でしたもん。

──《街だけどキスしていいかな？》だなんて…読んでいてドキドキします。

裕哉：これはまさに、ゾロにとっては革

龍寺：そう言われると恥ずかしいけど…書く時は意外と恥ずかしさはなくて。今までも使っていますけど、〝キミ〟とか〝ボク〟とかのほうが、どちらかと言うと恥ずかしいですね。けど、曲に合った雰囲気には出来たかなとは思います。

──逆に作詞者的に、作曲者それぞれに言うことがあるとすると？

龍寺：タイゾに関しては、彼ならではの独特な世界を持っているなと思っているんですけど、確実に作る曲の幅が広くなったなと。

──確かに、切なポップな「roulette」、デジタル要素強めな「トラッシュ」、ワイルドなドライヴ感と突き抜けたサビのコントラストが面白い「live for LIVE」と、三者三様ですもんね。

を聴けば1本筋は通っているので、自分本来の色と新しい色を混ぜながら、ウマく拡げていっているなと思うし。あと、昔に比べてすごく歌いやすいメロディをつけてくれるようになったんですよ。

タイゾ：確かに、昔はキーは気にしていたけど、ブレスに関してはそこまで気にしていなくて。今は、デモを作る時に自分でも本気で歌っているし、歌いやすさも重視するようになりましたからね。

龍寺：その点、たつひはタイゾとは対照的なんですよ。昔も今も、いつも俺に試練を与えてくれますからね（笑）。

──でも、スパルタでこそ伸びる部分もありますからね。

龍寺：そうそう。出来なかったら絶対に克服しようと思うし、そこは、ある意味

に、自分ががっつりデジタル担当であることを解ってブレずに曲を作ってくるので、そこはスゴイなと思いますよ。

──裕哉さんに対してのお言葉は先月号で聞きましたが、今回のアルバムで1曲に絞って言うとすると？

龍寺：「green」ですね。自分がやりたかったことと、裕哉自身がやりたかったことがキレイに重なってて。メロディは二転三転したんですけど、結果的にはゾロにとって新しい武器になったなと。

──あと、音像的にも歌詞的にもパンチのありすぎる「猿愛」についても、触れておかないといけませんね。

裕哉：僕は自分が丸い人間に思われるのがイヤで。とにかくロックしてやろうと思って作った曲なんですよ。デジタルの

自分たちでも新鮮だし、達成感はある

両極端を組み合わせて、それをこれから突き詰めていく上での第1弾なんです。

──そのスピリッツ、まさにパンクですが…いきなりド頭に持ってくるとは。

裕哉：それが、全員一致でしたからね。

龍寺：歌詞も気に入っているし。

──さんざん病んでおいて、《病んでいませんから》という先回りをされるとは思いませんでしたけどね。

龍寺：絶対病んでますからね（笑）。裕哉がポロっと口にした〝病的ってカッコイイよね〟っていう一言から生まれたんですけど、キテると思いますよ。

──こうなると、12月29日・渋谷C.C.Lemonホールでのワンマンがいかなるものになるか、気になるわけです。

裕哉：僕的には、ゾロらしいライヴが出来るという確信はありますっ。

たつひ：僕も、C.C.Lemonホールに自分たちが立っている姿は浮かんでいるので。ロックなライヴにはなると思います。

タイゾ：『KIGA』はバンド・サウンドが前に出ている作品なだけに、ギターを前に出せるし、だからこそちゃんと見せないといけないですからね。頑張りですけど、音源の完成度とライヴの臨場感どちらも感じてもらえるライヴを目指します。

龍寺：自分たちでカッコいいと思える作品が出来たので、プラスな空気で挑みたいなと。ガッツリいきます！

hudie.com

龍兎　総史

WHITE BLADE.

少女-ロリヰタ-23区
lolita 23q

自信"を詰め込んだ作品

ヴォーカルに総史を迎えてから、少女-ロリヰタ-23区は きく変わった。だからだろうか、新作「WHITE BLADE.」は ても自信に満ち溢れた仕上がりとなっている。昔からロリ タを愛している人も、きっと満足できる1枚になるはずだ。 して、12月23日には、待望のワンマン・ライヴ「限定区」が行 われる。聖夜前日とだけあって、特別なライヴになることは 違いない！

view: ERI MIZUTANI

——新体制になって、初めてのシングルリリースだけれど。

リョヲ丞：気合い満点で頑張りました！

——ということは、準備にも余念がない感じで？

リョヲ丞：リードとなる「WHITE BLADE.」の原曲は、この前出したミニ・アルバム『星帯次元区域ミネルヴァ』の頃からあったものなんです。サビメロとメインのリフというのはそこで決まっていたので、完成させるまでにはさほど時間はかかりませんでした。もちろん、ミニアルバムを作ったことや、ツアーを廻ったことで見えた新しい部分というのを混ぜていきたかったので、更なる改良は重ねていきましたけど。

——やはり、みんなにとって、このツアーは大きかった？

総史：見えたことは山ほどありました。自分の目標としては、ヴォーカリストとして成長すること。そして、バンドとしての一体感を深めるということだったんです。さっき、リョヲ丞も言っていたように、このツアーで、バンドとしての一体感がすごく良くなったと思うんだけど、ね。それにより、お客さんとの一体感も深まってきて。

——それはすごい。だって、一体感って簡単に深まるものじゃないし。

リョヲ丞：そうなんですよね。

——けど、実際には深まった。何がそこまでロリヰタを変えたんだろう？

龍兎：嫌っていうほどメンバーと過ごす時間が長かったからじゃないですか(笑)。でも、そうやって四六時中一緒にいたからこそ会話も増えたし、そこが一体感というものに繋がっていったのかなって。

ユ≠キ：でも、このツアー、瞬発的に決めたこともあって、最初は無謀かなと思ったんです。けど、色々と廻る中で変わることができて。本当に、やって良かったと心から思えるツアーになりました。

——そういえば、高田馬場エリアとか久しぶりだよね？

ユ≠キ：久しぶりで面白かったです。スモークの匂いを嗅いだ瞬間、エリアに来たなぁって思って、何だか懐かしくなりました。

蝴蝶网 hudie.com

ごく嬉しかったし、何よりも、この5人で、〝今日のライヴは良かったね〟とか、〝ここはもう少しこうした方がいいね〟とか言えるのが良くて。そういうツアーにしたいなって、始まる前から思っていたので、終わった今、感無量です。

リョヲ丞：だからこそ、すごく実になったなと。バンドとしての一体感はもとより、5人で表現する音楽はこういうものだというのが改めてわかりました。その後、レコーディングに入ったので、今回の作品もライヴっぽいというか、そういった空気感は出ていると思います。それと、僕たちはこういう者です、というのをここで言うことが大事になってくるかなと。だからこそ、自分たちの意識が入っているんですよね。メロディアス、かつハード。そして、美しさもありながらソリッドで、という。

——それはまさに、ロリ犴タが初期から大切にしていること。

リョヲ丞：はい。その想いはぶれることはありませんから。あと、『星帯次元区域ミネルヴァ』を作ったことで、新しいロリ犴タの形っていうものが自分の中で見えたんですよね。それをよりパワーアップさせたのを「WHITE BLADE.」で出したいと思っていて。だから、右のチャンネルからは龍兎が奏でる世界観が、左のチャンネルからはユ≠キの世界観が溢れている。更に、そこに合わさるドラムとベースの衝撃を分厚く表現したかったというか。元々、それぞれが個性を発揮できる曲だったので、自然と表現されていきましたね。

——それ、理想の形だよね。

龍兎：俺、他人が作った曲の方がアレンジが思い付きやすいんですよね。今回は歌メロ重視だったので、弾きすぎても邪魔するだけだと思ったんですよ。だから、『星帯次元区域ミネルヴァ』のときよりかはシンプルにしているかな。

ユ≠キ：アレンジに関して言うと、俺も得意な方なんですけど、この曲は難しかったですね。けど、「WHITE BLADE.」というタイトルが付いた瞬間、自分の中で閃くものがあって。なので、完全にタイトルからイメージが膨らんだっていう感じですね。

それにより、方向性がバチッと定まって

——タイトルって大事。歌詞は、リョヲ丞さんと総史さんの共作だね。

リョヲ丞：確か、メロを聴いて、具体的な絵が浮かんだんだっけ？

総史：そうそう、冬の景色が。

リョヲ丞：俺が原曲を作った時点ではそういったイメージはなかったので面白いなって。

——2人がイメージする冬って明らかに違う感じがするな。

リョヲ丞：ははは（笑）。でも、そこで表現される人間模様が一緒だったこともあり、煮詰めていくのは簡単でした。1人では思い付かない発想とかが盛り込まれるので、共作って楽しいですね。

——お互いの良い部分が混ぜられるからね。総史さんにとっては、ロリ犴タに加入して2枚目の作品となるわけだけど、どういった課題をあげていったのかな？

総史：僕としては、「WHITE BLADE.」を出すことが決まったとき、自信が詰め込まれた作品にしたいなと思ったんですよね。ツアーを経て強化された部分、それを進化に繋げていきたいって。

——そういった想いがあったから、歌声に力強さが加わったんだね。それにしても、歌録り、さっきまでやっていたんだって？

総史：リアルに言いますけど、今朝の6時半までやっていました（苦笑）。歌詞からもわかるように、パキパキとした冬のイメージを出したかったので、各フレーズにこだわって歌っていきましたね。

リョヲ丞：この曲、作った自分が言うのも何ですけど、超難しいんですよ。

——『星帯次元区域ミネルヴァ』の延長線上にありつつも、全く新しいところに踏み込んだ曲だからね。

リョヲ丞：そうなんですよ！ 圧倒的に違うのは、『星帯次元区域ミネルヴァ』の方は総史と出会う前からあったメロディが中心となっていたんですけど、今回は一緒に会話をする中で生まれたものだったので、今のロリ犴タらしさに変わっているんですよね。

——総史さん、よく頑張りました。

総史：でも、みんなも偉いんですよ。歌録りのとき、ずっと一緒にいてくれまし

と様々ですけど（笑）

——誰が何をいしていたか想像付きます。

ユ≠キ：大事なところでは口出しましたよ。

——（笑）さて、今作には「WHITE BLADE.」以外にも魅力的な曲が入ります。ということで、作曲者から聴きどころを！

リョヲ丞：「虚構心臓ドロイド（フェイクハートドロイド）」は、ザ・ロリ犴タってところですね。聴けばわかります（笑）。詞世界に関して言うと、フィクションの世界の中でリアルな感情を歌いたいという、バンドのテーマがはっきりと出ている曲になっていると思います。

龍兎：俺の作った曲は……。

総史：すいません、いきなり口挟んで申し訳ないんですけど、この曲、まだ歌録りが終わっていないじゃないですか。

——現段階（10月下旬）では。

総史：でも、龍ちゃんが歌っているバージョンっていうのがあるんですよ。

龍兎：正直、俺の方がうまいと思う。まぁ、そこを総史がどう歌い上げてくれるか、そこが聴きどころですね。

ユ≠キ：……上から目線（笑）。

龍兎：過去最高な曲になると思うので、楽しみにしていて下さい。

ユ≠キ：で、もう一曲は、多少マニアックにはなっていると思います。リズムにしろ、フレーズにしろ。けど、全体を通して素直に聴いてほしいですね。

——そして、この作品が出た翌日には、「限定区・Limited Ward・～THE X'mas_2010～」が開催されます。

BAN：新曲ももちろんやるし、面白い企画をたくさん用意しておきます。

——龍兎さん、歌っちゃえば？

龍兎：練習しておきますか

リョヲ丞：（笑）。ちなみに「限定区」を知らない人の為に説明をしておくと、「限定区」とは、ファンとの絆を深めたいという想いから生まれた特別なライヴなんです。この5人になってからは初めての「限定区」なので、普段見せない一面を見せていきたいなと。BANも言ったように、色々と企画を考えているので、ファンのみんなと絆を深め合える日になればいいなって思います。

http://www.lolita23q.com/

蝴蝶网
hudie.com

DaizyStripper

E、ツアー真っ最中の
yStripper。ライヴを重ねる
こ成長していくバンドなだけ
このツアーが終わる頃には、ま
回り大きくなって帰ってきて
ることだろう。
今回のインタヴューは、いつ
は一味違う趣向で、メンバー
られざる一面に触れてみた。
を紐解く5つのキーワード。
では、じっくりとご覧下さい。

ew:ERI MIZUTANI

蝴蝶网
hudie.com

DaizyStripper解体新書

5Items Interview【ライヴ編】

初めての発表会

—みんな、人前で初めて演奏したときのことって覚えている?

風弥：覚えていますよ。僕は、小学生のときのことなんですけど、朝集会でピアノの伴奏をしたのが、生まれて初めての演奏でしたね。確か、校歌とか弾いた気がします。

—当時、男の子がピアノの演奏するのって珍しかったんじゃない?

風弥：誰もいなかったです。でも、僕は率先して手を挙げていました(笑)。

なお：僕も、人前で初めて演奏したのは小学生のときですね。姉の影響で、同じクラスの高橋くんと、金管バンドクラブっていうのに入ったんですね。あるとき、発表会があったんですけど、そこで何故か、僕は大太鼓をやたらに叩きまくり、彼はシンバルを打ち鳴らし、最終的には、アンサンブルを無視して、2人の意地の張り合いになってしまったという。

—何となく、想像が付きます(笑)。

まゆ：僕は、幼稚園のときにやったハンドベルが最初の演奏になるのかなぁ。でも、ハッキリと記憶に残っているのは、小3のときに、地元のサッカークラブの10周年を祝ったリコーダー演奏なんですよね。何でサッカークラブに入っているのにリコーダーを吹いたのかは未だに謎なんですけど(笑)、そのとき、チームのみんなから、〝サッカーしているときよりも楽しそうだ〟って言われたんですよね。きっと、それが今に通じているのかなと。

Rei：それはあるかもよ。僕も、初めての発表会で演奏した、カスタネットとタンバリンが今に通じていると思うし。

—(笑)。まぁ、リズム感ってところではそうかもね。

夕霧：僕は、小学校のとき、学習発表会での鍵盤ハーモニカが、人前で初めての演奏ですね。あと、当時担任だった先生が、僕のリコーダー演奏を録音しているはずなんですよ。それが今どうなっているのかすごく気になる!というわけで、誰か連絡下さい(笑)。

旅路の宿での過ごし方

—長いツアーともなれば、宿泊は絶対。そんなとき、部屋割りはどのように?

風弥：基本、僕は、なおちゃんと一緒の部屋が多いですね。

—いつも同じだと、生活パターンが似てくるんじゃない?

なお：は、はい……。

—あれ?違う?(笑)。

風弥：まぁ、多少の文化の違いは仕方ないかなって。

なお：どうやら、かざみんは、僕の生活態度が許せないみたいなんですよ。

風弥：だって無理でしょ。服は散らかす、音楽はかけっぱなしにする、その上、ギターを大音量で弾き始めるっていう。

—まさに、大迷惑。

まゆ：それを知っているので、残りの3人は、この2人の部屋には滅多に遊びに行かないですね。

なお：あははっ、ひどい!(笑)。

—1つの部屋に集まって、みんなでお酒を飲んで語り合うとかは?

Rei：それが、弱いんで(苦笑)。

夕霧：うちら、ほんとダメなんだよね。なので、みんなで1つの部屋に集まるときは、大抵、当日のライヴの反省会をしています。でも、5人して小さいハンディカムを見ながら反省している光景は、傍から見たらかなり面白いと思います(笑)。

史上最大の失敗

—ライヴでの失敗談を教えて下さい。

Rei：すごく気合いを高めてステージに出ていったのに、勢いあまって靴が脱げちゃったとか(笑)。しかも、それがバレたくないがために、ずっと冷静を装ってライヴをやっていたことがあります。

風弥：ハプニングって、ライヴ中、必ず1つはあるものなんだよね。僕、たまーに、自分の指をスティックで叩いちゃったりしてますから。

—それは痛い!そういえば、ライヴ中に足がつったこともあったよね?

風弥：あります、しかも1曲目で(笑)。

夕霧：それ辛いね〜(笑)。僕は、ライヴ中に衣裳のズボンが破れたことがあって。

—それ、どうしたの?

夕霧：バレないよう、カニ歩きをしてステージから去っていきました。

なお：(笑)。僕の失敗はというと、演奏中に鼻血を出したことぐらいですかね。あと、弦が切れて、すぐ張り替えたにも関わらず、その後また切れたっていう。

まゆ：面白すぎる(笑)。僕はですね、10月にやったファンクラブライヴでのことなんですけど、そのとき、ハロウィンの仮装をして演奏に没頭していたんです。そしたら、ロングのウィッグがギターに絡まっちゃって、どうしようもできなくなって。外すに外せなくて大パニックでした(笑)。

心に残る情景

—今までのライヴで印象に残っている事は?

まゆ：僕ら、毎回ワンマンで〝ありがとう〟って言うんですけど、その度にファンの子が〝ありがとう〟って返してくれるんですよ。あれがすごく嬉しくて。僕らの伝えたいことって、ちゃんとみんなに伝わっているんだなぁって思いますね。

Rei：そういうのもあって、結成してから今まで、どのライヴも心に残っているんですよ。だからこそ、ライヴをやっている最中、昔のことを思い出したりもするし。初ワンマンのときはこうだったなとか、海外に行ったときはこうだったとか。何か、面白いですよね、そういうのって。

—不思議だよね。

なお：そう思うと、3年以上活動してきた中で、印象的な場面ってかなりあったなって思います。ちなみに、僕が最も印象に残っているのは、九段会館でのワンマンですね。ライヴ中盤、かざみんが体調不良で倒れてしまい、あわや中断かと思ったんですけど、何とか頑張って最後までやることができて。そこで、ライヴができることの喜びや、この5人じゃなければバンドは成り立たないんだっていうのを改めて気付かされましたね。

風弥：自分自身、まさか倒れるなんて思ってもみなくて。でも、ステージに戻ってきて、みんなが温かく迎えてくれた瞬間、涙が込み上げてきました。

—本当に、デイジーは良いファンに恵まれているよね。風弥さんがステージに戻ってくるまでの40分間、みんな祈るような気持ちで待っていたからね。

風弥：俺、あのとき、DaizyStripperの風弥として存在する意味を実感した気がします。

夕霧：と同時に、バンドの絆を試されている感じがしたよね。

—ほんと、そう思うよ。ところで、夕霧さんが印象に残っているライヴというと?

夕霧：1つは、初の大阪でのライヴなんですけど、終演後、「星空と君の手」を会場に流したんですね。そうしたら、どこからともなく大合唱が起こって。それを楽屋で聞いていて、ものすごく感動したのを覚えています。あと、もう1つは、去年の夏のワンマンツアーのファイナル公演での出来事。「茜空に咲く」という曲を演奏したんですけど、あれは亡くなった祖母に向けて書いた曲なんです。ヴォーカリストとして、無心で歌おうと思ってはいたんですけど、どうしても溢れる感情をこらえることができなくて。そんなとき、メンバーとファンが僕を支えてくれて。みんな、温かいなって感じた瞬間でしたね。

新しいカード

—では、最後の質問!今後、ライヴでやってみたい事って何ですか?

夕霧：はい!メンバープロデュースのライヴをやりたいです!

—採用!

夕霧：(笑)。きっと面白くなると思うんですよね。タイトル、セットリスト、全てをそれぞれが1から考えるっていう。

—夕霧さんはどんなライヴやりたい?

夕霧：うーん、水着限定ライヴとか。

一同：何それ〜(笑)。

夕霧：あくまで、一例(笑)。

風弥：でも、自分の好きにできるライヴって良いよね。他のメンバーが考えるライヴっていうのも見てみたいし。

なお：そんなこと言ったら、僕はミッキーマウスを呼んじゃうよ!

Rei：男限定ライヴとかも面白そうじゃない。あとは、メンバー全員が女形でのライヴとか。とりあえず、ファンの子が見たことのないライヴをやってみたいなって思います。

まゆ：とにかく、色んなことをやってみたいよね。でも、お互い、負けていられないっていう闘志が剥き出しになりそうじゃない?

一同：わかる!(笑)。

夕霧：けど、いつかは実現したいよね!

蝴蝶网 hudie.com

――今回の3ヶ月連続リリース企画は、どういうところから持ち上がったの？

レガ：結構根本的な話になっちゃうんですけど、俺たちって、今まで、本当に何も解らずバンドやってきたとこあったんですよ。音楽やりたくてバンド始めたんですけど、なにぶん初心者なもんで、結成したけど、どうやってバンドを動かしていったらいいか解らなかったんです。

――そういえば、TOON-FACTORYは、レガが“ex○○”っていう肩書きの無い人でバンドを組みたかったんだもんね。

レガ：そうなんですよ。それもあって、今の事務所の社長が引いてくれるレールの上を、とにかく一生懸命走ってきてたんです。リリースも、自分たちが決めるんじゃなくて、社長が決めてくれてたから、俺たちは、“リリースがあるから曲を作る”っていう感覚のところがあったんです。けど、ワンマン・ツアーを経験していく中で、もっと積極的に自分たちの見せ方を考えていくべきなんじゃないかって思い始めたんです。“リリースがあるから曲を作る。”っていう意識じゃな

うになって、曲を作り溜めていたんです。今回はそんな曲たちを、3ヶ月連続という形でリリースすることになったんです。

ゆーぃち：ジャケットや衣裳や、見せ方もいつも以上に考えましたね。

ひかる：ちゃんと3ヶ月連続でリリースする意味も考えてあるんですよ。

雫：今回は2曲入りなんですけど、予め、みんなで入れる2曲をチョイスして、1枚1枚のシングルの色を煮詰めていくことにしたんです。1枚ごとにカラーの違う3枚になるので、この先続く2枚も楽しみにしててほしいですね。

――なるほど。いろんな意味でのチャレンジが含まれている3枚なんだね。第1弾の「Fiction」の「still alive」は、レガ曲だけど、これもありそうでなかったチャレンジ曲だよね。

ガさんの曲っていうのが珍しいですからね！ 初めてレガさんが、作曲面でもリーダーっぽいことしましたよ（笑）。

レガ：うるさい（笑）！ 自分的にも、いつも作曲期間は、夢叶くんと雫くんが曲を作ってくるのを待つしか出来なかったんですけど、今回頑張ってみたんです。自分的に、こういう曲やってみたいなってモノを形にしてみたんですが、みんなに聴かせたら、“いいじゃん！ やろうよ！”って言ってくれて。すっげぇ嬉しかったです。で、雫くんと夢叶くんに渡して、そこからアレンジも含め、曲を煮詰めてもらったんですが…そっからデモ曲が原型を残さないくらい変化して、仮タイトルまで変わって返ってきたんです。

雫：あははは。そうだった、そうだった（笑）。最初、この曲の仮タイトル、「天才」だったんですけど、俺が「ちちくり」って変えたんです（笑）。レガくんがこの曲に入れたかったイメージが、“セックス・ドラック・ロックンロール”だったんですけど、曲の雰囲気的に、“ちちくり合う2人”っていうのが思い浮かんじゃって（笑）。そんなイメージで編曲してったんっすよ。ま、そんなタイトルも含め、レガさんにもらった曲を雫流に変化させてみたんです。名付けて“雫ロック=シズロック”！ ギタープレイ的に、ここまでシンプルというか、単調な曲って初めてなんっすよ。言葉が多い曲だから、ギターはフレーズじゃなく、出来るだけコードで攻める感じにしたんです。同期も多い曲だから、曲を活かすためにはそうした方がいいと思って。

夢叶：シズロック！ カッコイイ！

ゆーぃち：個人的にも好きな曲でしたね。カッコイイ曲だと思います。けど、原曲から変らず残ってるとこって、リズムくらいじゃない（笑）？ あ、そうでもないか、リズムも変わってるな（笑）。

――何も残ってないのでは……。

レガ：そうなの……（寂）。俺のエッセ

TOON-FACTORY

Fiction

自らの意志で…

2010年12月29日から、2011年1月26日、2月23日と、3ヶ月連続リリースを企てている
OON-FACTORY。「Fiction」「Chloris」「2Logic」と題された3部作とはいったいどんな作品なのだ
う？　今回は、2010年を締めくくるラスト音源でもある、3部作の第1弾「Fiction」について、ひか
・雫・夢叶・レガ・ゆーぃちに話を訊いた。彼らがこの3部作に込めた想いとは？

otography:MASAKAZU KOBAYASH（SHOXX）
rview:NAOKO TAKEICHI
r&Meka-up:NAZU

蝴蝶网
hudie.com

ンス……皆無みたいな（苦笑）。ま、カッコ良くなったんで、それはそれで本望なんですけどね。いいんす。俺は。曲がカッコ良くさえなってくれたら。

夢叶：いや、この曲はレガさんがいなかったら生まれてこなかった曲ですから！

レガ：ありがとう、夢叶！

夢叶：お礼、ラーメンでいいですよ（笑）。でも、きっかけをくれたという意味で、レガさんはこの曲の立派な作曲者ですよ！　ちゃんとイントロ部分に、レガさんがやりたかったクラブっぽいニュアンスは生きてますから！

――ラップの範囲が広い攻撃的な曲調と、クラブっぽいサウンドがすごくいいバランスの曲だと思う。歌詞はひかるですが。

ひかる：はい。今回、歌詞も、〝セックス・ドラック・ロックンロール〟を軸にした、とにかく悪い感じのモノにしてほしいってことだったんで、いつもは絶対に使わないような言葉をみつけてきて、いつもの自分らしくない歌詞を書き上げましたね。最低な男の歌詞です。

レガ：歌詞も本当に理想どうりでしたね。俺、個人的に、愛だの恋だの言ってる歌詞って好きじゃないんですよ。イケメンが、〝オマエを絶対離さない〟とかって歌ってても、心のどっかで〝嘘言え〜！　どうせ遊んでんだろ！〟って突っ込んじゃうんですよ。だから、そういうんじゃなく、もっと本能的な歌詞が欲しかったんです。ラップ部分を台詞的な感じで感情的に歌いたかったんで、歌の部分では、そこの感情が突起するように、機械的に歌ってほしかったんですが、そこもひかるくんがちゃんと読み取ってくれて、理想どうりの仕上がりになりました。

――「white tears」は？　この曲は夢叶の作曲曲ですが。

夢叶：はい。この曲は作ったの結構前なんですよ。バンドのメンバー全員にそれぞれスポットが当たるように考えて作った曲です。ドラムソロはないけど……。

ゆーぃち：そうなんだよね（笑）。ベースソロもギターソロもちゃんとそれぞれの見せ場がある曲だもんね、この曲って。

夢叶：そう。ごめんね、ドラムソロも入れようと思ったんだけど、結果的になくなっちゃったの（笑）。

ゆーぃち：いいよいいよ、気にすんなよ。

一同：（爆笑）。

――メロディアスな曲ではあるけど、これ、実は歌うと難しい曲なんじゃない？

ひかる：そうなんですよ！　まさにこの曲は、歌うの難しいです。キャッチーなんですけど、ニュアンスを掴み辛いと言うか。歌詞もニュアンス重視なので。

夢叶：たしかに。歌が基盤となる曲なんで。アコースティックではないんですけど、生っぽい雰囲気を大事にしたかった曲でもあるんで、歌うのは難しかったと思いますね。「still alive」がスピーカーからガンガン流れてくる音であるのに対して、「white tears」は、本当に近くからそっと聞こえてくるアンビエントな空気感が欲しかったんです。

ひかる：今回はそんな雰囲気を大事にしたかったんで、隙間も大事にしたかったし、だからあまりコーラスを重ねないようにしたんです。

雫：ギター面でいうと、個人的に俺もかなり難しかったですね。ギターソロの部分のテンポ感がそうとう難しかったです。ギタリストって、自分の得意なテンポ感ってあると思うんですけど、俺的にこの速さで弾くのはかなり困難で、相当苦労しましたね。でも、夢叶くんが出したかった空気感が出せたギターが弾けたんじゃないかなと思いますね。

レガ：いやぁ、ベースもかなり苦戦しましたよ。なんか、上手いことフレーズがつけらんなくって。ゆーぃちくんに音聴いてもらおうと思ってメールで送ったら、ゆーぃちくんが、〝いや、ちょっと今からそっち行くわ〟って来てくれて。

ゆーぃち：そうなんですよ。電話じゃ伝わらないと思ったんですよ。最初、なんか根本的にズレてて。すっごい気持ち悪いんですよ。そこを直さないとと思って、レガくん家まで言って、何度も弾いてもらって、ずっと納得いくまでやりとりしたんです。

レガ：もうあまりにも何回もやり直してるから、何がなんだか解らなくなってきちゃって。途中で腹立ってきちゃって。

ゆーぃち：そうなんですよ、コイツめっちゃ怒るんですよ（笑）。ゲームに負けた時の子供みたいに怒るんだもん……。でも、あってないから、負ける訳にはいかなくて。〝もぉ、怒るなよぉ〜〟って言いながら、ぬいぐるみがスピーカーになってる安いスピーカーに繋げて何回もやりとりしたんですよ。努力の賜物ですよ、この曲。ホントに。

レガ：本当に（笑）。ゆーぃちくんのおかげで、しっくりくるベースフレーズをこの曲に入れることが出来ましたね。

ひかる：ま、そんないろんなエピソードが存在する「Fiction」ですが、楽しんで聴いてもらえたらなと思います！

(問) 〒160-0023 東京都新宿区
西新宿8-5-2 フィヨーレ西新宿102
http://www.toonfactory.jp/

蝴蝶网
hudie.com

ATHGAZE

蝴蝶网
hudie.com

PECIAL ONEMAN「THE DEATH NIGHT」

010.12.25 SAT 名古屋 HeartLand STUDIO 【問】HeartLand STUDIO : 052-202-1350 / enter brain : 052-760-2477

NEMAN TOUR 2011「BLISS OUT MIND」

5 SAT 新潟 JUNK BOX mini 【問】RISKY : 025-243-0799
6 SUN 仙台 Hook 【問】Hook : 022-716-8633
23 SUN 金沢 AZ 【問】AZ : 076-264-2008
28 FRI OSAKA MUSE 【問】OSAKA MUSE : 06-6245-5389
04 FRI 広島ナミキジャンクション 【問】セカンドシーン : 082-212-0810
02.06 SUN 福岡 DRUM SON 【問】GreeN Music : 092-714-0230
02.12 SAT 本八幡ルート 14 【問】ルート 14 : 047-325-3086
02.20 SUN 新宿 LOFT 【問】LOFT : 03-5272-0382
02.27 SUN 高松 DIME 【問】M.T.R : 087-816-6660

UR FINAL 2DAYS 03.12 SAT・13 SUN 名古屋 ell.FITS ALL 【問】ell.FITS ALL : 052-211-3123

nformation】enter brain 〒465-0025 名古屋市名東区上社 2 丁目 54 本郷マンション 403 号室 TEL : 052-760-2477 HP : http://www.enter-brain.jp

http://www.deathgaze.jp

NEW ALBUM「BLISS OUT

光と闇が交錯する世界で恍惚に染まる＿＿。

【豪華盤】デジパック2CD仕様　EBCA-2010S　¥4,410-(Tax in)

【豪華盤収録曲】(DISC 1)
1. GOD BLESS YOU
2. CRASH DOWN
3. BLOOD
4. MY DOPED BRAIN & SKIN IS DEAD
5. IRIDIZE DREAM
6. SORROW
7. CHILDREN
8. UNDEAD FACT
9. SIX BLACK NINE
10. GRACE
11. BLISS OUT YOURSELF

(DISC 2)
1. miscarriage
2. killing floor
3. FAZE HUMAN, RAZE HUMAN
4. proof
5. gethsemane
6. Mr.FREAKS

【通常盤】EBCA-2010　¥3,

【通常盤収録曲】
1. GOD BLESS YOU
2. CRASH DOWN
3. BLOOD
4. MY DOPED BRAIN & SKIN
5. IRIDIZE DREAM
6. SORROW
7. CHILDREN
8. UNDEAD FACT
9. SIX BLACK NINE
10. GRACE
11. BLISS OUT YOURSELF

2010.12.08 WED RELEAS

蝴蝶网
hudie.com

銀座よろず屋本店 仮想店舗『柿ノ元』

蝴蝶网
hudie.com

■最新アーティスト写真 A ¥1,500【ULI-6】

■最新アーティスト写真 B ¥1,500【ULI-7】

凜 the end of corruption world

■最新アーティスト写真 C ¥1,500【ULI-8】

■オリジナルストラップ ¥1,000【ULI-9】

■オリジナルミラー ¥1,000【ULI-12】

■ポラロイドファイル ¥2,500【ULI-13】

ン入りポラロイド (メンバー指定可能 !!) ¥1,000【ULI-10】

ン入りチェキ (メンバー指定可能 !!) ¥500【ULI-11】

追加スケジュールは、OFFICIAL HP をチェック !! http://www.under-code.jp/

Annie's Black

■ Annie's Black メンバーサイン入り写真Aセット (6 枚入)
¥1,500【LAB-1】

■ Annie's Black メンバーサイン入り写真Bセット (6 枚入)
¥1,500【LAB-2】

■ Annie's Black メンバーサイン入りCD
¥2,100【LAB-3】

■マル秘メッセージ入りチェキ
¥500【LAB-4】

Annie's Black 1st SINGLE
『PLACE』初回限定盤
2010.9.15 in stores

【収録曲】
M:01 [i]mage # 0925
M:02 Ambition
M:03 deep psyche
M:04 Cage
M:05 amid the despair

¥2,100 (tax incl.)
PCLP-003
発売元：LOOP ASH RECORDS
販売元：(株)PCI MUSIC

Ash RDS 【INFORMATION】〒153-0064 東京都目黒区下目黒 2-18-3 目黒第一花谷ビル 602 号室
(有) ループアッシュ Web Site → http://www.loopash.com/alibi

UnsraW

リストバンド
¥1,000
【SUN-10】

ミラー ¥1,000【SUN-7】

マフラータオル ¥1,500【SUN-8】

Ap(r)il

メンバー全員入り
チェキ(5人)
¥2,000【SAP-16】

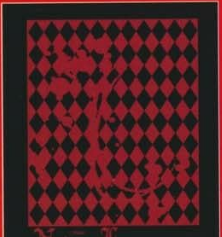
写真 10-A ¥1,000【SAP-18】

写真 10-B ¥1,000【SAP-19】

NightingeiL

限定 T シャツ (M サイズ)
¥3,500【SNI-11】

写真 10-A ¥800【SNI-13】



コンパクトミラー
¥1,000【SNI-12】

R 指定

タオル
¥2,000
【SRS-11】

写真 11-A ¥1,500【SRS-14】

写真 11-B ¥1,500【SRS-15】

Speed-disk

※ 注意事項
※ バックナンバーの受け付けは終了となりました。
※ 今月号のグッズの締めきりは 12/21 到着分までとさせていただきます。

● SPEEDDISK の[illegible]

★ SPEEDDISK PRESENTS『森羅万象 Tour'11#01』
・1/7(金) 名古屋 E.L.L
・1/8(土) 江坂 MUSE
OPEN 16:30/START 17:00 前売り ¥3,500/¥4,000
Cast:UnsraW/Moran
Guest：ケミカルピクチャーズ /SCREW/DuelJewel/BORN

・1/9(日) 江坂 MUSE
・1/10(月・祝) 名古屋 E.L.L
OPEN 16:30/START 17:00 前売り ¥3,500/¥4,000
Cast:R 指定
Guest：アンド /ZUCK/ν【NEU】/HERO 他

★ SPEEDDISK PRESENTS『桜華乱舞』
・11/24(水) 高田馬場 AREA
OPEN 16:30/START 17:00 前売り ¥3,000/¥3,500
Cast:A/ 我覇道 /SwallowtaiL- スワロウテイル -/VIRGEN OW/Para:noir/lam./LuLu

・11/25(木) 高田馬場 AREA
OPEN 16:30/START 17:00 前売り ¥3,000/¥3,500
Cast:Annie's Black/VIDOLL シュン＆ギル セッシ
オトガデッド /KYOKUTOU GIRL FRIEND/Sel'm/
DOPES./ 他
※UnsraW は諸事情によりキャンセルとなりました

・11/29(月) 高田馬場 AREA
OPEN 16:30/START 17:00 前売り ¥3,000/¥3,500
Cast:Administrator/ お遊戯ゎが魔々団 ×【PaRADE
V-last/Blu-BiLLioN / リバティーン -Libertine-/L
ASH

SPEEDDISK のイベント詳細は HP をご覧下さい。
http://www.xxxrecords.jp/speedd

蝴蝶网
hudie.com

■ SP + LIT TOUR 愛狂います。写真セット A
¥1,000【NAI-26】

■ SP + LIT TOUR 愛狂います。写真セット B
¥1,000【NAI-27】

■えみるデザイン
ケロＴシャツ
¥2,500【NAI-28】

愛狂(アイクル)います。aicle

漫帝國ツアーチェキ
る ルビ さらん 玲音】（メンバー選択可）
00【LAL-21】

■ SP + LIT TOUR
マフラータオル
¥2,000【NAI-29】

■ Dolly アクセサリースタンド
¥1,500【FDO-3】

■ Dolly3way 携帯ストラップ
¥1,800【FDO-4】

Dolly 単独公演ツアー
「THE 5COASTER'S CABARET Vol.2」

2011 年
◆ 3/6(sun)
福岡 DRUM SON

◇ 3/9(wed) 大阪 MUSE

◆ 3/11(fri)
名古屋 ell.FITSALL

◇ 3/17(thu)
仙台 JUNK BOX

TOUR FINAL
◆ 4/9(sat)
渋谷 WOMB

公演詳細は
Dolly Official Site を
ご覧ください。
http://www.dolly-web.com/

Dolly

uji Production inc.
sic Creative Office

■ Dolly
リボンポーチ
¥2,300【FDO-5】

ESPAIRSRAY

0周年記念パンフレット
200【DR-1】

・62 ページ・10 周年を振り返ったメンバーロングインタビュー、メンバー個人対談あり。※ 会場限定のポストカードはついておりません。※ 通販は数に限りがございます。

■マフラータオル 2010 限定ピンク ver.
¥1,500 [WSG-6]

■写真
¥1,000
[WSG-7]

TOON-FACTORY

し込み方法
をお申し込みの方は、郵便局に備え付けの振り込み用紙にて、定価＋送料 700 円を下
座までお振り込みください。なお、通信欄には下記事項をお間違いないようご記入くだ
便振替番号 00180-9-6084[illegible]
額欄 定価に送料を加えた金額をご記入ください。（複数種お申し込みの方は定価の
金額＋送料 700 円をご記入ください）
入者名 株式会社 音楽専科社

■通信欄 柿ノ元・希望商品名・商品番号・各商品の数量
■振込人住所氏名欄
あなたの住所、氏名、電話番号を丁寧にご記入ください。
【お問い合わせ先】
株式会社 音楽専科社『柿ノ元』
〒104-8228 東京都中央区銀座 6-2-3
Daiwa 銀座アネックス 5F
TEL03-3574-0203 FAX03-3574-8548

銀座よろず屋本店
仮想店舗
『柿ノ元』

蝴蝶网
hudie.com

装着レンズ：レッドパンサー
モデル：miko（exist†trace）

日本最大級「カラコン専門店」愛用者57万人突破!!

バンドマン、バンギャの皆
お待たせいたしました
パンサーカラー復活

一時生産を終了したものの、バンドマンや
係者からの熱いラブコールをうけ、ヴィーナ
ズパンサーカラーが復活！ライブでも鮮明
な発色で、まるで本当に赤い瞳になったよ

モデル装着
Zoom!
Before
ヴィーナスアイズ
レッドパンサー
黒と赤のしま模様が発色と
ナチュラル感両立のポイント!

グレーパンサー　ブルーパンサー
グリーンパンサー　バイオレットパンサー

※パンサーシリーズは全てヴィーナスアイズ3ヶ月使用タイプです。

**はじめてのカラコンはカラパラが
すべてにおいて感動もの!**

とにかく、コンタクトの質が良い!!
私は、ドライアイなのですが、こちらのコンタ
をつけていると、目薬いらずになりました
顔のいんしょうも全く変わり、
こちらのコンタクトは常に手ばなせま
何より、スタッフ様への信頼は
どこよりも大きいです。
TEL対応、発送のじん速さ、すべてにお
いて、感動ものです。
交換・返金制度は、特に、客のことを
第一に考えて下さっているしょうこでしょう

愛媛県　S.

まずはお試しやすい価格でTry!1ヶ月使い捨てタイプ。

人気 キャンディーブラウン　グランデブラック　人気 ブラウンブラック　エッジレッド
人気 エッジヘーゼル　エッジグレー　エッジブルー　エッジグリーン　エッジブラウン

ヴィーナスアイズマンスリー
（1ヶ月使用タイプ）　**2,980円**（税込）

経過措置届出品 | 1ヶ月使用 | 度なし | BC 8.6 | 1箱2枚入
もれなくプレゼント♪
レンズケース、洗浄保存液、イラスト付ご使用説明書

お気に入りのカラーを毎日使いたいあなたに!たっぷり3ヶ月使えてお得

人気 キャンディーブラウン　人気 ブラウンブラック　エッジヘーゼル　エッジグレー
エアリーチョコレート　エアリーブラック　グランデブラック　キュートブラウン

ヴィーナスアイズ3ヶ月使用タイプ　**4,980**

経過措置届出品 | 3ヶ月使用 | 度なし | BC 8.6 | 1箱2枚入
もれなくプレゼント♪
レンズケース、洗浄保存液、イラスト付ご

**人気のモデル
がいっぱい!**
[無料]カラコン専門誌
「カラパラマガジン」
差し上げます!お気軽
にお申し込みくださ
い。

ヴィーナスアイズマンスリーは、
こんなにお得に買える!!
500円OFF
ヴィーナスアイズマンスリー
2箱まとめ買い=500円割引
クーポンと合わせて使えば、
お買い上金額から700円も
割引に♪

度ありカラコンも充実のラインナップ!サイト、カタログもCHECK

キュートビュー14
ブラウン **4,095円**（税込）
処方箋提出不要 | 2週間使用 | BC 8.7
度数-0.50〜-9.00 | 度あり | 1箱6枚入

フローラM
ブラウン　チョコレート
処方箋提出不要 | 1ヶ月使用 | BC 8.7
度数-0.00〜-10.00 | 度あり | 1箱3枚入
3,5

ココで買えるヨ!

空メールはココ　v@007s.jp　※ドメイン指定をされている方は【007s.jp】を解除してね!
携帯サイトはココ　www.007s.jp　※サイトにアクセスしにくい場合は お電話にてお問い合わせください。
PCサイトはココ　www.007s-contact.com
お電話でのご注文　0120-544-804　受付時間 年中無休 9:00〜21:00
お客様相談室　0120-800-491　受付時間 年中無休 9:00〜21:00

ご注文方法

代金引換（手数料300円）でお届けします。商品到着時に現金でお支払いください。送料は全国一律735円、商品代金10,000円以上で送料無料です。返品交換は到着より10日間であれば承ります（必ずお電話ください）。カラーコンタクトレンズは高度医療管理機器です。商品に同封されている使用説明書を必ずお読みください。説明書に書かれた装用時間を守ってご使用ください。装用期間を越えてのご使用はおやめください。必ず眼科医の処方箋に従って購入してください。少しでも異常を感じたら、直ちに眼科医の検査を受けてください。また、定期検査は必ず受けてください。18歳未満のお客さまは保護者の許可を得てご購入ください。空メールを送ると知って得するトレンド情報がいっぱいゲットできるクーポン付きメルマガをお送りいたします。【経過措置期間届出品 13B1X80004000001】

カラコン通販なら カラコンパラダイス007
当店は高度医療管理機器販売の許可を取得しています。【許可番号春保第1010073号】
株式会社ネットランドジャパン 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1-19-9 第一暁ビル 2 階

カラコンの
「カラ★パラ」安心ポイン
■ 充実の配送システム、365日休まず配送します
■「満足保証」もし、満足いただけない場合 返品
発売記念!割引キャンペーン　今ス
空メを送
200円OFF
クーポン番号　7485
クーポン番号を入力するとご請求金額から
さらに200円お引きします。
ドメイン指定をされている方は【007s.jp】を解除してね!
有効期限：2011年2月28日まで
v@007

何処までも　追い風で　先へ行こうよ

spiv states

最新シングル『グライダー』リリース！！

蝴蝶网
hudie.com

最近、歌にポイントが寄りやすい体質に変わってきたのかもしれない。

IORIの脱退が決まり、現在はJUNひとりで活動中のspiv states。けれども彼の動きが止まることはな 2ndシングル『グライダー』の発売、そしてCD発売&誕生日記念の名阪主催イベント、さらに12月4日には 新宿Nine Spicesでのワンマンライヴと、精力的に活動中。今後の展開、新たなspiv statesの姿について ワンマンに足を運んでぜひ確かめてほしい。spiv statesはまだまだこれから、始まったばかり!

Interview:MIYUKI MURAYAMA

「誰が悪いわけでもない中で起きてしまったことは受け止めないといけないし、IORIの人生に関わることなんで、ちゃんと話し合って一番最善を選んだと思ってます。ただ、結論を出したからすべて、すっきりしたということはないんですが、ちゃんと話し合って決めれたっていうことは、お互いにとってすごいよかったことだと思うし。IORIには、今はバンドのこと、音楽のことは考えなくていいから体を治してほしいし、彼からは自分は活動を止めてほしくないとも言われたんで。だから、自分は続けてちゃんと進もうかなって思ったんです」

——そして今回発売となる『グライダー』ですが、曲を作ったのは、「フレーバー」の後なんですか。

「「フレーバー」の後、すぐですね。気分的にすぐ作ろうっていう気になったんですよ。それは「フレーバー」のおかげだと思うんですけど。何となくやりたいリズムがあったんで、そこがきっかけでスタートしてみたら、すごく早く進んじゃいました」

——曲調としては、「フレーバー」の流れを汲んでるのかなという印象があったんですけど。

「自分らなりのいい歌を、っていう姿勢で作ってたのは変わらないです。その流れでやってましたね。歌の持つテンションと言うか、楽曲の中で歌が必要とする意味合いと言うか、そういうものを考えましたね。やっぱりギターより歌のほうが大切なわけじゃないですか。僕は今までギターだったんで、結構ギターを大事って思ってたのが、歌が大事っていう感情がやっと出来てきたなって。今までの言葉では言えるんですけど、実感として感じてきたような気がしてます。バックで激しくするって言うより、歌の元気よさがほしかったり、そういう部分をやろうとしたんです。だから、「グライダー」は特にそうなんですけど、オケそのものにあんまり手を入れてないんですね。そういう風に、歌にポイントが寄りやすい体質に変わってきたのかもしれないです」

——メロディーを考えるにあたっても、変わってきたところはあります?

可能な中での組み立て方をすごい考えますね」

——「グライダー」のメロディーは、明るくて、すごくパワーが感じられますね。

「スピード感とテンション的なものは、すごい大事にしたかったんです。でも、ただ元気に行こうぜ!っていうものより、今は良くないけど、いずれ、そうであってくれたらいいなっていう、マイナススタートからハッピーな方向に向けたかったんですね。だから、サビの部分でも長くて構成が分かれていくんです。出だしは元気な部分がほしかったので、いつもだったら恥ずかしくて使わないでしょっていうぐらい明るいポップなコード進行を思い切ってそのまま使ってます。マイナスな部分をその後で表現したかったんで、明るいところはとことん明るく。ただ、それだけだったら、それ行け〜みたいな感じになってしまいますけどね」

——ただ、明るいだけじゃダメなんですね。

「そうです。それだけだと照れますね(笑)。実は自分がすごいいいなと思う曲は、すごく優しいものであったりするんですね。それが好きなのを自分で知ってるので、それと同じ空気をそのままダイレクトに自分で出すのが恥ずかしいんですよ。ちょっと照れる部分があるから、ちょっとひねくれたくなると言うか」

——曲の始まりから考えると、スコーンと抜けて行きそうな印象ですけどね。

「そのスコーンっていう言葉、ぴったりですね。何もしなかったら、たぶんスコーンっていう曲になってたと思います」

——でも途中には落としの部分が入ってたりします。

「どの曲に関しても、落としの場面が要るか要らんか考えます。「グライダー」はギリギリ要るなって判断で。曲の始まりは、スコーン系やなっていう印象なんですけど、ギターのコード進行とかが僕が普段いかないようなところに行って、AメロからBメロに行く瞬間のところとか、たまたま発見したパターンがあったんで、すごい曲の流れを生みやすくなったんです。それでその後、そのまま走っていって、すぐに出来たんですね」

——歌を意識するようになると、歌入れ

大事にしました。上手く歌おうとはしないようにして。レコーディングの最後の作業がこの歌入れだったんですよ。ちょっと疲れてきとるなぐらいのときに、よしやる!ってテンション上げて、半分悪ノリが入ってるような感じでやったんですけど、結果的にはそれがよかったのかなって。最後だったからいい意味で細かいこと考えないで、テンションとか、場面場面の空気を大事にして歌うっていう方向性が固まったと言うか。それがよかったんじゃないかと思います。ただ、落としのところは雰囲気を出さないといけないんで、唯一そこは上手く歌ってやろうと思って挑んでやりました。何テイクか録ったんですけど、結局使ったのは1テイク目だったんですね。それが嬉しくって(笑)。一回目に歌ったのを皆が口そろえていいって言ってくれたのは、ヴォーカリストとして嬉しかったですね」

——歌詞のメッセージが素直に入ってくる歌でもありますよね。

「ファーストのシングルを出して、加速しようっていう話をしてたんですね。だから滑走路でしょって。そこから、「グライダー」っていうお題が出てきて。すごく精密なジェット機ではなくて、人力に近い感じで。加速したいよねっていうところから全部始まってるし、言いたいのはそれひとつだけだったんで、わかりやすくなってると思います。他の人のやってることとかがきれいに見えたり、すごい事に見えたりって、皆あると思うんですよ。でも、そういう人達も自分で選んだ道を泥臭く進んで行ってるから、その姿勢がきれいに見えるのかなって思ったりして。だから、自分達はこの道、この滑走路で加速しましょうかって。言いたいのはそれだけなんです」

——カップリングの「TOKAGE」を作ったのはいつ頃?

「「グライダー」と大体同じ時期です。デモのタイトルが全部動物の名前になってて、トカゲやら鳩やらいっぱいいて大変なんです(苦笑)」

——これはトカゲだったんですか。

「これは、何か違う動物の名前がついてたと思うんですけど、後からちゃんと

んですけど、カップリングになったんで遊べばいいかって。普通に生きてて無敵な空気出してる人っていると思うんですよ。自分は誰からも好かれているはずだとか勝手に思い込んでいるという。そういう人間的な笑える出来事をちょっとふざけたかったんです。好きな奴もおれば嫌いな奴もおるっていう、そういうイメージが、僕の中でトカゲって感じで(笑)」

——それで「TOKAGE」?

「だから、トカゲが大群で歩いてたらどんな音すると思う? そんなことを考えながら、何となくサウンドが出来たときに、パソコンでトカゲの画像を検索して、トカゲの画像を出して曲流して、ん〜って聴いてみたりとか。カッコよくしちゃダメっていう基準だったんで、遊んでみました」

——歌うときも、「グライダー」とはまた違う感じで臨んだんですか。

「全然違いますね。最初、鼻つまんで歌ったろかと思いましたもん(笑)。それぐらい遊ぼうかなと思ったんです。カッコいい曲じゃなくていいよねっていうところが大切なんで」

——2曲の組み合わせが面白いですね。

「何げに。ひっついてみたら、いいのかなって気はしますね」

——面白い作品に仕上がりました。

「両方ともベース弾いたんで、指ちぎれるかと思いましたけどね。僕のベース、なかなかいいんですよ(笑)。一番最後にハモリ録るときは、鼻血出るんちゃうかってぐらい大変でした」

——そんな力作の発売を記念して、名古屋と大阪で主催イベントがありますね。これはお誕生日記念も兼ねてだとか。

「CDの発売日が誕生日なので、それも近いんで発売記念と合わせて。ライヴだけじゃなくて、面白い企画も考えてるんで、ぜひ来て下さい」

——その後は、東京でワンマンですね。

「はい。今はひとりで、サポートのメンバーとライヴやってるんですけど、スピップステイツというものをまた作っているので、ワンマンでは何かしら新しいスピップステイツが提示できると思います。なので、全員新宿集合で!」

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

7年半ぶりに刻まれた、"一秒"という時——

じつに7年半ぶりとなる人格ラヂオのフル・アルバム『一秒』が、11月3日にリリースされた。立ち止まり、振り返りながら、歩き続けた彼らが見せる景色は、まぎれもなく"人格ラヂオ"という世界そのもの。彼らがこの11曲に込めた想いとは……"7年半ぶりのアルバムなんだから、それぞれでたくさん語りたい"というふたりのリクエストに応えた、パーソナル・インタビューをお届けする。
そして改めて……「おかえりなさい」

Interview:YUKI SUGIE

悠希

僕らもリスナァも、残念だけど似てるんだから

一秒という、瞬間が持つ重み。自分たちを支えてくれている人たちからの、深い愛情。そして、これからも音楽を作って行くことの意味。悠希はこのアルバム『一秒』を作り上げていく過程で、きっと多くのことを知り、考え、感じてきたのだろう。全てはここに、作品として具現化されている。しかも、彼はさらに次の一手まで考えているというではないか。こんなにも喜ばしいことはない。

人格ラヂオ Jinkaku Radio

——まずは、7年半の時を経てのアルバム完成おめでとうございます。

「あー、ありがとうございます」

——これまでの背景を考えると、制作そのものにも時間を掛けていたのではないかという印象がありますけれど…でも、このアルバムにはレコーディング直前に出来た楽曲たちも、かなり多くエントリーされたのだそうですね。

「何しろ、1曲目の「儚くも美しく流れる景色」以外は、ほとんど活動休止明け以降に出揃った曲たちだから。一応、世間に対しては活休中にアルバムを作るっていうことを言ってたけど、あんなもんタ

やったって、最近の曲が多くなるよね」

——その際、〝7年半ぶり〟という言葉に伴うプレッシャーが、悠希くんの曲作りに影響を及ぼした点はありましたか。

「ひとつ迷ったのは、『証拠』っていうヒナ形を使って2枚目を作るのか、あるいは全く違ったものを提示するのか、っていう点は最初に悩んだ点だったかな。結果、前者を選んだんだけど」

——その選択は正しかったと思います。

「だよね。まぁ、別に『証拠』をそのまま焼き直したつもりはないんですよ。でも、今聴いても『証拠』ってバランスの凄く良いアルバムだったじゃない。全体の空気感はまとまってるのに、1曲ずつそれぞれ色がかぶったりもしてなくて。そのへんの雰囲気を、今回のアルバムでも継承したかったんです。あとね、やっぱり今回は〝ただいま〟っていう気持ちも大きかったと思う。人格ラヂオとして帰って来たよ、っていうところをみんなに感じてもらう意味でも、ヘンに新機軸的なところを狙うより、自然なラヂオっぽさを大事にしたかったっていうか」

——なるほど。実際、このアルバムには「ただいま」というタイトルの楽曲が入っていますものね。

「また、この1曲目が「儚くも〜」で、2曲目がこれっていうのが良いでしょ。ちゃんと、時間の流れがここに表されてるんだよ」

——時間といえば、この詞の中には〝一秒〟という言葉が出て来ます。この詞と、アルバム・タイトル『一秒』は、どんな相関関係にあるのですか？

「最初に曲を作った時点では、まだその〝一秒〟っていうキーワードは入ってなかったのね。ただ、アルバム・タイトルに関しては何なとく再会とか再開を意味するような言葉を付けたいなとは思ってて、でもなかなか良い言葉が見つかんなかったんですよ。そうこうしてるうちに、だんだんと〝このアルバムって時間の流れを感じさせるとこがあるな〟って思うようになって来て、時間の最小単位っていったら一秒でしょ。それを積み重ねて今がある、っていう結論に行き着いて、それを「ただいま」の詞にも反映させることにしたわけ」

にも明らかにリスナァ（ファン）に向けて歌われている楽曲が入っていますよね。

「それって「重力」のこと？ うん、そう。これもみんなに対して作った曲ですよ」

——〈とても似ている二人〉というフレーズが、何とも微笑ましいです。

「だってさー。僕らも人として出来た人間とかじゃないし、リスナァも音楽に依存してるような、言わば人生負け組ちゃんたちでしょ？ 残念だけど、似てるんだからしょうがないよ（苦笑）」

——ちなみに、この曲は今作の中でいちばん最後に出来たものだったそうで。

「っていうよりも、出来るかどうかも途中までは分かんなかった曲ですよ。進行的に切羽詰まってたのもあって、一時はこの曲を抜いた全10曲でアルバム完成っていうことにしちゃおうかとも思ってたんだけど、もしレコーディングするんなら今しかないっていう時に、ふとさっきの「ただいま」の詞を見返したんだ。そしたら、〈一秒でも長く〉とか〈一秒でも多く〉とか書いてあんだよね。そうだよ、そういう気持ちで帰って来たんじゃん！って思ったら、急に頑張れるような気がして来て、この「重力」は3時間で詞を書いてレコーディングしました。ホント、ギリギリのとこで出来た曲だったなぁ」

——それから、また別の相関関係を持っている楽曲同士という意味では、今回「猫飯」と「窮鼠猫を噛む」の存在も、かなり際立っていますね。

「この2曲は、僕の思う人格ラヂオの王道にしてコアな部分を集約した曲たちだ

ね。いろいろ曲を並べてった時に、今回途中で〝足りないな〟と思ったのが、このカテゴリーの中に入る曲だったんですよ。『証拠』でいうと「ネジマキドリ」みたいな、コミカルなタイプの曲っていうのかな？」

——コミカルでシニカルで毒気もたっぷり、というこのテイストは悠希くんの専売特許ですものね（笑）。しかも、2曲それぞれサウンドのカラーとしては独立していて、そこも含めて大変巧妙なつくりになっていると感じました。

「これ、原曲そのものはけっこう近いニュアンスを持った曲たちだったんですよ。それをアレンジで別モノに聴かせていったんで、逆に詞は一貫性を持たせて、主人公が〝あっち側〟と〝こっち側〟の詞にしてみたんです」

——これらの詞を、バンギャルのみなさんはどう捉えるのでしょうねぇ。

「どうなんだろう？ 表現方法が違うだけで、要はこれ「バンギャル症候群」と同じようなこと書いてるんだけど（笑）。でも、さっき言ってくれた巧妙なつくりっていう表現はホントにそうで、結局どっちが嘘をついたのかは、敢えて分からないように書いてるんです。いつの間にか、話も何だかすり替わってるしね。まぁ、聴いてみてくださいよ」

——そんな俗っぽさ丸出しの楽曲がある一方で（笑）、今作には「玩具箱テディベア」のように、ファンタジックな美しい歌も収録されています。

「活動再開するのと同時に、ブログを始めたじゃないですか。それで、誕生日の時にみんなからネットを通じていっぱいコメントをもらったんですよ。中には、花少年バディーズっていうバンドのミネムラっていうヤツのコメントもあったりしてね（笑）。なんか、そういうものがやけに沁みたというか、恥ずかしいけど感動しちゃって。その時の気持ちを書いたのが、この詞なんですよ。狙いとしては、「みんなの歌」とかああいう方向でまとめていったんで、小学校三年までの常用漢字だけを使ってます」

——かと思えば、ブルージーで郷愁漂う「神経衰弱」も味わい深いです。

「「神経衰弱」の詞は、「ラプンツェル」の

細かいストーリーとか顛末は忘れちゃ[illegible]たんだけど、大まかなイメージから自[illegible]なりに世界を拡げてった感じ」

——あれは深い森の中、塔に幽閉され[illegible]少女の物語ですよね。もしや…これは活動休止中の悠希くん自身のことを、オーバーラップさせた詞ですか？

「そうそう、そういうこと。当時のことが凄い反映されちゃってる」

——しかし、このアルバムの完成を[illegible]て、悠希くんはようやく塔の外へ出ることが出来たのではないですか？

「間違いないです、それは。このアルバム作ったことで、やっと解放されましたもん。でも、これが意外と〝これでしばらくは遊びほうけられる！〟っていう類いのものじゃないんだよね。完成するまでは、てっきりそうなるんだろうなって自分でも思ってたのに（苦笑）、いざ完成してみたらそうはなんなかったんですよ。むしろ、今はもう早く次が作りたくってしょうがない」

——素晴らしい！ 素敵な言葉です。

「今までいろんなことがあったけど、このアルバムに全て繋げた上で、昇華できたっていうのが大きかったよね。さすがに、自分が思ってた以上に緊張の糸が張りつめてたのか、作り終わってすぐはちょっと体調崩しちゃったりしたんだけど、今はもう3rdアルバムのことまで考え出してるくらい前向き。これまでのシングルをまとめて、それを新録で出そうっていう案なんですよ。しかも、俺はさらにその先のことまでもう頭ん中に浮かんでるからね」

——人って変わるものなんですねぇ。とはいえ、その気配はすでに『一秒』の最後を飾る「深海のスープ」の中にも、じっくり溶かし込んであるように思いますよ。これからに向けての想いが、ここには溢れていますものね。

「それでも、完全に素直な言葉で全てを書けないあたりは、やっぱ僕だよね（苦笑）。どっか、最終的には物語性に逃げちゃって、〝メッセージ〟じゃなく〝作品〟に仕上げちゃってるでしょ」

——もっとも、リスナァさんはそこまで汲んで下さる方たちだと思いますよ？

「あぁ、勝手にね。アイツら、気持ち悪い

蝴蝶网 hudie.com

那オキ

このアルバムがこうなることは分かってましたもん

八面六臂の活躍とは、このことか。今作『一秒』の中ではコンポーザー、アレンジャー、マニピュレーター、ギタリスト、ベーシスト…と、いくつもの役をそれぞれ華麗にこなしている那オキは、その一見おっとりとした物腰とは裏腹に、相当"切れる"部分を持っているのではなかろうか。バンドマンという枠を超え、彼は敏腕クリエイターとしての役割を人格ラヂオの中で果たしているのだ。

――人格ラヂオにとっては、2枚目にして7年ぶりのアルバム『一秒』が、ようやく完成しましたね。

「やっと出来ちゃいました。ちなみに、正確には7年ぶりじゃなくて7年半ぶりですね（笑）。前の『証拠』は、2003年4月の発売だったらしいんで」

――当然、そうなりますと今作に向けては募る想いも多々あったことでしょう。今作の制作に着手する際、那オキさんはどんなヴィジョンをお持ちでしたか。

「それがねぇ…俺からするとアルバムを作ったたっていうこと、アルバムが出来たことっていうのは、実を言うと結果論にしか過ぎなかったりするんですよ。なぜ

変だったし重要だったから」

――なるほど。それは、今年に入って現事務所に所属した件と絡む話ですよね。

「結局、そのプロセスがなければ2ndを出すっていうことは難しかったわけです。逆に言えば、そこさえ整っちゃえばあとはもう良いもの出来て当然でしょ、くらいな感覚だったってことでね」

――つまり、実際にアルバムを作り出したのはそれ以降のことだったと。

「曲作り自体は、去年もやってはいましたよ。いやでも、本格的にやり出したのは今年入ってからか」

――これは当時記事化しなかったことですけれども、今春シングル『太陽』を出した際、おふたりは確か〝今度のアルバムは、遊園地っていうコンセプトで作ることになるかもしれない〟というお話をされていたことがありましたよね。

「あぁ、そういえばあったわ」

――今回、その片鱗は「玩具箱テディベア」のようにファンタジックなテイストを持った楽曲から伺えますが、かといってこの作品全体がコンセプチュアルな仕上がりかというと、そうではありませんよね。このあたりの事情、事の経緯を説明していただくことは出来ますか。

「そのコンセプト・アルバムを作ろうっていう話は、例の活動休止期間前に出てた話だったんです。それで、休止する前に1ヶ月くらい悠希と曲作りのために同棲してたこともあったんだけど、その時はちゃんとした曲がまとまんなくてねぇ。一応、それでも僕個人としてはその時もけっこう曲数は作ってて、それこそ遊園地っぽい世界を持った曲もいろいろあったんですよ？ だけど、活動をいざ再開してみたら、それ以前に作ったものは基本〝過去のもの〟になっちゃったんです」

――そういうことだったのですか。

「だからね、今回はシングルとしてすでに出してる「サクラ」と「太陽」、あと1曲目の「儚くも美しく流れる景色」と「空蝉」以外は、ほぼここ2ヶ月くらいで出来た曲たちばっかりなんですよ」

――すなわち、今作は7年半の集大成ではなくて、あくまで今現在の人格ラヂオを具現化したものになったのですね。

「そうしよう！と思ってたわけではないんだけど、結果そうなりましたね」

――今作でも那オキさんはアレンジャーとしての仕事も一手に引き受けています。今作では、コンセプト作ではなくなった分、各曲の個性や方向性は逆に多彩になっている印象もあるのですが、そこを描き分けていくことは難しいことでした？

「全体像が見えててバランスを取りながら作ってくっていうやり方ではなくて、出来たものを片っ端からアレンジしてく流れだったんで、とりあえず必死ではやってました（笑）。深く考えて練ってくっていうよりは、曲が出来てからのファースト・インプレッションを受けてアレンジして、それをそのまま家でレコーディングしながら完成形に持ってく、っていうことの連続でしたねぇ」

――クレジットを見ても、ギター／ベースともに弾かれているようですし、手法としては宅録状態だったわけですか。

「っていう意味では、前の『証拠』の時とやり方は変わってないんですよ」

――思うに、そのことによって醸し出されているのは良い意味での密室性／閉鎖性で、人格ラヂオにとってのそれは、明らかなる個性であり、アイデンティティでもありますね。

「そっかー、そういうもんなんですかね。そんなに内向きな感じ？ でも、2曲目の「ただいま」とかは違くないですかっ？」

――あぁ、これは曲調的にもアッパーですし、詞も聴き手に向けてのものになっていますものね。とはいえ、「儚くも美し

やはり多いですよ？

「そうねぇ。あれ？ ってことは、やり方だけじゃなくて作風自体も『証拠』とそんな変わんないってこと？？」

――中には新しいテイストの曲もありますが、全体的な空気感のようなものは変わらないですね、見事に。

「あっそう。じゃあ、良かった（笑）」

――7年半の時を経ようが、三つ子の魂何とやらというところなのでしょう。

「でもさ、それ言い方を変えると7年半経っても何の成長もなかった、っていうことにならない!?」

――いえ、そういう次元の話ではないと思いますね。そこはもう、この音を聴いていただければみなさんに〝なるほど……！〟と深く納得していただけるはずです。

「だよねー。だって、このアルバムが〝こうなる〟ことは分かってましたもん。人格ラヂオが作ればそうなるでしょ、っていうところは自分たち自身も信じてやって来てたし、みんなにもそこを信じてもらえたら良いなって思います。まぁ、これも全ては悠希のおかげかな。悠希の詞と曲っていうのは、やっぱり人格ラヂオそのものなんだろうね」

――なおかつ、アレンジ面で尽力し、トラックを作り、弦楽器類を全てプレイしている那オキさんの功績も相当なものだと思いますが。

「えー。俺の色なんて出てます？」

――出ていますよ。もちろん、作曲もされているわけですし。「空蝉」ひとつとっても、ジャジーで味わい深い曲になっているではないですか。

「あれは、この2人だったらジャズっぽい空気もありでしょ？っていう発想から作りました。那オキさんってウッドベース似合いそうですよね、みたいな声なんかもあったしね（笑）。前からこれは、やってみたいことだったんです」

――その一方で、「猫飯」のように不思議なサイケデリック感を持った曲もあったりして、このアレンジセンスには感心しました。とても面白いです。

「ラヂオとしても、他と比べても、これはちょっと斬新な方向の音でしょ（笑）」

――察するに、これは「窮鼠猫を噛む」

を出す意味で、それぞれ猫の声とネズミの声を入れてあります。でも、アレンジ的には特に相関関係はないですね」

――それから、「神経衰弱」にはほんのりとブルージーな匂いが漂っていますが、この仕上げ方も絶妙ですね。泥臭さを出すことなく、ひなびたノスタルジーを感じさせるあたりが流石です。

「そう言われてみると、俺もけっこういろいろ頑張ってんだね。作ってる時は必死だったし、頭で考えてるわけじゃなくて、全部感覚的な部分でやってるから、レコーディング終わっちゃうと、言葉でどうだったかっていうことを人に説明するのが難しいんですよ。だから、俺としては〝まずはアルバムを聴いてくれ〟としか言いようがないんだけど（笑）、こうやって取材で話してると、〝そうか、この曲ってブルージーだったんだ〟とか気が付けて面白いなぁ」

――これは「重力」を聴いていても感じたことですが、今作中の那オキさんはベーシストとしてだけでなく、ギタリストとしても数々の冴えたプレイを聴かせていますよね。ここも、明らかにひとつの大きな聴きどころだと思います。

「音源として聴いた時に、今までギターがちょっと弱いっていうのは僕も感じてたとこなんでね。ベースよりギターでの苦労のほうが圧倒的に多かったけど、こんな風に言われるんならやった甲斐ありました（笑）」

――また、このアルバムは曲順も実に秀逸で、シンプルさと壮大さを併せ持った「深海のスープ」で終わってゆく展開は、きっと全ての聴き手を感動へと導くに違いありません。

「そこはこだわりましたもん。曲順も、曲間も。活休前からあった「儚くも[illegible]」から始まってくこの流れは、アルバム・タイトルの『一秒』とも関連してて、意識したものになってるんです」

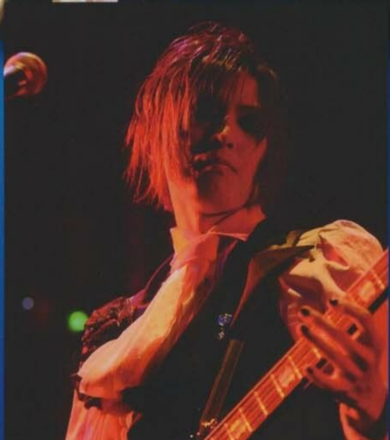
――今作完成を機に、ここからの人格ラヂオがどうなっていくかが楽しみです。

「どうなんだろうね。これを出した[illegible]はまた何年も後なのか、あるいは[illegible]機に波に乗っかってくのか。そこはもう、悠希次第だな（笑）」

蝴蝶网
hudie.com

Dolly

Dolly 5th Anniversary Oneman Tour
「CAPSULE」
Live at 赤坂BLITZ 2010年10月30日



これまで重ねた時の中に、これからの指針が見えた。

**新体制になったDollyの初のフルアルバム『CAPSULE』は彼らのあらたな指針を示した佳作であった。
そのアルバムを受けてのワンマンライヴが10月30日、赤坂BLITZで行われた。
今年で結成5年を迎えたDollyは、今まで守り続けた確かな想いを胸にまさに変革の時であった。
構築された鮮やかな世界はさらに膨張しつづける。**

Photography：MARI MORITA(ODD JOB)　Report:TAKAYUKI MURAKAMI

'09年に4人編成のバン[illegible]生まれ変わり、5thアニヴァーサリー・イヤ[illegible]を迎えた今年に入って、新[illegible]吹を感じさせるアルバム『CAPS[illegible]』を作り上げたDolly。アルバ[illegible]の内容やPVの仕上がり、インタビ[illegible]の発言などから、今の彼らが完全な[illegible]になっていることが感じられただけ[illegible]ラ[illegible]ヴを観たいと思っていた。そんな期待を裏切ることなく、今回のラ[illegible]は本当に観応えのあるものだった。

ライヴは、エレクトロか[illegible]ハード[illegible]「capsule world」からスタ[illegible]ト。[illegible]イリッシュなサウンドとロマンチックな衣裳に身を包んだメンバーの取り合わせは絶妙で、ライヴが始まると同時に赤坂BLITZの場内は一気にDollyの世界へと染まった。その後は、力強さと妖艶さを併せ持った「PLAY」や、アグレッシヴな「1999-Last Judgement-」といったナンバーを続けざまにプレイ。どんどん異空間の深みへ誘われていくような感覚が心地好かったし、1曲ごとにヒートアップしていく流れも決まって、「1999-Last Judgement-」では、早くも場内がヘッドバンギングの嵐と化すほどの盛り上がりを見せた。

〝今日は、心ゆくまでDollyを味わってください〟という最初のMCを挟んだ後は、ジャズ・テイストを活かした「紫陽花」と「JULIET」を披露。輝くようなオーラを発して、抒情的な歌声を聴かせる蜜。ミステリアスな雰囲気とテクニカル&エモーショナルなプレイの取り合わせが、強い存在感を放つ聖。スリムなシルエットとは裏腹な重低音を轟かせつつ、知的なプレイもこなすはち。多彩な曲調を誇るDollyのドラマーにふさわしく、パワフルな8ビートからジャジィな4ビートまで、フレキシブルなドラミングを展開する亜樹。メンバーそれぞれのキャラクターと上質なプレイが相まって、シンプルなセットにも拘わらず、ステージ上に強固な世界観を創りあげていることに圧倒された。

その後も、退廃的な味わいを活かした「GOTHIC PARTY」や、70Sロックに通じるワイルドなイントロから始まっ

蝴蝶网 hudie.com

【SET LIST】
M1.capsule world
M2.PLAY
M3.1999-Last Judgement-
M4.「R」
M5.紫陽花
M6.JULIET
M7.GOTHIC PARTY
M8.月光はライムライト
M9.レイトカーニバル
M10.Pumpkin carriage parade
M11.天体逃避行
M12.アルビノ
M13.Vertigo
M14.シャイニーメリー
M15.Alice in Dizzypit
M16.オレンジ
M17.星の砂時計
——encore1——
En1.downer's pool
En2.兎唄
En3.時の列車
——encore2——
WEn1.クロゼットレター
WEn2.四季彩グラデーション
——encore3——
TEn1.Strawberry On the Scalp

走する「天体逃飛行」といった様々なタイプの楽曲をプレイ。彼らの演奏力の高さは見事なもので、Dollyが根源的に備えているライヴならではの躍動感がプラスされた良質なサウンドを、たっぷりと聴かせてくれた。

ライヴ後半では、「Vertigo」を皮切りに、「シャイニーメリー」や「Alice in Dizzypit」といったダンサブルなナンバーが畳みかけるように演奏され、彼らの場合、同じダンス・チューンと言っても爽やかだったり、エレクトロだったり、ロック色が強かったりと曲によってテイストが違っているのはポイントと言える。アッパーかつメリハリの効いた流れに合わせて、赤坂BLITZの場内はいいムードで盛り上がっていった。

オーディエンスの熱気に拍車を掛けるように、蜜の〝そんなんじゃ、突き刺さんないんだよ！　今までで一番の声を、この曲にぶつけてこい！〟というホットなアジテーションが入り、狂騒感に満ちた「オレンジ」が演奏される。アグレッシヴなステージングを展開するDollyのメンバー達と激しくヘッドバンギングする客席が一体になって、場内はツアー・ファイナルにふさわしい最高潮の盛り上がりを見せた。

その後は、ガラリと空気を替えて、本編のラスト・チューンとして「星の砂時計」をプレイ。ホットにいきあがった後、こういうロマンチックな楽曲で本編を締め括るのも実に心憎い。最後にしっかり聴かせるストイックな姿勢とエモーショナルなサウンドが奏功して、メンバーがステージから去った後の場内は、心地好い余韻に包まれていた。

非日常感に溢れた世界を構築する巧みさと高いミュージシャン・シップを活かして、素晴らしいライヴを見せてくれたDolly。ただ単にCDを再現するパターンとは違って、メンバー4人が心を寄せてリアルなDollyの音を紡いでいく様子は本当に魅力的だった。音楽面の幅を拡げると同時に深度を増していることが感じられたこともあり、今後のDollyがより高いステージに上ることになるのは間違いなさそうだ。

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

——今回は、9月17日の渋谷O-WESTでのワンマンライヴから加入したギターのruiくんの、加入の経緯を聞いていきたいんですが。
平：はい。ruiくん。新メンバーです。よろしくお願いします！ でもね、なんか、新メンバーって感じがしないんですよ。知り合ったのは結構前なんで。
——いつくらいから？
rui：もう3、4年前くらいかな？
平：いや、もっと前だよ。俺がまだ餞ってバンドやってた頃から存在は知ってたから、もう7、8年前には知り合ってたっていうか、俺は一方的に気になってたんだよね。よく対バンとかで一緒になってす。それで、ギタープレイのカッコイイヤツが居るなぁって思ってたんですよ。
たしかに、その頃はちゃんと話したことなかったからね。ちゃんと番号交換して話すようになったのは3、4年前かもしんないね。それで、ケミカルピクチャーズをやることになって、去年一人メンバーが抜けて（一代目のギタリスト）…新しいメンバーを探してた頃、久しぶりにruiに会ったんですよ。それで、〝あ、

平一洋

惹かれ合う心

出会い、そして…

Interview:NAOKO TAKEICHI

5月から、5ヶ月連続でリリースしてきた「世界を撃った男」シリーズを、9月29日に完結させたケミカルピクチャーズ。彼らは、9月17日、最終章の「世界を撃った男 Case5ピースメーカー」を前に、渋谷O-WESTでワンマン・ライヴを決行した。そして、彼らはそのワンマンを成功させた。さらに、彼らは、『世界を売った男』と名付けられたこのライヴで、新しい仲間を紹介したのだった。今回は、その新メンバー加入について訊いていこう。

ケミカルピクチャーズ

思って、一緒にバンドやろうよって声かけたんですよ。で、一緒にやろうってことになったんです。でも、直前で逃げられたんですよ！
rui：いや（笑）。逃げられたってまた人聞きの悪い（笑）。違うんですよ、それには深く複雑な事情がありまして。まぁ、ちょっと家の問題で、あんまりバンドが続けていけないような環境になりつつあったんで、一旦、名古屋の実家に戻ることになって。それで続けられなくなっちゃったんです。
平：一旦、別のギタリストがメンバーとして加入して活動してたんですが、ソイツも辞めることになったこともあったんで、もう4人でいいかなって思ってたんですよ。
——あぁ、ちょうどSHOXX初登場の頃の話だね。5人編成で作っていた音を、メンバーが抜けて4人になるから、ギターを構成しなおしてライヴやってるって言ってたもんね。
Joe：そうです、そうです。そんなこともありましたね。なんか相当昔のことに思えますよ。あの頃、ホント大変だったな。ライヴもあったし（しみじみ）。
平：でも、やっぱりサウンド的にギターが2本欲しいなって話になってたんですよね。そんな時、セッションの話があって、なんか、突然コイツ（rui）から連絡あったんですよ！ で、なんでオマエ居るんだよ！ みたいなことになり。
——捕まったの？
平：あははは。そう、捕獲（笑）。
rui：っていうか、セッションやろうって誘われて、いいヴォーカリスト居ないかってなって、平くんの名前があがって。
平：そう。それで、ruiくんがこっち（東京）にいる事を知って、〝オマエ、こっちに帰ってきたなら、セッションとか言ってないで、ケミカルピクチャーズを一緒にやろうよ！〟ってことになって。
rui：いろいろと状況が変わってこっちに戻ってきたんですよ。なんか、もぉ、そっちの帰らなくちゃいけない状況の方はもうどうでもいいかなって感じで…。
Joe：（話題を遮るように）問題が解決したんです。解決して戻ってきたんです。続けて下さい。
一同：（爆笑）。
rui：あはははは。でも、やっぱり自分から辞めるって一旦抜けた以上、帰って

Joe

蝴蝶网
hudie.com

なかなか言い出せないじゃないですか。それで、連絡してなくて……。

子雲：一回逃げてるから、〝もう逃がさないぞ！〟的な感じでしたからね（笑）。

平：そうそう（笑）。もう絶対逃がさない！ってね。だって、電話1本で突然実家帰っちゃったんですもん。

子雲：しかもそんとき、平にしか連絡いってないですからね、俺らには電話くれないの。切ない（涙）、みたいな。

Joe：ruiくん、女性に対してもそうらしいんですよ。

Jimi：あははは。みんなどうしたの（笑）？ 今日はruiくんを紹介するんですよね？

rui：そうですよね、さっきから俺、相当盛られて話されてて、第一印象めちゃめちゃ悪いと思うんですけど（笑）。

平：こっから上げてくから、心配しないでいいって（笑）。加入は強制的じゃなかったんですよ！ ちゃんと、〝もう一回一緒にスタジオ入ってみる？〟って言ってみたら、うんって言うから。

rui：やっぱカッコイイバンドだなって思ってたんで、一緒にはやりたかったんですよね。でも、やっぱ自分からはもう言い出せないかなって思ってたんで。

平：一緒にスタジオ入ったら、やっぱカッコイイんですよ、ギタープレイも出で立ちも。やっぱコイツしか居ないなって。

Joe：同じギタリストのパートナーとしても、やっぱりバンドにとっても大切な存在だなと思ったんで、一緒に出来ることになったのは、正直嬉しかったです。

Jimi：僕も同じくそう思いましたね。今回、一緒にライヴやってみても、ケミカルピクチャーズには必要なギタリストだなって思ったんですよね。リズムを支えてくれるギタリストでもあるんです。他の4人のメンバーが持ってないところを持ってる人なんです、ruiくんって。ちゃんと客観的な目を持っていて、バンドに対して、的確な意見をぶっちゃけて言ってくれるし、そういうところが本当に頼もしいと思いますね。

Joe：本当にそうなんですよね。打撃系のギタリストで。僕とはまったく違ったプレイの持ち主なので、僕は僕のギタープレイが思う存分出来るっていうところもあるんです。プレイ的にも人間的にも、Jimiの言うとおり、4人が持っていないモノを持っている人だと思うんです。やっぱり4人で固めて来た今があるから、後からそこに参加するのって、結構大変だと思うんですよ。でも、すごく積極的に意見を言ってくれるし、作曲面にもすごく前向きだし、心強いんです部分を補ってくれてる気がしますね。

子雲：あれ？ ちょっとこれ、今度は褒め過ぎなんじゃない（笑）？

rui：いいですよ、続けて下さい！

子雲：今、Joeさんも言ってたように、ある程度出来上がってるところに入ってくるのってキツイと思うんですよ。曲も覚えなくちゃいけないっていう中で。実際、最初のステージがワンマン・ライヴだったっていうのも、かなりキツかったと思うんですよ。やっぱりワンマンなりの曲数でもあったし。でも、そんな中で、反省点は残したにせよ、形としてはすごくいいモノを残せたんじゃないかと思うんで、もっともっと今以上にバンドにruiが馴染んでくれるようにしていかな

リストはもっとこういう流れにして、こう見せた方がいいんじゃないか？って、なるほどって思える意見を言ってくれたりもしたし。今までってそういう部分は平くんがやってくれてたんですけど、平くんとディスカッションしながらも、アイディアマンになってくれてて。今までのケミカルピクチャーズに足りなかった力するのももちろん、ウチらもそこを出来る限りの力でサポートしていくべきだと、今は思ってますね。早く、おの5人のスタイルが確率出来るようにね。

平：俺、人に意見されることってすごく嫌いな人間なんですけど、なんか、不思議とruiくんの言葉って、すごく素直に受け入れられるんですよ。あぁ、なる

Jimi

本当に、みんなが言ってるみたいに、4人に持ってないモノを補ってくれてる人だと思いますね。だからこそ、早く、この5人で完璧なケミカルピクチャーズの音を作っていけたらいいなと思いますね。

――2011年の1月にはミニアルバムのリリースも控えてるし、1月・2月・3月と3ヶ月連続ワンマンライヴも決定してるからね。

平：そうなんですよ。

rui：頑張るのみですね。

子雲：でもですね、こんな前向きな話をした最後になんなんですけど、…実は、脱退するメンバーが居るんです。

――え!? えっ!?

Jimi：本当にすいません。

――Jimiなの？

Jimi：はい。これは本当に自分自身の気持ちだけではなんともならない事情で。ビザの関係で、バンド活動を続けるのが困難になってしまったんです……。無念でならないんですが……どうしようもないことで……。アルバムのレコーディングは11月から12月にかけて行なわれることもあるので、そこにはもう僕は参加出来ないんですが、これからもケミカルピクチャーズの音は聴き続けていくし、ライヴにも遊びにいこうと思っているんで、これからもケミカルピクチャーズをよろしくお願いします。

子雲

http://chemical-pictures.net/

hudie.com

――まずは、新メンバーとなったSiznaさんのことからお聞きしたいのですが…。お2人としては、どういう部分がセンサーに引っ掛かったわけですか。

Soan：彼とはもともと交流があったし、良いギタリストだということは、あらかじめわかっていましたからね。

Sizna：結構前から、声をかけてもらっていたんですよ。

Hitomi：実は、Moranが始まる前から声をかけていたからね。

Soan：Sugar（Siznaの前バンド）が解散した後も、すぐ声をかけたし。当時は、5人目のギタリストとしてね。今こうして一緒にいると…波長も合いますよ。

Hitomi：音楽的な面で頼りがいがあるしね。作曲陣が2人いなくなって、メイン・コンポーザー不在となっていたところにSiznaがいてくれることは、とにかく、心強いですからね。それに、ステージでの彼は尋常ではないんで。もうね、間違いなく衝撃受けますよ。〃こ

ると…。

――でも、多くのギタリストを見てきた上でそう思うのなら、相当なのでしょう。

Hitomi：Fatima時代、メンバーみんな濃いなと思っていたけど、ステージのSiznaを観た瞬間、〃負けた！〃って思いましたからね（笑）。

――そう評されたご本人としては、考えた上でそうなっているのか、ステージに出た瞬間に勝手にスイッチが入ってしまうのか…どうしてそうなるのでしょう。

Sizna：前のバンドのときから、自然とそうなっちゃうんですよね。自分の音を前に出そうと思ってやっていたら、いつの間にか気持ち悪くなっちゃった、みたいな。

――今こうしてお話されているSiznaさんは、とても穏やかそうに見えますけど…わからないものです。しかし、バンドに途中から入るって、それなりにプレッシャーもあると思うんですが、そのへんはどう感じていました？

Sizna：まぁ、最初に話をもらった

Moran

…Chawing.

…度折れようと、立ち上がる強さ

…09年12月2日。この日、O-WESTにて行われたワンマン・ライヴにて、
…期限の活動休止に入っていたMoran。メイン・コンポーザーでもあった、ギタリスト・Veloの脱退、
…して、誰よりもMoranを愛し、人一倍活動再開への意欲が高かったベーシスト・Zillの突然の訃報…。
…れ以上はないくらいの哀しみがMoranを襲った…。誰もが心が折れてしまってもおかしくない現状だが、
…メンバーにギタリスト・Siznaを迎え、彼らはまたその翼を広げて、羽ばたこうとしている。
…んな彼らに、現在の心境と今後の展開を訊いた。

ですけど…。今年の3月30日にHitomiくんの誕生日イベントがあって、そこでMoranの一時解凍ライヴがありまして。それまでVeloくんのいないMoranっていうのは想像がつかなかったんですけど、まだご存命だったZillさんも含め3人でのMoranのライヴを観て、やってみようかなと。それから、スタジオに入ったりし始めたんですけど、それまでも違うバンドではあったけど、イベントで一緒になったりして交流はあったので、緊張感みたいなものはなかったんですよね。

Hitomi：逆の立場で考えて、もし自分が途中からバンドに入るなら、そのバンドをカッコイイと思えるかどうかに尽きると思うんで。そう思ってもらえたからなんじゃないかな。

――そうやって共に活動する中で、これまでの友人関係では見えなかった、新たな一面も発見したりして？

Sizna：Hitomiくんは、最近まともになりだしたなと思いますね。

――更生!? Hitomiさん的に、何がそうさせているんでしょうね。

Hitomi：いやぁ…2人からのプレッシャーでしょうね（笑）。

Sizna：Soanくんは…体が弱い人だと思っていたんですけど、意外とタフだなって。

Soan：体が弱いのは事実だけど…そこなの!?（笑）。

――逆に、同じバンドの一員となったことで、Siznaさんの知らなかった顔も見えたりしているんですか？

Soan：プライベートでは、ゴハン食べに行ったり呑みに行ったりすることが多いので…意外とよく食うな、ってことですかね。プレイヤーとしては、これから一緒にやっていく中で見えてくるのかなと思いますよ。もちろん、良いギターを弾くよなっていうのは、改めて感じていますけどね。

Hitomi：俺、彼が機材マニアだっていう噂は前から聞いていたんですけど、いざ家に行ってみてビックリしたんですよね。これじゃ落ち着かないだろうっていうぐらいのレベルなんですよ。

――そんなに機材に囲まれていますか。

Hitomi：スゴイですよ。壁一面、機材で埋め尽くされているほどで。さらに、音が良くなるっていう理由で、最近コンセントまで替え始めて。唖然ですよ。

ていうのもあるんですけど、物心ついたときには手元に半田ゴテがあったんで、電機とか機材が大好きなんです。

Soan：それ面白いな！　初めて聞いたよ（笑）。

——何しろ、ニュー・キャラが加わったことでいろいろな意味で今後が楽しみです。それにしても、思い起こせばVeloさんの脱退、Zillさんの訃報と続いたわけで…それらを乗り越え、12月の解凍ライヴを決められた原動力は何だったのかなと。

Sizna：今年の春に僕が入ることを決めてから、Zillさんと毎日連絡を取って、曲作りを始めていて。Zillさんは解凍に対してすごく前向きだったので、その遺志を受け継ぎたいというか、その想いを途切れさせたらいけないんじゃないかなって。だから、やり遂げたいんですよ。

Soan：俺は、去年の12月に活動休止をした後、バンドそのものを辞めようか悩んでいたんですよ。でも、その後セッションに誘われたりしつつ、3月30日に一時解凍して、Siznaが来てくれたことで、もう一度腹を決めたというか。おそらく、Siznaという人が自分の考え方を変えたんですよ。その上で、Zillが亡くなってからの想いは、Siznaと同じですけどね。

Hitomi：俺は、とにかく前に進まなきゃダメだなって思っていて。立ち止まっていると、時間はあっという間に過ぎていきますからね。だから、Zillが亡くなったときも、決めてあったスケジュールはキャンセルしないで、そのまま進もうと。考える前に踏み出そうかなってね。コマを進めながら考えていけばいいやって。

——とはいえ、心折れそうなとき、ありませんでした？

Hitomi：心なんて、すぐ折れますよ（苦笑）。でも、折れても前に進むしかないんで。どう進んでも、どこかで折れるだろうし。だとしたら、自分の信念だけを信じて、何度折れようと立ち上がるしかないんじゃないかなって。

——その強さ、羨ましいです。たいがい、っていうより、他のことを考えるほうが恐怖なんで。バンドやめて、何か他にできるのか⁉って。そっちのほうが心は折れそうですよ（笑）。

Sizna：たしかに、傍から見てても、それは恐怖だね。

Soan：Hitomiくんは妖精だからね（笑）。

Hitomi：ま、一番の原動力は、ファンの存在なんですけどね。

——Zillさんのこと、解凍のこと、いろいろな想いを抱えながらも、Moranを愛してくれる気持ちは、とても大きくて温かいですか、やっぱり。

Hitomi：うん、本当ね。それこそ、それぞれいろんな想いがあるだろうから、みんなが納得する結果に導くのは難しいんだけど…最終的には、俺たちを信じてついてきてもらうしかないんで。

——あとは、信じてついてきてもらった先で、どういう景色を見せてあげられるか、ということなんでしょうね。

——12月24日高田馬場エリアでの解凍ライヴが、その新たなる始まりになると。

Sizna：Zillさんの追悼ライヴは別として、Moran正式加入後、初のステージになりますからね。気を引き締めて臨みたいと思います。

Soan：追悼ライヴが0だとしたら解凍ライヴは1だからね。新しい色を入れつつも、もともとの良い部分を残しつつ、この3人での一歩目をちゃんと踏み出しますよ。

Hitomi：人によっては新しい本かもしれないし、前に途中まで読んだ本の続きなのかもしれない。けど、俺はあくまでもMoranとしての続きのページをめくっていく感じなのかなと思っていて。だからといって前と変わらないっていうわけにはいかないけど、それも全部…もちろんZillのこともひっくるめて、Moranとして背負っていこうかなと。どうあろうが、強い気持ちで前に突き進んでいきます。

hudie.com

――まず結成のきっかけを教えて下さい。

春人：バンド名のペレストロイカというのは、ロシア語で再構築という意味を持った言葉なんですけど、このシーンを再構築しようという名のもとに集まった4人で結成されました。

――ヴィジュアル系のシーンを再構築しようということなんですか。

春人：ヴィジュアル系を中心としてますけど、それだけじゃなくて、音楽シーンと言うか、バンド業界と言うか、いろんなことにおいてもシーンを変えるようなバンドにするぞという想いがありますね。

――そこでどういう音楽性で攻めようと？

如月洸一郎：軸にあるのは、重くて激しいサウンドですね。それが基本なんですけど、それと打って変わってキャッチーと言うか、頭に残るようなサビをつけて、メリハリのある曲をテーマに作ってます。それと、僕ら勝手にエレクトロヘヴィネスロックって言ってるんですけど、デジタルの要素を取り入れて、そういう雰囲気の曲を作ってます。

春人：重たい音はありふれてると思うんですけど、その中でいろんな要素を入れて如何にオリジナリティを出していくか、枠にとらわれず融合させていければと思ってます。

――個々には、どういうこだわりを持ってるんですか。

如月洸一郎：各々の得意分野を活かしていこうと思ってますね。僕個人的には、音作りに自信があるので、そういうところに集中してます。ペレストロイカでは、Bチューニングから、さらにAチューニングに下げてるんですけど、それが上手くハマってるなっていう感じがします。

狛：デジタルな音が入るんでケンカしないように、曲全体を通してのアレンジと言うか、そういうところに専念してます。Aまでチューニングを落とすと、楽器の音が同期と分離してはっきり聞こえるんで、某ネガというバンドとは（苦笑）、また違ったよさと言うか、そういうものが出たと思ってます。

宙宇介：ドラムは前へ前へと言うか、そういう感じですね。結構手数は抑えるつもりだったんですけど、意外と派手になりました。皆の音が低いんで、ドラムは逆にアタックを重視して、突き刺さって来るような感じの音をイメージしてみました。シンセに関しては、僕が皆の意見を聞きつつやりました。デジタルサウンドなんですけど、歌心を意識したような感じで入れまくったつもりです。でも、レコーディングが終わってから、エンジニアさんに思ってたよりシンプルやねぇって言われたんで、次からはもっといけるかなって感じですね（笑）。

――ヴォーカルとしては？

春人：歌詞の内容は、自分の意識の内容が強く出てるものが多いですね。基本的に痛みとかを表現してるもので、その中での感情表現を広げていけたらなと思ってます。リアルなものを書きたいと思ってますね。

――既に初の音源『HEAя TZ』がリリースされてますね。

春人：2タイプ、メロディーの感じが違う3曲を収録してます。メンバーの感じるペレストロイカ像が違ったんですけど、「HEART」は俺なりのペレストロイカ像を意識して、歌詞の内容も含めて一から作った曲です。構成ごとに流れるような感じになっていて、歌詞の伝えたい部分とか歌を伝えるアレンジの楽曲にしました。

――エレクトリックな音よりも、ピアノの音が耳につきますね。

春人：こういうのは入れちゃダメっていうんじゃなくて、いろんな音があって、一曲通してオリジナリティのあるサウンドになればいいかなと思ってるんで。エレクトロの音は少なめだと思うんですけど、ここにはこういうのを入れたいなっていうのを最初から意識して作ってたんです。エレクトロな音がいやらしく入ってるよりは、必要なところに必要な音を入れていきたいですね。

――「MINDLESS」は、デジタルの要素が一番強いですし、ダンスっぽいノリが特徴的ですよね。

如月洸一郎：「MINDLESS」は、僕らの中では未知で、パーツを集めたような感じだったんですけど、それが上手くフィットしたような感じがしましたね。

春人：この歌は、ダンサブルな感じに合ったメロディーを歌ってるし、歌詞も、ちょっと前に問題になった、とある芸能人のニュースを題材としてます。そういうものに手を出してしまう心の弱さを書いてみました。

――「瞋恚の炎」は、一番ハードでスピード感のある曲です。

春人：これのスクリームは、感情が入りやすいように自分のコンデンサーマイクを使って、手持ちで録りました。ライヴのような激情感の出る曲になったと思います。

――3曲各々、違う色のある曲ですね。

狛：最初は、4人が持ってたバンド像が全然違ってたんで、デモの段階でも結構バラバラだったんですね。それでどんなバンドにしようかっていうので悩んでたんですけど、この3曲があがった時点で、ヘヴィなサウンドで、エレクトリックな同期が入って、なおかつ歌を聴かせるっていう三点を入れた曲にしようっていうところでまとまりましたね。そこにたどりつくまで皆苦労しました。

如月洸一郎：一人ひとり曲を持ってくるんですけど、原曲からはかなり変わるんです。だから、本当に皆で作った曲やなと思います。

――これで、皆のペレストロイカ像が出来上がったと。

宙宇介：結局合わせてみると、4人の音になるって言うか。僕らもう知り合って長いんでまとまるんです、自然と。

春人：新人バンドですけど、意外と長いんです（苦笑）。

――そこで見えてきた、ペレストロイカならではの魅力というのは。

如月洸一郎：ネガっていうバンドがいるんですけど（苦笑）、それと違うのはストレートと言うか、突き刺さるようなものがあると思うんですよ。サ[illegible]にしても、歌にしても。ネガはじ[illegible]攻めるような感じですけど、ガーンって行って、中で破裂するみたいな感[illegible]いう僕のイメージと言うか、[illegible]と言うか、そんな感じがあるん[illegible]タジオで皆で合わせると、すごく気持ちいいんですね。それは、音で伝えることが出来てるからじゃないか[illegible]ます。

――プレイしていて、何か感[illegible]的に違[illegible]ものってあったりしますか。

蝴蝶网
hudie.com

青天の霹靂
謎が謎を呼ぶ最新アイテム
ドロップアウト!!

PERESTROÏKA

熱い意志と共に皆立ち上がれ!!

KISAKIプロデュースによる謎の新人バンドが本誌初登場。その名をPERESTROIKAという。メンバーの姿をどこかで見たことがある気がするかもしれないが（苦笑）、エレクトロヘヴィネスロックを掲げた新人バンドだ。既に初音源『HEAяTZ』をリリースし、ライヴ活動も始めている彼ら。再構築の名に相応しく、このシーンに新たな礎を築いていくのだろうか。まずはその音に触れ、Roikar（ペレストロイカファン）として共に立ち上がろう。

Interview:MIYUKI MURAYAMA

ターが弾けなくなってるぐらいで（苦笑）。弦が一本増えるだけで、こんなにも表現の幅が増えるとは思ってなくて。だから、ギターだけにこだわらず、いろんなものに目を向けていけば、楽曲的にもバンド的にも成長すると思います。

宙宇介：ドラムもストレートな感じで、何も考えずに叩ける感じがしますね。だから、ライヴでも発散できるだろうなと思います。歌詞も直接的な感じなんで、それも含めてガッと攻める感じでいけると思います。

——この雑誌が出る頃にはライヴも始まっていますが、どんな雰囲気になりそうですか。

如月洸一郎：演出があると、計算してる部分もあると思うんですけど、そういうんじゃないですね。素とはまた違うんですけど、音楽でノるって言うか、そういう気持ちでやろうかっていうのはテーマにしてます。音楽にノったり、ひとつひとつの音で何かしたりっていう風に自然になってきてると思います。簡単に言うとストレートですね。

春人：痛みを吐き出すだけじゃなく、そこからどうするのかっていう意志があるんですよ。なんで、そういう意志を伝えられたらいいなと思ってます。その意志は、バンドのコンセプトである再構築っていうことから、このシーンに対して再構築しようっていうものであったり、もっと言うと自分自身に対して向けられたものだったりもするし。そういうものをお客さんにも提示していきたいですね。それで、お客さんが自分自身を変えられたらいいし。「HEART」のBメロに、〝Wake up Roikar〟っていう歌詞があるんですね。Roikarっていうのは、ペレストロイカファンっていう意味で、ファンとか俺達自身を含めて、意志と共に立ち上がれみたいなことを歌ってるんです。俺達のライヴを見て、ただ楽しかっただけじゃなくて、そう思ってもらえるようにしたいですね。

——これから、ライヴもどんどん決まってますね。

春人：ライヴをどんどんやっていって、いろんなバンドと対バンして、ペレストロイカを広めていきたいですね。

蝴蝶网
hudie.com

――『BEST』は、シングル曲を古い順に並べた、まさに〝ベスト〟アルバムですが、改めて聴いてみていかがでしたか。
Natsuki：昔の曲を聴くと、若かったなって思いますね。自分にも感じるし、バンド全体もそうだし。曲作りがだんだん進化してるので、曲の仕上がりにだんだん成長が見えてると思いますね。
――楽器隊も、それは感じるところ？
Tama：自分の曲は、昔のほうが逆に緻密だった気がします。最初の頃のほうがツイン・ギターとしての面白さを出そうとしてたのかなと思うんですけど。
Aki：そういうのは感じますね。だんだんスマートになってきてるかなと。分かりやすく伝えられるようになって、オズはこれっていうのがちゃんと出せるようになってるんだと思います。
Nao：ベースについては、初期のほう

Zukki：やっぱり若いなって思います。プレイが若いです。こんなことあったなって思ってしまいますね。
Aki：どんなことがあったの？
Zukki：いや（苦笑）、レコーディングでいろんなことがあったなって。いろいろ苦労しましたよね。
――歌は昔のほうが癖があって、今のほうが素直なのかなという気がしましたが。
Natsuki：それはあるかもしれないです。Zukkiと一緒で、昔のほうがレコーディングに苦労してたんです。変にひとつのテイクを何回も録り直してたし。でも何回歌ってもそんなに変わらないし、最初に3回歌った中のもののほうが良かったりするんで、最近のシングルは最初に素直に歌えたテイクが多いのかなと思います。昔って、歌い方とか癖

――バンドの作り出したいものも変わってきているかもしれないですね。改めて「Misty」を聴いて、当時は世界観とか雰囲気をすごく出していたと思ったので。
Natsuki：それはたぶんありますね。その頃は、ライヴでお客さんと一緒に楽しむと言うより、自分たちの雰囲気をお客さんに見せることを意識してたと思うんですよ。「ATHENA」、「S.I.N」辺りから、一緒に楽しむように変わってきたと思うんですね。
Aki：その2曲のリリース前に初ワンマンを経験してるんで、そういうのもあるのかなと思います。
――ライヴに向けての意識が曲作りに反映したと。
Aki：それまでは、いかに雰囲気を作って、歌で持っていけるかとか考えて

Natsuki Vo

個性を自覚できた“ベスト”アルバム、完成!!

ニュー・アルバム『Rouge』に引き続き、12月1日には初めてのベスト盤『BEST』をリリースする-OZ-。これまでのシングルを集めた11曲からは、彼らのヘヴィでハードなサウンドの勢いと共に、それを上回る存在感を放つメロディの美しさが伝わってくる。これらの作品を引っさげたワンマン・ツアーのファイナルは、恒例12月28日の渋谷O-WEST。さらに2011年明けるとすぐには、初となるヨーロッパ公演も控え、彼らの着実なその歩みはまだまだ止まることを知らない。

Interview:MIYUKI MURAYAMA

にしようとか、そういうセクションを作ることを考え出したのが、「ATHENA」、「S.I.N」なのかなって。
――ライヴで盛り上がるような面もありつつ、メロディがキャッチーになってるところもあります？「CLOVER」のキャッチーなメロディはいいですよね。
Natsuki：いい曲です（笑顔）。
――より聴きやすくとか、そういうことにもこだわるようになったとか。
Natsuki：ライヴ＝激しいっていう意識もあったんですけど、その後、でも俺らはメロディでも勝負できるって意識したのが「CLOVER」だったのかもしれないです。「BUTTERFLY」辺りで、ライヴの形が完成して、その後に「CLOVER」っていうメロディで攻める曲が出てきて。それは最初からオズが持ってた武器ではあるんですけどね。
――変化はありつつも、やっぱりオズの曲はメロディが良いというのは、並べて聴くとよく分かりますよね。
Aki：俺も最近久しぶりにこの順に並べて聴いたんですけど、やっぱりいいですね。時代がついてきてないのかなぁ。
一同：（笑）
――この中で特に気に入ってる曲とか、思い出深い曲を挙げると何ですか。
Natsuki：俺は、いちばん苦労した「VENOM」はよく覚えてますね。レコーディングで、出来なくて出来なくて頭を抱えてたら、みんなが超笑ってました。
一同：（笑）
Natsuki：本当にこんなに出来ないのは初めてで。新潟帰ろうかって（苦笑）。今までで本当にいちばん苦労したレコーディングでしたね。今でも覚えてますね。ヘッドホンしてるから、ブースの向こう側で皆みんなが笑ってるのだけ分かるんですよ。メンバーって冷たいんだな…って（笑）。
Aki：だって、助けられるわけじゃないですもんね。
Natsuki：「BUTTERFLY」辺りまでは、みんなもちゃんとブースで録ってたけど、それからはブースでやらなくなって、独りの闘いをしなくなったよね。俺は

蝴蝶网
hudie.com

Tama Gt

Aki Gt

Zukki Dr

Nao Ba

自分たちがどこまで化けられるかが楽しみ

——弦楽器3人はどうやって録っているんですか。

Aki：卓の前にアンプを置いて、他の人と一緒にいる状態で録ってます。

Natsuki：椅子に座って、アンプの上に灰皿置いてね。どんなエライんだよ!?って（笑）。

Aki：（焦）そんなにやってないよね？全然真面目だよ！（笑）

やってます（笑）。

Natsuki：やってないよ。火のついたタバコを灰皿に置きながらやってるよ。ね？

Zukki：はい。お菓子食いながら。

一同：（笑）

Aki：そのやり方がいい作用を生んでると思うよ。ブースと卓を行き来しない分、効率がいいんで。

グ前日の夜、新潟から東京に出発するよって時間までスタジオに入ってて。いつも入ってるスタジオが空いてないと、30キロぐらい離れた違うスタジオに行ってまた入って…みたいな。大変でした。

Nao：出発の残り5分ぐらいまでアレンジしてました。いろいろ思い出しますね～。思い出がいっぱいあります。でも、俺は「DETOX」っす。ライヴで固まる

で化けるんだなって思ったんです。

Tama：自分の中では「ATHENA」ですかね。考えすぎずに上手いことシフトチェンジをし始めた頃の、最高のもののような気がします。

Zukki：ん～、「CLOVER」ですかね。自分の中でいい感じで音が作れて、混ざった時も想像したような音になったんで、自分の中でキテるなって思います。

新アルバム『Rouge』を中心としたものになるんですか。

Nao：『Rouge』メインで、過去の曲がそのフックになればいいですね。

——今回のツアーは、メンバーの誕生日と重なっている日も多いとか。

Nao：誕生日は、他のメンバーに盛大に祝ってほしいです。

Natsuki：いや、何もしないサプライズ。誕生日の〝た〟の字も言わないとか。

一同：（笑）

——ファイナルは、恒例の12月28日、2回目となる渋谷O-WESTですね。

Aki：今年は去年みたいに単発じゃなくてツアーのファイナルだし、2回目だし、存分にオズを見せられる自信があります。

Nao：自信満々です。『Rouge』も『BEST』も最高傑作なんで。あとは、オズの世界の理解者が増えればいいなって。

Tama：ウチらがどこまで化けられるんだろうって、『Rouge』が主体のこれからのオズをライヴでやるのはすごい楽しみなんで。WESTしかり、ツアーしかり、すごい楽しみですね。

Zukki：個人的なんですけど、最近の曲は難しくって、演奏するのが楽しいんです。挑戦的な感じで。『Rouge』の曲をやるのがすご楽しみです。

Natsuki：去年のWESTより良いライヴをするのはもちろんなんですけど、12月28日が毎年恒例になってるんで、来年のオズが見えるライヴにしたいですね。

——2011年の展開としては？

Aki：1月にヨーロッパに行くのが決まりました。13公演です。全部ワンマンなんです。どれだけオズの音楽が伝わるのか楽しみです。でもその前に、ヨーロッパがそこにあるのかがまだ分かんないですもんね。

Natsuki：海の先は滝のようになってるかもって？

Aki：そう、それを確かめないと。

一同：（笑）

蝴蝶网
hudie.com

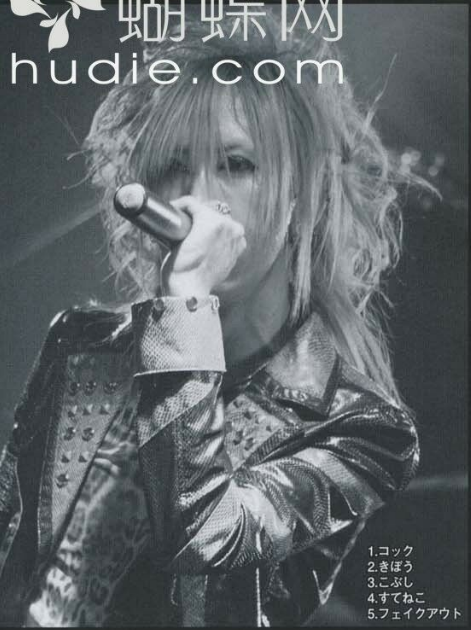
SHOCK WAVE アポロ Vol.43

Live at 高田馬場AREA 2010.9.18

"毎月18日"に高田馬場AREAで開催中のイベント「SHOCK WAVEアポロ」。10月18日のイベントに出演したのは、DyIng messagE・ANOTHER DIMENSION・ReivieЯ・シネマストリップ・えんそく・S.Q.F・ギャロの計7バンド。その日の模様、今月もお届けいたします。そうそう、テレビ東京で放送中の「Vの流儀」でも、この日の模様を一部楽しめるので、チェックしてください。

Photography:MASAKAZU KOBAYASHI(SHOXX)
Report:TOMONORI NAGASAWA

Dylng messagE



1.コック
2.きぼう
3.こぶし
4.すてねこ
5.フェイクアウト

1.coarse affection
2.-Dope-
3.Scarlet
4.DUALITY　5.voice

ANOTHER DIMENSION

1.激情ストリッパー
2.哀しみに沈んだ光
3.お別れ狂想曲
4.scary

演奏が始まると同時に耳へ飛び込んできたのが、高速なビートを叩き出す重量感あふれたドラムの演奏と、下腹へズンズン響くベースの音だった。ずっしり重さを持ったリズム隊が生きているからこそ、ギターがヒステリカルな音を奏でてゆける。嬉しいのが、デス声交えながらも、しっかり言葉とメロディを届けてゆく表現力をヴォーカルが備えていること。いわゆる、"煽り系デス声バンド"の範疇に括られるDyIng messagE。活動間もないバンドだけに粗削りな面も目立つが、今後、要注目のラウド系バンドに成長しそうな予感を覚えた。

観てはいけないものを観てしまったときに覚える、何処か気恥ずかしい気持ち。でも、その世界に禁断な味を覚えるからこそ、もっともっと覗き見したくなる感覚。異形の世界に棲む道化師たちと言っては大げさか。でもANOTHER DIMENSIONが描き出す音世界には、"触れてはいけない針にチクッと指されたような痛さ"にも似た快楽を覚えてしまう。歌謡浪漫な「激情ストリッパー」に、煽りと耽美の両面を1曲の中へ映し込んだ「哀しみに沈んだ光」。この日は煽り曲中心だったが、歌の中から滲み出る独特な味が、とても気になった。

ラウド・ハードコア・メロディック。いわゆる体感的なライブ描き出す音楽的な洗礼を思いきり身に浴びているのが、ReivieЯ。激リフ・デス声の弾丸を止めることなく浴びせかけた「-Dope-」。ハイウェイをアクセルべた踏みで疾走してゆくのにも似た、ドライブ感満載な音が炸裂した「Scarlet」。最初から激しく攻めたてながら、観客たちの感情をいかに激高させるかを意識したステージング。重厚なうねり活かした楽曲も含め、どれだけ聞き手へ"衝撃"を与えていけるか。その点では、十分衝撃を感じさせられたライヴだった。

哀愁味たたえたミッドバラード「レイニーコート」から幕を開けたシネマストリップのライヴ。短いステージの中へ、バンドの器の深さを映し出す上での手法だったことは、「唯我独尊論」など、その後に続いた激しい曲たちが物語っていた。と言っても彼らの場合、切れ味鋭く

えんそく

1.ししゃもSUMMER
2.581c
3.大人のチャリンコ道
4.おにく
5.ししゃもPOWER

1.レニーコート
2.唯我独尊論
3.Crimson memory
4.アカシックレコード

ギャロ

1.ALICE IN DEAD END
2.曲芸師
3.SNOW WHITEAND
THE THIRTEEN RxPISTS
4.魔王-覚醒-
5.東京シンデレラ
EN.BOUTIQUE BEELZEBUB

S.Q.F

1.超新星デストピア
2.D.D.HEAVEN
3.アイノウタ
4.影縫
5.paradox
6.東京デリシャス

くつも転調してゆく演奏の中[illegible]激しさがいろんなドラマを描いてゆく様へ素直に耳惹かれ、身体揺らしていた。

幕が開いたとたん、そこには学芸会風なエンターテイメントワールドが広がっていた。クスッとしたギャグを挟み込んだコミカルな小芝居に続き、「ししゃもSUMMER」を奏でるや、いきなり[illegible]バンド・スタイル(カラオケ)で[illegible]3人が歌い踊りだした。えんそくのステージは、すべてがブッ飛んでいる。バンド編成となり演奏した「581c」では、激メロディックな歌の中[illegible]混じりの破天荒な演奏をミックス。太った自分を題材にした自虐的なコミカルポップパンク「おにく」など、いかに笑いとインパクトを与えるかで楽曲を構築。その徹底した娯楽重視な姿勢が素敵じゃないか。

幕開けを飾ったのは、超高速でハイパーなダンスミュージック。メンバー中2人が、性急かつ上げなダンスビートに合わせ、踊り続けていた。時にはヴォーカルも参加しながら、3人で歌い躍る場面も。S.Q.Fが「超新星デストピア」を通し与えた衝撃度は、生半可なものじゃない。彼らがテーマにしているのは、「LIVINGDEAD PARTY」。その後もバンド・スタイルで繰り出されたのは、羽根扇子舞い躍る熱狂ダンスビートロックやポップパンクな要素を備えた激烈パーティロック、90年代V系刹那スタイルなどなど。高級なオモチャ箱をひっくり返したら、極上な熱狂作る歌の数々が飛び出してきた。そんな気分だ。

凄まじく高いテンションと演奏を武器に、観客たちへ熱く挑みかかってきたギャロ。身体を芯から揺さぶる激圧なサウンド。荒ぶる音の上で歌い、シャウトし続けてゆくヴォーカル。演奏自体はまだ整えられたものではない。むしろ、荒々しすぎるのだが、その中から吐き出される、聴き手を圧倒するパワーと存在感に、思いきり引き込まれてしまった。会場中の観客たちが、次々繰り出される演奏に合わせ、ヘドバンしながら熱狂し続けたのも、ギャロが放つ"惹きつけゆくカリスマな魔力"に魅了されたから?!

蝴蝶网
hudie.com

SHOXX VOICE!!

【_Vani;lla】

奇怪奇人集団最期の聖戦!!

8月に行なわれたワンマンで解散発表をした【_Vani;lla】。解散を決めた理由はメンバーの方向性の違いによるものらしいが、個性的なバンドだっただけに、その決断を下したことは非常に残念。しかし、今、5人の気持ちはとても前向きだ。最後の力を振り絞り、12月に行なわれる解散ワンマンに向けて走っている。ここでは、そんな彼らの心情を余すことなくお伝えしていこうと思う。

Interview:ERI MIZUTANI

——8月のワンマンで解散発表をしたわけだけど、どう、今の気持ちは?

Kru:【_Vani;lla】として活動できるのが、残り少なくなったというのは寂しいですね……。

まろ:解散発表した後は、もう終わってしまうしっていう、後ろ向きな気持ちだったんです。でも、逆に、ライヴやインストアイベントなどの1つ1つがすごく大切に思えてきて。来てくれる子たちは絶対に悲しいはずなのに、それでも笑顔で足を運んでくれてメッセージをくれる。それがまた、いとおしくて。

——何だか、それだけで目頭が熱くなってしまうというか。

まろ:そうなんです。けど、オイラ、解散発表したときに決めたことがあるんですよ。それは、最後まで泣かないこと。なので、今やっているツアーも明るくやろうって。ちなみに、主催者のダウトさんと【_Vani;lla】って、活動歴が同じなんです。そういうバンドと一緒にやれるっていうのは素晴らしいことだと思うし、他のバンドさんのライヴを見ていると刺激になるというか。あと、今まで行ったことのない場所もたくさんあって、やる度に面白さを感じてます。

ユウナ:山形なんて、住宅街の中にライヴハウスがあったので、それはすごく驚きました。今回、行くところ全部が最後になってしまうし、最初で最後のところっていうのもあるので、個人的には、楽しくできたらいいなっていうのを目標にしたんです。とにかく、良い思い出にしたいなって。だから、どこもすごく新鮮です。

暁斗:あと、他のバンドさんたちから、かっこよくなったって言われたのが嬉しくて。それは、このツアーで自分が目標にしていたことでもあったんですよね。それもあって、1本1本、噛み締めながらライヴをやっています。

——ほんと、色々な想いが交錯するよね。

鐘:1ヶ所1ヶ所、俺らがいるんだぞっていう足跡を残していきたいんですよね。だから、どこの土地も全力でやっているし、見たことのないような景色が広がっているのは嬉しいことです。色々なところを廻っているんですけど、同じ曲をやっても反応が違うのが面白いですね。

ルがすごく励みになっているんです。ライヴに来た子のリアルな声が聞ける分、次への反省にも繋がるし、ファンメールの大切さっていうのを改めて感じました。

——そういった些細なことに喜びを感じられるのって、素敵なことだと思うな。

まろ:ほんと、ファンのみんなには支えられているなと。って、ここで泣いたらダメですね、裏切り行為になっちゃう。

Kru:そうだよ。"泣かない"っていう約束は最後まで守らないと!

——そして、このツアーが終わった後に解散ライヴがO-WEST控えているんだよね……。

まろ:はい。12月22日、Shibuya O-WESTで最後のワンマンをやります。けど、湿っぽくならないような内容にしたいなって。

ユウナ:俺も、湿っぽいライヴっていうのは好きではないし、【_Vani;lla】っていうバンドの存在感を見せていきたいです。とにかく、印象に残るライヴにしていきます。

暁斗:俺、人が消えるときって、周りにいる人の記憶からなくなるときなんじゃないかなと思っていて。だから、最後りライヴは全力でぶつかって、【_Vani;lla】って良いバンドだったなっていう記憶をみんなの中に残したいです。

鐘:俺も、同じ意見ですね。

——鐘さんから見て、【_Vani;lla】ってどういうバンドだった?

鐘:そうだな、特殊なバンドだったなって思います(笑)。だから、最後は、あのバンドって変わっていたよね、っていう覚えられ方でもいいので、いつもどおり、派手な感じでいきたいですね。

——【_Vani;lla】って、本当にかっこいいなって言われるようにね。

Kru:当日は、今まで応援してくれた人に恥じないようなものにしたいし、会場にいるみんなと目が合うぐらい、気持ちを1つにしてやっていこうって。だから、今ある自分たちの楽曲を成長させていって、最後まで全力を尽くしたいなと思っています。

まろ:ファンのみんなと一緒に成長できるバンドだったからこそ、最後まで笑顔でハッチャけられるライヴにしないとい

蝴蝶网
hudie.com

SHOXX VOICE!!

アヲイ

5人の化学反応でシーンにカウンターを喰らわす！

蝴蝶网
hudie.com

11月24日に、5人体制になって初のマキシ盤『abelcain』を発売するアヲイ。ドラムのRyo、ギターの慎という強烈な個性の参加は、アヲイの姿に、ラウド&メロディックなバンドとして、より大きな存在感を与えてくれた。音源も楽曲も、1曲1曲がハンマーで後頭部を叩かれたくらいの衝撃を放っている。それが激しかろうと、メロディックだろうと。その存在感に君もブッ飛ばされなっ！

Interview:TOMONORI NAGASAWA

のアヲイがスタート　かなり低音を響かせゆくバンドに変貌していません？

オトギ：5人になって確実に音のバランスが良くなりました。低音を強調するためにメンバーを加入させた訳ではないにせよ、音圧が増したのは確かです。

——5人になったアヲイとして最初に作り上げたのが、マキシ盤『abelcain』になりますが、収録した4曲とも、芯で繋がる面がありながら、みごとに異なる表情を詰め込んできました。

翔：4曲ともバラバラな個性を持ちながらも上手くまとまってるんだよね。

オトギ：これまで表題曲には、キャッチーで聴きやすい歌を持って来てたけど、ここまで激しい楽曲を頭に持ってきたのは初めてのこと。でも、それが今のアヲイのライヴの姿勢とも重なっているので、そんな違和感を覚えることはないと思います。とくに『abelcain』には、5人一丸となり、ここから新たに攻めてくぞという姿勢を出したかったので、全体的に勢い重視の楽曲を頭に持ってきました。

——続く『beauty』も、かなりゴリゴリに攻めてる楽曲じゃないですか？

オトギ：『beauty』はメロディーのまったくない、かなり激しくもヘヴィな楽曲を表現しました。だけど3曲目に収録した『レイン』では、うって変わって、ミディアム系の歌を聞かせる楽曲です。通常盤の4曲目に登場する「冷たい手」は、疾走感を持ったライヴ映えしていく曲なんですけど、これまでのようなサビでバーンと開ける感じではなく、メロディアスながらも独特のテンション感を持ちながら、切なく物悲しげな雰囲気を描き出した楽曲になりました。

——最近のライヴを観ながら、〝ラウドな方向性へ向かってる〟印象を覚えていたけど。決してそれだけではないスタイルを、ここでは提示してますよね。

オトギ：アヲイの場合、歌詞と歌を伝える部分は絶対に外せないので。

——『abelcain』って、神話の「カインとアベル」から来たものなの？

オトギ：アベルとカインは、アダムとイブの間に生まれた人類初めての兄弟。にも関わらず、兄弟で殺し合ったくらい、憎…も持っているです。それら…今…現在の人間にも受け継がれている感情。そんな幾度となく繰り返される悲しみを、「悲しみの輪廻」をテーマに据えながら、この歌の中へ投影しました。この作品は直接「カインとアベル」の物語とは関連していませんが、大きな括りとして、今の僕らが伝えたい想いとリンクしたことから、そのモチーフを楽曲に活かしました。

——完成した『abelcain』、みなさん、今どんな手応えを感じています？

翔：それぞれのメンバーが〝自分の魅力〟をプレイの中へ活かしながら、楽曲としてしっかりまとめあげています。それだけ各自が、自分のやるべき事をつかんでいるからこそ、このメンバーになって初作品にも関わらず、等身大の今の素のアヲイをパック出来たんだと思っています。

Ryo：僕がプレイで大事にしているのが〝呼吸を大切にしてゆく〟こと。僕自身も、アヲイに入ってからは初の音源になるのですが。自分の素を素直に出せた作品になった手応えを覚えています。

慎：僕自身に関しては、自分のスタイルをどの楽曲でも活かせたように、自己紹介を兼ねた作品であり、5人体制のアヲイとしてもベストな紹介盤になりました。

サキ：4曲続けて聴くことで一つの物語を感じられる、今の5人体制のアヲイだからこそ作れた起承転結を持った物語のような作品になりました。だから聴き終わったとき、1本の映画を観たときと同じ満足感と、また聴きたいという欲求覚える作品になったと思います。

——アヲイの場合、全体を通してはもちろん、1曲の中でも起承転結を持った曲展開が繰り広げられますからね。

サキ：そうなんです。1曲の中でさえ起伏あふれているからこそ、その曲たちが4曲並ぶと、さらに起伏が豊かになる。しかも、手に取ってもらった人次第で、いろんな解釈が広がってゆくのも、この作品の大きな魅力になっています。

オトギ：音圧が増したとはいえ、軸になっているのは〝心に残る歌とメロディー〟。5人で攻めゆく武器を提示できた今、自分ら自身が、これからのアヲイの進化が楽しみなんですよ。

amber gris

1st ONEMAN『失意の森の少女』

Live at TAKADANOBABA AREA 2010.10.17

ドラムの悠真が〝ラミ〟に改名するなど、大胆発言も飛び出した、amber grisのファースト・ワンマン『失意の森の少女』。当日は、9月にリリースされたばかりのミニ・アルバム『チャイルド・フォレスト』の楽曲を中心に、全15曲が演奏された。久しぶりに、良いライヴを観た！と思える内容となっていただけに、このワンマンの雰囲気が、誌面を通して少しでも伝われば幸いだ。

Photograph:MIWA OHYA　Report:ERI MIZUTANI

SHOXX LIVE!!

ａｍｂｅｒ ｇｒｉｓが渾身の力を振り絞って作り上げた1stミニ・アルバム『チャイルド　フォレスト』。

「『チャイルド　フォレスト』すなわち、〝誰にも踏み入れることの出来ない聖域〟。そこは、子供たちだけが知っている秘密の隠れ家という感覚でもあるし、脳内にあるその人だけの世界という意味でもあります。大人が知らない隔離された場所という意味を込めて、このタイトルを付けました」と、ヴォーカルの手鞠は話す。その言葉どおり、本作は独特の世界観が漂い、聴けば聴くほど、自分だけのセカイが出来上がっていく。そして、これらの楽曲を具現化したのが、ワンマン・ライヴ『失意の森の少女』である。

青白い光に導かれ、メンバーがステージ上に姿を現わすと、フロアにいた観客たちは歓声を押し殺すようにし、身をグイッと前方へ寄せた。静寂が辺りを包む。目を閉じれば、そこは深い森の中。その瞬間、〝誰にも踏み入れることのできない聖域〟に迷い込んでしまったことに気付かされる。普通なら、怖いという感情が先に来るものだろう。だが、この森は、自ら進んでいきたくなるような、そんな好奇心とも取れる感情のほうが勝っていった。準備が整ったその時、手鞠の魂の叫びとも取れる歌声が場内に響き渡った。そうしたオープニング後の「新緑のローレライ」は、波のように押しては返すリズムとともに、ゆったりと流れる時間が心地よい。その後には、『チャイルド　フォレスト』からの楽曲が立て続けに演奏されていった。

そんな中、新曲が披露されることに。まだ名前も付いていない曲ではあるが、〝素敵なもの〟になっていたということだけはお伝えしておきたい。そうした嬉しい出来事もありつつ、ライヴは佳境を迎えていった。出口に近付いていくのを拒むかのように、前半の〝静〟とは一転して、〝動〟の部分を全面に押し出したステージ展開で迫る5人。だからこそ、観客は潔く森を後にすることが出来たのではないだろうか。すべての音がやんだ時、〝誰にも踏み入れることの出来ない聖域〟は、〝自らの手で守るべき、自由〟へと形を変えた。だからこそ、彼らは走り出す。さらなる

hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

R指定

波瀾万丈、椿唄

SHOXX VOICE!!

シングル、アルバムと、今年はリリース続きだったR指定。彼らが今年最後に用意した新曲は、まさに代表曲と言っても過言ではないぐらい素晴らしいものに仕上っている。ヴォーカルのマモは言う、“これは勝負曲だ”と。絶対の自信を持ってお届けする7枚目のシングル「波瀾万丈、椿唄」。その言葉が本当かどうか、12月8日、ぜひ、あなたの耳で確かめていただきたい。

Interview:ERI MIZUTANI

マモ：勝負曲ですね。久しぶりにシングルらしい作品になったと思うし、自信のあるものに仕上りました。

――となると、表題曲の「波瀾万丈、椿唄」は、シングル向けの楽曲ということを意識して作っていったということに？

マモ：はい、そこは初めから意識しましたね。タイトルである「波瀾万丈、椿唄」というのは、R指定に対して敬意を込めて付けたもので。上京してからの1年間、波乱万丈だったなという思いを重ね、この曲が生まれました。

――バラードなのかと思いきや、ダンスミュージックっぽいリズムが入っていて、軽快な1曲になっていますよね。

マモ：テンポ的なものは、最初から頭の中にあったんですよ。それに加え、冬らしい歌というのをイメージして作っていって。歌詞では〝五月〟や〝鯉幟〟といった春を思わせる言葉が出てくるんですけど、最後に〝小春日和〟という言葉を持ってくることによって、冬に遠い春を想う、そんな切ない気持ちを込めてみました。

――この曲で、楽器陣が心掛けたことというと何でしょう？

Z：メロがわかりやすい分、ギターは単調でいいかなと。って、最初は思ったんですけど、そうでもなく。

楓：シンプルすぎると面白く聴こえないから、もうちょっとやってみようかということになり。

Z：で、ちょこちょこと遊びを入れて。個人的には、マモがデモを持ってきたときに、和の雰囲気を感じたんですよね。

――あぁ、言われてみると確かに。

Z：それと、わかりやすいゲームサウンドが頭の中に浮かんだので、そこをイメージしつつ仕上げていきました。

宏崇：ドラムは、抜けるところは抜けて、という音をキレイに出すことを心掛けました。もちろん、打ち込みとの兼ね合いもあるんですけど、すごく楽しく叩けましたね。

七星：俺も、この曲はすごくやりやすかったです。この曲自体、R指定の良いところを詰め込んだ曲であるので。マモが言ったように、R指定の新たな代表曲になるのではないかなと思います。

――今作は、AタイプとBタイプの2種類で発売されます。両方に収録されるの

七星：不思議なんですけど、Zさんが作る曲って、デモの時点からベースの音が聴こえるんですよね。入ってないのに。だから、最初から自分の出したい音というものが決まってくるんです。

――表題曲とはまた違うアプローチをされていますが。

七星：雰囲気重視で弾いていきました。

Z：俺としては、ヴィジュアル系っていうものを意識して作ってみたんですよね。それは具体的に何？って訊かれるとわからないんですけど（笑）、敢えてのヴィジュアル系にしてみました。

――なるほど（笑）。では、Aタイプのみに収録される「Re:センチメンタル」、Bタイプのみ収録の「青春はリストカット」についても聴きどころを教えて下さい。

マモ：これは、過去に発売された「センチメンタル」をアレンジしたものなんですけど、ここでピアノを担当しているのはxTRiPxのヴォーカルのYo-shiTなんです。彼とは地元が一緒で、上京する前から良い音楽をやっていることは知っていたので、お願いすることにして。ただ、最初、彼があまりにも本気で歌ってきたので、どうしようかなって（笑）。でもまぁ、こういうコラボもやってみてもアリかなって。面白い1曲になっていると思います。

楓：Bタイプの「青春はリストカット」は、全員で作った曲です。R指定らしい曲を作りたいなと思っていたので、このように昭和歌謡をノリノリにした感じにしました。もしかしたら、誰もがやり尽くしたことかもしれない。けれど、R指定が挑戦したらこうなるんだぞっていうことを表現した曲ですね。

――冒頭でマモさんが〝自信作〟とおっしゃったように、ここに収録されている4曲は、どれもがR指定を代表するものになったと思います。今年のリリースはこれで終わりになりますが、来年もまた大暴れしてくれそうですね。

マモ：来年の頭には、博多で単独公演もありますからね。都内では年末に企画モノの単独公演を用意しているので、ぜひとも楽しみにしていてもらいたいです。こっちは忘年会的なノリでやろうと考えているので、楽しい感じで1年間を締めくくれたらなと。

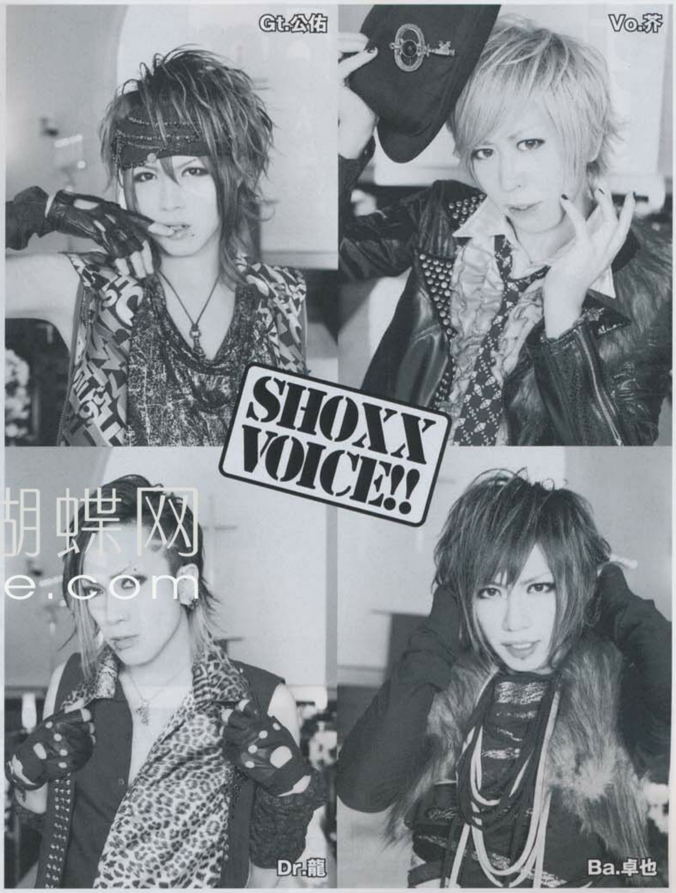
（問）東京都新宿区高田馬場3-3-8-609　http://r-shitei.net/

Administrator

Promise

前作「喚情レイテンシー」から約7ヶ月、アドミニストレーターの待望の新作が発売される。恋人同士の儚く切ない物語が描かれた「Promise」は、この冬に最適の1曲。ヴォーカル芥の伸びやかな歌声と、雪のように爽やかな楽器陣の演奏に注目だ。2月1日には、CD発売&結成2周年記念主催イベントが高田馬場ARE

Interview:ERI MIZUTANI



蝴蝶网 hudie.com

——約7ヶ月ぶりのリリースだけれど。

公佑：その間、何もしてなかったっていうわけじゃないですよ（笑）。

——たくさんの発見があったそうで。

龍：前作「喚情レイテンシー」を作った後、ライヴっていうものをもっと意識していこうって思ったんですよね。なので、新作は、そこを考えた上で作りました。

公佑：何ていうか、客観的な目線で自分たちを見られるようになってきたんですよ。それがけっこう、作品作りに影響したと思います。

——今ここで、自分たちを見つめ直すっていうのは良いことだよね。ちなみに、新作を作る際、最も大事にしたことというと？

卓也：いつものことなんですけど、歌を全面に出したいっていうのがあったんで、歌を活かすようなプレイを心掛けようっていうのはありましたね。

——それだけに、「Promise」に収録されている曲はどれも、伸びやかな歌声が特徴的。

芥：でも、ヴォーカルとしては、歌だけを強調したっていう意識はないんですよね。今作では、〝他のメンバーが思う芥〟というものを表現していて。だから、歌詞も自分では書いていないんです。それにより、どういう自分が見せられるかっていうのを試したくて。

——だから、リード曲の「Promise」では、作詞を龍さんが手掛けているんだね。

龍：冬っぽいイメージがあったので、冷たい歌詞にしようって思ったんですね。でも、冷たいままだけの曲ではなかったので、最後に温かみを含めて書き上げていきました。結果的に、すごくストレートな曲になったかなと思います。とは言え、実体験とかじゃないですからね！

——そんな強く言わなくても（笑）。

芥：でも、俺にないものが出ているだけに気持ち良く歌えましたよ。あと、この曲で初めてのPVを撮ったんですけど、ナルシストな龍くんをぜひ観てほしいですね！

——「Black Chord」は、すごくアドミニらしい1曲に仕上がっているよね。

公佑：アドミニといえばこれだろう、っ

——歌い出しはもちろん、グイグイと引っ張っていく楽器陣のアプローチが気持ち良いよね。

卓也：そこは、ライヴを意識したんです。聴いたときからライヴ向けの曲だなって思ったんで、最後までテンションを落とすことなく弾いていって。だから、この曲が、これからのライヴでどう変化していくか、楽しみなところではあります。

公佑：これ、自分たちのケツを叩くような意味合いもあるんですよね。やってやらないと！　いう気持ちが溢れている1曲だと思います。

——通常盤のみに収録される「Magic train」は、随分とロマンティックな歌詞になっているけど。

公佑：だって、書いたの龍くんだし（笑）。

俺、西部を走る電車のような疾走感のある曲になったよって言って渡したんです。そしたら、なぜかカボチャの馬車をイメージした歌詞になってました。

芥：一瞬、どう消化しようか考えたよね。

龍：あははははは（笑）。いや、電車っていうイメージは伝わってきたんですけど、いつの間にかメルヘンになってました。

——でも、《ありったけの夢を持ったら、あのマジックトレインに乗り込もう》とか、素敵だと思うな。

龍：ほんとですか、良かったです。

公佑：ただ、曲自体は挑戦だと思うんですよね、どストレートな曲調だけに。

卓也：結果的に、これが1番シンプルになったかも。

——このベースの音好きだなぁ。

卓也：ベースは、普通に弾いたら面白くないって思ったんですよね。だから、今まで食わず嫌いしていた部分とかにも挑戦してみて。それで、ベースって色々な音を出してもアリなのかなって思えるようになったんですよね。だから、今後も自分がかっこいいと思える範囲で、色々なことに挑戦していきたいと思います。

——そして、12月11日には、CD発売&結成2周年記念イベントがあるんだよね。

公佑：早いもので、結成してから2年が経ってしまいました。っていうか、次こそはワンマンやりたい。

芥：まだ、やったことがないからね。じゃ

http://administrator-web.com

SCAPEGOAT

addicted skin

SHOXX VOICE!!

スケープゴートの4枚目のマキシシングル「addicted skin」は多彩な曲を詰め込んだ作品になっている。バンドとして一皮むけたいという彼らの想い、ぜひ感じ取ってみては。そして、発売前には「彩覚人格論-humanism-」と題された記念主催ライヴが行われる。ここでは、重大発表もあるそうなので、スケーターの皆さんは、必ず足を運んでいただきたい」(Gt.克己はインタヴュー欠席です)

Interview:ERI MIZUTANI

春：第一に、音を肌で感じてほしいという想いがあったんですね。あと、"addicted"という単語を加えることで、そこに中毒性を含んでいるところを出してみて。

――ミディアムな楽曲から始まるというところに驚かされたんだけど、この曲を作ったのは誰？

さゆら：はい。バンドコンセプトに通じるような曲にしたいなって思ってこの曲を作っていったんです。ダークではあるんですけど、かなり新鮮な感じになったのではないかなと。

春：これ、聴いた瞬間から雰囲気がすごく伝わってきたんですよね。だから、今までにはない感じの曲だけどやりたいって思ったし。タイトルの「紫陽花」という言葉が浮かんでからは、歌詞もすらすらと書けました。

さゆら：バンドとして一皮むけたいっていう気持ちがあったんで、こういう曲ができたのは良かったなと思います。こだわった部分としては、セクションごとに景色が見えるような音色を出したので、そこに注目して聴いてもらいたいですね。

――グレーがかった色味がどのパートにも出ていて。

たつき：こんな感じで叩けばいいんだなっていうのは、曲をもらったときから理解できていたので、作りやすかったです。

LAYHA：リズム隊は言葉で言わなくてもわかる部分が多いんで楽なんですよ。"あぁ、そういう感じでくるのね"って（笑）。

さゆら：ギター隊は雰囲気を壊さないように演奏していきました。弾くタッチについては話し合いを重ねていたので、曲に合った音が出せて満足です。

――また、春さんの声の質感がとても良く。

春：自分としても好きな曲調だったので、どう歌っていけば雰囲気が出せるかっていうのがわかっていたんですよね。結果、今まで以上に曲に入り込めたので良かったです。

――次の「strawberry black market」は、たつきさんの曲だけど、ここではどんなことをイメージして作っていったのかな？

たつき：自分の好きなものをバンドでやったら面白いだろうなって思って作った。うーんって

さゆら：そういえば、最後の最後まで、どうしようって言ってたよね。

たつき：意外と、自分の好きなものを形にするのって難しいんだなって思いましたね。でも、できあがったときには、"これでいいんだ！"って（笑）。

――みんなの得意とする激しさも存分に出ているし、演奏していて本当に楽しいんだろうなっていうのが伝わってきたよ。

春：やっていて楽しい曲ですね。そして最後の「ミライグラフティ」は俺が作った曲なんですけど、爽やかな感じになりましたね。今までにないぐらい明るい曲なので冒険ではあったんですけど、メンバーからの反応も良かったので入れてみることにしました（笑）。

LAYHA：僕は、他の楽器と歌の邪魔をしないっていうことを心掛けながら、フラットに弾くことを心掛けたんです。その甲斐あって良い曲になったと思うし、3曲とも聴きごたえのあるものになったかなと。

――聴き比べてみるとわかるけど、この3曲ってかなりタイプが違うよね。

春：トリプルA面的な意味合いを持たせたかったので、敢えてバラバラにしてみたんです。そのおかげで、スケープゴートらしさが出たと思いますね。

――発売日前には記念主催イベントもあるし、楽しみだね。

たつき：はい。しかも、来年の1月8日には、二部ワンマン「スケーター感謝祭Vol.2」もありますから。

――これ、企画モノのライヴなんだよね？ 何をやるとか、既に考えているの？

一同：もちろんです！

たつき：スケーター感謝祭は今年の1月にもやったんですけど、それが終わった時点で、次はこうしようって考えていましたから。

――早い（笑）。

たつき：そう思うと、1番楽しんでいるのは俺たちかもしれないっていう。

LAYHA：確かに（笑）。

さゆら：何か、これをやると、バンドを始めた頃の感覚に戻れるんだよね。

春：そうそう（笑）。なので、ぜひ、普段とは違う俺たちを見に来て下さい。

http://www.scapegoat-website.com/

hudie.com

SHOXX VOICE!!

Annie's Black

多様な個性のぶつかり合い!!

ヴォーカリストSARINOを中心に結成されたAnnie's Black。現在のサポートメンバーは、ギターが舜とMORI、ベースが淳、ドラムがTAKAFUMI。さらに作曲陣には未散、ミサといった強力なアーティストが顔をそろえる。12月29日に発売される初のフルアルバム『departure』でも、その様々な個性が楽しめそうだ。来年2月4、5日にはワンマンライヴも決定。個性のぶつかり合いとSARINOの魅力を存分に堪能してほしい。

Interview:MIYUKI MURAYAMA

―アニーズブラックは、SARINO君を中心としたバンドなんですよね。

SARINO：僕が再現したい音に相応しいメンバーを、プロデューサーの未散さんと一緒に集めました。

―そこで舜さんに声をかけた理由は？

舜：馬車馬のように仕事をするからです。

SARINO：（苦笑）確かに馬車馬のように働いてくれていますけど。舜さんとは、多く語らずとも音で会話できるっていう絶対的な信頼関係があるので、まず間違いないだろうと。アニーズブラックは、流行り廃りとかを一切抜いて、自分のコアなところで鳴る音を表現したいと思っているので、そこを一番理解してくれてるのが舜さんなんです。

―流行り廃りを意識せずに、逆にこだわりたいのはどういうところなんですか。

SARINO：衝動、かな。好奇心もそうですし、感情の赴くままに泣く、笑う、そういう要素を音でさらけ出したい、そこを肝に置いてますね。

―いろんな方が曲を書いてますが、SARINO君が歌うことを想定して作ってるんですか。

舜：SARINOがこういう歌を歌ったらカッコいいやろうなぁって、ごくごく単純なところから始まってて。あとは、各メンバーの好みも踏襲しつつですね。

―バックのメンバーは、各々別々のバンドで活動してきたわけですけど、一緒にステージ立ってみてどうです？

舜：かつてないほどの緊張感を味わってます（笑）。〝やらなければやられる〟ぐらいの。毎回楽しみなんですよ。びっくりすることが多いです。

SARINO：サポートの方々に目が行くようじゃ元も子もないし、前へ行かないなら行っちゃうよっていう人達がそろってるんで、より前へ前へって。

―初のフルアルバム『departure』のコンセプトは？

SARINO：タイトルが『departure』っていうことで、飛び立つ、また羽ばたく的なニュアンスで捉えてまして、これを持って世界に羽ばたくぞっていう決意を新たに、そういう曲を盛り込んでます。「departure」を中心に、どれぐらいの振

―デモを聴くと、各々作曲者の方の個性が色濃く出てますよね。

SARINO：ミサさんの曲はやっぱり個性的だし、未散さんの曲はポップだし。MORIさんが普段スタジオで弾いてるような曲も素晴らしいんで、全部収録しようって。

―バラエティに富んだ内容になる？

舜：ある程度芯は通しつつも、自然と各々の色は出るだろうと思います。

―サウンド面では、どこに芯が通ったものにしたいですか。

舜：最初に思ったのは、僕なんかが出す音はわりとゴリゴリの激しめな音なんで、そういうのに対してSARINOの歌が乗っかったら面白いだろうなと。その延長上になっていくんじゃないかと思ってるんですけどね。

―ヴォーカルが中心であっても、サウンドもガンガン主張すると。

舜：SARINOにはさらにそのサウンドの上を行ってもらいたいですね。そうじゃないとパワー感は出ないと思うんで。

―SARINO君としては、いろんな歌をどう自分のものにしようと考えてますか。

SARINO：僕が歌ったらSARINOだろうって思わせる自信はあるんですよね。バラって、花はものすごく甘くて綺麗じゃないですか。でも、下はトゲだらけで。それがアニーズブラックの持ち味だと思うので、僕は花担当で綺麗な花を咲かせるのに専念して、あとはトゲトゲの人がめっちゃいるみたいな。

舜：尖ってるよ～（笑）。

―なるほど（笑）。来年2月にはワンマンライヴも決まっています。2回目のワンマンで、今回は2デイズですね。

SARINO：衝動を大事にしたいんで。よし、やろう！と思ったら、全力でいきます。

―内容はどんなものになりそう？

SARINO：こんなこと言うとどうかと思うんですけど、あえて同じセットリストでもいいかなって。僕らがやれば、同じセットリストでも絶対違うライヴになるんですよ。実際には同じセットリストにはしないですけど、そういう自信が

hudie.com

SHOXX VOICE!!

RED universe

世界の終末に深紅の世界が覚醒する!!

蝴蝶网 hudie.com

12月1日にRED universeが1stミニ・アルバム『BUTTERFLY EFFECT』をリリースする。マジに、1曲1曲じっくりとヘッドフォンをしながら聴いて欲しい。1曲ごと、胸踊るドラマチックな曲展開が繰り広げられるのは、もちろん。細部まで凝った音作りをしているだけに、ロックオーケストラを聴いてるような気分にさえなってしまう。とくにX JAPAN好きなら、絶対におすすめ!!

Interview:TOMONORI NAGASAWA

EFFECT』が誕生。これぞまさに…。

GENKI：RED universeが持つ世界観のど真ん中な作品です。

——冒頭を飾ったのはSE作『worm〔HOLE〕』です。

GENKI：ブラックホールへ吸い込まれ、ホワイトホールへ出るまでの空間のことを〝WORM HOLE〟というんですけど冒頭を飾った『worm〔HOLE〕』は、ライヴでも使える、アルバムのSEとなる楽曲。日常の生活から、RED universeの世界へ飛び込んで来るために通るトンネルのような役割を持った曲になっています。中間に出てくるピアノのメロディーは、続く「FINAL CLOSURE」のギターソロのフレーズと、実は同じです。

——このSE、『FINAL CLOSURE』と繋がりを持ってるんだ。

GENKI：『worm〔HOLE〕』の最後に流れる爆発音では、ワームホールを抜け、光が差し込んでくる感覚を表現しているんです。『FINAL CLOSURE』は、僕のアカペラ声からスタートして、その後7弦ギターのローの部分がガッとせまってきて、激しくもドラマティックでメロディアスなバンド演奏へと転化します。ギター・ソロの前で一瞬音が落ちるのは、宇宙空間をフワフワ漂っている感覚を出す為。その後始まるギター・ソロを通し、一気に空間の中を駆け上がっていきます。

Kosuke：続く「uncontrol」では、コントロール不能というタイトル通り、レコーディング中、本当にアンプがコントロール不能になり、ブッ壊れました。テンポもBPM210と、かなり速いんですけど。途中のソロをアコギで弾き、そこからメロディアスなサビに繋がってゆく流れも形成。そこは、Tomoyaのアイデアの成せる技でした。

Tomoya：これまでのRED universeの中でも一番激しい曲でありつつ。その中へドラマ性を作り、起伏を持った美しさも描きたかったんですよ。

Kosuke：一瞬しか出てこない効果音なども、曲の随所に散りばめられています。

TaNo：4曲目の「浮遊月」は、7弦ギターの音をさらに半音下げB♭にしています。アルバムの中でも一番ヘヴィさを出した楽曲です。離ればなれになった切い感じを、2本の絡み合うギター・ソロの中にも描き出しています。

GENKI：この曲では、ギター・ソロも主旋律の一つというか、歌の流れを活かす大切なセクションになっています。

——『I FEEL BLUE』は、既発歌のリメイク作になりました。

GENKI：以前からシーケンスを前面に押し出した歌物の楽曲はやってはいたんですけど、バンド・サウンドをより前へ出したくてアレンジしました。結果的に、僕ら5人の描き出すバンド・サウンドにシーケンスが第6のメンバーとして加わった形として完成。アルバムの中では、〝今のRED universeらしさを全開にした一番の歌物作品〟に仕上がりました。

——最後も、バンドの顔とも言える「CODE BLUE」の再録歌になります。

GENKI：「I FEEL BLUE」と「CODE BLUE」は、結成当初からバンドの顔となり続けてきた楽曲。だからこそ、初のミニ・アルバムへしっかり形として刻んでおきたかったんです。

——『CODE BLUE』は、まさに〝ドラマティック／メロディック／ハードネス〟三拍子揃った楽曲ですからね。

GENKI：シーケンスやピアノ音、さらにはテンポチェンジや歌のキーチェンジまで、以前では表現出来なかった演奏力を身につけたからこそ、この曲が〝あるべき姿〟へ仕上げられたのは確かです。

——1曲の中、かなり細部まで凝った音作りをしていますね。ヘッドフォンで聴いていて、そのこだわりがよくわかりました。

Tomoya：緻密な展開を持った曲構成や演奏を作るため、かなりの時間を費やしました。1曲1曲にドラマがありながら。さらにそれが、1枚の世界観を持った作品として繋がっていく。まさに、映画を体感していくような作品です。

Yuya：12月には、東名阪を舞台に、発売記念の主催ライヴを実施。うちらの楽曲は長いので、何時もなら表現しきれない魅力も、今回の主催では長めの時間の中でしっかり見せられると思います。

GENKI：出来ればライヴでも、この世界観を表現したいなと思っています。また違った臨場感を持った曲たちとして。

SHOXX INFO!!

hudie.com

DEATHGAZE

ニュー・アルバム発売決定!!

現在、lynch.の全国ツアーにオープニング・サポートとして帯同しているDEATHGAZE。全国のステージで見せている彼らの熱さをパッケージした、ニュー・アルバム『BLISS OUT』が12月8日にリリースされる。
【豪華盤】アルバム全11曲＋リテイク曲6曲/EBCA-2010S/¥4,410
【通常盤】アルバム全11曲/EBCA-2010/¥3,150

また、リリースに伴う全国ワンマン・ツアーも決定!!
月15日（土）新潟BLACK PIG
月16日（日）仙台HOOK
月23日（日）金沢AZ
月28日（金）OSAKA MUSE
2月4日（金）広島ナミキジャンクション
2月6日（日）福岡DRUM SON
2月12日（土）本八幡ルート14
2月20日（日）新宿ロフト
2月27日（日）高松DIME
3月12日（土）～13日（日）名古屋ell.FITS ALL

http://www.deathgaze.jp/

陰陽座

『陰陽大全』記念パーカー　限定発売！

豪華BOXセット『陰陽大全』が12月22日にリリースされるのを記念して、"陰陽座×キングレコード　コラボレーション・パーカー"が、キングレコードe-shop限定で発売中。
胸にはキングレコードの社章を、背面には陰陽座の家紋をあしらったデザインで、完全限定販売の希少品です。カラーはダークグレー、サイズはSMLの3サイズ展開。各¥5,250。さらに、『陰陽大全』とセットでお申し込みすると、合わせて¥31,500にところスペシャルプライス¥27,300に！
詳細・ご購入はこちらから↓
http://www.kingrecords-eshop.jp/onmyoza/

トーマス

ニュー・シングル発売!!

10月30日にドラマーを正式メンバーに迎え、新たに4人編成となったトーマス。それに伴い、シングル『激情マニフェスト』を12月22日にリリース。さらに初の主催イベントなども続々決定。いよいよトーマス、本格的に動き出す!!
■VS As if in the darknessカップリング・ツアー【激情の黙示録】
11月23日・HOLIDAY OSAKA、24日・HOLIDAY NAGOYA、12月1日・新宿ルイードK4。
■初主催イベント【激情マニフェスト】
12月11日・本八幡ルート14、13日・水戸ライトハウス、14日・浦和ナルシス、19日・町田clove、25日・池袋手刀。

http://www.thomas-official.com/

v[NEU]

V系エレポップの雄がバースデーライヴを決行!!

2010年、大いに飛躍したV系エレポップの雄vが年末も慌ただしい!!　まず、12月3日にはリーダーヒィロのバースデーワンマンを高田馬場AREAにて開催!!　サービス精神旺盛なメンバーだけにレギュラーライヴとは違った特別な"何か"があるに違いない。ここは是非こぞってヒィロを祝いに駆けつけるしかないでしょー!!　来年春にはSHIBUYA CLUB QUATTROでのワンマンも決定している彼ら。年末から2011年にかけてのvから目を離すな!!

■v［NEU］
ヒィロ birthday
「NEU FREAKS!!! LIMITED Vol.1」
2010.12.3（金）高田馬場AREA
【第1部】
OPEN14:30/START15:00
前売券¥2,000（D別¥500）
【第2部】
OPEN18:30/START19:00
前売券¥2,000（D別¥500）
【チケット】
★9/5（日）よりライカエジソン東京店にて【第1部】【第2部】前売り通し券A.001～A.200限定販売！¥3,500（D別）☎03-3369-3708
★10/2（土）より発売！
・ローソンチケット/☎0570-084-003（L:76211）/B.001～B.200
（問）高田馬場AREA/☎03-3361-1069

■LOOP ASH PRESENTS
v［NEU］ 2011 oneman　FRASH TIME show
［Monopolize'-SHIBUYA CLUB QUATTRO-］
2011.4.3（日）渋谷CLUB QUATTRO
OPEN17:15/START18:00
前売券¥3,675（D別¥500）
【チケット】
2011.2.20（日）より発売！
・チケットぴあ/☎0570-02-9999（P:118-645）
・ローソンチケット/☎0570-084-003（L:72386）
・イープラス http://eplus.jp
（問）DISK GARAGE/☎03-5436-9600（平日12:00～19:00）

宇宙戦隊NOIZ

アルバム全曲、無料配信リリース決定!!

2010年も勢力的な地球維持活動を行なってきた宇宙戦隊NOIZから、2010年を締め括る驚異的な情報が届けられた!!
全10曲からなるニュー・アルバム『GENOM EMOTION』が、11月19日より全曲無料配信されるとのこと!! さらにこの10曲が全て未発表曲というのだから、NOIZのみなさん、なんて地球人に優しいのでしょうか!!
少しでも気になった方は、下記HPをチェック！

さらに、そんな最新アルバムを引っ提げての全国ツアーも決定!!
【JAPAN TOY'S PANIC TOUR KING OF ONEMAN & EVENT SHOW 2010 "GENOM EMOTION"】
12月3日（金）吉祥寺CLUB SEATA（ワンマン）
12月7日（火）金沢AZ（ワンマン）
12月11日（土）さいたま新都心HEAVEN'S ROCK VJ-3（ワンマン）
12月12日（日）横浜DRAGON CLUB
12月19日（日）仙台HOOK（ワンマン）
12月20日（月）渋谷サイクロン（ワンマン）
12月22日（水）名古屋E.L.L（ワンマン）
12月24日（金）ESAKA MUSE（ワンマン）
12月27日（月）渋谷クラブクアトロ
12月30日（木）横浜サンフォニックスホール（ワンマン）

http://uchusentainoiz.com/

CD DVD グッズ

買取大募集中

hudie.com

期間限定買取査定額大幅アップ 12.1-12.3

キャンペーン 20%UP 対象アーティストのアイテムは査定額20%UP

KYOKUTOU GIRL FRIEND ギルガメッシュ Versailles BORN 人格ラヂオ
DELUHI DEATHGAZE ゴールデンボンバー 摩天楼オペラ lynch.

貴重盤超高価買取中!!
更に詳しい買取表はウェブで!!

- ●another cellanother cell CD ¥2,500
- ●X-JAPAN PERFECT BEST 3CD ¥2,600
- ●ガゼット 別れ道(2nd) CD¥7,500
- ●ゴールデンボンバーザ・ゴールデンベスト~Pressure~ [初回限定盤A] CD+DVD ¥2,400
- ●ゴールデンボンバー Brassiere night Live at CLUB PHASE on the 15th December DVD ¥2,400
- ●JZEIL(DAIGO) Tension250 CD ¥5,000
- ●シド 流通盤 CD ¥5,000
- ●SHULA(シドVo.マオ在籍) Shu-la-tic CD ¥10,000
- ●DELUHI Surveillance CD ¥6,000
- ●Plastic Tree WORLDTOUR 2006〔chandelier〕BOOK ¥3,000
- ●摩天楼オペラ INDIES BEST COLLECTION CD+DVD ¥2,160
- ●LAREINE/KAMIJO在籍 Fleur(BEST ALBUM) CD ¥3,000
- ●V.A.裏貴族「日本耽美革命」のツアードキュメンタリーDVD DVD ¥15,000

アーティストグッズ買取大強化中!!

ツアーグッズ・ファンクラブグッズ・物販写真・ツアーTシャツ・コラボアクセサリー・写真集等
ガゼット・シド・PlasticTree・ナイトメア・DIR EN GREY・Gackt・雅等大歓迎!!

高価買取一覧表はHPでご確認いただけます!! 毎月2万点以上のヴィジュアル系の商品買取実

宅配買取 宅配買取大募集中!!10点以上は送料無料!!

宅配買取用段ボールご用意致します
宅配買取をご希望の方に梱包用の段ボールと郵送用の伝票をご自宅まで無料でお送りいたします。

お売りいただける品をダンボール等に梱包下さい。 STEP1 ▶▶▶▶▶ 佐川急便で送料着払いでお送り下さい。 STEP2 ▶▶▶▶▶ 査定担当者が1点1点お見積もりを致します。 STEP3 ▶▶▶▶▶ 査定額をメール、もしくは電話にてご連絡致します。 STEP4 ▶▶▶▶▶ 了解いただけましたら、指定口座へご入金となります。 STEP5

梱包用ダンボールお届けいたします!!買取/対象ブランドの詳細はWEBで!!

ご不要なCD/DVD/アーティストグッズ/お洋服等お買取させてい

買取対象ブランドは下記HPをご覧下さい。
遠方/数量の多いお客様には宅配での買取をお勧めしております。段ボール等に梱包し、必要事項(氏名・住所・電話番号、メールアドレス・
支店名・口座番号・口座名義人名(フリガナ・雑誌名)を記入した用紙と身分証のコピーを同封し、下記住所までご郵送下さい。
※宅配買取システムの詳細は弊社HPを必ず参照下さい。
※必ず佐川急便をご利用下さい。送料無料!!

宅配買取受付窓口・お問合せ先
160-0023 東京都新宿区西新宿7-16-12YSビル1F
クローゼットチャイルド TEL 03-3365-6316 webtakuhai@closet-child.com

最大!!ヴィジュアル系中古専門ウェブショッ

総アイテム8000点以上
日本一の取り扱い量!

クローゼットチャイルドのCD/レア盤
グッズ等が携帯電話&PCにて購入いただけます!!

http://www.closetchild-cd.jp/

ゴシックロリータブランド古着オンラインショップ

h.NAOTO / Moi-meme-Moitie / alice auaa / BPN / ALGONQUINS / Angelic Pretty
BABY,THE STARS SHINE BRIGHT / Emily Temple cute / MILK

人気ゴシック・ロリータブランドのユーズドオンラインショップ!!入手困難な予約完売品/今期物
定番物までを随時800アイテム取り揃えたゴスロリ専門オンラインショップ!!

http://closetchild.ocnk.net

Vivienne Westwood 専門オンラインショップ

80年代の貴重なヴィンテージアイテム 入手困難なオーブライター等のレア物 人気のアクセサリー等の定番アイテム
のリーズナブルなユーズドアイテム、更に市場価格より最大7割引きの財布などの新作新品等を随時300点以上出品中!!
ヴィヴィアンマニア ビギナーまで満足いただける専門ショップです!!

http://www.rakuten.co.jp/ainahaina/

closet child

新宿店

◆closet child 新宿店 <OPEN 11:00~20:00>
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-16-12 YSビル1F
(TEL 03-3365-6316)

原宿店

◆closet child 原宿店 <OPEN 11:00~20:00>
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-7-6 CONY176ビル101
(TEL 03-3403-4108)

池袋店

◆closet child 池袋店 <OPEN 12:00~21:00>
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-20-5七福大ビル3F
(TEL 03-3985-5322)

横浜店

closet child横浜店 220-0005 <OPEN 12:00-21:00>
横浜市西区南幸2-16-11二幸ビル302
(TEL 045-316-2166)

相模

蝴蝶网 hudie.com

…我が魔々団×【PaRADEiS】

…ワンマンツアー記念 旧譜フェア 開催決定!
…ストアイベント開催
…ーティスト写真プレゼント!

…ご発売中の東名阪いずれかのワンマン公演チケットをご持参の上、お…々団×【PaRADEiS】商品いずれか1枚をご購入の方にワンマンツア…行われるライカエジソン3店舗インストアイベントにご招待します!さ…アー写6種を復刻、CD1枚につきお好きな写真を1枚差し上げます!!

…0年10月13日(水)〜12月19日(日)まで

ライカエジソンにて チケット発売中

…団×【PaRADEiS】単独公演『LOVE on PaRADEiS TOUR 2010』
…心斎橋FANJ twice 12/10(金) 名古屋ell.SIZE 12/20(月) 高田馬場AREA

葉 from 彩冷える
Maxi Single 11/24 Surrender Love
初回限定盤A ¥1,500/初回限定盤B・通常盤 ¥1,200
★封入特典:(通常盤のみ)トレカ

アヲイ
イベントあり
Maxi Single 11/24 abelcain 限定盤 ¥2,310 通常盤 ¥1,680
★オリジナル特典:(限定盤)メッセージDVD (通常盤)アーティストフォト5枚組

Kannivalism
11/24 Maxi Single rememorari
初回限定盤 ¥1,890/通常盤 ¥1,260
★オリジナル特典:(初回AまたはB)アーティストフォト3枚組 (通常盤)集合柄フォト さらに2タイプご購入でメッセージDVD ★メーカー特典:ポスター

THE KIDDIE
Full Album ★オリジナル特典あり
11/24 BRAVE NEW WORLD
初回限定盤 ¥3,200/通常盤 ¥3,000

ZUCK
イベントあり
DVD Single ¥1,890
11/24 零星〜ゼロスタ〜

DaizyStripper
11/24 Special Box 4D-BOX
~Perfect Visual Archive~ ¥4,500
★オリジナル特典:ポスターカレンダー

…gil
イベントあり
…nocence ¥2,300

摩天楼オペラ
11/24 Best Album ★オリジナル特典:フォトセットD
INDIES BEST COLLECTION ¥3,675
12/22 Mini Album ★オリジナル特典:アーティストフォト6枚組
Abyss 初回限定盤 ¥4,500 通常盤 ¥2,500

AYABIE
イベントあり
Full Album
12/1 Virgin Snow Color -2nd season-
限定盤 type-A・B ¥3,500/通常盤 ¥3,150
★オリジナル特典:アーティストフォト4枚組(別柄)&メッセージDVD(4店舗別内容)

-OZ-
イベントあり
12/1 Best Album BEST ¥2,800
★オリジナル特典:インタビューDVD

Lc5
12/1 Maxi Single STORY
初回限定盤A・B ¥1,800/Lc盤 ¥1,260

…
NO IMAGE
…舞のメロディ
…定盤A・B ¥1,700/通常盤 ¥1,250

ゾロ
NO IMAGE
Full Album
12/1 KIGA 初回限定盤 ¥3,465 通常盤 ¥3,150

電脳オブラァト
イベントあり
Maxi Single
12/1 あきすとぜねこ ¥1,800
★オリジナル特典:東京店、原宿店『DVD映像イズム1 激動編』 名古屋店『DVD映像イズム2 メロウ編』・大阪店『DVD映像イズム3 カオス編』

MERRY
NO IMAGE
Maxi Single
12/1 夜光 初回限定盤 ¥1,890 通常盤 ¥1,260

R指定
Maxi Single
12/8 波瀾万丈、椿唄
鶴 type ¥2,100/亀 type ¥1,575
イベントあり
★オリジナル特典:亀 type:アーティストフォト5枚組 鶴 type:スペシャルコメントDVD(パーソナルコメント&全員ver.)&アーティストフォト

…ministrator
イベントあり
…Single Promise
…限定盤 ¥1,890/通常盤 ¥1,575

M
イベントあり
12/8 Maxi Single 雛鳥 ¥1,260

キャンゼル
LIVE DVD ¥5,250
12/8 CANZEL LAST ONE MAN LIVE [FUTUERS] AT AKASAKA BLITZ
★オリジナル特典:6枚組ライブフォトセット

己龍
12/8 LIVE DVD 狂華乱舞
—二〇一〇年八月六日渋谷クラブクアトロ単独公演— ¥4,980
★メーカー特典:オフショットDVD

DEATHGAZE
Full Album
12/8 BLESS OUT
豪華盤 ¥4,410/通常盤 ¥3,150

…RiS
…yLize ¥2,100

AUBE
Maxi Single ¥1,260
12/15 THE FARTHEST GATE

the GazettE
NO IMAGE
12/15 Maxi Single PLEDGE
Optical Impression A・B ¥1,785
Auditory Impression ¥1,260

Sadie
Maxi Single
12/15 Juggernaut
イベントあり
初回限定盤 ¥1,800/通常盤 ¥1,200

東京ミカエル。
Full Album
12/15 LOVE. ¥3,150

…stic Tree
…Single みらいいろ
…定盤A・B ¥1,575/通常盤 ¥1,260

Moi dix Mois
Full Album
12/15 D+SECT ¥3,360

Ricky
Full Album
12/15 R☆MUSTER
初回限定盤 ¥3,850/通常盤 ¥2,800

E'm〜grief〜
12/22 Best Album grief ¥3,150

EAT YOU ALIVE
Maxi Single
12/22 THE REASON ¥1,200

…
NO IMAGE
… ¥1,260
…明けのアンセム/NUDE

Kaya
イベントあり
Maxi Single
12/22 マダムローザの娼館
-爵香- ¥1,575/-媚薬- ¥1,050
★オリジナル特典:生写真

lam.
Maxi Single
12/22 タイトル未定 ¥1,260

Annie's Black
Full Album
12/29 departure ¥3,150

TOON-FACTORY
3ヶ月連続 シングルリリース
12/29 Fiction ¥1,260
1/26 Chloris ¥1,260
2/23 2Logic ¥1,260

…壱式209336
…0120) ¥2,625

HERO
1/12 Full Album Life
イベントあり
初回限定盤 ¥3,800/通常盤 ¥2,800

愛狂います。
LIVE DVD
1/19 東京浪漫帝國 ¥4,980

LOST ASH
Maxi Single ¥1,500
1/19 overHORIZON

呀修羅
Maxi Single
1/27 贖い(仮) ¥1,260

…dison.com
…ーレ原宿店
…イベント情報

ZUCK
11月27日(土)PM4:00〜
トーク&2ショットチェキ撮影会 〜ミカヅキ限定編〜

…魔々団
…RADEiS】
…日(日)PM5:00〜
…ゲーム&サイン会

HERO
1月11日(火)時間未定
内容未定

ライカエジソン WEBショップ
Like an Edison.com
ライカエジソン通販改革!
さらに便利になりました!

ライカエジソンのWEBショップがオープンしました!
これまでの電話受付、携帯サイト受付に加えパソコンからのご注文も出来るようになりました!
どんどん便利になっていくライカエジソン通販を是非ご利用下さい!詳しくは「ライカエジソン」で検索!!

PC>http://www.like-an-edison.com/

通信販売専用ダイヤル
0120-624-999
もしくはライカエジソン東京店(03-3369-3119)まで!

お問合せは お電話で!

全国一律 送料400円!!
*代金引換の場合は手数料が別途300円です。

通信販売をご利用で、名古屋/大阪のイベントへご参加希望のお客様へ

通信販売でもイベント参加可能です(但し枚数制限がございます) ※一部対象外のイベントがございます。詳しくは通販センターまでお問合せください。
通信販売は東京店で受付しております(名古屋店/大阪店では通信販売を行っておりません)
尚、イベント参加希望のお客様の通信販売の受付は現金書留のみとなります。

ライカエジソン東京店
〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-15-14 坂本ビル1F/2F
☎(1F)03-3369-3119/(2F)03-3369-3708

ライカエジソン名古屋店
〒460-0011
愛知県名古屋市中区大須2-1-15 伏見ヨックスビル2F
☎052-229-8211

ライカエジソン大阪店
〒542-0086
大阪府大阪市中央区西心斎橋1-6-8 トムズハウスビルディング2F
☎06-6252-6262

Like an Edison.com ラフォーレ原宿店
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前1-11-6 ラフォーレ原宿B1F
☎03-3746-6002

Like an Edison Release Information

■ライカエジソンディストリビューション 今月の大プッシュアイテム！

※価格はすべて税

-OZ-

「Rouge」発売記念 スペシャル企画

「Rouge」に「2011年ファーストワン「A FACT OF LIFE～Harden Red～」のが付いた数量限定プレミアバージョンを11月10日(水)よりライカエジソン東京店にて発売！

・「Rouge」初回限定盤+ワンマンチケット付きver. 5,040円
・「Rouge」通常盤+ワンマンチケット付きver. 4,200円

＊こちらのチケット付きバージョンには インストアイベントの整理券は付きません

12/1 Best Album ¥2,800 **BEST** イベントあり

★オリジナル特典：インタビューDVD

キャンゼル

LIVE DVD ¥5,250

12/8 **CANZEL LAST ONE MAN LIVE [FUTUERS] AT AKASAKA BLITZ**

★オリジナル特典：6枚組ライブフォトセット

EAT YOU ALIVE

オフィシャルサイト、ライカエジソン携帯サイトにてワンコーラス無料配信中！

Maxi Single

12/22 **THE REASON** ¥1,200

LOST ASH

hudie.com

Maxi Single ¥1,500

1/19 **overHORIZON**

電脳オブラァト

Maxi Single イベントあり

12/1 **あきすとぜねこ** ¥1,800

★オリジナル特典：東京店、原宿店『DVD映像イズム1 激動編』 名古屋店『DVD映像イズム2 メロウ編』・大阪店『DVD映像イズム3 カオス編』

PieRiS

Mini Album

12/8 **StyLize** ¥2,100

lam.

Maxi Single

12/22 **タイトル未定** ¥1,260

0801弐209336

Mini Album

12/29 **(0120)** ¥2,625

呀修羅

Maxi Single

1/27 **贖い(仮)** ¥1,260

★東京店イベント情報(♣:カメラタイム有り)

-OZ-	11/21(月)	PM3:00～ トーク&握手&サイン会 ＊対象商品『ROUGE』
-OZ-	11/21(月)	PM4:30～ 6ショット撮影会 ＊対象商品『BEST』
D	12/ 4(土)	PM4:00～ トーク&6ショットチェキ撮影会 ＊会場：エイベックス本社
カッコー	12/ 4(土)	PM5:00～ トーク&握手会
Virgil	12/ 5(日)	PM4:00～ トーク&サイン会
Administrator	12/12(日)	PM2:00～ トーク&握手&ゲーム大会
M	12/12(日)	PM6:00～ 1時間店員
AYABIE	12/16(木)	PM7:00～ トーク&握手&サイン会
DragonWAPPPPPPER	12/19(日)	PM4:00～ アコースティックライブ&握手&サイン会
kaya	12/23(木)	PM4:00～ トーク&握手&サイン会
R指定	12/28(火)	PM4:00～ トーク&握手&6ショット撮影会
Sadie	12/28(火)	PM6:00～ 握手会(サインプレゼントあり)
アヲイ	1/28(金)	PM6:00～ トーク&握手&サイン会
HERO	1/30(木)	時間・内容未定

★名古屋店イベント情報(♣:カメラタイム有り)

PERESTROIKA	11/23(火)	PM3:00～ トーク&握手&サイン会
DragonWAPPPPPPER	11/26(金)	PM6:00～ トーク&握手&6ショット撮影会
SEX-ANDROID	11/28(日)	PM12:30～ トーク&握手&サイン会
kaya	12/ 5(日)	PM1:00～ トーク&握手&サイン会
AYABIE	12/ 9(木)	PM6:00～ トーク&握手&サイン会
M	12/11(土)	PM12:00～ 1時間店員
お遊戯わが魔々団×【PaRADEiS】	12/11(土)	PM2:00～ トーク&ゲーム&サイン会
-OZ-	12/11(土)	PM6:00～ トーク&握手&サイン会 ＊対象商品『ROUGE』
-OZ-	12/11(土)	PM7:30～ 6ショット撮影会 ＊対象商品『BEST』
ZUCK	12/14(火)	PM6:00～ トーク&2ショットチェキ撮影会～クリスマス編～
Administrator	12/15(水)	PM3:00～ 1時間店員
R指定	12/16(木)	PM6:00～ トーク&握手&6ショット撮影会
Sadie	12/24(金)	PM6:00～ トーク&握手会(サインプレゼントあり)
アヲイ	12/25(土)	PM3:00～ トーク&握手&サイン会
HERO	1/15(土)	時間・内容未定
人格ラヂオ	日程未定	時間未定 トーク&握手会

★大阪店イベント情報(♣:カメラタイム有り)

spivstates	11/25(木)	PM6:00～ トーク&ちょい足しコーナー&サイン+あーん会
Re:dis	11/28(日)	PM3:00～ 握手&サイン会
ワン★スター	11/28(日)	PM3:30～ 握手&サイン会
アイギス	11/28(日)	PM6:00～ トーク&握手&サイン会
カッコー	12/ 2(木)	PM6:00～ トーク&握手会
お遊戯わが魔々団×【PaRADEiS】	12/4(土)	PM4:00～ トーク&ゲーム&サイン会
アヲイ	12/ 4(土)	PM6:00～ トーク&握手&サイン会
M	12/ 7(火)	PM6:00～ 1時間店員
AYABIE	12/ 8(水)	PM6:00～ トーク&握手&サイン会
-OZ-	12/ 9(木)	PM6:00～ トーク&握手&サイン会 ＊対象商品『ROUGE』
-OZ-	12/ 9(木)	PM7:30～ 6ショット撮影会 ＊対象商品『BEST』
Administrator	12/16(木)	PM3:00～ 1時間店員
ZUCK	12/17(金)	PM6:00～ トーク&2ショットチェキ撮影会～囚われしザック
R指定	12/19(日)	PM6:00～ トーク&握手&6ショット撮影会
Sadie	12/23(木)	PM3:00～ トーク&握手会(サインプレゼントあり)
HERO	1/16(日)	時間・内容未定
Kaya	1/29(土)	PM6:00～ トーク&握手&サイン会
人格ラヂオ	日程未定	時間未定 トーク&握手会

EXPECT RUSH

エクスペクト・ラッシュ
期待の注目バンドをピックアップ!

BALLY

BALLY(バリー)

【メンバー】涼（Vo）jin（Gu）kasumi（Ba）yuki（Dr）
【結成日】2009年12月より始動。
【主な活動】東京近郊
【アイテム】
2009年12月28日 1st Music Clip『Undermined』（入手可）
2010年3月24日　1st MaxiSingle『resist world』（入手可）
2010年7月25日　Live音　源『scenery changes..and..under the sky whichi dose not change.』（入手不可）リリース
【問い合わせ】
Official web site:http://bally-official.com/
E-mail:bally_info@yahoo.co.jp

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

BALLY

12月で活動1周年を迎えるBALLY。彼らが、12月21日・池袋Black Hallを舞台に、BALLY／dizSolid／DANGER☆GANGらによる3MAN公演「東京×クーデター」を行う。さらにその日BALLYは、2ndマキシ盤『第二犯罪都市』のリリースも実施。数多くの謎を秘めた彼ら。その仮面の下の姿を、少しだけ覗いてみた。

シーンの新しい"核"を目指して動き出す!!

Interview:TOMONORI NAGASAWA

―BALLYが、活動の狼煙を上げました。このバンド、最初からいろんな戦略を立ててスタートしていますね。

涼：メンバー自身が出会ったのは、3年前。BALLYというバンドを始動させようと動き出したのは2年前になるのですが、万全の準備を整えたうえでシーンに宣戦布告していこうとの思いから、実際に活動を始めるまでに、かなりの準備期間を費やしてきました。

yuki：初めからしっかりとしたBALLYの世界観を伝えたかったので、最初の映像作品の制作にもこだわって、半年間ほど費やしました。

jin：スタートを切った時点からなんなんだ、このバンドは！というインパクトを与えたかったんです。だから、BALLYが描き続けてゆく物語の序章の部分を担う作品をまず作りあげたうえで、ライヴ活動を始めました。僕個人でいうと、マスクを被り神秘性を描き出して、いかに世界観を持った衝撃を与えてゆくかを心がけてきました。

―「序章」と名付けた世界観にも、いろんな狙いがあったんでしょ。

jin：最初はライヴでも一切MCをすることのない、ダークでアグレッシブなバンドとして、〝インパクトと質の高い楽曲勝負〟で攻め続けていきました。

涼：Music Clip『Undermined』、4曲入りの1stマキシ盤『resist world』を通し、序章となるダークな世界観を描写。その序章を終幕させたうえで、無料配布音源という形として作りあげた『ホワイトノイズ～変わる景色と変わらぬ空の下で～』から、「より光を求めた第一章」が幕を開け。それが、12月21日に発売する2ndマキシ盤『第二犯罪都市』へと繋がっていきます。

kasumi：監獄の奥底に居た序章の頃のBALLYが、『ホワイトノイズ～変わる景色と変わらぬ空の下で～』を通し、ようやく地上へ出て光を浴び始めたって感じかな…。

jin：〝序章〟の頃は、一方的に音を投げつけるライヴだったのが、〝第一章〟を表現し始めた頃からは、MCも加え、観客たちとも交流を計るように変化してゆめてゆくスタイルへと進化し続けてきました。

―そんなに最初の頃は、謎だらけだったんですか。

jin：今でも謎は多いと思いますが、当時のメンバーのキャラクター性は、ブログでしか見えてこなかったですからね。だけど最初から、各メンバーの個性は明確に際立たせていました。ヴォーカルの涼ばヤンキー系のお兄ちゃんだったり。

涼：yukiは可愛い王子様、kasumiはクールなイケメン、jinはマスクをして素顔を隠した謎の男としてなど。

―そこが、余計に神秘性を掻き立てる要素になってますもんね。歌詞の世界観も、独特なメッセージを持ってますね？

涼：僕が歌詞で伝えようとしているのは、〝強く生きろ！〟ということ。俺自身が、痛みを知ることで前へ向いてゆく性格なんです。そんな俺自身の体験から生まれた想いたちを、メッセージしています。

―光を求め始めたBALLY。12月21日に発売する2ndマキシ盤『第二犯罪都市』の内容も、かなり気になります。

yuki：12月21日は、BALLY／dizSolid／DANGER☆GANGという気心知れた仲間たちが集まった、池袋Black Hallを舞台に行う3MAN「東京×クーデター」公演の日。そのイベント・タイトルへ連動する形を持った楽曲として生み出したのが『第二犯罪都市』になります。中身は、異なる表情を持った2つの新曲やSEなどを組み込みながら、コンセプトを持った1枚の作品として制作。とくに表題曲は、SEからの流れを受けつつ物語の幕を開けた、「めちゃくちゃ激しくも、サビではメロディアスに唄いあげてゆく。しかも、全体的に壮大さを持ったスケール感あふれる」楽曲になりました。

涼：テーマ性を持った作品だからこそ、1枚通して聴いてこそ世界観を深く味わえていける内容としても完成しました。

kasumi：この日のライヴ自体、各バンド1時間近く演奏するので、バンドの持つ幅広い音楽性を提示できると思います。まさに、クーデター引き起こす危険な匂いのするライヴを見せていきますから。

A4ワイド判　特別定価930円（税込）　URL:http://www.ongakusenkasha.co.jp/　2011年1月号

ARENA37℃

12月10日、全国書店にて一斉発売!!

蝴蝶网
hudie.com

表紙巻頭大特集!!

the GazettE

12/15に発売されるNew Single「PLEDGE」徹底取材！
壮大なバラードに込められた想いについて&
バンド、メンバーの今に密着したプレミアムな内容で迫ります！

<その他の登場アーティスト>

シド　GACKT　ナイトメア　ムック　虎（Alice Nine）
SuG　ViViD　など

PURE SOUND

ヴィジュアル系専門店 販売・買取

●三木楽器 BIG STEP 三角公園 ●DIESEL 旧ピュアサウンド▲ ▲NEW!! 心斎橋ウエス

西日本最大のヴィジュアル系中古SHOP。品揃えは西日本一!1フロアに5万点の品揃
只今、ゴシック&ロリータ古着コーナー拡大中!大阪と言えばピュアサウンドです。

■商品ラインナップ■CD/DVD/VHS/テープ/FC会報/ツアーパンフ/ヴィジュアル系雑誌・書籍/アーティストグッズ/ゴシック&ロリータ古着

ゴスロリ専門サイト
~maiden clothing~
hudie.com
http://www.maidenclothing.net

モバイル版 遂にOPEN!!

郵送買取キャンペーン
期間▶11/21~12/20着まで

下記高価買取ブランドに記載されているブランドの商品1点以上で全体の査定金額が20%UP!!
(※状態が悪い物/デザインが古い物は対象外となります。)

高価買取ブランド
◆QutieFrash◆HIDE ROCK Design◆monomania
◆Moi-meme-Moitie◆Q-pot◆MILK(デザインの古い物は除く)
◆MALKOMALKA◆alice auaa◆JESUS DIAMANTE
◆STIGMATA◆Vivienne Westwood◆GADGET CROW

メンズ高価買取ブランド
◆BAFFALO BOBS◆NO ID.◆Justin Davis◆FUGA
◆DEAL DESIGN◆Roen◆VANQUISH◆discord
◆BACK BONE◆h.naoto Sixh.◆GLAD NEWS
◆VICE FAIRY◆monomania◆ROYALORDER

ゴシック&ロリータ古着取り扱いブランド
◆ATELIER-PIERROT◆ATELIER BOZ◆ACID JAZZ MEN◆alice auaa◆ALGONQUINS◆Angelic Pretty◆Innocent World◆Victorian Maiden◆VISIBLE◆Vivienne Westwood◆Vivienne Westwood MAN◆Vivienne Westwood RED LABEL◆A+Lidel◆h.NAOTO◆h.NAOTO(Hn+DIE)◆h.NAOTO(Sixh.)◆h.NAOTO(H.naoto Freak School)◆h.NAOTO(h.ANARCHY)◆h.NAOTO(H.ANARCHYISM for PLUS)◆h.NAOTO(H.ANARCHYISM from LONDON)◆h.NAOTO(Sixh.)◆h.NAOTO(Hn+DIE)◆h.NAOTO(h.NAOTO Blood)◆h.NAOTO(H.jelly Honey)◆h.NAOTO(GRAMM)◆h.NAOTO(FRILL)◆h.NAOTO(SEVEN)◆h.NAOTO(CHANNEL H)◆h.NAOTO(rockers H baby)◆EXCENTRIQUE◆Emily Temple Cute◆Ozz On◆OZZ CROCE◆Carina et Arlequin◆CANDY STRIPPER◆Qutie Frash◆Cornet◆gouk◆Jane Marple◆ZT+PUNX◆Jean Paul GAULTIER◆Juliette et Justine◆SUPER LOVERS◆SEX POT ReVeNGe◆SEXY DYNAMITE◆SEXY DYNAMITE CHOICE◆SEXY DYNAMITE LONDON◆CHOCO CHIP COOKIE◆T.KUNITOMO◆DEORART◆DelilaH◆Dangerous nude◆no future◆Heart.E◆BANANA FISH◆HIDE ROCK◆HYSTERIC GLAMOUR◆PEACE NOW◆BLACK PEACE NOW◆BLACK PEACE NOW(FOR MEN)◆PUTUMAYO◆HELL CAT PUNKS◆BABY、THE STARS SHINE BRIGHT◆BABY、THE STARS SHINE BRIGHT ALICE and the PIRATES◆MARBLE◆MAD Girl◆MAD PUNKS◆MAXICIMAM(MA)◆MAM◆MIHO MATSUDA◆MILK◆MILKBOY◆Mary Magdalene◆metamorphose◆Moi-meme-Moitie◆UNION JACK◆LAPIN AGILL◆LISTEN FLAVOR◆ROMANTIC NEUROSIS◆WORLD WIDE LOVE!◆Q-pot◆MALKOMALKA◆STIGMATA◆GADGET CROW◆monomania◆JESUS DIAMANTE

冬服高価買取中!!
期間:11/21~12/20着まで
下記ブランドの冬服は通常査定から30%UP!!
◆QutieFresh◆monomania
◆Moi-meme-Moitie◆MALKOMALKA
◆alice auaa◆JESUS DIMANTE
◆Vivienne Westwood◆GADGET CROW
その他のブランドの冬服も通常よりUPにて買取させて頂きます!

ゴスロリ専門店OPEN SALE開催!
店内全品30%~50%OFF!
場所:旧ピュアサウンドアメリカ村店4F
(※詳しくはHPにて告知させて頂きます。)

メンズブランド高価買
下記の商品1点以上で全体査定金額が20%UP!!
◆BAFFALO BOBS◆NO ID.◆Justin Dav
◆DEAL DESIGN◆Roen◆VANQUISH
◆BACK BONE◆h.naoto Sixh.◆GLA
◆VICE FAIRY◆monomania◆ROYAL

■CD(邦楽・洋楽etc)■DVD(ミュージック・映画・アニメetc)■音楽雑誌■ツアーグッズ各種■FC会報■ゴスロリ服(その他V系古着)

郵送買取なら絶対ピュアサウンド!!
1枚からでも**無料!**着払いでお送り下さい。送料代金は、**当店が負担します!**

買取方法
①商品の送付
・お売り頂く商品
・身分証明書のコピー(運転免許書・保険証・パスポートのいずれか1点)
・買取依頼書
・親権者同意書(18歳未満の方のみ)
を必ず同封の上お送り下さい。

②査定
当店到着後すぐに専門スタッフが1点ずつ丁寧に査定。

③結果
査定結果をメール or 電話にてお知らせします。
査定にご納得頂けない商品はキャンセル可能です。

④お支払い
お客様からの承諾を頂き次第ご指定の口座にお振込♪
お振込の際には、査定金額より送金手数料400円を引かせて頂きます。

店頭にて持ち込みでの買取も行っております。
その場で専門スタッフが査定。即現金にてお支払い★

詳しくはこちら▶

【買取依頼書について】ピュアサウンドホームページにてプリントアウト出来ます。手書きの依頼書でも結構です。以下の点を記載した用紙を同封して下さい。[振込先の金融機関情報、氏名、住所、連絡先、メールアドレス]【親権者同意書について】18歳未満の方のみ。ピュアサウンドホームページにてプリントアウト出来ます。手書きの同意書でも結構です。「CD・DVDを売ることに同意します。」と、ご家族の方にご記入頂き、親権者氏名、本人氏名、住所、連絡先を記載した用紙を同封して下さい。
【査定後不成立の商品返送について】即日ご返送させて頂きます。その際の送料はお客様のご負担となります。ご了承下さいませ。

買取の極
■高価買取ポイント■
・今期物、人気アイテム、付属品完
良好の物。
やはり美品・完品が1番です!

■査定減額ポイント■
・シミ、汚れ、ほつれ、生地の傷み、
毛や臭いなどが付着してる物。
・アクセサリー、小物などの箱や
ティーカードなどの付属品が無

Pure Sound Amerikamura ピュアサウンド

〒542-0086
大阪市中央区西心斎橋2-10-34 サンエースビル5F
☎06-6214-2549
▲こちらの宛先まで「佐川急便着払い」にてお送り下さい!!▲

■詳しい買い取り価格などはピュアサウンドホームページへ■ http://www.puresound.co.jp 携帯版 http://psound.jp

http://www.brand-x.jp
PERESTROIKA
「HEARTZ」[TYPE:A]
「HEARTZ」[TYPE:B]
★発売中
UNDER CODE PRODUCTION
11月21日(日) AM 11:30〜
VII-Sense
「タイトル未定」
待望の新作! 12/15発売!!
5songsCD+clipDVD¥2,800
オリジナル特典など
交渉開始!
EXTRA-TERRITORIAL
2010.05.05 at SHIBUYA-AX
大好評発売中!! DVD¥4,410 大ベストセラーDVD!
本気で闘いあったロックイベントツアーDVDとして発売!
◆スペシャルオリジナル予約特典
・テリトークDVD!(LIVE会場物販特典として付けていたDVD)
・出演アーティストコンプリートアーティストカードセット7枚組
Kaya「マダムローザの娼館」
・12/22発売「-麝香-」M-CDs+DVD¥1,575
◆オリ特:コメント収録DVD!
・12/22発売「-媚薬-」M-CDs¥1,050
◆オリ特:アーティストカード
※2種同時購入者には、コメント入り直筆サイン色紙付
イベント2011年1月15日開催決定!
spive states
11/17発売【グライダー】
・[初回盤]¥1,890・[通常盤]¥1,575
オリジナル予約特典付!
・イベント12月5日開催決定!
FEST VAINQUEUR
(フェスト ヴァンクール)
「FEST VAINQUEUR」
12/8発売CD¥2,500
完全限定1,111枚!
◆オリ特付!
残り僅か!
始動
V-last.
2011/1/26発売【NEW SINGLE】
・[初回盤]¥1,890・[通常盤]¥1,575
オリジナル予約特典など
モーレツに交渉中!
rice
待望のNewアルバムリリース!
発売中「Neil」¥3,500
オリジナル特典付!
インストアイベント11/20開催決定!
詳細はWeb siteにて!
TOON-FACTORY
3か月連続リリース!
2010/12/29発売[Fiction]¥1,260
2011/1/26発売[Chloris]¥1,260
2011/2/23発売[2Logic]¥1,260
◆インストアイベント企画等考案中!
SCREW 待望のNEWアイテム発売!
☆発売中CD+DVD「DUALITY[初回盤]」¥3,675
☆発売中CD「DUALITY[通常盤]」¥3,675
インストアイベント開催決定!
オリジナル予約特典付!詳細はWeb Siteにて!
ゾロ【KIGA】
★12/1[初回限定盤]¥3,675
★12/1[通常盤]¥3,150
オリジナル予約特典等詳細は当店Web siteにて!
期待のフルアルバム
A[エース]
【夜明けのアンセム/NUDE】
★12/22発売¥1,260
オリジナル予約特典交渉中
期待のNEWバンド!
Moi dix Mois
▼12/15「D+SECT」
13songs CD¥3,360
3年ぶりとなるアルバムが発売!
凛 待望のNEWアイテムリリース決定! 凛
★発売中「Metamorphose[TYPE A]」¥2,100
◆オリ特:アーティストカードセット+コメントDVD[A]
★発売中「Metamorphose[TYPE B]」¥1,575
◆オリ特:アーティストカード+コメントDVD[B]
◆さらに2TYPE同時予約者にはサイン入ポスター付
Sadie
「Juggernaut」
▼12/15発売 CD+DVD[限定盤]¥1,800
▼12/15発売 CD[通常盤]¥1,200
3タイトル連続リリース第3弾♪
THE KIDDIE
「BRAVE NEW WORLD」
▼11/24発売 CD+VD[限定盤]¥3,200
▼11/24発売 CD[通常盤]¥3,000
待望のメジャー1stアルバム!
◆オリジナル予約特典付!
愛狂います。
東京浪漫帝國
[初回限定生産]
▼2011/1/19発売 DVD¥4,980
◆オリジナル予約特典交渉中
the GazettE 待望のNEWアイテム発売決定!
2010/12/8発売
PLEDGE(限定盤:A) CD+DVD¥1,785
PLEDGE(限定盤:B) CD+DVD¥1,785
PLEDGE(通常盤) CD¥1,260
※オリジナル予約特典考案、交渉中!
MERRY 移籍第3弾リリース決定!
★12/1発売CD+VD¥1,890
「タイトル未定[初回限定盤]」
★12/1発売CD¥1,260
「タイトル未定[通常盤]」
※オリジナル予約特典考案中!
SuG
待望の新作発売!
詳細はwebsiteにて
D
▼待望のNEWシングル!
「in the name of justice」
★初回盤A CD+DVD ¥1,890
★初回盤B CD+DVD ¥1,890
★通常盤C CD ¥1,050
オリ特付!
▼インストアイベント開催決定!
・2010年12月4日(土)
※参加方法やオリジナル予約特典の詳細はweb siteにて!
◆◆◆送料改定のお知らせ◆◆◆
送料全国一律500円⇒400円
日頃の感謝の意を込めて、従来の送料より100円値下げ致します。送料はプライスダウンさせて頂きますが、現状と同様にヤマト運輸を利用し、変わらぬ配送サービスにて、お荷物をお届け致します!
※2010年3月31日までに受注致しましたオーダーに関しましては上記の価格は適用されません。
Brand X
AYABIE
摩天楼オペラ
メジャーデビューミニアルバム!
【Abyss】12/22 DROP!
☆「完全予約受注生産盤」
CD+Tシャツ付¥4,500
※受付期間は10/24迄!
☆「通常盤CD+DVD仕様」
CD+DVD¥2,500
オリジナル予約特典付!
こちらの詳細もWebSiteにて!
現在、店内にて破格値コーナーを設置!
様々なアイテムが¥100、¥300、¥500、¥700と
4つの価格帯にて大奉仕中!
お近くにお寄りの際は是非ご覧下さい!
HERO
★2011/1/12 on sale『Life』
★「初回限定盤」CD+DVD¥3,800
★「通常盤」CD¥2,800
◆各タイプにオリジナル予約特典付!
◆インストアイベント開催決定!
・2011年2月6日(日)
・第1部PM5:00〜 ・第2部PM7:00〜(各部とも人数制限あり)
※詳細は当店Web siteにて!
OZ
[Rouge] NOW ON SALE!!
CDVD3,990yen CD3,150yen
[BEST] 12/1 ON SALE!!
CD2,800yen
◆各アイテムにオリ特付!
◆インストアイベント開催決定!
12月18日PM6:00〜 PM7:30〜
少女-ロリヰタ-23区
▼WHITE BLADE.[初回盤A]
12/22発売 ¥1,680
▼WHITE BLADE.[通常盤B]
12/22発売 ¥1,470
▼WHITE BLADE.[通常盤C]
12/22発売 ¥1,470
※オリジナル予約特典や、様々な企画を考案中!
アンド
【ニューシングル2種の同時発売が早くも決定♪】
▼BLINDNESS[A-TYPE]
12/29発売 ¥1,890
▼BLINDNESS[B-TYPE]
12/29発売 ¥1,575
※オリジナル予約特典等、考案中!
R指定
【波瀾万丈、椿唄】
★12/8発売[初回限定盤 鶴type]¥2,100
★12/8発売[通常盤 亀type]¥1,575
※各タイプにオリジナル予約特典付!
※インストアイベント開催決定!
2010年12月11日(土)
・亀の部PM5:30「トークライブ&握手会!」
・鶴の部PM7:00「プチトーク&ゲーム&撮影会」
(豪華景品あり)
己龍
【屡流[3 TYPE]リリース】
★【初回限定A】CD+DVD¥1,890
★【初回限定B】CD+DVD¥1,890
★【通常盤】CD¥1,575
◆オリジナル予約特典付!
◆インストアイベント開催決定!
・11月28日(日)開催!
※詳細はWeb siteにて!
PICK UP ITEM
遂にメジャーデビュー!
2011年1/19発売!
通信販売をご希望の方へ
通信販売をご利用の際は必ずお読みください!!
当店の通信販売は①代金引換(着払い)と②先にご送金して頂く方法の2通りがございます。下記の注文方法をご覧の上、どちらかをお選びください!また、どちらの方法でも「クロネコヤマトの宅急便」によるお届けになります。一度お受けしました商品のキャンセルは固くお断りしております。
①代金引換(着払い)とにかく早く商品がほしい人!!
TEL・FAXまたは、葉書にて希望の商品・あなたの住所・氏名・電話番号をお知らせ下されれば、すぐに商品をお送り致します。(FAX/ハガキの場合は第2希望まで明記してください。)※予約の場合は、商品が入荷次第ご発送致します。
商品到着時に商品代金+送料(全国どこでも¥700)を配達員にお支払い下さい。商品の到着は、ご注文から1日〜2日です。※予約の商品は当店に入荷してから1日〜2日でお届け致します。
②先にご送金して頂く方法 なるべく安くほしい人!!
TELにて在庫の確認をして下さい。そして先に送金することをお申し付け下さい。
※予約の場合は入金確認後の受付になりますので発売日前までにこちらに到着するようにご送金下さい。
現金書留・郵便為替
商品名、数量を明記の上、商品代金+送料(¥400)をお送り下さい。
※予約の場合も同じです。
郵便振替
商品名を通信欄に明記の上、商品代金+送料(¥400)を下記の口座にお振り込み下さい。
※予約の場合も同じです。
口座名:(株)ブランドエックス
口座番号:00130-9-147670
※振込手数料は、お客様のご負担となります。ご注意下さい。
銀行振込(webshopご利用の方のみ)
当方から送信される受注確認メールをご確認の上、下記口座に指定金額をお振り込み下さい。
銀行名:イーバンク銀行 タンゴ支店
口座種別:普通
口座番号:7009021
口座名:(株)ブランドエックス
※振込手数料は、お客様のご負担となります。ご注意下さい。
入金確認後、1日〜2日で商品をお届け致します。
※予約の場合は、商品が当店に入荷後、1日〜2日でお届け致します。
※自主盤制作の音源持ち込み大募集!!
※委託販売、承ります。
詳しくは一度お電話にてご連絡下さい!!
Brand X webshop
ンドエックス
://www.brand-x.jp
〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-2-5 池袋サンシャインプラザB1F
TEL. 03-3980-6780 am11:30-pm8:30 年中無休
通信販売をご利用のお客様で来店イベントに参加ご希望の方は、必ずご予約時に当店スタッフまで「イベント参加希望」とお申し付け下さい。

蝴蝶网
hudie.com

いきなり不定期連載

台風の目からこんにちは!!

#002

〔語り部〕
長澤智典氏（ライター）
口癖は“女の肌はブルース

不定期のゲリラ的企画の“台風の目からこんにちは!!”も早くも2回目。前回に引き続き今月の語り部はライターの自称おっとぴんこと長澤智典さんです。話題はライターの大島暁美さんが中心となって盛り上がっている、DJイベントの近況からスタートします。

10月上旬からスタートしたSHOXXでお馴染みの大島暁美さんらが主催者となり、VISUAL系の楽曲ばかりを流すDJイベントを行い、かなり盛り上がったようだ。SHOXX編集長のぽっくんもDJとして参加。かなり熱狂したことをtwitter上で熱く語っていた。自分は足を運んでないので、詳細についてはわからないし、いい加減なことを書いても失礼なので、これ以上は触れないが、VISUAL系という音楽文化が誕生し、20年以上もの歳月を重ねてきたことで、ようやくこのシーンにも、DJ文化を楽しめる…いや、DJ文化を知っている子たちが出てきたことは、とても素晴らしいことだ。

確か、何年か前にも同じようなイベントをやった方がいた。その時は「ジッと聴いてる人たちが多かった」ような話を聞いた記憶がある。でも今回はぽっくんが「踊り狂った」ような感想を書いていたように、“音楽で踊る（ライヴノリをやる!?）”行為を何の違和感もなく楽しんでいたのは、なんか嬉しいことだなと思った。

これは完全に個人的なことだが、もう十数年前に、市川にあったCLUB　GIOというライヴハウスで、毎月VUSIAL系バンドを集めたオールナイト・イベントを行っていた。その頃は、いわゆるDJ文化が日本にも浸透。音楽好きたちがCLUBへ足を運び、DJの流すレコード音源に耳を傾け、踊るという遊びがブームであり、それが、当たり前の音楽的な楽しみ方として認知／認識され始めていた時代でもあった。そのときによく、バンドの演奏転換の合間にDJも行っていた。と言っても、当時はVUSIAL系音楽を流すのではなく、普通に洋楽をPLAYしていたのだが、たまにVUSIAL系の音楽をCDプレイヤーを2台並べ、流したりもしていた。当時のオーディエンスの反応は、オッ!?　と耳を傾ける程度。でも、このシーンにもDJ文化は根付くのだろうかを試そうと、1回だけVISUAL系の音楽だけを流すDJイベントをオールナイトで行った。結果は…見事に人が来なかった（笑）。たまたまGIOにライヴの打ち上げがてら足を運んできたバンドさんや、そのお客さんたちが、その場を打ち上げ会場代わりに使ってくれ、ノリで演奏も実施。あのときは、本当に助けられたものだ。

でも、当時はそれくらい、VISUAL系好きな人たちは、世の中の音楽ブームとは無縁というか、無関心な人たちが多かった。きっと今でも、VISUAL系の音楽にしか興味を持たず、そればかりを熱狂して聴いてる人たちもいるだろう。それでも、音楽を楽しむための手段として、DJ／CLUB文化があることを認識している人たちが当たり前にいることが嬉しいじゃないか。でもそれは、このシーンが一般的に認知されたということではなく、普段の生活の中、”ライヴに足を運ぶ／CLUBで踊る”という楽しみ方を、今の若い子たちが普通にわかってるということだろう。

今は、海外からも数多くのVISUAL系好きな子たちが、日本のコンサートホールやライヴハウスへ足を運んでいる時代だ。それだけ、世界中の人たちが、VISUAL系の音楽を「憧れ抱く独創的な音楽スタイル」として認識しているということ。今や、日本のVISUAL系バンドたちも、普通に海外へライヴ・ツアーを行っている（その割に国内をくまなくまわるバンドは少ないが）。海外の音楽／文化メディアも、日本発信によるVISUAL系音楽には強い興味関心を抱くのは、もちろん、音楽文化として高い評価も与えている。

でも、日本の音楽マーケットという観点から捉えたら、相変わらずマイノリティな文化である。今でこそ減っているのだろうが、ひと昔、ふた昔前は、“VISUAL系好き”というだけで奇異な目で見られたし、たいしV系を知りもしないで、“格好だけの音楽なんて下らない”という視で蔑まされていた。そういう痛い批評を下す人ほど、洋楽の物真似をし音楽に熱中していたし。今でも、そこは変わっていないと思う。

言ってしまえば、VISUAL系音楽を形作ってきたバンドたちだっ最初は洋楽を模倣した音楽から始まっているだけに、根を辿れば、他のタイルの音楽たちとも、同じルーツに辿り着く。ただ、他のスタイルとVSUAL系音楽の違いは、「洋楽をリスペクトする」という名のもと、ズと憧れの視線抱いたまま模倣し続けてきた日本語ロック系の人たちと違い、洋楽の影響を受け入れながらも、「耽美」「刹那」「泣きメロ」など、創的な音楽スタイルを極め続けていったところにある。これも、一般的音楽文化から排他的に見られていたマイナス面が、大きなプラスの作をもたらした結果と言えようか。

今や誰もが、VISUAL系という音楽文化の存在を当たり前に知昔ほどさげすまれることも減ってきた。もしかしたら、今やクラスの中VISUAL系が”熱狂する音楽の中心”になっているのかも知れなでも僕は、それを素直に称賛しようとは思わない。何故なら、VISUA系という音楽スタイルが、これだけ世界中から独創的な音楽スタイル文化として評価されているのも、日本の音楽シーンの中で排他的に扱れ、独自の進化をし続けてきた成果だと思っているからだ。言ってしまば、日本の音楽界のガラパゴス化した象徴こそが、VISUAL系の音（アニソンもそう）と言うわけだ。

このシーンも、すでに20年以上の経験や蓄積という歳月を重ねてただけに、たとえ日本の音楽シーンの中で中心的な存在になったとしも、極端な変化を及ぼすことはないだろう。それとは逆に、他の音楽スイルを演ってきた人たちが、VISUAL系音楽へ興味、関心を抱き、こシーンに寄ってくる傾向のほうが強くなっているようにも感じられる。ういう異分野バンドたちが、このシーンに感化され、どんな独創的な音を作ってくれるのかに、むしろ期待したい。もちろん今のVISUAL系を担うバンドたちやファンたちも、歴史を重ねたVISUAL系音楽の史にも目を向け、このシーンの変遷を学びながら、より独創性に磨きをけていただきたい。そういった意味でも、DJイベントを通し、このシーの温故知新を感じれるのは、とてもいい楽しい学びの場になるので、ごとながら、もっともっと数多くのVISUAL系好きな子たちに、そのさを伝えて欲しいなとも思っている。

個人的に興味があるのは、Ustreamを使っての情報発信。今やISUAL界の中でも、Ustreamを使って情報を発信している人たも増えてきた。自分も、数ヶ月ペースで、札幌のCDショップの方々と、み屋からVISUAL系に絡んだ四方山話を中継して遊んだりもしていこういう、個人発信で情報を流してゆく行動は精力的にやっていきたところ。誰か話を持ちかけてくれれば足を運ぶので、ぜひ誘っていたたい。むしろ今は、個人個人が自分の想いを、Blogやtwitterとじ感覚で、ネットを通し情報発信していけば良いと思ってる。

これもまったくの余談だが、ニコニコ動画で、VOCALOIDを使ったビジュアル系音楽を集めたら、どの程度楽曲発信する人が現れるのだろうかに興味がある。企業の方々、ぜひチャレンジしてください。こういう企画なら、喜んでお手伝いしますので。ではでは。

ARTIST'S BOX

ミュージシャンが作るページ

葵 from 彩冷えるの ヒナタぼっこ

第56回

終わりに近付くといよいよ日本は
ラーに染まります。『X'mas限定メ
なんかがご飯屋さんに並び、『X'mas
ル』というコンピレーションCDが
んに並び極めつけには、『X'masセー
う和服屋さんまであったりする。い
行事好きなこの国を僕は結構好き
のですが、さすがにやり過ぎ感も
。一番萎えるのが、12/25が終わる
る『洋から和へのセットチェンジ』。
ーキを寒い屋外で声を張上げて売っ
のお店ではX'masイルミネーション
ルにしまい、奥から門松を引っ張り
て並べてる。世界であのシーンを見
この国くらいではないでしょうか？

だかんだ文句に似た言葉たちを書き
るかもしれませんが、僕的に一年で
な時期が実はこの頃なんです。人恋
て誰かと一緒にいないと寂しくて凍
いそうな。 誰もが恋をしたくなる
季節なんじゃないかな。木枯らしに揺れるイルミネーションみたく、はらはらと揺れる心。そわそわした街。

なんで好きかって言うと制作意欲が凄く生まれるんです！　街行く人の表情がなんか他の季節より豊かと言うか。僕は人間観察が好きで喫茶店からウィンドウ越しに行き交う人を見つめその人たちの近い未来を表情から想像するのが好きなんです。『あ、この人これから大好き人に行くんだ』とかね。そこから作詞や作曲へのインスピレーションをもらってたりします。実際この時期のリリースはラブソングが多くないですか？　しかもわりとアン・ハッピーソング。それはきっと「この曲のように悲しい恋にならないように頑張ろう』みたいになれるから需要が多いのかな。

そんなこんなを考えながらパソコンが恋人な僕は制作を続ける毎日。今月は今までの人生の中で一番多く作品を作ってる気がします。僕は歌うたいなので伝えたいことは歌に込めます。その1つが今月リリースの「Surrender Love」に収録の四曲。タイトルチューンはまさに上記したアンハッピーソングではあるのだけど『自分にとって相手にとって何が本当の幸せなのか』の狭間で葛藤している最中のシチュエーションなので幸せに向かおうとしている途中という表現が近いかな。カップリング「恋文」は彩冷えるの真骨頂のジャパネスクをアプローチとして使い『大奥』のような世界観の中での叶わぬ恋を歌っています。「願い」はファンのみんなに伝えたい僕の気持ちを真っ直ぐにオブラートで隠さずに綴った歌。「youth」は僕より上の世代の方、僕より下の世代の方、そして自分自身に向けた曲。それぞれカラーがまったく違いますがどれも自信作。是非聴いてね。詳しくは本誌インタビューを読んでね。

さて今年もあと少し。ラストスパート。共に気合い入れていこうぜ。

あおい。

夢のぐるぐる大回転

第32回

ーティストがつなぐ、リレー連載☆

（ダウト）『少年時代』➡亜季（Sadie）

47都道府県どさ回り中の玲夏です。先月のViViDイヴくんからのバトンを受けて、今こうしてパソコンと睨めっこしてます。
イヴくんとは今の事務所に所属してから急激に仲良くなったんだけど、とことんストイックなイヴくんの性格に人としてもベーシストとしてもちょいちょい刺激貰っちゃってます。
とりあえず筋トレの話をしてる時の目のキラキラ感はハンパないよね笑。

そんなイヴくんからのお題は俺の少年時代について。

俺は青森育ちなんだけど、幼少期は東京で過ごしたんです。
父方の実家が青森、母方の実家が名古屋で、小さい頃は東京に住みつつも青森に遊びに行ったり名古屋に遊びに行ったり忙しない少年時代だったかな笑。

小学校の時に青森に引っ越しをして、色々とカルチャーショックを受けつつも、俺にとっては好都合な事もあったんだ。
実は俺、極度の偏食でして…野菜とか魚とか山菜とか、あと他にも訳の分からない食べ物は一切身体が受け付けないんです。だから給食もほとんど食べれない物ばかり。
東京の小学校では、学校の中で給食を作ってから給食を片付ける時間までに食べきれなくても後で自分で給食室に食器を持っていけば大丈夫だったんだ。
でも、逆に言うと「お残し厳禁！」。
だから、野菜とか先生に無理矢理食べさせられたりする訳ですよ。
でもそこは断固拒否するよね笑。
食べ終わるまで給食を片付けちゃ駄目だから、俺は昼休み、掃除の時間、5時間目、6時間目も給食と戦ってました。

そんな地獄の給食生活から抜け出し、話は青森へ。
忘れもしない、転校初日の給食メニュー「THEナポリタン」。
俺は子供ながらに「転校初日から先生に迷惑を掛けては駄目だ…」と思い、我慢して給食メニューを全て食べきった。
するとどうだろう。片付けの時間になるとみんなして平気な顔してお残しをしてるではないか。
「えー！」俺はビビった。「せっかくピーマン食べたのにー！」俺は後悔した。
そう、青森の学校では給食センターと言う場所で給食を作り、そこから県内の学校に配送される、って流れのシステム。
だから片付けの時間を守らないと回収のトラックの人に迷惑が掛かってしまうんだ。「お残し厳禁！」等とは言ってられないんだね。
そんな青森はある意味、俺を救ってくれました笑。

現在47都道府県ツアーを執行中のダウトですが、そのツアーの千秋楽として来年の1月5日に赤坂BLITZ公演が決定してます。
今回のツアーでどれだけ自分達が成長出来たか、その成果をこの赤坂BLITZで全てお見せしたいなと思ってます。
期待しててください。
さて、次にバトンを渡すのは…
ツアーで東京に来る度に連絡をしてくれる律儀なSadieの亜季さん。
ひたすら謎が多すぎる亜季さんへのお題は「日々の生活で喜びを感じる瞬間、出来事」で。

ではまた、ライヴでお逢いしましょう。

蝴蝶网 hudie.com

THE KIDDIE 佑聖

絶頂モンスターハイゲイン

第18回

やほーう!!

佑聖でいす（･。･）

アルバムも完成してあとは発売を待つのみ!!

ようやくプレッシャーから解放されたというか何というか本当にとんでもない作品が出来てしまって感無量な感じだ。

アルバムも完成したことだし、今日は「もし休みがあったらやりたいこと」について語ろうかな。

まずはお気づきの方もいると思いますが、掃除をするね。

俺の掃除はハンパないぜ!!

一度やりだすと止まらないんだよね。なんか床も磨いちゃうし、棚とかも拭いちゃうね。

やっぱりやるならとことんやらないと気が済まないし、ピカピカのほうが気持ちいいよね。

そして愛犬とのスーパーモフモフタイム!!

スーパーモフモフタイムとは、愛犬の胸のモフモフしたところに顔をうずくめてモフモフすることだよ（･。･）

一日中やってたいね。犬の匂いって癒されるんだぜ。

あとはなんかスポーツとかやりたいな!!

最近本気でやりたいなって思ってるの
チボール!!

男の子なら小学校のときは毎日やるけ
人になるとまずやる機会がないよね。

FC旅行とかでできたらいいなー★

そんな感じ!!

さて、先月の問題!!

社長にあって専務になく、秘書にあ
になく、コンピューター室にあって会
ないもの。

正解はャとかゅとかょみたいな小さい

今月の問題!!
空に必ずいる虫は？

じゃらば。

第六回　総史

少女-ロリヰタ-23区 THE コラム

コラムは今回で２度目になります。

前回コラムを書いた時はVo.として加入してからまだ間もなかった時期で、色々複雑な気持ちでしたが、こうして活動を重ねて行くにつれて徐々に皆さんとの距離が縮まっていくのを日々実感しています。

しかしまだまだ勉強&努力が必要とも感じています。
これからも精力的に活動していくのでまだ少女-ロリヰタ-23区を知らない皆さんにいつか巡り合い、一緒に楽しい時間を過ごせる事を期待しつつこれからも頑張っていきたいと思います!!

TOON-FACTORY 雫の ××まにあ半島～一人旅

しずく

第4回

みなさん、お元気ですか??
季節はもう冬ですな。
もうすぐクリスマスだ(ΦшΦ´)
いつからだろう…。
ホワイトクリスマスを見なくなったのは…。

温暖化のせいで氷とけて海が上昇しちゃってるしさ。

関東の人はもう「雪」っていう物が珍しい物になってるんじゃないかな?

自分は冬になったらスノボばっか行ってたからあまり雪に興味ないけど、最近行ってなくて、雪を見ない事が多くなり、「雪」という季節の宝物がどんだけ心を癒すか…。

最近ものすごく感じますな(ΦшΦ´)

ってかこんな事考えるなんて…。

オレも大人になってきて古くさい考えで、頑固な性格になってきているのかな…?!

そうそう、この前生まれて初めて結婚式に行って参りました。

すごい緊張したんだ…（笑）。

二次会の案内スピーチとか頼まれてたのです(ΦшΦ´)

…緊張のあまり途中で変わってもらいましたが（笑）。

そして、オレの大尊敬している方もお越しくださっていて、感動でした!!!!

やっぱ全てが原点だった人なので話す仕草、動き、ギターの弾き方、全てが輝いていました(ΦшΦ´)

結婚式ってすごい笑顔が絶えなくて、
新婦以外のみんなも幸せな気持ちにする
な時だなぁと実感しましたさ
(ΦшΦ´)

オレのワイフ(嫁)は二次元だろうなぁ…

本当今まで生きてきていろんな事をさせ
らい、人ってすごい生き物だなぁと改め
いました。

まだまだ大人になりきれない小さな人間
ど、精一杯自分なりに頑張って行こう
(ΦшΦ´)

みなさんこれからもよろしくお願いし
(ΦшΦ´)

ばいちゃこきーん(ΦшΦ´)/
結婚式でひたすら食べて飲んでの雫だっ
り（笑）

蝴蝶网 hudie.com

heidi. 第19回：コースケ『ハイジのアルプス日記』

、コースケです！

光メロウツアー真っ最中です！

たね冬が来たね！

大好き、暑くないから大好き!!

ついについに

entyfourのファイナルシーズンがレン
開始となりましたね!!

同時に海外ドラマの一つの歴史が幕を
した。

ィストが毎年アルバムを出すのと一緒
1シーズン24話、何事にも変えがたい
時間をありがとう！

会ってもうかれこれ7、8年！
の人生の一部って言っても過言ではな

シーズン１と出会った時の衝撃はこの先も忘れる事はないでしょう。

最後に俺が24に費やした時間を振り返ってみたいと思います。

シーズン１、三回
シーズン２、二回
シーズン３、二回
シーズン４、二回
シーズン５、三回
シーズン６、二回
シーズン７、二回

映画版、一回

24時間×16＝384時間

384時間だとぉ!?

プラス映画版２時間

386時間だとぉ!!!?

ファイナルシーズンは何回みるんだろうね。

ありがとうジャックバウアー

さようならジャックバウアー

それでは12月10日ツアーファイナルリキッドルームで会いましょう

ばーい！

ギルガメッシュ 第6回 ■弐■ CRAZY=CHAIN

ちは弐です。

はツアーの方も一区切りつきまして、
ナルの横浜では市川市文化会館でのラ
アルバム、海外ツアーのことがいろい
表されました！
メッシュは来年も猛ダッシュで走り続
これからも良い作品、良いライヴをつ
いきますので宜しくお願いします！

表にもありましたが海外ツアーは約2
なんですが、今回のツアーは何故かわ
いけど、本当に楽しみで仕方がないく
んですよ。

今回も実りのある良いツアーにしたいですね！

あと思い出作りに写真をいろいろと撮っていこうと思いまして、ツアーまでにはデジカメを購入しようかなと。
最初の海外ツアーのときはパリの凱旋門の前とかいろんなところでキャッ！キャッ！しながら写真を撮ってた記憶があるんだけど、それ以降あまり撮ってないなぁと思いまして。

まぁでも出来ればの話なんですがね。笑
ケータイのカメラ機能もまったくと言っていいほど活用してない男なんで。笑

現地の人達と楽しい写真を撮って皆にも見せられるように頑張ります！

そしてその前にはアルバムの発売と市川市文化会館あります！
アルバムはいつも通りカッコイイ曲達を詰め込んでいるので、本当に楽しみに待っててください！
市川市文化会館も特別なプレミアムな感じのライヴにしたいと思っているのでこちらもお楽しみに！

それじゃあ今回はこんな感じで！
次回は愁さんです！

ix Speaker's, Inc. seekの凡人水族園 第百四回

初対面の人に必ず聞かれることがある。「ピアスって痛くないんですか。」僕にとっては決まりきった挨拶の様なものなので今では顔色一つ変えず「開けるときは痛いですけどね。もう随分経つんで痛みは無いですよ」と応える。事実身体に穴を開ける。痛くない訳が無い。しかし傷口は癒える。新たな皮膚を形成し身体の一部になる。人体とは不思議なもので不必要だと思えば外へ外へと押し出そうとする。特に僕の様に彫りの浅い顔は皮膚が千切れ易い。今までに五カ所程ピアスが取れたことがある。それとて皮一枚になってから千切れるので痛みというものは無いに等しい。質問を投げかけた側はおそらく壮絶な痛みやヒストリーを聞きたいのだろう。ピアスを開ける理由は人それぞれに存在する。僕の場合はバンドをやるにあたって地味すぎる顔をどうにかせねばという安易なものだった。理由が理由なので百回聞かれ様が、千回聞かれ様があくまで軽く受け答えをしてしまう。すると僕の答えが期待通りではなかったのだろう。相手方は助平な表情を作り、話の矛先を変える。「トゲトゲの口ピアスってキッスする時どうするんですか」何故に僕は初対面の人にキッスの仕方まで教えなならんのか。全くもって失礼な話である。ピアスというものを開けているだけで下世話な詮索をされるのである。これがピアスを開けていな人に初対面で「キッスするときってどんな顔しているんですか？」と問うたならば即刻平手打ちを食わされるか、セクシャルハラスメントで訴えられているだろう。キッスとは愛し合う二人だけが共有出来るコミュニケーションツールで非常に崇高なものであり人様に開けっぴろげに披露する事や話す内容では無いのだ。最近の路傍に屯する若者やカメラ前で堂々とキッスを見せつける芸能人達はどうかしているのである。

先日の京都公演。感動のフィナーレ。高揚するステージ。僕の隣に立つMIKI師匠の横顔が余りに愛おしかったので人目憚らず其のプックリとしたほっぺたにキッスを御見舞いしてやった。MIKI師匠のほっぺたからは止めどなく鮮血が溢れ出し苦悶の表情を浮かべていた　キッスをする際口ピアスはとるべきなのだ　。

月は　辺で　Kでした。バイバイ。

蝴蝶网
hudie.com

D'espairsRay 蜘蛛巣図 マニアの覗き穴

hude.com

第99ブレイク ZERO 編

こんばんは。
ZEROです。
今年もあと僅かになってきましたね。

年始辺りからツアーが始まるまでは本当に長かった！
数ヶ月くらいのはずなのに軽く1年ちょいくらい経ってしまったんじゃないか？って思える程でした。
半年前の記憶が１年近く前の出来事だったんじゃないかって思えたり（笑）。

そしてツアーが始まってみれば、本当に色んな意味でアツくて、一体いつ夏は終わるんだ？　と、つい最近まで思っていたのですが、そんな現在はいつの間にかもう完全に冬。
俺の秋を返せ～！
って感じです。

今はツアー中で約半分を折り返した所なのですが、皆様がこれを読んでいる頃は、国際フォーラム間近かもう終わってしまっている頃だと思います。
残すは年末12月30日の横浜BLITZ!!
毎年恒例になっていますが真冬でも真夏なライヴで2010年を締めくくれ！

無期限活動休止まであと何十日と迫ってきましたが、その間何しようか？
特に今なにか思いつく事はないのですが、きっとそれなりに何かをやれればいいなと思っています。

サッカーとかブログとかゲームとか地下活動とか？　また師匠にベース教えてもらおうかな？

なにはともあれ来年の事なんてまだ分からない！　今はHUMAN-CLAD MONSTERSツアーと横浜BLITZの事で頭がいっぱいなZEROでした。

ドレミ團マコトの♪ 月刊少年マコトピア

第81回　ツアー前編終了。の巻

どうも、只今アルバム「レヱゾン」発売記念全国ワンマンツアー中でございます。先月ここでいよいよツアーが始まります的な事を書いたと思ったのに、今回はもう、前半終了しています。うーん、早い。あっという間やな。このままでは気がついたらツアー終ってるよきっと。ほんま、毎日噛み締めて、ライヴ１本１本、二度と来ない瞬間をしっかりたのしんでいきたいね。

というわけで今回のツアー、大きく前、後編に分けているのですが、前編を終え、「楽しい」ってのはもちろんですが、オーディエンスのみんなの想いがダイレクトに伝わってきてそれがとても大きな力となってどの 公演も充実しています。改めて各地のみんなとの出会いに感謝しています！

そんな前編を締めくくった公演が、特別編と銘打って行われた 10/31大阪・西九条BRAND NEWのワンマン。この公演のみ、普段のワンマンに加え、あらかじめみんなから演奏曲のリクエストを受付けて投票の多かった上位10曲を演奏するという初の試みを行いました。

ドレミ團が産まれ、育ったハコで懐かしい曲を演奏するという企画。セットリストはもちろん、ステージに立った瞬間、何とも言えない気持ちになりました。色んな意味で初心にかえる事ができ、忘れかけていたものを思い出させてくれました。とても貴重な時間でした。また、やりたいなぁ。

あ、前回書いたかもやけど、このツアー、ずっとビデオカメラを回していて、ライヴ以外にも、舞台裏や移動中なんかも回しているの ですがそのドキュメントDVDを年明けの恒例姫始メ公演で販売する事が決定しました。先日、名古屋のホテルでメンバーに寝起きどっきり的なこともやられてしまい、内容的に問題なければその辺も収録出来たら良いかなとおもってます！　後編のどこかで仕返ししたいとも考えてますのでそれも含めてお楽しみに。

それにしても、ツアーの本数がそこそこ多いので時間にすると膨大な量で、編集が大変そう…。とにかく、半分終了しましたが、過去最高に素晴らしいツアーです。後半もみんなの笑顔に会えるのを楽しみにしています！

ほな今月はこの辺で！

ヴィドールの美doll?微

第八十六体目 シュン の巻

こんにちは、シュンです。
季節も冬にかわりつつある中、何もしてないわけではないですよ、と。
9月18日に活動を休止してから新しく色々やり始めてます。
セッションなども月1本くらいのペースでやってたり。
ギタークリニックをやり始めて講師的な感じでギター教えてたり。
何より一番大きいのはダーツバーをオープンさせます。
この雑誌が発売される頃にはもうオープンしてるはず。
問題が発生してなければ（笑）。
新宿でDarts&DiningBar PLATINUM って名前でやります。
それに関してはブログで地図や住所、電話番号などのってるので参考にしてくださいませ。
ヴィドールについては１月にベスト・アルバムが出るっていうのがもう発表されてるはず。
新曲を１曲含めてって感じなのかな。
もうそれのレコーディングも終わりミックスも順調な感じ。
心情的な事を書いておくとね。
活動を休止する、と決まった時にすごく色々と考えさせられた。
これまで音楽だけでずっとやってきて。
それが止まったり終わるっていうのを
は想像する事がなかったから。
むしろ想像したくなくて、それだけで
いけるように頑張ってきたんだと思う
でも実際、活動が止まったり先の予定
らない状況で日々を過ごしていくって
はすごく怖かった。
新木場のライヴが終わってから１日、
日がすぎる度に不安を感じた。
色々と考えて、自分がたどり着いた結
まってる今だからこそきちんと将来も
いな、って事。
休止してる間とはいえ音楽以外の事を
は待っててくれるみんなには不安を感
るかもしれない。
でもこの後、ヴィドールが二度とライ
いって事は絶対にないと約束します。
それぞれのメンバーの想いがあってこ
うするのかは今ははっきりいえないけれ
活動してない間も他のメンバーはメン
それぞれ色々と考えて動いてるんだと
す。
それを応援してもらえたら嬉しいです
とりあえず俺は15日からお店始まって
うのでみんなダーツしたりご飯食べに
ださいませー。ではでは！

。言葉だけであれば一見、エロティシ
えも感じそうな甘美な響きである。『不
果実』、『失楽園』、『愛の流刑地』等、
題材にした恋愛ドラマや映画も少なく
そのスリルや背徳感が恋の炎を激化さ
合もあるのだろう。しかし、刹那的な
その先に待ち構えているものは、甘美
とは遠くかけ離れた凄惨な現実なので

本位で時折、覗いているサイトがある。
！知恵袋の法律相談版のようなもので、
に対して様々な人が意見・回答してく
イトだ。普通のQ＆Aサイトと何が違
いうと、実際に法曹界で活躍している
が投稿者の質問に対して回答してく
いう点だと言えるだろう。質問内容は
が、やはり何らかの形で訴訟を検討し
、または訴えられて困っている、とい
な質問者がほとんどである。なかなか
い相談も多くて見ているんだけど、そ

Moran Hitomiの「瞳孔反射」

第32回 『不倫は文化…ではない』

の中にこんな質問があった。
「自分は既婚者であるが、独身だと嘘をついて7年間独身女性と付き合っていた。その女性とは結婚前提の付き合いをしていて、婚約指輪も贈っていた。女性は自分との子供を望んでいたので避妊行為は一切しておらず、交際期間の間に三度の妊娠・流産を経験。しかし最近になって既婚だということがバレて、別れることになった。そしてその女性から複数回妊娠、婚約破棄、貞操権侵害等により慰謝料請求があった。自分は全面的に否認しています。むしろその女性やその女性の担当弁護士を名誉棄損で訴えたい。勝てますか？」
「不倫は文化」と言ったあの俳優もびっくりの質問内容である。勿論一般回答者たちからはフルボッコに合い、何人もの弁護士からまず難しいだろうとの回答が来ていた。しかし質問者の男性は一切自分の非を認めず、誹謗中傷は総じてスルー。挙句の果てには、勝訴するための方法に関係のないコメントは控えてくれとのたまう始末。しかしまだまだ論争は終わらない。

今度は女性の質問者が出てきたのだ。質問内容・その呆れ返るほどの意味不明なスタンス等から、どう見てもこれは先程の質問者の妻である。もしくは先程の質問者本人が別アカウントで女性のフリをして書き込みをしているだけであろう。「自分の夫が、独身だと嘘をついて…（以下略）」質問内容は男性のものと全く同じである。しかしもし、その妻が投稿しているのならば、相手の女性を訴える云々の前に、なぜそのバカな男と離婚を考えないのだろう。子供が悪いことをした時に、「うちの子に限って…」という親をよく目にするが、俺はあの手の考えが大嫌いだ。うちの子もうちの夫も、世間から見れば何等他多数の人間たちと変わらないはずなのである。妻バカもいい加減にしてほしい。

すぐに荒らされるからか、彼（彼ら？）はその後も別人のフリをして複数回同じような質問を繰り返したが、誰の目に見ても同一人物が書いているものと明らかなようで、まともに回答する者もだんだんと減り、その質問者に対する批判ばかりが激化していった。ここまでくると釣りなのかとも思ったが、もしそうでないならこの世の中にそんな非常な男がいることに驚かざるを得ない。よく騙された方が悪いなんて言うけれど、結婚という法律で認められた関係が噛んでいる場合、そんな言い逃れはできないのだ。

端的に言えば、俺も不倫には大反対だ。人を好きになることは、理性で止められることではないのも理解できる。しかし、それを行動に移すかどうかは別の話である。結婚というのは当事者同士の問題ではなく、愛の誓いと同時に多くの責任を背負っていることになる。最近でも浮気が報じられた某野球選手が「なんで俺だけ悪者みたいになってんだ」とツイッターで呟き話題になっていたが、不倫は当事者だけの問題ではなく、両者の親、親戚、何より子供にも影響が出る。妻の代わり、夫の代わりはいても、父や母の代わりはいない。何人たりとも、子供から親を奪う権利等持ち合わせていないのだ。

しかしまぁ、不倫はなくならないだろう。むしろ自由恋愛が謳われる現代、不倫は増えていっているのかもしれない。そして、その過ちを犯すのは間違いなく男の方が多い。それはなぜか。男は下半身でモノを考える生き物だとかいう悲しい一般論はここでは置いておこう。俺が考える理由とは、男は身の程知らずな生き物であるからということだ。そもそも夫婦の多くの場合は旦那の方が年上である。「若い奥さんをもらって俺って超ハッピー！」というところで大人しく満足していればいいものの、ある種の男はそこに留まらない。自分が年を重ねると共に奥さんも年を重ね、そのバランスは延々と釣り合いがとれたまま進んでいっているはずなのに、その男は年老いてしまった自分の真価に気づかない。薄毛になろうが、肥満になろうが、以前と変わらず若くて可愛い女性が好きなままなのだ。よく考えてみよう。17、8歳の頃、うんと年上の大人のお姉さんに憧れることはあっても、3つも4つも年下のあどけない少女に恋をすることができただろうか。逆に40代になった自分が、10歳以上年上の熟女に恋い焦がれる姿を想像できるだろうか。かなり極端な例になってしまうが、男とはそういうものなのである。きっと本能的、いやもっと根本的な生物学上の問題なのかもしれない。そこで理性や愛情が、浅はかな本能に負けてしまう愚かな男が女性を傷つけるのだろう。何事もバランスが大切である。

そういえば以前「不倫は文化だ」等との賜った某トレンディ俳優は、3度目の結婚を前にして不倫を「文化遺産として封印する」ことを発表したらしい。その文化遺産が再発掘されないことを願うばかりである。

不倫をしている女性の皆様、自分が傷つく前に、誰かを傷つける前にもう一度よく考え直してもらいたい。

不倫をしている男性の皆様、とりあえず鏡に向かって真の自分と向き合ってみてほしい。若くてエネルギッシュなのは下半身だけではないだろうか。

究極のエロスとは愛故に形成されるものである。

SHOCK WAVE アポロ Vol.45
2010年12月18日（木）高田馬場AREA
★★★★★★★★★★★★★★★出演★★★★★★★★★★★★★★★★★
TOON-FACTORY/ヴィデオグラマァ/我羈道/
nnie's Black/ m'aidez Dei/ SCAPEGOAT/Vellga
毎月18日は、本誌イベント『SHOCK WAVE アポロ』の日♪
毎回、多彩な顔ぶれのバンドが競演！　12月のアポロもお見逃し無く♪

チケットは
賛発売中♪
詳細は、

音楽専科社 HP
[http://www.ongakusenkasha.co.jp/]
携帯サイト：音楽せんか？
[http://mobile.ongakusenkasha.com/]

（問）高田馬場AREA ☎03-3361-1069

蝴蝶网
hudie.com

うしろの正面

—ただしづら—

第137回
by 長谷川 正
/Plastic Tree

皆さまこんちくわ。ああっ…楽しかった「月世界旅行（国内編）」が終わってしまった!! いつもの事ですが、ツアー後の脱け殻感には自分でもビックリします（笑）。とはいえ、これから始まるアジア編に向けて気持ちを引き締め直さねば…と思う所存でございます。今回は体調・お天気等々、何かと恵まれたツアーではありましたが…東京2日目のほぼ終盤において相棒「白雪さん」の調子が悪くなってしまった! うぅ…一緒に順調な旅を続けて来たのに（涙）。何とか応急処置で事なきは得たので安心はしましたが、やはり人と同じで蓄積された疲れが出てしまったのでしょうか…。台湾・香港でも一緒にプラの音楽を奏でてもらう予定なので、メンテナンスしてしばし体を休めてもらいましょう。さて…唐突ですが今ツアーのセットリストの話でも（笑）。「月世界旅行」というだけに、月がモチーフとなっている楽曲を中心に集めてみましたが…意外とプラには多いんすね（笑）。ライヴ中に竜太朗氏が語っていたように、「不変なものの象徴」…という部分が、プラとして目指している理想と無意識に結び付いてるのかもしれません。とはいえ、その時々の心情によって安らいだり寂しくなったり…と、違った印象に変わるところも月の不思議な魅力です。そういった部分も自分たちの音楽とシンクロするのかなあ…と思ったりします。何はともあれ、「月世界旅行」が参加してくれた皆さんの心に残るツアーになってくれたのであれば幸いです。今月は並行して制作作業も続ける予定なので、こちらも良いものになるよう頑張りたいと思います…楽しみにしていて下さい！という事で今月は冬の気配漂うマリモーランドよりお届けしました…それではさよーなり――！

さんきゅー！月世界!!
（撮影：佐藤ケンケン）

麺は固め!!

第150回　by 竹入隆行

ツアーが続く中、来年のスケジュール等をとっくに考えてい
11月やという事もわかっているつもりやのに、クリスマスっぽ
もんをみかけたらドキッとした今日この頃です（笑）。

実は、今タケバン、台湾にいます。
インターネット社会になり、ホームページやら、音楽配信、日
に限らず世界配信やと聞かされてはいたものの、全く実感はなか
たんですけど（笑）…ほんまに時代は変わったもんですね。
かなり普通です（笑）、ライヴに呼んで頂いた経緯も、来た感じも
海外！というと大変なイメージがあったのはほんまにひと昔前
話しなんやな、不思議ですね…。
初めての街に来て、現地の人、現地にお住まいの日本人。いろ
ろ話しさせていただきました。
カルチャーショックと感心…。とてもしましたが、実はこれ
日本各地でも感じさせて頂いている事。
同じですね（笑）。
とにかく、浮かれず、気負わず、萎縮せずに。
ライヴをやってきます。
詳しい感想はブログで！

押忍！

通好みの集う店
Flower Record
の広告
tel 03-5380-3505
fax 042-563-7793
mail:apples@flower-record.com

「船をぶつけられても及び腰、円高傾向対処にも及び腰!!何にもできずに時が過ぎ、菅さんお役目御苦労さん。この上仕分がポーズに終われば、政権交代何のため?私たちの望むものは...!?やはり、システム自体の変革であり、族議員と腐敗官僚どもを根こそぎ絶やすことにあり!!!!
そして、更に、FLOWER RECORDの営業は続きます。」

FLOWER RECORD
164-0001　東京都中野区中野5-59-1
興産ビル305
tel 03-5380-3505 fax 042-563-7793
Email:apples@flower-record.com
URL:http://www.flower-record.com

木曜定休
11:30〜21:00
出張買取で20:00
に閉める場合も有

東京近郊の配布物・会場限定物取得代行
地方の方でも、配布・会場限定CD,デモ、ビデオ、DVD等が、リーズナブルな値段で手に入ります。
お気軽にお申し付けください。

リサーチ お探しのアイテムをお申し付けください。Wants List 大歓迎。在庫の無いものも、入荷次第、お知らせいたします。

通信販売 全国どこへでもお届けします。TEL,ハガキ、封書、FAX,E-メールにてお問い合わせください。在庫確認後、代引、口座振込、現金書留にてお承ります。

ホームページ まだ未完成ながら、広告誌
記載できない量の在庫・入荷
買取等の情報が見られます

今月の貴重盤
【ガゼット】デモ音源　2006.6.19（プロモCDR）,リグレット（プロモCD）,NIL（プロモCD）【カリガリ】洗脳（デモ）、第3実験室（CD）、再教育（ビデオ）、ラロイクドザビ（ビデ
アティマ】ダウナー（CD,現モラン！）【JUKA】ラグジュアリアス（CD＋コメントDVD）【kain】配布DVD各種【KAYA】グリッター（CD）,アナザーセル（CD）【リンチ】アンダー
ス..（CD）【摩天楼オペラ】アノミー（配布CD）,アルカロイドショーケイス（CD）【ムック】哀歌、愁歌（デモ各種）【シド】吉開学　17歳（無職）（2ndプレスMD）【SHUN（俊介
プロジェクト（デモ,JILS以前の録音！ディルのメンバー参加！超レア！！）【スラットバンクス】死霊のロックンロール（ビデオ）,Tーシャツ【V. A】喧嘩上等（ビデオ,ガゼット

今月の貴重盤：クラシックス
【アマデウス】デモ、ビデオ【アフターイメージ】廃人の詩（デモ）【ブラムハニー】インダストリアルジェンダーユニット（限定ビデオ）【バクチク】ハリアップモード（自主CD）【
ルギー】FC限定ビデオ、再結成DVD【デッドポップスターズ】テイクオフ他（配布CD各種）、アウト（配布ビデオ）【デイルアングレイ】BLITZ5デイズ（5DVD）【デザイア】D＝S
ヴァージョンデモ）,サイン入りポスター【HIDE】ハイドヨアフェイス（Tーシャツ）【ジャンヌダルク】レジスト（デモ,未開封）【ジョリーピックルス】ミッドナイトオブマッドネス（C
ン】はじまり（ビデオ,デッドマンの前身！）【ラルクアンシエル】配布ビデオ,ゾンビーズのビデオ【ピアス】猟奇絞殺窒息死（CD）【マギーメイ】トリプル..（デモ,TAKUI）【マ
レイル】配布CDS各種【マリスミゼル】'95パンフ【松川敏也（ラン）】バーニング（CD,稲葉浩志！！）【メリーゴランド】チックタック（配布CD）【メガ8ボール】プロモビデオ（
ス、ジグゾー）【ロンメル】デモ各種（ex.エックス、東京ヤンキーズ）【ローゼンフェルド】ビッグス...インザ・ガーデン（CD2種）【スケアクロウ】立春（CD）【エックス】限定ワイ
ス【ジキル】スペシャルビデオコンサート（プロモオンリービデオ,未発売映像！45分）【V. A】ニュークリアフュージョン..（配布CDS,ルナシー、ジルドレイ）【V. A】ロック天
D.ディルアングレイの京の昔のバンド「月蝕」収録！激レア！！）

ヴィジュアル系アイテム、高価買取させていただきます

中古CD,DVD,デモテープ,ビデオ,レコード,アーティストグッズ,本その他80年代から現在まで
*特に、業界もの、配布もの、会場限定もの、限定枚数の少ないもの、発禁もの、前身バンドのものは、大歓迎の特別査定!!!! その他、カヴァーポップス、
本のロック・フォーク、日本のジャズ、ニューミュージック、歌謡曲、J-ポップ、J-ロック、日本パンク全般（初期パンク、ハードコア、Oi／スキンズ、ネオモ
ロコア、スカコア、クラストコア他）、日本のネオロカ・サイコビリー、日本のヘヴィーメタル、サントラ...etc.ロック中心に洋楽も大歓迎!!

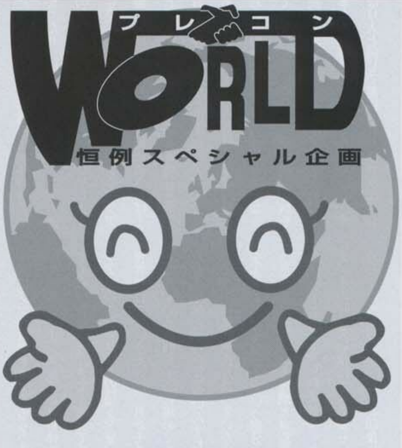
買取り強化月間継続!! あなたの聴かなくなった貴重盤・他をお売りください。プレス枚数が500枚以下のものは、特別査定!!TEL、ハガキ、封書、FAX、Eーメールにての大まかな査定もOK！送金は、口座振込み、現金書留にて！

宅配便買取 郵便・宅配便にて、ドシドシ送ってください。1枚からでもOKです！もし、CDアルバム20枚以上、もしくは、当店の高価買取例のアイテムが含まれる場合は、送料着払いOKです。なるたけ早めの査定後、連絡させていただきます。

出張買取 東京近郊（神奈川、埼玉
山梨 etc.）のまとまった
貴重盤放出の場合は、
無料でお伺いいたしま
軽にお問い合わせくだ

今月の万単位買取例　＊本気です
【Xジャパン】'85ライヴデモ,配布デモ、配布ビデオ2種,X現る（ビデオ）,直筆サインもの,スタッフオンリーグッズ,インディーズ時代のもの大歓迎！！【SUGIZO】プリリア
ズ【デランジェ】キッズブルー（プレゼントビデオ）,デモ各種,FC限定DVD,プロモ【ジャンヌダルク】1stデモ、配布ビデオ【シド】吉開学（初回MD）【シュラ】DE [illegible]（ビデオ
イア】プロモビデオ【YUKIYA】ソロデモ【黒夢】サス4・ダブルベッド、ガーネットのデモ【ラルクアンシエル】4thアヴェニュー、前身バンドのデモ【ラピュータ】サディストの
デモ）,パラドキシカル（ビデオ）【ルナシー】デモ各種【マリスミゼル・摩天楼・キャインスフィール】デモ各種,ビデコン用ビデオ【マインカンプ】スピーダー（緑ジャケ7"）【
ーランド】毒・夢・月…（デモ）【シャムシェイド】配布CDS

今月の高価買取例
【BE≒LUNA】音源すべて【カリガリ】第5実験室（CD）,第2実験室（6曲入りデモ）,極秘（FC限定CDS）,デモ【フロート】蒼の休日【C4】ライブDVD2種【D】アリス【ガゼッ
道、午前0時、14歳、泥だらけ【リンチ】グリーディ..（CD）【デスゲイズ】29403、ダウナー、配布、会場CD各種【ベリー】白痴、ブラッドプール（CD）【デルヒ（DELUHI）】サ
ンス【デュエルジュエル】ノア、ラビダリー【イクジットトレイス】レアもの【アンミュレ】レアもの【ジェツジ[illegible]ノン】ミルクミックス他レアもの【犬神サーカス団】デモ,御霊
【Mix Speaker's,Inc.】シンデレラ（会場CD）【メトロノーム】ヤプー..（CD）【陰陽座】前身バンド「空想科[illegible]【PABLO HONEY】彩色
レット【ルドルフシュタイナー】デモ2種【SECIR】妄想と夢、Feather、twilight
【アイオン】デモ、BOOTLEG7,8（ビデオ）,ヒストリー（プレゼントビデオ）,イースター（CD）【アフタ[illegible]ージ】[illegible]
レスCD）【バクチク】FC限定DVD,トゥーサーチ（プレゼントCD）【グニュツール】パンフ、配布もの【ディ[illegible]ライヴビデ[illegible]
（ビデオ＋本）【ガーゴイル】クレイジーサディズム（デモ）,フューチャー..（完全版）【ルイマリー】デモ【IN[illegible]AN】アナザー[illegible]
【黒夢】アンダー（配布ビデオ）【ラレーヌ】1stデモ【マリスミゼル・ガクト】'95パンフ,会報初期号、サインもの各種【メリーゴーランド】...イズデッド（CD）【MORRIE】薔薇
る（CDS）【マディスグレイル】グッズ他【リボン】特典CD【ソフトバレエ】　限定写真集【スケアクロウ】[illegible]
モ【ヴァイラス】異民族（デモ）【ヴァサラ】ジェノサイド,覇者凱旋　他（デモ）、アローン【エックスジャパン】[illegible]
D.3rdプレス）【ZEED】ビデオ【ジキル】ホールド..（ビデオ）【V. A】GIV創刊準備号（ビデオ）　*、80年代ジャパニーズメタル・ハードコアパンクのデモテープ大歓迎！



★今月も、編集作業に追われ、右へ左へバタバタとしているSHOXX編集部。文字の見過ぎで目が痛いぺろちゃんです。今年も残りわずか。何かやり残した事はないか…。あ！　あった！　今の家に引っ越してから約2年…。今年こそは片付けようと心に決めていた段ボールの中身の整理をまだいていない…開かずの段ボール(笑)。てか、何が入っているのかすら忘れちゃった！(笑)。今年中に片付けられるのか、私。と、言う事で、今月の画伯さんはPlastic Treeの佐藤 ケンケンさんです★　ケーキ食べたい！

1 the GazettE

フォトを3名様に

2 ViViD

サイン入りフォトを1名様に(誰のが欲しいか書いてネ)
※現物にはサインが入ります

3 Plastic Tree

サイン入りパスを1名様に

AYABIE

イン入りフォトを4名様に(誰のが欲しい　書いてネ)
現物にはサインが入ります

THE KIDDIE

イン入りフォトを1名様に
現物にはサインが入ります

hudie.com

⑩ HERO

サイン入りフォトを４名様に（誰のが欲しいか書いてネ）
※現物にはサインが入ります

⑧ 人格ラヂオ

エコバックを3名様に

⑥ ヴィドール

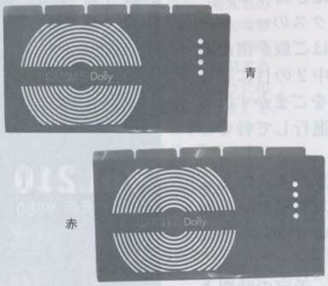
サイン入りフォトを1名様に
※現物にはサインが入ります

⑪ Administorator

サイン入りポスターを３名様に

⑨ Dolly

サイン入りクリアケースを赤と青をセットで3名様に

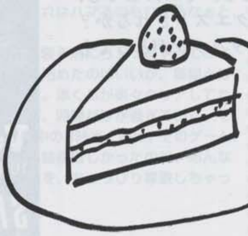


青

赤

⑦ TOON-FACTORY

サイン入りフォトを５名様に（誰のが欲しいか書いて
※現物にはサインが入ります



イラスト：佐藤 ケンケン（Plastic Tree）

プレコンWORLDアンケート用紙 VOL.215

住所	〒	TEL（　　）			
氏名	フリガナ	年齢		男・女	

★A. よかった記事の番号を良かった順に３つあげてください。

1	2	3	理由

★B. 好きなアーティスト・バンドは？
（　　　　）（　　　　）（　　　　）

★C. 最近気になっているアーティスト・バンドは？
（　　　　）（　　　　）（　　　　）

★D. 今月号に対する意見・不満・または希望企画を聞かせて下さい。

★E. 希望プレゼントの番号（P140～141）　　番

アンケートのお願い

●アンケートに答えて、用紙を切り取り、はがきに貼って送ってね。コピー不
●宛先は〒104-8228　銀座６－２－３　Ｄａｉｗａ銀座アネックス５
音楽専科社　SHOXX 編集部　プレコン WORLD 係まで。
●締め切り：2010年12月21日当日消印有効
当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

◆今月の記事一覧（アンケート）

①the GazettE ②シド ③Over The Edge ④ナイトメア ⑤ムック ⑥ViViD（book in
⑦Plastic Tree ⑧Alice Nine ⑨AYABIE ⑩THE KIDDIE ⑪Lc5 ⑫kanon×
⑬葵from彩冷える ⑭D ⑮Kra ⑯イガグリ千葉 ⑰Sadie ⑱シュン&テロ（ヴィドール）
ルガメッシュ ⑳ゾロ ㉑少 ロリヰタ-23区 ㉒DaizyStripper ㉓TOON-FACTORY
states ㉕人格ラヂオ ㉖D ㉗ケミカ ㉙PERESTROIKA
㉛SHOCK WAVEア ㉜【 la】 ㉞ ㉟R指定 ㊱Admin
㊲SCAPEGOAT ㊳An s Black RED universe ㊵jeaiko HERO
㊸BALLY ㊹摩天楼オペ ㊺早耳情報 ㊻アーティストBOX ㊼ロックンロー
㊽Mission in ぼっくん

蝴蝶网
hudie.com

Vol.216予告

くんの主張:ケータリングは火を通したものをの巻)

月21日全国一斉発売!

某所にてthe GazettE巻頭撮影。今回も超タイトなスケジュー
中での取材。撮影当日は鹿児島から東京への移動日。メンバー
田空港から撮影スタジオに直行。スタジオには東京にいる間
ンバーを捕まえようと色んな人が5人を待ち構えていた。撮
も合間をみてスタッフと打ち合わせをするメンバー。息つく
ないよね。今年も走り続けた5人。まだ、大きな仕事が年末
っている。東京ドームに立つ5人の姿を見つめながら、その時、
くんは一体何を想う。
の雨が降る或る日。今年のOver The EdgeとSHOXXのコラ
画の撮影の為に都内某所に大物ミュージシャンが集結。この
企画にはかなりの確率で召集される達瑯。今回の企画にも、
の迷いもなく彼をリクエストしたぽっくん。取材現場に一番
した達瑯。到着するなりSHOXXが用意した乾き物(ポテチ
せんべいのこと)を横目で確認する。「ショックスのー、ケー
ングはーこれかぁ〜。この前の雑誌の取材ではご飯が出たの
ー」と達瑯。ほら、ほら〜ぁ、登場するなり中2の目になっ
よー。「まあ、まあ、まあ」と半笑いでその場をごまかすぽっ
。そして…この日の現場は終始彼のペースで進行して行くの
りました。
、万作、玲央そして達瑯とシーンを牽引してきた4人による
のフォトセッション。4様の強力な個性による異種寄せ合わ
ーム。なのに付録のポスターにもなった集合カット、やけに
ってる。なんでだろう。不思議。
&インタビューは驚くほどスムーズに進行し、予定の時間よ
分巻いて終了。相変わらず土砂降りの雨の中、4人は別々の
に向かって足早に出かけて行きましたとさ。それにしても、
達瑯が対談企画のメンバーに頻繁にリクエストされるか?
くんはその理由を知っている。それは…タッツンがとっても
こいから....。たぶん、そうだと思う。

表紙&巻頭特集は
X Vol.216

ViD

XX表紙デビュー!!。
しいロックスターの誕生です。期待してくださいね。

ックナンバーを希望の方は、定価に送料(1冊=¥140、2冊=¥220、3冊以上は全て¥450)を加えて、
たは小為替で、〒104-8228 東京都中央区銀座6-2-3 Daiwa銀座アネックスビル5F音楽専科社経理
XXバックナンバーVol.○」(○の中に号数を入れる)係まで申し込んで下さい(ただし、付録ポスター
い場合もあります。ご了承ください)。
くの書店でVol.216(12月21日発売)を買いそびれないようにするには、書店へ予約しておくと便利です。

バック・ナンバーのご案内

Vol.208
10年6月号 ¥980

■西川貴教×YOMI(ナイトメア)巻頭&表紙18ページ特集■the GazettE■有村竜太朗■heidi.■Sadie■THE KIDDIE■一志(Kagrra,)■Kra■ヴィドール■ギルガメッシュ■ゾロ■SCREW■ドレミ團■ViViD■TOON-FACTORY■boogieman■人格ラヂオ

Vol.203
10年1月号 ¥980

■アンティック-珈琲店-巻頭&表紙18ページ大特集■un SCAR NERVE 夢のセッションバンド撮り下ろし特集■柩×Ni〜ya(ナイトメア)■ムック■仙台貨物■Alice Nine■シド■靖乃(Kra)■ヴィドール■ASAGI(D)■KAMIJO(Versailles)■lynch.■ドレミ團

Vol.209
10年7月号 ¥980

■彩冷える巻頭&表紙14ページ特集■ナイトメア■ムック■シド■有村竜太朗■Plastic Tree■LM.C■Alice Nine■Kagrra,■heidi.■ジュイ■D'espairsRay■D■Versailles■SCREW■零乃×怜我(ViViD)■seek

Vol.204
10年2月号 ¥980

■ナイトメア巻頭&表紙20ページ特集■Plastic Treeアルバム『ドナドナ』完成■D'espairsRay■ムック■D■景夕(Kra)■ヴィドール■ギルガメッシュ■Sadie■Wizard■heidi.■陰陽座■THE KIDDIE■メガマソ■人格ラヂオ■宇宙戦隊NOIZ■KISAKI

Vol.210
10年8月号 ¥980

■ナイトメア巻頭&表紙20ページ特集■TRIBAL ARIVALL Vol.100レポート■Kagrra,■Kra■Lc5■THE KIDDIE■SuG■長谷川正×コースケ■Over the Edge@OSAKA■12012■boogieman■Mix Speakear's,Inc.■マコト×ユウ■ViViD

Vol.205
10年3月号 ¥980

■カラス巻頭&表紙20ページ特集■YOMI(ナイトメア)■The LEGENDARY SIX NINE■彩冷える■アンティック-珈琲店-■ミヤ(ムック)■Plastic Tree■LM.C■Alice Nine■ヴィドール■12012■ギルガメッシュ■SuG■Versailles■D■D'espairsRay

Vol.211
10年9月号 ¥980

■the GazettE巻頭&表紙20ページ特集■YOMI×RUKA(ナイトメア)対談■シン(ViViD)■Plastic Tree■ムック■LM.C■Kra■D■Versailles■マコト(ドレミ團)■Sadie■ゾロ■ギルガメッシュ■DELUHI■Fatima■BugLug

Vol.206
10年4月号 ¥980

■Alice Nine巻頭&表紙12ページ特集■LM.C■The LEGENDARY SIX NINE■ナイトメア■シド■彩冷える■D■ヴィドール■12012■SuG■メガマソ■ドレミ團■ギルガメッシュ■Sadie■THE KIDDIE■ViViD■ゾロ■DuelJewel■HERO■boogieman

Vol.214
月号 ¥980

■SuG巻頭&表紙16ページ特集■LM.C8ページ Book in Book封入!!■ナイトメア■Alice Nine■イガグリ千葉(仙台貨物)■Kagrra,■Lc5■THE KIDDIE■ヴィドール■Sadie■ViViD■Kanon×Kanon■BREAKERZ■jealkb■D'espairsRay

Vol.213
10年11月号 ¥1250

■創刊20周年特別号■the GazettE巻頭&表紙18ページ特集■ムック8ページブックinブック封入■シド■ナイトメア■Alice Nine■Plastic Tree■Kagrra,■Versailles■LM.C■SuG■ViViD■heidi.■ギルガメッシュ■THE KIDDIE

Vol.212
10年10月号 ¥980

■Alice Nine巻頭&表紙14ページ特集■the GazettE■シド■柩&咲人(ナイトメア)■Kagrra,■Lc5■葵 from 彩冷える■LM.C■ヴィドール■SuG■THE KIDDIE■ViViD■ギルガメッシュ■少女-ロリヰタ-23区■heidi.

Vol.207
10年5月号 ¥980

■ナイトメア巻頭&表紙20ページ特集■The LEGENDARY SIX NINE■EXTRA-TERRITORIAL対談■カノン(アンティック-珈琲店-)■Plastic Tree■ムック■D■D'espairsRay■Versailles■Kagrra,■MIX Speaker's,Inc.■ドレミ團■ギルガメッシュ

shudie.com

大島暁美のロックンロール日記

イラスト：AKEMI OHSHI

オーロラ三人娘
参上！

http://ameblo.jp/vijulove

×月×日

Viju☆Love☆Night#002が、一回目と同じく渋谷SECOで開催されたよ！　前回の倍以上のお客さんが来てくれて、しかもリピーターがとても多かったのが、すごく嬉しい。1回目は「ヴィジュアル系のクラブ・イベントって、何？」と思っていらした方々も、特設blog（http://ameblo.jp/vijulovex）にアップした前回の全プレイ・リストを見て、「これなら、楽しめそう♪」と思って来てくださったみたい。みんな、ありがとう！　今回のDJラインナップは、以下の通り。

☆オオハラミカコ/ヴィジュアル業界では超有名なスタイリストさん。お仕事したバンドの曲を中心にかけてくれたんだけど、そのラインナップがLUNA SEA、SIAM SHADE、La'cryma Christi、カリガリ、Waive等々と、超豪華！　そして、その中になぜかSMAPの「Dynamite」が、まぎれこんでた。ミカコ嬢いわく「SMAPは、ヴィジュアル系です！」（笑）。前日の夜には、杉本善徳くんから「ミンナノウタ再録を世界初オンエアします？」というメールとできたてホヤホヤの白盤が届いたそうで、Viju☆Love☆Nightの会場で世界初お披露目となったよ♪

☆sarino+えみる（愛狂います。）ユニット/前回、それぞれDJとして出演し、意気投合してDJユニットを組んだ2人。本誌編集長ポックンがユニット名を考えてくれるはずだったのだが、入稿真っ最中のバタバタで当日まで決まらず。結局、本番中の楽屋でがんがんヴィジュアル系の曲が流れる中、ポックンのひらめきで「オーロラ三人娘」に、決定！　二人なのに、男の子なのに、なんでこの名前なのか。由来は謎だけど、その場にいた全員一致でこの名前になった。これからは、2人のことを「オーロラちゃん」と呼んであげてね（笑）。

☆DJ POCKOON/一回目に引き続き、今回も素敵な選曲と独特（？）のパフォーマンスで会場を盛り上げてくれたポックン。上にも書いたけど、ちょうどViju☆Love☆Nightの日は本誌（今、まさにあなたが手にとっているこの雑誌）の入稿佳境な時で、前日もほとんど寝てなかったとか。なのに、テーマソングを作ったり、いろいろと準備をしてくれた。ポックンの雄叫び、最高です！

☆vivi☆（DragonWAPPPPPPER）/今回初参加の新鋭DJのvivi☆くん。DragonWAPPPPPPERは11月3日にニュー・アルバム「ACT」をリリースしたばかりなので、インストア・イベントを終えてfumiyoshiくんと一緒に駆けつけてくれた。途中で曲が止まってトークになったり、ユニークなDJタイムだったよ。新曲「force」の映像も持ってきてくれて、初々しいDJタイムだった。

☆燿（摩天楼オペラ）/最初は「クラブって、何ですか？」といってた燿くん。「何すれば、いいんですか？」に始まり、「どんな曲をかけたらいいんですか？」「何を着てけば、いいんでしょう？」と毎日のように質問攻めだったけど（笑）、SUPER LOVERS×SHUSEコラボのピンクのパーカーに猫耳、派手なサングラスというDJスタイルで、会場を盛り上げてくれた。3日前のファンクラブ発足イベントで初公開された「もう一人の花嫁」のPVも一般初公開してくれて、普段のステージで見せる燿くんとは違う一面を見せてくれたよ。

☆Akemi Oshima（わたくしでございます）/いろいろとトラブルがあったのであちこち走り回ったり、みなさまと一緒に踊ったり咲いたりジャンプしたり、大忙しだったけど、楽しかったよ。今回も2パートDJしたので、それぞれハード目コレクション、四つ打ちコレクションと分けて、さりげにAYABIEやAlice Nineの発売前の音源を流したりしちゃった♪　遊びに来てくれたSHUSEと柩くん、関係者のみなさま、ありがとー。おかげで、この日も、美味しいお酒が飲めたよん。

次回は、12月5日（日）。同じく渋谷SECOにて。詳細は、blogをチェックしてね！　http://ameblo.jp/vijulovex

×月×日

メジャー・デビュー・アルバム「BRAVE NEW WORLD」を11月24日にリリースするTHE KIDDIEの取材。いつも使ってるICレコーダーが行方不明になってしまったので（小さすぎるのも、考えものだよ……）、バックアップ用にiPad持参でインタビューに行く。あのでかいのをテーブルの上にドン！と置いて取材するのも、圧迫感がありすぎかなと思ったのだが、思いの他、メンバーに大ウケ。で、揺紗くんに「今、メンバーがすごくハマってるゲームがあるんだけど、この大きな画面でやったら面白いと思うから、ダウンロードしましょうよ」といわれて、いわれるがままにインストールすることになる。メンバーがやってるiPhone版は無料なのだそうだが、iPad版は600円もするのだけど、お金を払う方法も揺紗くんがすべてナビゲートしてくれて、無事にダウンロード完了。そのあとは、メンバーの中でいちばんそのゲームがうまい淳くんが、隣につきっきりでやり方を教えてくれる。ふむふむ、たしかに面白い。画面も綺麗だし、これはハマるのもわかるなぁと、納得。

が、しかし。その晩、寝る前にちょっとやってみようかなと思って、一人で始めたのはいいが、昼間とは違って全然できない……。淳くんが楽々クリアしてたことがまったくできずに、時間だけが過ぎていく。そして、気がついたら、夜中の3時半。実は、そのゲーム、簡単そうに見えて、実は結構難しかったのだ。あんなに楽々とやってた淳くんを、ちょっぴり尊敬しちゃったよ～。

×月×日

Zill追悼Live@O-EAST

7月に急逝したZill（Moran）の追悼ライヴ。Moranは結成当初からずいぶん取材をさせてもらってたので、知らせを聞いた時はすごくショックだった。取材の時、Zillくんはいつもとっても面白くて、場を盛り上げようと気をつかってくれてたんだよね。音楽のこと以外に脱線したトークもすごく楽しくて、ずいぶん笑わせてもらったもんな～。Zillくんが毎回のように話す‘あるネタ’があって、取材の時にその話を聞くのが楽しみなくらいだったよ。

仕事があったのでイベントは後半しか見られなかったけど、出演者もお客さんも、みんながZillくんに想いを届けようとしてるとってもあたたかなステージだった。ラストは、しばらく無期限活動停止「Freeze」していたMoranにギタリストのSiznaくんが加入し、そのお披露目ライヴ。Siznaくん、Moranのステージに立っても全然違和感がないことに、オドロキだ。Zillくんが残した曲があるので、これからそれを形にする作業をしていくと話してた。Zillくんのためにも、これからのMoranが大きく羽ばたいていくことを願ってる。

×月×日

jealkbのライヴを、渋谷AXに見に行く。毎度のことながら、いっぱい笑わせてもらったよ～！　トークはもちろんライヴもすごく楽しくて、ついついレポート用のメモをとる手が止まってしまって、困ってしまった（笑）。

わたしは二階席でライヴを見させてもらったんだけど、偶然、隣はポックン。そして、前の席には叶姉妹が並んで座っていた。最初は気がつかなくて、なんか香水の匂いがすごくするなと思っていたんだけど、目の前50センチくらいのところで恭子さんが隣の美香さんに耳打ちするのを見て、「あ！」っと気がついた。叶姉妹の両脇には、外国人のイケメン・モデル風メンズが2人。ライヴ中は、笑ったり手をたたいたり、jealkbのステージををすごく楽しんでいるみたいだった。あの二人を喜ばせるなんて、さすがです，jeal

×月×日

土曜日の午前中から、秋葉原へ。実は、KONAのiPad用ゲーム「jubeat plus」にニンジャマンジャパンの音楽が使われることになり、その体験会にsarino、nono、ピンキーの3人と行って来た。「jube plus」は、楽曲にあわせて光る場面をタッチするというシンプルなゲームなんだけど、レベルが10まであって、上級になるとなかなか難しい。朝11時のオープン前から100人以上のお客さんが並んでいたということだが、3人も実際にゲームにチャレンジして楽しんでいたよ。今のところニンジャマンの曲が入っているのはipadだけなんだけど、とても面白いので持ってる人はチャレンジしてみてね。詳しくは、「jube plus」で検索してね！

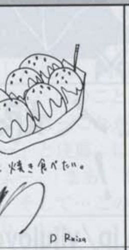
☆Bijuたん漫画

毎週日曜日に更新されるBijuたん漫画。白夜さんという漫画家さんが、4コマ漫画を描いてくれてます。ヴィジュアル系好きには楽しい話がいっぱいなので、是非、チェックしてみてね～！
http://ameblo.jp/gogobijutan/

蝴蝶网
hudie.com

ission in ッション イン ぽっくん

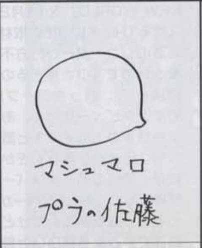
りやってきた今年の冬。真夏の感覚が残ったまま、震える季節になってしまいました。な秋の日は何処へ。そんなあったのか、なかったのか分からなかった 2010 年の秋を秋の味覚ならぬ冬の味覚のネタです。お題は「あなたのお気に入りの一品(食べ物)す。今月のベタ企画でスイマセン。けど、みんなの意外な食への嗜好が垣間見ること て面白い。それでは今月もいってみよーっ!!



Ruiza (D)

ASAGI (D)

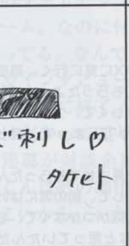
ナカヤマアキラ (Plastic Tree)



佐藤 ケンケン (Plastic Tree)

長谷川正 (Plastic Tree)

有村竜太朗 (Plastic Tree)



タケヒト (AYABIE)

夢人 (AYABIE)

HIROKI (D)

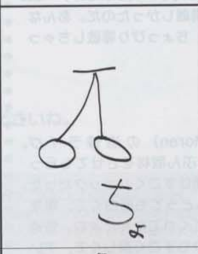
HIROKI (D)

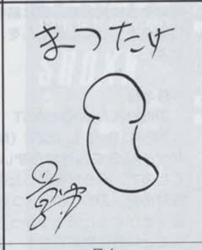
Tsunehito (D)

HEDE-ZOU (D)

靖乃 (Kra)

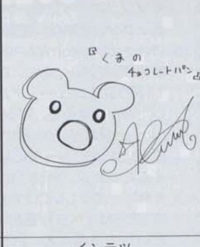
結良 (Kra)


舞 (Kra)

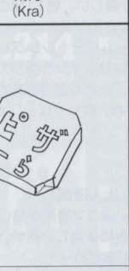


景夕 (Kra)

KENZO (AYABIE)



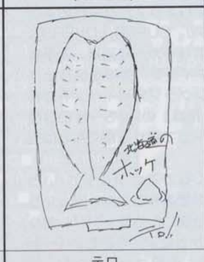
インテツ (AYABIE)


裕哉 (ゾロ)

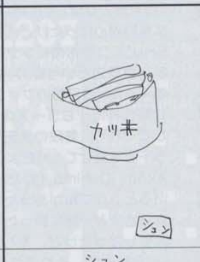
たつひ (ゾロ)

タイゾ (ゾロ)

龍寺 (ゾロ)



テロ (ヴィドール)



シュン (ヴィドール)

悠
(摩天楼オペラ)

彩雨
(摩天楼オペラ)

燿
(摩天楼オペラ)

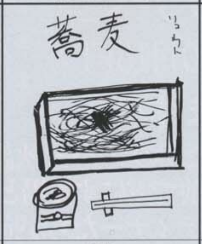
Anzi
(摩天楼オペラ)

苑
(摩天楼オペラ)

リョヲ丞
(少女-ロリヰタ-23区)

ユ≠キ
(少女-ロリヰタ-23区)

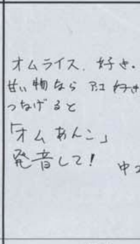
龍兎
(少女-ロリヰタ-23区)



総史
(少女-ロリヰタ-23区)

那オキ
(人格ラヂオ)

悠希
(人格ラヂオ)



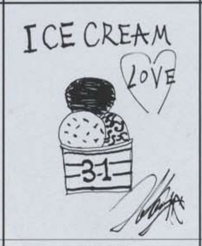
SARSHI
(HERO)

尽
(HERO)

Soan
(Moran)

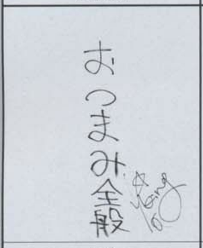
Sizna
(Moran)

Hitomi
(Moran)



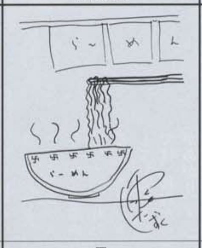
BAN
(少女-ロリヰタ-23区)

レガ
(TOON-FACTORY)



夢叶
(TOON-FACTORY)

雫
(TOON-FACTORY)

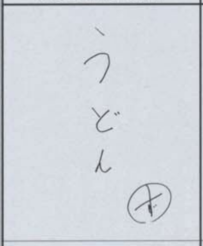


ひかる
(TOON-FACTORY)

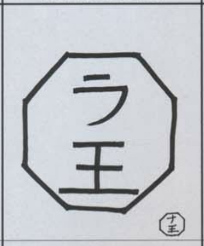
Yusuke
(HERO)

yu-ta
(HERO)

Zukki
(-OZ-)



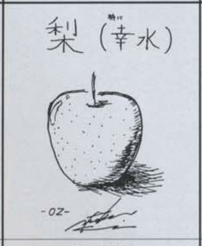
Nao
(-OZ-)



Tama
(-OZ-)

Aki
(-OZ-)

Natsuki
(-OZ-)



ゆーいち
(TOON-FACTORY)

★応募の決まり★

このアーティスト直筆の回答書きをプレゼントします。欲しい人は149ページの左下にある応募券を官製はがきに貼って、あなたの住所、氏名、年齢と希望アーティスト名を書いて
〒104-8228 東京都中央区銀座6-… Daiwa銀座アネックス5F 音楽専科社「ぽっくんくれっ！」係まで応募してください。締め切りは2010年12月21日(消印有効)です。

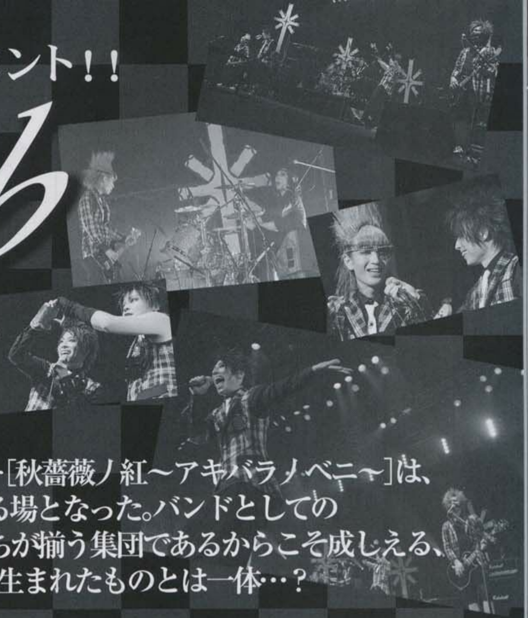
蝴蝶网
hudie.com

ぽっくんくれっ！
SHOXX vol.215応募券

さらに研ぎ澄まされた極上エンタテイメント!!

jealkb

秋薔薇ノ紅～アキバラノベニ
Live at 渋谷AX　2010年10月16日



今日から俺たち10コ、サバを読みます!?

異色にして出色。jealkbが、現体制となって臨んだ初のツアー［秋薔薇ノ紅～アキバラノベニ～］は、haderuいわく「今までにないjealkb」を、我々の目前で露にする場となった。バンドとしての本分はきっちり押さえつつも、生粋のエンターティナーたちが揃う集団であるからこそ成しえる、さまざまな試み。それらが全て上手く噛み合った時、そこに生まれたものとは一体…？

Report:YUKI SUGIE

生粋のエンターティナーが揃うjealkbがそこに生み出していたのは、異色にして出色のライヴ空間であった。

最新シングル『傷心マキアート』で、いよいよアーティストとしての新境地に足を踏み入れた感があるjealkbが、この秋行ったのはツアー［秋薔薇ノ紅～アキバラノベニ～］。

しょっぱなから、ダイナミックなサウンドによって描かれ出した「嘆きのエンドレス」を手始めに、彼らが放つ音からは闘志と言っていいほどの並々ならぬ気迫が伝わってくる。

「どうも、jealkbです。今日は5人体制になって初のツアー、1本目の東京公演です。今夜は今までにないjealkbを、皆にみせたいと思います!」

haderuによる力強い宣誓どおり、これ以降も彼らは5人編成になったことでよりロックバンド然となった部分を、さまざまな楽曲たちを演奏しながら我々に伝えてくれたのだった。こうなってくると、当然ジュアラーたちも大人しくはしていられない。たとえば、「オプティ」では、場内から曲に合わせて大きな歌声があがり、また「How much is your love」では、場内が一体化して同一のフリで大いに盛り上がる場面もつくられたのである。

また、今回のライヴでは映像を用いた演出も随所に挟み込まれており、これがまたジュアラーたちに大受け。要約すると、上映されたのは〝ジュアラー以上に、誰よりもjealkbを愛している男・ediee〟が、自らjealkbの存在を布教するべく孤軍奮闘するドキュメントで、フルメイク・フル衣装のedieeが東京キー局の生本番の番組にギャラリーとして潜入し、ツアースケジュールを記したフリップを掲げ、何とか映り込みを画策するという、涙ぐましい努力が伺える内容のもの。

それに加えて、このほかにも曲間で随所にhaderuが各メンバーを次々に引っかけて行くドッキリ企画映像まで流され、ことあるごとにジュアラーたちからは笑いと賞賛の拍手とが惜しみなく贈られた。さすが、エンタテイメントの何たるかを熟知した5人が集まっているバンドだけあって、このあたりの人心掌握ぶりはお見事の一言。

けれども、jealkbとしての本分はやはり演奏そのものであって、この夜に関して言えば「ト或コイ」で聴けたedieeのソロ、「レジスタンス」でelsaが聴かせた歌&ドラミング、「歪ミイズム」でのdunchによるベースソロからは、確かに彼らの内に在るプレイヤー魂をありありと感じ取ることも出来た。

そうした中、この夜のライヴでは途中haderuが、こんな衝撃発言をするくだりも…。

「今までは、芸人の方の顔と双子っていう設定で5年やって来たんだけど、今日はここで重大発表をしたいと思います。この双子っていう設定は、もう辞めます。V系でそろそろ40代っていうのもちょっとアレだし（笑）、ここはサバを読んで10コ下の弟っていう設定に変えたいなと。ってことで、今日からはelsa28歳、dunch27歳、haderu26歳、hideki22歳、ediee22歳です!よろしく（笑）」なお、諸々暴露ついでだったのか、この後にはhidekiが実は既婚者であり、10歳の娘さんがいることまで明かされ（笑）、本編後編を飾った「super special summer」と「傷心マキアート」では、そのhidekiの愛娘がダンサーとしてステージ上に登場し、haderu+父娘の3人でフロントに立ち、やたらと息の合ったダンスを披露。

さらに、アンコールでは以前本誌で彼らが予告していたとおり、5人がダンスに徹してのパフォーマンス「傷心マキアート」（JKB5 ver.）」まで展開される[illegible]た。かなり難易度が高そうな動き[illegible]であったにも関わらず、5人が懸命に踊っている姿は微笑ましく、同時にそ[illegible]打たれるものでもあった。

最後の最後に演奏された、アグレッシヴな「堕落」や、アッパーで刺激的な「shell」などを聴いていれば、彼ら[illegible]の変哲もないロックバンドのように[illegible]える。しかし、それ以前に彼らが生粋のエンターティナーであるということ[illegible]れを、我々はこのライヴを通し[illegible]確認することとなったとも言える。まっ[illegible]もって、jealkb恐るべし!だ。

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

【SET LIST】
M1.嘆きのエンドレス
M2.BODY FRICTION
M3.ORANGE HERO
M4.恋する日曜日
M5.オプティー
M6.How much is your love
M7.ト或コイ
M8.花
M9.レジスタンス
M10.誓
M11.WILL
M12.閉塞
M13.殺意 or LOVE
M14.歪ミイズム
M15.KILLSS
M16.super special summer
M17.傷心マキアート
M18.D.D.D
M19.Rolling
M20.Sadistic Maria
——encore——
En1.傷心マキアート(JKB5)
En2.堕落
En3.妄想アメリ
En4.shell

蝴蝶网
hudie.com

――アルバム『Life』（10月末現在制作途中）、最強のメロディを軸にロックとポップを自在に操る作品になりそうな予感ですが…バンドとしては、どういう着地点を目指して制作に入ったわけですか。

JIN：遊ぶ曲と真面目な曲のバランス、これは考えていたんですよ。

SARSHI：そうだね。新体制になってセルフプロデュースでシングルを2枚出しましたけど、アルバムでようやく、HEROが目指すものの土台が作れた気はしていますね。

――そういう作業の中で、新たな発見や再確認できたこともあったりして？

JIN：ありますよ。まず歌い方が増えましたからね。もともと好きだった裏声と地声の中間、ミックスボイスを全開で歌えた曲もあったりして。スタジオでメロディを変えてみたりとか、とにかく楽しいですね。

Yusuke：僕も、アルバム制作でスタジオに入っているときに、曲それぞれの完成図が見えやすくて。みんなで合わせているのが、すごく楽しいなぁって。

JIN：スケジュール的には、めっちゃ忙しかったんですけどね。その中でも楽しめたし、どんな状況でも、良いものって生まれるべくして生まれるんだなって思ったし。すごく充実してますね。

yuta：自分としては、今までは曲の中で動きをつけることが多かったんですけど、今回は、曲によってベースが土台となるようなものもあって。改めて、ギター以上にそういうことができる楽器なんだなって、思えたんですよ。

――それは、意識的に挑んでみた結果なのか…これまでの経験値が自然とそうさせたのか、どうなんでしょうか。

yuta：今まではそういう考えをしなかったけど、今はできるようになったから、かもしれないですね。

JIN：わかる！　そういうのあるよね。特にYusukeは、空気読めるドラムになったというか、キレイな流れを作って歌いやすいドラムを叩けるようになって。

yuta：普段は空気読めないですけどねっ。

Yusuke：はは、まぁね。

JIN：でも、楽しかったと思えたのは、そういう成長のおかげですよ。

――Yusukeさんとしても、そこは意識高く臨んだわけですか。

Yusuke：そうですね。もっと成長しなくちゃいけないなとは思っていたので、いろんなアーティストのCDを聴きながら、歌とドラムの絡みを研究したりして。自分なりに勉強はしました。

――そういう努力の賜物だったわけですね。SARSHIさんも、手応えは大きいですか。

SARSHI：今回のアルバムのギターは、出るところは出て引くところは引くようにしようと思っていて。今まではとりあえず出しとけ！っていう考えもあったんですけど、曲によってはベースが出てもいいし。そういうことを考える時間もあったし、スタジオで詰めている段階で、俺も完成形が見えていたから、アレンジしやすかったし。その上で新しいこともやってみたかったから、今までやったことのない弾き方をしたり、エフェク

日にSHIBUYA DUO Music
eにて行われる「Burst
が見事ソールド・アウト
に乗っているHERO。そん
が、2011年1月12日 にNEW
『Life』をリリースする。シン
の「Not Found」、「ピリオド」を
0曲に、最新PV1曲が収録さ
定の今作の全貌を、メンバー
ち早く語って貰いました！
日SHIBUYA DUO Music
eにて、来年の怒濤の動きが
れるとの事で…2011年も、彼
目を離せません！

UKA SUGIE

蝴蝶网
hudie.com

ターを使ってみたりして。武器も増えつつ、今後の自分の方向性が固まってきた気がしますね。

——だからこそ、聴きやすさとプレイヤーならではのこだわり、そのバランスが絶妙なわけですね。さらに歌詞に関して、いただいた資料の中でもっとも気になったのは、アルバムタイトルでもある「Life」なんです。命を終えるそのときまでどう生きるか、JINさんの死生観を生々しく感じたんですが…何かありました？

JIN：自分が入院したのと…あとね、飼っていた犬が死んだんですよ。犬が死んだのはデカくて……話そうとするだけで泣きそうになるんですけどね。

——私事ですが飼い猫を亡くしたことがあるので…わかります。家族ですもんね。

JIN：そう…ホントそうで。余命宣告された1週間前ぐらいから、犬の夢をよく見るようになったんですけど、それまで至って元気で、たまに悪さもしていたような家族がそういうことになるんだなって。死に際に、僕は仕事で傍にいてやれなかったんですけどね…。でも、実家の引っ越しが決まっていて、その引っ越し先では犬を飼えないことになっていたんですけど、タイミング的に家族の事情を解っていたんじゃないか？って思ったりもして。〝性格が良い犬だね〟って常々家族みんなで言っていましたけど、〝ホントに最後まで家族のことを考えてくれていたんだね〟って……。まさに、〝皆が泣いてくれるような生き方〟だと思ったんですよ。

——自分にとって大事な存在を亡くした人なら、痛切に響きます。

JIN：〝もっと遊んであげていれば良かった〟って親が言ったりするけど、あとどれぐらい笑えたり泣けたりするかはわからないからこそ、今を精一杯生きなきゃいけないなと思うし。いろいろ教えられたし、すごく大事な曲なんですよ、ホントに。

——消えない哀しみではありますけど、だからこそ、そこから得たものには重みがありますね。

JIN：うん。バンドも一緒で、絶対〝作業〟になっちゃいけないし。極端な話、明日死ぬかもしれないわけだし、1本1本のライヴ、もし〝最後のライヴ〟であったとしても、誇れる精一杯のライヴをしなきゃいけないなって。意識は、すごく変わったと思います。そのぶん、自分に対してもメンバーに対しても、さらに厳しくなったし。

——それは、メンバーとしても感じていますか。

Yusuke：感じます、ひしひしと。ライヴに関しても、しょうもないミスは絶対ナシにしよう、意識を高く持とうって、よりストイックになってるし。

yu-ta：俺はとにかく、負けず嫌いなんで、対バンにも、同じメンバーにも、絶対に負けたくないですからね。フル本気ですよ、毎回。

SARSHI：ホント、大袈裟ではなく、いつ死ぬかわからないですからね。実際、僕も友達を亡くしていて、それ以来、自分の気持ちが変わったんですよね。だから、「Life」の歌詞はすごく共感できるんですよ。泣けるけど頑張ろうって思うし。そういう曲は自分たちが目指していたところでもあるし、今回表題曲として押し出せることに、すごく達成感は感じ

Life 生まれるべくして、生まれた作品

——というところで、〝Life〟にちなみまして、音楽は大前提として、それぞれにとっての〝人生で欠かせないもの〟を教えていただきたいわけです。

JIN：良い話の後になんですけど…酒かマンガですかね、はは。ま、お酒に関しては、最近は呑むのが週に1、2回になりましたけどね。それぐらいしか趣味はないんですよ。みんな、何かある!?

SARSHI：俺は、飼ってる猫のマリーちゃんですかね。マンチカンなんですけど、めっちゃくちゃカワイイですよ。

yu-ta：でもね、カワイイと見せかけて攻撃してくるんで、すっごい憎たらしいんですけどねっ。俺は、YouTubeとかで、生き物系の動画を観るのがめちゃめちゃ好きで。この間も、虫バトルを観て興奮してましたっ。

——あ、癒される犬猫系じゃなくて!?

yu-ta：違うんですよ。インドかどこかのでっかいコオロギがめっちゃ強くて、バリバリ相手を食うんですよ。それとか、ワニが鹿を回転しながら食うところとか…一番好きなのはホオジロザメなんですけど、サメの動画は何時間でも観ていられますからね。そういう弱肉強食の世界を見ていると、〝生きてるんだな〟って思いますよ。

Yusuke：はは、マニアックだね。僕は…ゴハンを食べることですかね。

JIN：だから働くみたいなところ、Yusukeはありますからね。タバコのノリで、ずっと食ってますもん。食べ物もきっと、彼のことが好きですよ、はは！

——美味しそうに食べる人は素敵ですっ。さて、11月22日渋谷DUOでのワンマンライヴ、それぞれ何かしちゃいます？

SARSHI：最近のテーマでもあるんですけど、1曲1曲に込めた気持ちを、しっかりとギターで伝えますっ。

yu-ta：自分が昔いろんなライヴを見たときのように、来てくれた人を感動させたいなと。変な言い方ですけど、近いけど遠い存在というか、アーティストとしての色をより濃く出しますよ。

JIN：とりあえず満杯になるので、ケガ人が出ないように、かつ楽しく暴れさせますっ。あと、ビビるぐらいの重大発表もあるんで。

Yusuke：そういう重大発表をするに相応しいというか、来年に期待を持たせられるような、堂々としたステージにしますっ。

蝴蝶网
hudie.com

ダウト

武者修行47都道府県ツアー”事後報告、前編

1・高田馬場エリアを皮切りに、47都道府県ツアー「LIVE BAND TOUR '10」をスタートさせたダウト。
のツアーを“武者修行”というだけあって、日々、己との戦いが続いているようだ。
にしても、彼らはどのくらい変化しているのだろうか。ここでは、メンバーのコメントと共に、前半戦の様子を振り返ってみることにしよう。

Interview:ERI MIZUTANI

0905@TOKYO

0904@TOKYO

0917@TOCHIGI

0911@OKINAWA

0920@CHIBA

0919@IBARAKI

吹 Gt

ちょうど前半戦が終わったところなんけど、全て良い調子で廻れていると思す。やっぱり、長いツアーともなれば、ムワークが重要になってくると思うんでチらの場合、いざ本番！となると、気の入り方が違うんで、その辺は大丈夫って。ちなみに、(地方)オフの日には何ているかというと、新曲の制作に励んでんですよ。それがどういった形になるか々のお楽しみということで(笑)。これ後半戦、そしてファイナルの赤坂ブリッ繋げていくわけですけど、引き続き、モーションを上げて、振り幅を広げていけなと思います」

幸樹 Vo

「このツアー、ダウトのことを初めて観る人も多いと思うんです。なので、ファンとの距離感っていうのはいちばん大事にしていて。ホント、どこも反応が違うので新鮮ですよ。あと個人的には、表現力をもっと磨いていかなくてはと思いまして。活動開始から3年半、かなりの本数のライヴをやってきたんですけど、ヴォーカリストとして、どう個性を出していくかというのを考えた時、俺は歌はもちろん、視覚でもクセを付けていこうって。少しずつですが、その課題はクリアできているんじゃないかと思います。なので、これからのライヴで俺がどう変わっていくか、楽しみにしていて下さい」

蝴蝶网
hudie.com

0926@SAITAMA

0925@KANAGAWA

0923@GUNMA

1006@IWATE

1005@AOMORI

1003@HOKKAIDO

ひかる Gt

「今回、行ったことのない場所がほとんと
ので、ツアーしているなぁっていう実感が
りますね。それにしても、どこの場所も熱
んですよ。求め合いっていうのかな、そ
いったガツガツしたライヴが出来ていると
います。そういうの、ライヴハウスならでは
楽しみかなって。最近、前以上に周りを見
れるようにもなってきて。余裕が出てきた
かもしれないんですけど、来てくれた人
員の顔を覚えて帰れるぐらいにはなって
ました（笑）。あとは、健康第一っていうの
目標にしているので、引き続き、良く食べ、
く寝て、元気に後半戦を廻っていきたい
思います！」

1011@YAMAGATA

1008@MIYAGI

1007@AKITA

玲夏 Ba

「今回、目標に置いたことは、1つ1つのライヴでムラをなくすっていうことだったんです。メンタル面然り、演奏面然り、体力面然り。とにかく、隙を見せたくなくて。それって、自分との戦いになってくると思うんです。なので、ライヴが終わった後には、必ず映像を観て振り返り、反省をしているんですね。こういうことは他人から言われてやるのではなく、自分で気付いてやらないと意味がないなって。そういった積み重ねが、自分自身、また、バンドの向上に繋がっていけばいいなと思います。そして、後半戦では、前半戦で見つけた反省点を活かしていきたいですね」

1015@TOYAMA

1013@NIIGATA

1012@FUKUSHIMA

これからの俺らがどう変わっていくか

1017@NAGANO

1016@ISHIKAWA

1020@MIE

1022@AICHI

1019@FUKUI

ミナセ Dr

「そういえば俺、初日からドッキリにあった
ですよ！　SEが流れてステージに上が
た瞬間、音を止められるっていう（苦
まぁ、そんな感じでスタートした47都道府
ツアーですけど、地方ではまだ騙されて
ないので良かったです（笑）。前半戦が
わって見えたことというのは、良いライヴ
っていうのは、自分たちだけで作るものでは
く、来てくれたファンを含めて成立するも
なんだなって。なので、みんなが盛り上が
ている姿を見るとすごく嬉しくなります
残る後半戦、バンドが成長することは当た
前だと思っているので、気を抜かずに頑
たいです」

1026@YAMANASHI

1024@SHIZUOKA

1023@GIFU

蝴蝶网
hudie.com

摩天楼オペラ

デビュー・アルバム『Abyss』を先行解剖!

2日にミニ・アルバム『Abyss』でメジャー・デビューを果たす摩天楼オペラ。すでにレコーディングを終えた新作につメジャー・シーンへ挑む現在の心境について、5人に訊く。アルバム収録の「もう一人の花嫁」PVシューティング現場独占潜入!!　和やかな(?)撮影風景も合わせてお楽しみください!!

Photography:SAWAE HARA　Interview:KYOSUKE TSUCHIYA

――12月にメジャー・デビューを控えた現在の心境はどうですか?

燿：9月1日からは新しい事務所に移籍して仕事をしてるんですけど、レコーディング・スタジオが変わったり、スタッフさんが変わったり、そういうところで今までとの違いは大きく感じますね。

Anzi：メジャー・デビューしてどうなるかっていうのは……どうなるんだろう?みたいな（笑）。まだ実感がそこまでないというかね。実際に音源が出てみてどう変わるか楽しみですね。やっぱり、より多くの人に観てもらえたり、聴いてもらえたりする機会が増えると思うんですけど、ようやく音楽で仕事をしてるなぁって気持ちにはなってますね。

悠：関わる人が増えたのは確かに感じますね。直接、自分たちが何かを伝えて動くような今までの環境に対して、今は何人かを挟んだり……それによって新たにファンクラブの運営とか、いろんなことが出来るようになりましたし、デビューを実感するところの一つだと思います。

彩雨：ウチらのやりたいようにはやれてると思うんですけど、デザイナーさんとか、PVの監督さんとか、サウンド・プロデューサーの方とか、プラスαでたくさんの意見をもらえることで、より良いものが出来てる実感があるんですよ。中学生の頃は、メジャー・デビューしたら、それこそフェラーリに乗って…みたいなあまり今は意識していないというか……インディーズ・ラスト・ライヴの直前とかのほうが、〃メジャーに行くんだ!〃って、急に健康管理に気を遣い出したり、いろいろ意識してましたね（笑）。

――一方で11月24日にはインディー時代を総括する『INDIES BEST COLLECTION』なるベスト盤が発売されますね。

Anzi：シングル曲がすべて入ってるんだけど、あとはオペラー感謝祭（7月28日＝東京・渋谷O-EAST）の時に、お客さんに投票してもらった上位の曲をプラスした感じではあるんですね。

苑：「R」のPVも入ってるんですよ。これはお客さんにも参加してもらって撮影したものなんですよね。

彩雨：これまでに撮ったPVも収録されるんですけど、今までは限定盤にしかPVは入ってなかったから、持っていないっていう人も意外と多いんですよ。これを機会に今までのPVも観てほしいなと思います。苦労して撮ったので（笑）。

燿：リマスタリングもしてますからね。今までの音源を持っている人は、その違いを楽しんでくださいという（笑）。

悠：マスタリングしている時は面白かったですね、録った時期によって音が全然違うんですよ。初期のほうは……こんなことを言っちゃいけないのかもしれないけど（笑）、ドラムの音がこもってたり。

「もう一人の花嫁」、PVシューティング独占潜入!!

んですよ。その試行錯誤している段階も楽しんでいただければと（笑）。

――そして待望のメジャー・デビュー・ミニ・アルバム『Abyss』を一足先に聴かせていただきましたが、これまでの作品と比べても、最も完成度は高そうですが、実際に仕上がってみての印象は？

Anzi：僕も最高傑作だと思ってて。よく考えてみると、ちゃんとアルバムを作るぞって、一から取り組んだのは、これが初めてなんですよ。最初の『GILIA』も、当時の持ち曲をすべて録って、ミニ・アルバムの形にしたものだったし、『ANOMIE』も、まずはシングル曲を全部入れて、そこに足りない要素を持ち込んでアルバムにした感じだったんですよ。その意味で言えば、今回はこのアルバムのためだけに新しい曲を揃えたんで、今まで以上にトータルとしての完成度は高くなってる感じはしますね。

――楽曲にはいろんなタイプがありますが、その取り組み方も全体の統一感にもつながっているのかもしれませんね。

Anzi：そうですね。今回は明石昌夫さん（SIAM SHADEやJanne Da Arc等を手掛けてきた人物）にプロデュースをお願いしたんですよ。僕は80年代のロックとかがすごく好きな人間なんで、話が合うというか（笑）、すごくやりやすかったですね。

燿：いろんな仕事をしてきている方ですし、アーティストのことをよく分かっているから、プレイヤーに合った進め方をがだいぶ上がったのが分かる。すごく大きな経験になりましたね。

悠：明石さんは有名な人ばかり手掛けていらっしゃるので、最初はすごく緊張してたんですけど、すごくフランクに接してくれる人なんですよね。個人的には演奏の仕方を教えてもらったのがすごく大きいですね。今まではジャッジをするのがメンバーだったから、ドラムのテイクにしても"OKだけど……"ってところで終わってしまってた。だけど明石さんの場合は"良いんだけど、こうしたらもうちょっと良くなる"と的確なアドバイスをしてくれる。これは他のメンバーもそうだったと思うんですけど、仕上がったものを聴くと、やっぱり今までとは全然違うんですよね。

彩雨：いろんな意見を言ってくれるんですけど、基本的には摩天楼オペラを理解したうえでのものでしたし、すごくありがたいレコーディングでしたね。

苑：やっていることは、これまでの延長上にあるものですけど、全部が今まで以上な感じがありますね。再生したらすぐに分かると思うんですけど、音も格段によくなってる。歌についてはより細かなところまで目が届くようになった気はしますね。明石さんだったから、こういう完成度になったんだなという部分もあるし、すごく成長させてもらいました。

――ある曲のエンディングではハイ・トーンのロング・シャウトが入ってます

ついてるんですけど（笑）。とりあえずシャウトしてくれってAnziくんから言われてたんですけど、どうも上手くいかなくて、最終的には普通にメタルっぽくシャウトするのが僕っぽい、カッコいいってことで、あれになりました。

――リード・トラックとも言える「もう一人の花嫁」はビデオ・クリップも撮影したそうですが、どんな感想ですか？

Anzi：いつもPV撮影って、大変な思いをしてきたんですけど、ここにきて大変じゃなかったという（笑）。なおかつ、もう出来上がったビデオのクオリティも高いんですよね。

悠：僕、普段は2タム、2フロア（のドラム・セット）なんですけど、今回の撮影では1タム、2フロアでやってみたんですよ。そうすると、自然に僕の好きなマイク・テラーナとかパトリック・ヨハンソンのような叩き方になるんですね。それを観てて、自分でもカッコいいなって思っちゃったりして。とはいっても、出てくるのは一瞬なんですけど（笑）。ラーズ・ウルリッヒっぽく叩いてるところもありますね（笑）。曲としては魅せるドラムが出てくるわけじゃないんですけど、その中では精一杯やったかなと。

燿：今までといちばん違うのは、ドラマのシーンがあるということですね。結婚式場で撮影したんですけど、実際に演奏とも上手く絡み合ってるんで、出来は凄

彩雨：やっぱり今回はドラマ・シーンを使ったのは大きいですね。それによってより楽曲の世界に引っ張られていく感じがあるんですよ。

苑：僕が思っていた歌詞の中のドラマと同じというか、むしろそれ以上な感じで演じてくれてたんですよね。夫になるいちばん悪い人が（笑）、すごく悪い笑みでニヤッとする場面が一瞬入ってるんですけど、そこを観た時は"よしっ！"って思いました（笑）。大満足なPVですね。

Anzi：ギター・ソロのシーンでちょっと世界観は壊れるんですけど（笑）。ギター・ソロなんですけど、弾いてる絵じゃないものが挟まってたり（笑）、ドラムもスティックを回しながら叩いていたり、二人で外タレみたいになってるという（笑）。

悠：基本、みんなカメラ目線しないのに、そこだけするからね（笑）。

――ははは（笑）。続きはまた次号でお話をしていただこうと思いますが、アルバムは摩天楼オペラが分かる、名刺代わりの1枚と言っていいでしょうね。

燿：まさにその通りですね。ここまでメンバーが好きなようにやって、作れているバンドってそんなに多くはないと思うんですよ。それをちゃんと形に出来てることは自信にもなってますし、とりあえずメジャーでの一発目ですけど、これからももっといいものを届けていくので、ぜひついてきてほしいと思います。

1月からスタートする"Abyss Tour"の、SHOXX読者先行電話受付決

【スケジュール】
1月10日・浦和ナルシス(L: 75342)／15日・盛岡CLUB CHANGE(L: 28632)／18日・札幌クラップスホール(L: 14147)／20日・仙台マカナ(L: 28632)／23日・甲府KAZOO HALL(L: 75345)／29日・宇都宮HEAVEN'S ROCK(L: 75349)／30日・水戸ライトハウス(L: 75357)／2月5日・名古屋E.L.L(L: 46821)／6日・梅田AKASO(L: 53612)／8日・広島ナミキジャンクション(L: 61972)／10日・熊本DRUM Be-9 V2(L: 84429)／11日・福岡DRUM SON(L: 84430)／13日・岡山IMAGE(L: 61973)／20日・横浜BAYSIS(L: 75358)／24日・金沢vanvan V4(L: 59776)／26日・新潟GOLDEN PIGS BLACK(L: 77882)
[料金] 立見¥3,800(税込)/DRINK代別　[一般発売日] 11/27(土)
Total Info：バックステージ・プロジェクト　☎03-5786-2400
～電話先行受付のお知らせ～
【受付日時】11/20(土) 12:00～11/24(水) 23:59
【受付電話番号】☎0570-084-200(Lコード必要)
【枚数制限】お一人様4枚まで
【引取期限】ガイダンスでご案内致します
※一部携帯電話・全社PHS・IP電話不可
※規定枚数になり次第受付終了とさせて頂きます
※受付の際は、発信者番号通知が必要です

【申込方法】
■ローソンチケットによる特別電話予約です。プッシュ回線のみのご利用となります。
■予約時に10桁の予約番号がアナウンスされます。メモを必ずご用意ください。
■自動予約システムの音声ガイダンスに従ってご予約を行ってください。
■ガイダンスを最後まで聞き終わらないと予約が成立しません。
■電話番号をお間違いないようにお願いいたします。
※購入されたチケットの定価以上での売買を禁じます
※チケット転売及びそれを試みる行為は契約違反です
※転売されたチケットは無効であり、ご入場をお断りいたします。

【引換方法】
■ローソン店頭にある[ロッピー]にて期間内にお引き取りください。
■予約番号と予約時に登録された電話番号が必要となります。
■操作方法がわからない場合は、店員さんにご確認ください。
ローソンチケットに関するお問い合せ:インフォメーション☎0570-000-777(10:00-20:00
※一部携帯電話・全社PHS・IP電話不可

蝴蝶网 hudie.com

SHOXX 誌上限定オムニバスアルバム
2011年次世代シーンを担うバンドが一堂に会し、強固なシーンを形成していくであろう注目オムニバス。
「Explosion showcase」
価格3,360円(税込)　二枚組仕様　未発表曲、入手不可能音源等全31バンド収録
2011年2月上旬発送開始!!
MAIN DISC
-Paradoxical Alliance-
凛
Unsraw
己龍
Megaromania
Lycaon
ALSDEAD
SATSUKI
Aurora feather 砂月
Art Cube
Para:noir
シンディケイト
DIAURA
BONUS DISC
-expect meeting-
Iam.
Tu[ism]-トゥイズム-
我騎道
Swallowtail.-スワロウテイル-
MoNoLith
RED universe
SCAPEGOAT
dolore
Secilia Luna
Pan-d-ra
Zig*Zag
Vallquar-ヴァルキューレ-
M
Re:dis
Rubik
Amber Bullet

1.凛(GUEST) 2.UnsraW 3.Lycaon 4.ベルベット 5.己龍 6.Megaromania 7.Ⅶ-Sense 8.エルム
9.お遊戯わが魔々団×【PaRADEiS】 10.ALSDEAD 11.DIAURA 12.シンディケイト 13.ArtCube
14.Para:noir 15.砂月

1.Iam. 2.Tu[ism]-トゥイズム- 3.我羇道 4.Swallowtail-スワロウテイル-
5.MoNoLith 6.RED universe 7.SCAPEGOAT 8.dolore
9.Secilia Luna 10.Pan-d-ra 11.Zig+Zag 12.Vallquar-ワルキューレ-
13.M 14.Re:dis 15.Rubik 16.Amber Bullet

通信販売二大特典

1 2011年1月15日までに申し込みの方に
希望のバンドのチェキをプレゼント!!
(MAIN DISC収録バンド限定/メンバーの指定は出来ません。)

2 CD封入の特典カードと2010.1.21～2.27までの
発売記念ライブの半券をあわせてお送り頂いた方
全員にプレゼント有り!!。
(受付締め切り3月15日)

お申し込み方法

お近くの郵便局で、備え付けの郵便振替用紙に必要事項を記入の上、定価3,360円(×個数)に送料600円(×個数)を加えた金額3,960円(×個数)をお振込下さい。

口座番号	00120−2−395900
加入者名	株式会社 音楽専科社
通信欄	「Explosion showcase」と希望数を記入下さい。
振込人住所 氏名	あなたの住所(アパート、マンション名、部屋番号を正確に) 氏名・電話番号をはっきりと忘れずにご記入下さい。

お問い合わせ先 :株式会社 音楽専科社
〒104-8228 東京都中央区銀座6-2-3ダヴィンチ銀座アネックス5F
tel.03(3574)0203 fax.03(3574)8548
http://www.ongakusenkasha.co.jp

●1点購入お申込記入例

払込取扱票
00
0 0 1 2 0 − 2 − 3 9 5 9 0 0　3 9 6 0
(株)音楽専科社
「Explosion showcase」
1個
あなたの住所、氏名、電話番号

発売記念TOUR2011 #1「Explosion showcase～Paradoxial Alliance-～」

1.21(金) 目黒鹿鳴館
出演 凛(GUEST)/ALSDEAD/VII-Sense/Hi:BRiD
NightingeiL/ギャロ

1.28(金) 名古屋BOTTOM LINE
出演 凛(GUEST)/Lycaon/砂月/ベルベット/UnsraW/Ⅶ-Sense/DIAURA
Megaromania/Para:noir/お遊戯わが魔々団×【PaRADEiS】

1.29(土) OSAKA MUSE
出演 凛(GUEST)/Lycaon/砂月/ベルベット/UnsraW/Ⅶ-Sense/DIAURA
Megaromania/Para:noir/お遊戯わが魔々団×【PaRADEiS】

1.31(月) 博多DRUM Be-1
出演 凛(GUEST)/Lycaon/砂月/ベルベット/UnsraW/Ⅶ-Sense/DIAURA
Megaromania/Para:noir/お遊戯わが魔々団×【PaRADEiS】

2.05(土) 仙台JUNK BOX
出演 凛(GUEST)/Lycaon/砂月/ベルベット/UnsraW/Ⅶ-Sense/DIAURA
Megaromania/Para:noir/お遊戯わが魔々団×【PaRADEiS】

2.07(月) 渋谷O-WEST
出演 凛(GUEST)/Lycaon/砂月/ベルベット/UnsraW/Ⅶ-Sense/DIAURA
Megaromania/Para:noir/お遊戯わが魔々団×【PaRADEiS】

2.27(日) 横浜SUNPHONIX HALL(特別夜)
出演 凛(GUEST)/DIAURA/Megaromania/BugLug/Sel'm/お遊戯わが魔々団×【PaRADEiS】
カル・ヴァリ/SOMATIC GUARDIAN/SwallowtaiL-スワロウテイル-/THE SOUND BEE HD

発売記念TOUR2011 #2「Explosion showcase～expect meeting～」

1.22(土) 新宿RUIDO-K4(特別夜)
【出演】Megaromania/DIAURA/ArtCube ※スリーマン
大セッション&プレゼント有り!!

1.23(日) 新宿RUIDO-K4
【出演】RED universe/Dali/シンディケイト/SWEET MADONNA
針塊-ハリエンジュ-/gaudie./えんそく/dolore
パニックちゃんねる

2.06(日) 新宿RUIDO-K4
【出演】ArtCube/M/エルム/Re:dis/MoNoLith/RED universe
SCAPEGOAT/シンディケイト/Tu[ism]-トゥイズム-
我羇道

2.12(土) 名古屋HEART LAND
【出演】ArtCube/M/エルム/Re:dis/MoNoLith/RED universe
SCAPEGOAT/シンディケイト/Amber Bullet/我羇道

2.13(日) ESAKA MUSE
【出演】ArtCube/M/エルム/Re:dis/MoNoLith/RED universe
SCAPEGOAT/シンディケイト/Vallquar-ワルキューレ-
我羇道

UNDER CODE PRODUCTION COUNT DOWN EVENT関西制圧2010～2011

2010.12.31(金)～2011.1.01(土)

大阪amHALL

開場/13:00 開演/14:00 終演/3:00予定 前売/5,800円(drink代別途)
【問】梅田アムホール(tel.06-6362-2001)

カウントダウン大セッション&飛び入り有り!!
当日限定セッションバンドの出演有り!!

出演
妃&地下線オールスターズ(カウントダウン)
メンバーは近日UNDER CODE PRODUCTION HPで発表。
凛/PERESTROIKA/Megaromania/Dali/Arc/Anjyu'(一日復活)/ClearVeil(一日復活)/Synside/シンディケイト
Cu[be]/Lycaon/Royz/アイギス/お遊戯わが魔々団×【PaRADEiS】/Vallquar-ワルキューレ-
追加決定 平成維新/ネガ

チケット
先行発売 UNDER CODE PRODUCTION Mobile Siteにて。
受付期間10.16(土)19:00～10.30(土)23:59
一般発売 2010年11月06日(土)よりローソンチケット(tel.0570-084-005・Lコード:51536)
ライカエジソン大阪店(tel.06-6252-6262・発売日初日は電話予約のみ)にて発売。BAND予約無し。

nudie.com

蝴蝶网 hudie.com

little HEARTS. ON LINE STORE !!

little HEARTS. 通信販売開始★

little HEARTS. の HP からご注文下さい。 http://littlehearts.jp

◆掲載の商品は全て通信販売でお買い求め頂けます。
◆インストアイベントの参加チケットや特典もお付け致します。

little HEARTS.

店頭、通信販売にてお買い求め頂けます。

e HEARTS. にて

千葉ジャージ販売中!!

ジ(赤)上下&てぬぐいのセット
格¥5,000

ズ
着丈64cm 身幅52cm
] 総丈98cm
ト63〜69cm 股下72cm
ズ
着丈66cm 身幅54cm
] 総丈100cm
ト66〜72cm 股下74cm

カー (5枚SET)
販売価格 ¥500

Lサイズ 着用中

NEW RELEASE/EVENT

little HEARTS. 特典
初回盤
オリジナル・フォトセット (5枚組)
通常盤
オリジナル・フォト集合

THE KIDDIE

【初回盤】CD+DVD/¥3,200
★別冊ブックレット/スリーブケース付
★「smile.」、「Calling」、ボーナストラック１曲を含む、全１３曲収録
【通常盤】CD only/¥3,000
★「smile.」、「Calling」を含む、全12曲収録予

2010.11.24 NEW ALBUM 「BRAVE NEW WORLD」

INSTORE EVENT 握手会

日時:2010年12月22日(水)
時間:LIVE終了後 START
開催場所:仙台darwin

<参加方法> little HEARTS.にて下記対象商品をお買い上げのお客様に先着で握手会参加券を配布させて頂きます。
〈対象商品〉11/24発売THE KIDDIE1stフルアルバム「BRAVE NEW WORLD」
初回限定盤、通常盤のどちらかをお買い上げのお客様に参加券をプレゼント!
★対象店舗★:little HEARTS.

e HEARTS.
ECIAL 企画
第3【日曜日】
ンプ倍Day
。1スタンプのところ
〜2スタンプ!!

Music & Fashion & Community Space
tle HEARTS.
http://littlehearts.jp

little HEARTS. 2011 New Year Artist Message DVD!!

来年2011年もコメントDVD企画を行います。
¥4,000以上お買上のお客様に先着でプレゼント致します。
配布対象:店頭・通信販売
チケットは対象外です。
参加アーティスト等の詳細は、決定次第発表致します。

教えて!!
ンギャルちゃん事情

直撃!!リトルハーツのお客様にインタビューしちゃいます (^o^)/

お名前 まいみこちゃん

今日買っちゃったCD
・ベルベット『東京』
【予約】
・11/3 DragonWAPPPPPPER『ACT』
・11/24 Virgil『innocence』

クワクした出来事・・・
ルベットのインストアイベントの２ショットチェキ

今!!ウォークマンで何聴いてる!?
ット『等身大の僕ら』/R指定『玉砕メランコリィ』

ハーツ付近の暇つぶしスポット
/仙台 HooK 近くのファミマ（笑）

ん、スッピーちゃん的おすすめ３バンド
ット・MASQUERADE・花少年バディーズ

まいみこちゃん
ありがとうございました♪
来月号はあなたかもー (ﾟoﾟ)

INSTORE EVENT REPORT

10月31日15時より、ゴールデンボンバーのインストアイベントを開催しました！この日はハロウィンとだけあって、
各々仮装をして登場していただきました!!お客様からも黄色い歓声が沸き上がり、店内は早々と大盛り上がりです。
トークでは、インストア対象商品のシングル
『また君に番号を聞けなかった』の楽曲についてのお話・・・は、
サササーっと過ぎまして、質問コーナーを盛り沢山行いました。
そこでは、ハゲ話を（筆頭に・・？）熱弁していただきました。
それにしても、メンバーの皆さんの身振り手振りのトークには、
お客様も一喜一憂していらっしゃいました。
その後の握手会では、様々な世代のお客様にもご参加をいただき、
とても愉快なインストアになりました♪
そんなゴールデンボンバー!!今後も目が離せません!!

INSTORE EVENT REPORT

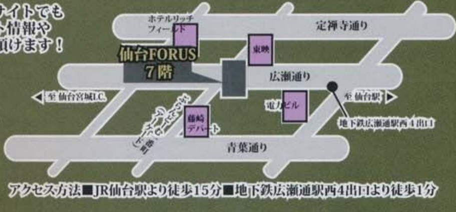
10月30日16時より、Sadieのインストアイベントが開催されました！live前日でしたので、
今回も沢山のお客様にご参加をいただきました♪
イベント対象商品の楽曲、『クライモア』はまさにliveを
意識して作られたそうです。トークではそんなメンバーさん
からのliveと楽曲に対する意気込みを伺うことも出来ました♪
皆さん和気あいあいとイベントは大盛り上がりでした。
そんなSadieの皆さん、
只今シングル3タイトル連続リリース中。
第三弾は12月15日発売『Juggernaut』。予約受付中です!!

STORE EVENT

4（土）17:00 【-OZ-】トーク&握手&サイン会
4（土）18:30 【-OZ-】撮影会（メンバーとの６ショット）
5（日）13:00 【AYABIE】トーク&握手&サイン会
9（日）15:00 【人格ラヂオ】トーク&握手会
THGAZE インストアイベント決定!!
HP にて告知致します。

little HEARTS.

little HEARTS. 携帯サイトでもインストアイベント情報やSTAFFブログがご覧頂けます！



アクセス方法■JR仙台駅より徒歩15分■地下鉄広瀬通駅西4出口より徒歩1分

蝴蝶网
hudie.com

little HEARTS.

ビジュアルミュージック＆ファッション＆コミュニティスペース【リトルハーツ】

http://littlehearts.jp

〒980 8546 宮城県仙台市青葉区一番町3-1
仙台フォーラス7 F
営業時間 OPEN 10:00 / CLOSE 20:30
TEL 022-264-8003 ※年中無休

little HEARTS.

12/1 -OZ-

BEST ALBUM『BEST2006-2010』
¥2,800
イベント

12/1 AYABIE

ALBUM
『Virgin Snow Color-2nd season-』
限定盤 A¥3,500／限定盤 B¥3,500
通常盤 ¥3,150
オリジナル特典考案中!!
イベント

12/8 DEATHGAZ

ALBUM『BLISS OUT』
豪華盤 ¥4,410／通常盤 ¥3,150
初回盤/コメントDVD+アーティストフォト
通常盤/アーティストフォト個人4枚SET

11/22 十神
FULL ALBUM『Cathedral』
¥2,500

11/24 kannivalism
SINGLE『「rememorārī」』
初回盤 ¥1,890／通常盤 ¥1,260
初回盤：コメントDVD+アーティストフォト集合
通常盤：アーティストフォト個人SET

11/24 Kra
ALBUM『GURICO』
初回盤 ¥3,990／通常盤 ¥3,150
初回盤：アーティストカード個人4枚+集合1枚
通常盤：アーティストカード集合1枚

11/24 葵 from 彩冷える
SINGLE『Surrender Love』
初回限定 A¥1,500
初回限定 B¥1,200
通常盤 ¥1,200
初回 A: コメント DVD
初回 B: アーティストフォト (B柄)
通常盤：アーティストフォト（通常柄）

11/24 ZUCK
DVD SINGLE『零星〜ゼロスク
¥1,890
未公開生フォトお一人
各メンバー 1 種類の中

11/24 Calmando Qual
11/24 PV 集
『INNER TRIP』¥2,940
12/22SINGLE
『Deadman's Party』
¥1,890

11/28 DANGER☆GANG
SINGLE
『HALLUCINATION』
¥1,050

12/1 RED universe
MINI ALBUM『BUTTERFLY EFFECT』
¥2,625
コメント DVD(Type.C)
アーティストフォト集合

12/8 R指定
SINGLE「波瀾万丈、椿唄」
鶴 TYPE¥2,100／亀 TYPE¥1,575
鶴：コメントDVD+直筆サイン入りアーティストフォト集合
亀：アーティストフォト個人SET

12/8 SCAPEGO
SINGLE『add
アーティストフォト集合

12/8 M
SINGLE『雛鳥』¥1,260

12/8 キャンゼル
LIVE DVD
アーティストフォト集合
『CANZEL LAST ONE MAN LIVE
[FUTUERS]AT AKASAKA BLITZ』¥5,250

12/15 D' eiz
12ヶ月連続リリース第1弾！！
SINGLE『LESS』
¥1,365
コメント DVD+アーティストフォト集合

12/15 CODE7203-KineSicS
SINGLE
『ココロノトビラケゴマ』¥1,890

12/15 東京ミカエ
FULL ALBUM
『LOVE.』¥3,150

12/15 Ricky
ALBUM
『R☆MUSTER』
初回盤 ¥3,850／通常盤 ¥2,800

12/22 Art Cube
BEST ALBUM
『Art Cube』¥2,940

12/22 摩天楼オペラ
ALBUM『Abyss』
初回盤 ¥4,500／通常盤 ¥2,500

12/22 少女-ロリヰタ-23区
SINGLE『WHITE BLADE』初回限定 A¥1,680
通常 B¥1,470／通常 C¥1,470

12/22 E'm~grie
BEST ALBUM
『grief』¥3,150
アーティス

12/22 WHITEBLACK
LIVE DVD
『WHITEBLACK
Final stage・・・
A melody to ring
eternally・2010.7.22
京都府立文化芸術会館』¥6,300

12/22 Mr.Davinci 空想学園
SINGLE
『流星メリーゴーランド』¥1,890

12/22 Kaya
SINGLE
『マダムローザの娼館』
- 麝香 -¥1,575
- 媚薬 -¥1,050
『Kaya Remix vol.1 "K "』
¥1,200

12/29 Annie's Black
FULL ALBUM
『-departure-』¥3,150

12/29 アンド
SINGLE
『BLINDNESS』
A-TYPE¥1,890／B-TYPE¥1,575

12/29 TOON-FACTORY
SINGLE『Fiction』¥1,260
コメント DVD
直筆サイン入りアーティストフォト集合

1/12 Cu[be]
SINGLE『Pandemic CORE』
アーティストフォト集合
¥1,575

1/19 愛狂います。
LIVE DVD
『東京浪漫帝國』¥4,980

1/26 V.A.
ALBUM
『STAND UP SONIC』¥3,150
1.Arc 2. マイナス人生オーケストラ 3.Schwein
4.Armeria 5. パラット 6.Ru:natic 7.Digerir
8.ヴェルテクス -Vertex- 9.69 10. ドメスティック
11.TЯicKY 12. パノラマ虚構ゼノン
13.Valgana 14. セツナ神怨。

1/26 V-last
SINGLE
『タイトル未定』
A-TYPE¥1,890／B-TYPE

蝴蝶网
hudie.com

サラ・ショウジュ
Sarah_SYO-ZYU Debut Single

VAMPIRE PRINCESS

2011年初頭発売

C/W Snow White
- ●トールサイズデジパック仕様
- ●フルカラー20P写真集ブックレット付

定価　1,575円（税込）

全国CDショップにて発売！

『ダンス イン ザ ヴァンパイアバンド』
（月刊コミックフラッパー連載）公式トリビュート曲

「ダンス イン
ザ ヴァンパイアバンド」
環望

10巻11/22発売

メディアファクトリー刊
定価　540円〜580円（税込）

1〜9巻好評発売中

発売元　Sarah_SYO-ZYU PROJECT

東京クーデター
3MAN公演
2010.12.21(tue)
池袋Black Hole
BALLY
dizSolid
open 17:00 start 17:30 / adv ¥3,000 day ¥3
cast ; BALLY / dizSolid / DANGER☆GANG / (C
ticket ; ローソンチケット(Lコード:77576)
会場物販販売 / バンド予約
当日限定!!
入場者全員に反抗記録『東京xクーデター』
| Official Web Site |
http://bally-official.com/ (BALLY)
http://dizsolid.com/ (dizSolid)
http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=dangergang (DANGER☆GANG)
【問】池袋Black Hole 03-5955-7396
DANGER☆GANG
hudie.com

蝴蝶网 hudie.com

世界の終末に深紅の世界が覚醒する!!

1st mini Album2010年12月1日(水)発売!!

BUTTERFLY EFFECT

1. worm[HOLE] 2. FINAL CLOSURE 3. uncontrol
4. 浮遊月 5. I FEEL BLUE 6. CODE BLUE

RED-0004 ¥2,625 (tax in) Distributed by SPEED-DISK

※店舗購入特典※ ・ZEAL LINK 渋谷店 新宿店 大阪店
・コメントDVD(Type-A)+サイン入りアーティストフォト(集合)」

※1st mini Album※
「BUTTERFLY EFFECT」
発売記念IN STORE EVENT

・大阪ZEAL LINK 12/1(水) 17:00～ 1時間店員
「CD購入者特典:CDにサイン&握手&6ショットチェキ撮影会」
・新宿ZEAL LINK 12/4(土) 17:00～ 1時間店員
「CD購入者特典:CDにサイン&握手&6ショット撮影会」

RED universe

RED universe presents.
1st mini Album発売記念主催Tour
[TOUR 2010"BUTTERFLY EFFECT"]

...uke Yuya GENKI Tomoya TaNo

2010年12月2日(木)大阪FanJ-twice
RED universe presents.
1st mini Album発売記念主催Tour [TOUR 2010"BUTTERFLY EFFECT"]
Open / Start : 16:30 / 17:00
チケット料金 : 前売 ¥2,800(D代別) / 当日 ¥3,300(D代別)

2010年12月3日(金)HOLIDAY NAGOYA
RED universe presents.
1st mini Album発売記念主催Tour [TOUR 2010"BUTTERFLY EFFECT"]
Open / Start : 16:30 / 17:00
チケット料金 : 前売 ¥2,800(D代別) / 当日 ¥3,300(D代別)

2010年12月7日(火)高田馬場AREA
RED universe presents.
1st mini Album発売記念主催Tour [TOUR 2010"BUTTERFLY EFFECT"]
Open / Start : 16:30 / 17:00
チケット料金 : 前売 ¥2,800(D代別) / 当日 ¥3,300(D代別)

...日) 渋谷CLUB CRAWL 2010年11月22日(月) HOLIDAY SHINJUKU 2010年11月23日(火祝)大阪 北堀江club vijon 2010年11月28日(日) 池袋Black Hole 2010年12月13日(月) 原宿アストロホール 2010年12月16日(木) 仙台 MACANA 2010年12月19日(日) 目黒鹿鳴館

〒176-8799 東京都練馬区豊玉北6－4－2 練馬郵便局留「RED universe」宛
...載して下さい。また、メンバー名のみの受付はできません。必ずRED universeと記載の上、メンバー名をお願いします。
...red-universe.netにご連絡下さいますようお願い致します。保管期間(約7日間)を過ぎますと返却されてしまいますので、ご注意下さい。

1stプレス完売の為、2ndプレス発売中!!
「50億年後の未来だとしても僕はきっと・・・」
RED universe初のコンセプトMaxi Single 2ndプレス発売!!

「FINALE ～最後の偏で～」
1. COMPLETE SILENCE 2. Reincarnation

RED universe OFFICIAL WEBSITE
http://red-universe.net/

RED universe SPEEDDISK DISTRIBUTION ESP

3rd Album『Heart Infection 02』収録曲の着うた配信開始。PCでの視聴も可能です。
着うた
配信中！
渋谷・新宿を中心に
ストリートライブ敢行中！
Jack Rose
2011.1.6 THU
Jack Rose Re:i Birthday EVE ONEMAN LIVE
渋谷O-WEST決定！
open 18:30 start 19:00 前売り ¥3,300 当日 ¥3,800 (Drink代別) チケット予約はこちらまで：ticket@jackrose.ne
東京を中心に、Re:i (Vo)・Shige (Gt)・Aki (Key) で活動中のヴィ
アル系ハードロックバンド。美しいメロディをデジタルとハードなサウ
で融合させた楽曲をメインに様々な音楽性がある。ストリートライブ
鍛え上げられたライヴパフォーマンスは必見である。
200人限定 ★渋谷O-WESTワンマン記念キャンペーン★ 11月よりスタート！
2010年12月12日(SAN) "Jack Rose無料ワンマンライブ"
渋谷RUIDO K2 open 11:30/start 12:00 チケット代無料 (Drink代500円のみ
シークレットメール
NEW SINGLE
10.14 ON SALE
DLJR-1009 ¥500 TAX IN
『シークレットメール』
02. RED KING
Heart Infection 02
3rd Album
『Heart Infection 02』
DOJR-1008
¥2,000 TAX IN
6th Maxi Single
『TRY-angle』
DOJR-1007
¥1,500 TAX IN
2nd Album
『Heart Infection 01』
JRCR-1005
¥2,000 TAX IN
5th Maxi Single
『ネバーランド』
DOJR-1006
¥800 TAX IN
お問い合わせ：bazooka-Music 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-1-15ふるたかビルB1 TEL 03-3353-7208 発売元：bazooka-Music 販売元：ダイキサウンド株式会社
プレゼント中！ 詳しくはオフィシャルホームページで！ www.jackrose.net/
蝴蝶网
hudie.com

東京ミカエル。
蝴蝶网
hudie.com
S'CUBE
〒106-0032　東京都港区六本木 4-8-6 パシフィックキャピタルプラザビル 6F
MAIL：scube@abox23.so-net.ne.jp
東京ミカエル。 Web Site： http://tokyo-michael.jp/

蝴蝶网
hudie.com

待望の2nd FULL ALBUM

LOVE.

12.15 RELEASE

(CD) SCL-083 ¥3,150 (tax in)

01. Over 02. ハピネス 03. float 04. 溶解液 05. 飛べない鳥 06. カレイドスコープ 07. ヤッホー 08. 拒絶本能 09. 死ぬこと 10. 雪唄 11. ドキドキ

SHIBUYA BOXX 会場にて先行発売決定!!

10th Anniversary Live「LOVE is」

12月6日(月) SHIBUYA BOXX

OPEN 18:00 / START 18:30 前売 ¥3,000 / 当日¥3,500 (共にD代別) チケット：自主盤倶楽部、チケットぴあ、ローソンチケットにて発売中 (問)FLIP SIDE 03-3466-1100

【東京ミカエル。主催 EVENT】

□2011年1月08日(土) HOLIDAY SHINJUKU
(問)HOLIDAY SHINJUKU 03-5292-0591

□2011年1月15日(土) HOLIDAY NAGOYA
(問)HOLIDAY NAGOYA 052-249-2161

□2011年1月16日(日) HOLIDAY OSAKA
(問)HOLIDAY OSAKA 06-6362-5288

【EVENT】

■11月21日(日) 札幌 MESSE HALL
(問)GURUGURU 011-251-4480

■11月24日(木) 新潟 BLACK PIG (旧 CLUB JUNK BOX mini)
(問)RISKY DRUG STORE 025-241-9200

■11月25日(木) 金沢 AZ
(問)RISKY DRUG STORE 025-241-9200

■11月27日(土) 名古屋 Heart Land
(問)名古屋 Heart Land 052-202-1351

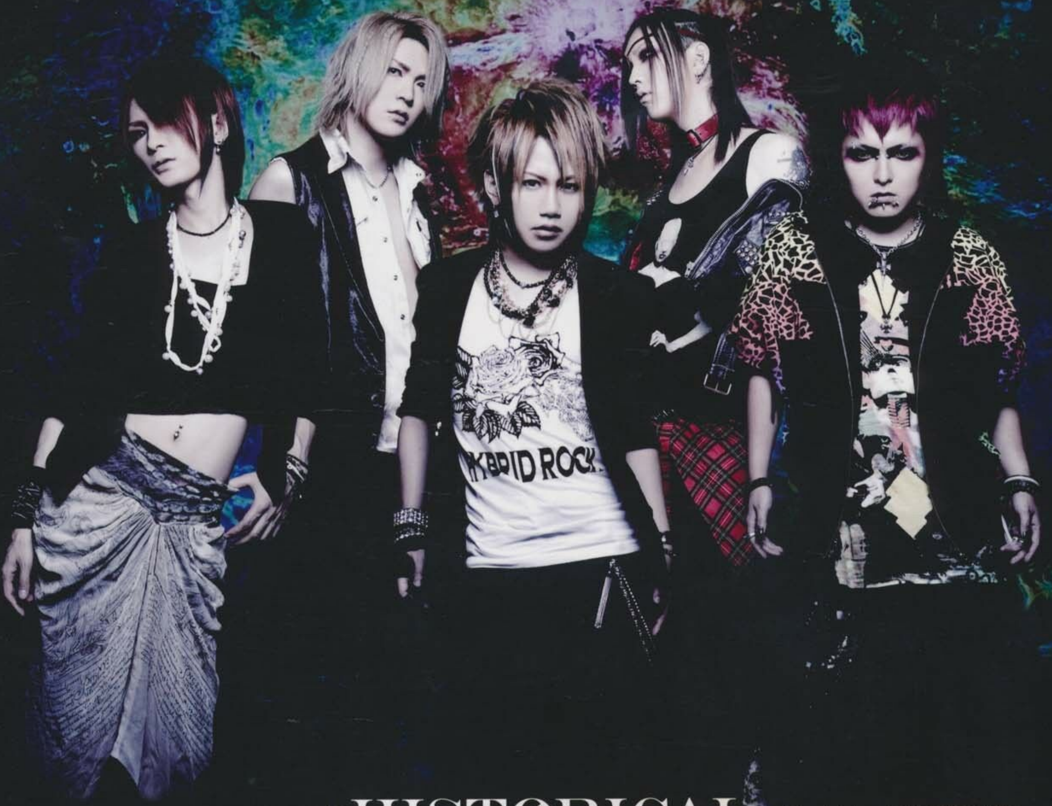
■11月29日(月) 西九条 BRAND NEW
(問)西九条 BRAND NEW 06-6466-0100

■11月30日(火) 岡山 CRAZYMAMA2ndRoo
(問)セカンドシーン 082-212-0810

■12月01日(水) 高知 X-pt.
(問)高知 X-pt. 088-885-2626

蝴蝶网
hudie.com

NIGHTMARE



NIGHTMARE 10th ANNIVERSARY SPECIAL ACT Vol.3 HISTØRICAL ~The highest NIGHTMARE~

10.22(fri)	三郷市文化会館 大ホール	11.10(wed)	神戸国際会館こくさいホール	11.21(sun)	金沢市文化ホール	12.4(sat)	京都会館 第二ホール
10.30(sat)	水戸市民会館	11.12(fri)	静岡市民文化会館 中ホール	11.23(tue)	八王子市民会館	12.17(fri)	福岡市民会館 大ホール
11.1(mon)	市川市文化会館 大ホール	11.13(sat)	広島アステールプラザ 大ホール	11.26(fri)	郡山市民文化センター 中ホール	12.19(sun)	中京大学文化市民会館 オーロラホール
11.3(wed)	栃木県教育会館 大ホール	11.18(thu)	ホクト文化ホール 中ホール	11.27(sat)	さいたま市文化センター 大ホール	12.20(mon)	大阪国際会議場 メインホール
11.5(fri)	中野サンプラザホール	11.19(fri)	新潟市民芸術文化会館劇場	12.3(fri)	倉敷市芸文館	12.23(thu)	仙台サンプラザホール

【チケット料金】全席指定：¥5,500(tax in) ※3歳以上有料、3歳未満入場不可 【一般発売日】9月4日(土)【枚数制限】お1人様4枚まで。

NIGHTMARE 10th ANNIVERSARY SPECIAL ACT FINAL
HISTØRICAL
~The highest NIGHTMARE~ in Makuhari Messe

2010.12.25(sat)
幕張メッセ国際展示場ホール9

OPEN 16:00 START 17:00 info.ディスクガレージ 03-5436-9600 【チケット料金】スタンディング：¥6,300(tax in) ブロック指定・整理番号付き ※3歳以上有料、3歳未満入場不可【一般発売日】11月13日(土)

10th anniversary album
Historical ~The highest NIGHTMARE~

IN STORES NOW
【CD2枚組】VPCC-84168 ¥3,500.-(tax in)

【収録曲】
全24曲収録

DISC1
01.-Believe- * 02.茜 * 03.HATE * 04.Over * 05.Varuna *
06.東京傷年 * 07.シアン * 08.時分ノ花 * 09.Яaven Loud speeeaker *
10.livEVIL * 11.極東乱心天国 * 12.Fly me to the Zenith *

DISC2
13.the WORLD 14.アルミナ 15.レゾンデートル 16.このは 17.DIRTY 18.White Room
19.Lost in Blue 20.NAKED LOVE 21.MELODY(original ver.) 22.the LAST SHOW
23.Can you do it? 24.D 線上のトラジェディ（未発表新曲） ※「*」は新録曲

Nightmare Official website [http://www.nightmare-web.com/] Nightmare Official mobilesite [http://m.nightmare-web.com/]

http://www.vap.co.jp/ vap

Printed in Japan
雑誌04537-01
特別定価 1,200円
本体1,143円
株式会社 プロスト
凸版印刷株式会社
4910045370111
01143

蝴蝶网
hudie.com

ViViD

Garçon des lunettes ~ViViD ver.~

Photography:
HIROE YAMAUCHI (PROGRESS-M)
Hair&Make-up:SAYAKA

今月のSHOXX特別付録Book in Bookは、ViViDの登場です！“いつもとはちょっと違ったViViD”をテーマに、先月号(SHOXX Vol.214)の【ViViD Gothic ver.】に続き、今回お届けするViViDは…世の女性からの絶大な指示を誇る(?)【眼鏡男子】！　知的からキュートまで、各自の個性も垣間みれる、素敵なViViDがここに完成!!“♥XXX”と題した、Personal question?も必見です。本誌インタビューもあわせてご覧ください。

♥××× ~Personal question?~

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

shin

Vo.シン
●生年月日
9月4日
●血液型
B型
●出身地
長野県
●身長・体重
170cm/53kg
●好きな色
黒・白・シルバー・グレー
●好きな食べ物
ピザ
●好きな場所
ソファー
●好きな時間
朝方
●好きな音楽
ViViD
●好きな映画
アクション映画
●好きなスポーツ
バスケ
●好きな季節
春
●好きな国
フランス
●好きな匂い
いい匂いフェチなのでたくさんあります。
●好きなブランド
JustinDavis/SAMANTHA KINGZ/Roen/FUGA/CIVARIZE/5351
●好きな芸能人
釈由美子さん
●自分の好きな所
目
●メンバーの好きな所(各メンバー)
怜我:他人のことをすごく思いやる所。地元ノリで話せて、近いフィーリングのある所。
零乃:統率力がある所。最後はリーダーとしてしっかりまとめてくれる
イヴ:仲間思い。メンバーに対しての優しさがあふれている。
Ko-ki:いろいろな物事を客観視できて、場の雰囲気をいつも和ませてくれる。

reno

Gt.零乃
●生年月日
6月4日
●血液型
A型
●出身地
神奈川県
●身長・体重
180cm/59kg
●好きな色
黒・赤・白
●好きな食べ物
カレー・餃子・ラーメン
●好きな場所
自然があって静かな場所。温泉。
●好きな時間
ギター弾いてる時間。お酒を飲んでる時間。
●好きな音楽
ギターインスト。プログレ。
●好きな映画
ミスタービーン
●好きなスポーツ
サッカー
●好きな季節
秋
●好きな国
フランス
●好きな匂い
柔軟剤
●好きなブランド
FUGA/Buffalo Bobs
●好きな芸能人
さまーず
●自分の好きな所
ギターを好きでいる所。
●メンバーの好きな所
シン:歌がうまい。
怜我:ノリが合う。
イヴ:つっこみが鋭い
Ko-ki:よく笑う。

ryoga

Gt.怜我
●生年月日
11月22日
●血液型
AB型
●出身地
群馬県
●身長・体重
178cm/57kg
●好きな色
黒・白・シルバー・紫
●好きな食べ物
ラーメン・炭水化物
●好きな場所
間接照明だけの部屋
●好きな時間
深夜・朝方
●好きな音楽
R&B
●好きな映画
特命係長只野仁　最後の劇場版
●好きなスポーツ
サッカー・野球・テニス
●好きな季節
冬
●好きな国
フランス
●好きな匂い
いい匂いフェチなのでたくさんあります。
●好きなブランド
JustinDavis/SAMANTHA KINGZ/Roen/FUGA/CIVARIZE
●好きな芸能人
益若つばささん/高橋克典さん
●自分の好きな所
自分でも自分が分からない所
●メンバーの好きな所
シン:優しい所。地元ノリで話せて、近いフィーリングのある所。
零乃:考え方。相手を思いやる気持ちがある所。
イヴ:行動力。俺にはない感性。
Ko-ki:なんだかんだ周りを見てる。相手の立場に立てる所。

iv

Ba.イヴ
●生年月日
2月16日
●血液型
A型
●出身地
神奈川
●身長・体重
163cm//50kg
●好きな色
銀・黒・白
●好きな食べ物
チョコ
●好きな場所
ジム
●好きな時間
筋トレしてる時間
●好きな音楽
キャッチーなメロならなんでも
●好きな映画
ミステリー・サスペンス系統
●好きなスポーツ
ボクシング・水泳・ランニング
●好きな季節
秋春
●好きな国
イタリア
●好きな匂い
ロクシタン
●好きなブランド
JOYRICH/Johnaliano
●好きな芸能人
有吉
●自分の好きな所
ストイック
●メンバーの好きな所
みんな優しくて仲間思い。
あえていうなら
シン:前歯。
零乃:太もも。
怜我:細さ。
Ko-ki:八重歯。

Ko-ki

Dr.Ko-ki
●生年月日
5月1日！
●血液型
O型！
●出身地
川崎City！
●身長・体重
身長リアルに不明/体重も不明
●好きな色
ブラック・グレー・ピンク・グリーン・ブルー
●好きな食べ物
ラーメン大好き代表・オムライス・ハンバーグ・すき焼き・しゃぶしゃぶ
●好きな場所
表参道・高円寺・下北沢・吉祥寺
●好きな時間
寝てる時・食べてる時・呑んでる時・勝負してる時
●好きな音楽
インダストリアル系・ミクスチャー系
●好きな映画
んー…イロイロ？
●好きなスポーツ
サッカー・格闘技
●好きな季節
春と秋！
●好きな国
フランス・アメリカ
●好きな匂い
甘い香り？
●好きなブランド
adidas/JOYRICH/VivienneWestwood
●好きな芸能人
窪塚洋介
●自分の好きな所
八重歯
●メンバーの好きな所
シン:優しいところ！
零乃:ノリがいいところ！
怜我:波長があうところ！
イヴ:センスがあうところ！

♥×××
~Personal question?~

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Garçon des lunettes ~ViViD ver.~